

東京都歯科保健目標「いい歯東京」 達成度調査報告書

平成27年8月



東京都福祉保健局

はじめに

東京都では、都民のすべてが歯と口腔の健康を保ち、健康寿命を延ばして豊かな生活ができるよう、歯科保健目標を設定し、様々な施策を展開しています。

東京都歯科保健目標「いい歯東京」は、平成 23 年度から平成 27 年度までの 5 年間の目標として「う蝕や歯周病等歯科疾患の予防」に加え、「子育て支援」や「食育」、「口腔機能の保持・増進」を盛り込み、全体目標である生涯にわたる「歯と口腔の満足度の向上」及び「8020運動の推進」を目指してきました。都全体で目標達成を目指すため、都民一人ひとりの健康づくりを支援する「かかりつけ歯科医による支援」、「区市町村による健康づくり」、「東京都による基盤整備」の取組を進めてきました。

平成 26 年度に目標の達成度評価及び新たな歯科保健目標設定のため、区市町村を始め多くの関係機関にご協力を頂きながら、達成度調査を実施しました。今般、調査結果を報告書として取りまとめましたのでここに報告します。

本調査の結果、8020達成者（80歳で自分の歯を20本以上持つ者の割合）は、54.7%であり、前回調査より14.9ポイント増加するなど、口腔内の状況はすべての年齢層で向上し、目標を達成しました。一方、歯や口の状況についての満足度については、目標に対してやや及びませんでした。

また、区市町村の取組をはじめ、都民の健康づくりを支援する体制は、充実、強化されてきています。

今後、本調査結果を基に、目標達成度に関する評価及び今後の取組、次期目標についての検討を進め、引き続き、都民の歯と口腔の健康づくりをより一層推進していきます。

平成27年8月

東京都福祉保健局医療政策部

目 次

はじめに

第1章 幼児期・学齢期の歯科保健行動に関する調査…………… 1

I 目的

II 対象及び方法

1 対象者及び方法

(1) 1歳6か月及び3歳

(2) 5歳

(3) 6歳、9歳及び12歳

2 調査項目

3 解析

III 結果

1 調査数

2 甘味食品の摂取状況

3 甘味飲料の摂取状況

4 就寝時の授乳習慣

5 歯や口腔の観察状況

6 フッ化物配合歯磨剤の使用状況

7 歯間清掃用器具の使用状況

8 かかりつけ歯科医院の状況

(1) かかりつけ歯科医院の有無

(2) 受けている内容

9 ゆっくりよく噛む習慣

(1) ゆっくりよく噛む習慣づけ(3歳、5歳、6歳)

(2) ゆっくりよく噛む習慣化(9歳、12歳)

10 丁寧な歯磨きの状況(9歳、12歳)

11 8020を知っている者の割合(12歳)

12 3歳児のう蝕の状況

13 3歳児のう蝕の状況と歯科保健行動・生活習慣調査の関係

(1) う蝕の有無と甘味食品の摂取状況

(2) う蝕の有無と甘味飲料の摂取状況

(3) う蝕の有無とフッ化物配合歯磨剤の使用状況

(4) う蝕の有無と歯や口の観察状況

(5) う蝕の有無とゆっくりよく噛む習慣

(6) う蝕の有無とかかりつけ歯科医院の有無

- 14 3歳う蝕の地域差と関連要因
 - (1) 区市町村別にみた3歳う蝕の状況
 - (2) う蝕の有無と生活習慣
- 15 幼児期・学齢期の歯科保健行動に関する調査のまとめ

第2章 東京都歯科診療所患者調査…………… 39

- I 目的
- II 対象及び方法
 - 1 対象者
 - 2 実施方法
 - 3 調査項目
 - (1) 口腔内診査
 - (2) アンケート調査
 - 4 解析
- III 結果
 - 1 調査者数及び性・年齢階級
 - 2 口腔内診査結果
 - (1) 現在歯（第三大臼歯を含む）の状況
 - (2) 無歯顎者の状況
 - (3) 歯周組織の状況
 - 3 歯科保健行動調査結果
 - (1) 歯や口腔の満足度の状況
 - (2) 歯や口腔に不満や不自由を感じる内容
 - (3) 歯科保健行動等の状況

第3章 介護保険施設等における口腔ケア等実態調査…………… 113

- I 目的
- II 対象及び方法
 - 1 対象者
 - 2 実施方法
 - (1) 特別養護老人ホーム、養護老人ホーム、ケアハウス
 - (2) 介護老人保健施設
 - (3) 有料老人ホーム、認知症グループホーム、都市型軽費老人ホーム
 - (4) 訪問看護ステーション
 - 3 調査項目
 - (1) 介護保険施設等
 - (2) 訪問看護ステーション
 - 4 解析

Ⅲ 結果

1 調査数

2 介護保険施設等調査結果

- (1) 利用者に対する日常の口腔ケアの状況
- (2) 利用者の口腔機能の維持・向上を目的としたプログラムの実施の状況
- (3) 認知症の利用者の口腔ケア、食事支援・介助等の状況

3 訪問看護ステーション

- (1) 在宅療養患者に対し、歯科的対応が必要なケースについて
- (2) 利用者の日常の口腔ケアや歯科治療について
- (3) 在宅療養患者の摂食・嚥下機能に対する対応の状況
- (4) 認知症を持つ在宅療養患者の口腔ケア、食事等の状況

第4章 かかりつけ歯科医機能推進に関するアンケート調査…………… 157

I 目的

II 対象及び方法

1 対象者

2 実施方法

3 調査項目

4 解析

Ⅲ 結果

1 回答の状況

2 かかりつけ歯科医としての取組状況

- (1) かかりつけ歯科医としての取り組んでいる内容
- (2) 8020運動の周知
- (3) 禁煙支援の取組
- (4) 歯周病と糖尿病の関係の周知
- (5) 口腔ケアによる誤嚥性肺炎の予防
- (6) 介護予防における口腔機能向上の事業やサービスの周知
- (7) 要介護高齢者等への対応
- (8) 要介護高齢者等への対応が困難、今後対応したいと回答した者の課題
- (9) フッ化物の応用
- (10) 歯科からの食育
- (11) 歯科からの子育て支援

第5章 島しょ地区歯科疾患実態調査…………… 179

I 目的

II 対象及び方法

1 対象者

- (1) 小児の歯科保健行動等調査
- (2) 成人の歯科保健実態調査（口腔状況及び歯科保健行動等調査）

2 調査項目

- (1) 小児の歯科保健行動等調査
- (2) 成人の歯科保健実態調査

3 解析

Ⅲ 結果

1 小児の歯科保健行動調査

- (1) 調査数
- (2) 甘味食品の摂取状況
- (3) 甘味飲料の摂取状況
- (4) 就寝時の授乳習慣
- (5) フッ化物配合歯磨剤の使用状況
- (6) 歯や口腔の観察状況
- (7) ゆっくりよく噛む習慣（0歳～小学校低学年）
- (8) ゆっくりよく噛む習慣（小学校高学年、中学校）
- (9) かかりつけ歯科医院の状況
- (10) 丁寧な歯磨きの状況（小学校高学年、中学校）
- (11) 歯間部清掃器具の使用状況（中学校）
- (12) 8020を知っている者の割合（中学校）

2 成人の歯科保健実態調査（口腔状況及び歯科保健行動等調査）

- (1) 調査数及び性・年齢階級
- (2) 口腔内診査結果
- (3) 歯科保健行動調査結果

第6章 区市町村における歯科保健医療事業に関する調査…………… 225

I 目的

Ⅱ 対象及び方法

1 対象

2 実施方法

3 調査項目

Ⅲ 調査結果の概要と考察

1 普及・啓発について

2 コミュニティーケアとしてのフッ化物応用の推進について

3 先駆的もしくは、特に重点を置いている事業について

平成 26 年度

幼児期・学齢期の歯科保健行動に関する調査

I 目的

都民の歯科疾患の実態及び歯科保健行動等を把握し、東京都歯科保健目標「いい歯東京」の達成状況を評価するとともに、今後の歯科保健医療対策の推進に必要な課題等を把握し、新たな歯科保健目標を策定するための基礎資料を得ることを目的とする。

対象及び方法

1 対象者及び方法

(1) 1 歳 6 か月及び 3 歳

ア 1 歳 6 か月

平成 26 年 10 月に、1 歳 6 か月児歯科健康診査を受診した幼児の保護者を対象に、区市町村の協力を得て、歯科保健行動・生活習慣等に関する質問紙調査を実施した。

イ 3 歳

平成 26 年 10 月に、3 歳児歯科健康診査を受診した幼児の保護者を調査対象に、区市町村の協力を得て、口腔内診査結果を追加した歯科保健行動・生活習慣等に関する質問紙調査を実施した。

(2) 5 歳

ア 私立幼稚園、公立保育所、民間保育所

私立幼稚園、公立保育所、民間保育所において、区市町村ごとに施設数(規模毎)、実園児数(1/3)又は定員数(1/3)の 1 割を抽出し、5 歳児クラス在園児の保護者を対象に、平成 26 年 10 月に生活文化局、少子社会対策部の協力を得て、歯科保健行動・生活習慣等に関する質問紙調査を実施した。

イ 公立幼稚園

公立幼稚園において、教育庁へ依頼し、抽出された 15 施設(特別区 14 施設、多摩地区 1 施設)の 5 歳児クラス在園児の保護者を対象に、平成 26 年 10 月に、教育庁の協力を得て、歯科保健行動・生活習慣等に関する質問紙調査を実施した。

(3) 6 歳、9 歳及び 12 歳

教育庁へ依頼し、抽出された 31 施設(特別区 14 施設(うち、特別支援学校 2)、多摩地区 17 施設(うち、特別支援学校 2))の小学校 1 年生在籍者(6 歳)の保護者、小学校 4 年生在籍者(9 歳)、中学校 1 年生在籍者(12 歳)を対象に、平成 26 年 10 月に教育庁、教育委員会の協力を得て、歯科保健行動・生活習慣等に関する質問紙調査を実施した。

2 調査項目

- ・回答者の性別
- ・甘味食品の摂取状況
- ・甘味飲料の摂取状況
- ・就寝時の授乳習慣(1 歳 6 か月のみ)
- ・フッ化物配合歯磨剤の使用状況(1 歳 6 か月以外)
- ・歯や歯肉の観察状況
- ・ゆっくりよく噛む習慣(1 歳 6 か月以外)
- ・かかりつけ歯科医院の状況
- ・丁寧な歯磨きの状況(小学校 4 年生、中学校 1 年生)
- ・デンタルフロスの使用状況(中学校 1 年生)

・8020を知っている者(中学校1年生)

3 解析

調査結果の解析は、国立保健医療科学院生涯健康研究部地域保健システム研究領域 安藤雄一上席主任研究官が行った。

Ⅲ 結果

1 調査数

本調査における調査者数は、以下のとおりであった。

表1 調査数

対象年齢	(人)		
	特別区	多摩地区	総数
1歳6か月	4,108	2,200	6,308
	65.1%	34.9%	100%
3歳	4,464	2,445	6,909
	64.6%	35.4%	100%
5歳	4,138	2,580	6,718
	61.6%	38.4%	100%
6歳	889	1,027	1,916
	46.4%	53.6%	100%
9歳	856	1,117	1,973
	43.4%	56.6%	100%
12歳	1,093	1,525	2,618
	41.7%	58.3%	100%
総計	15,548	10,894	26,442
	58.8%	41.2%	100%

2 甘味食品の摂取状況

子供があめ・チョコレート・ガム・アイスクリームなどの甘いお菓子を、1週間のうちにどのくらい食べるかの設問について、以下のような結果となった。

表2に甘味食品の摂取状況(1歳6か月、3歳、5歳、6歳は保護者が回答し、9歳、12歳は本人が回答)を示す。甘味食品摂取は年齢差が大きく、5歳では37.8%、6歳では38.8%が「ほぼ毎日」と高い割合を示したが、年齢が低い層と高い層では「ほぼ毎日」の割合は低く、1歳6か月で7.8%、12歳で22.4%であった。

「ほぼ毎日」について経年的な推移をみると、1歳6か月と3歳では減少傾向が一貫しており、平成26年度は平成11年度に比べて1歳6か月が6割近く、3歳が4割近く減少していた。一方、年齢の高い層では逆に増加し、12歳では平成26年度は平成12年度に比べて約5割増加していた。

表2 甘味食品の摂取状況

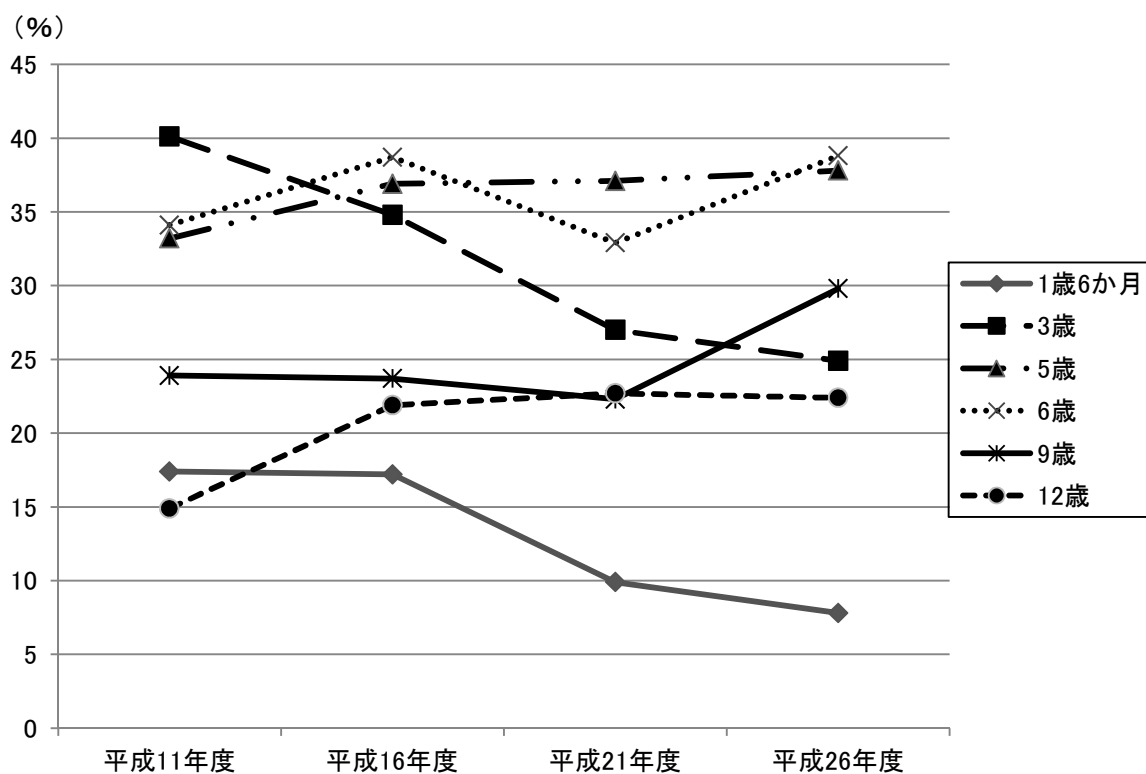
(人)

	地区		年齢	ほぼ	週に	週に	ほとん	無回答		
				毎日	3~4日	1~2日	どない			
人数	特別区	保護者回答	1歳6か月	322	473	910	2,394	9		
			3歳	1,157	1,299	1,282	715	11		
			5歳	1,613	1,447	892	176	10		
			6歳	346	298	200	40	5		
		本人回答	9歳	249	297	224	83	2		
			12歳	238	360	369	126	0		
			多摩地区	保護者回答	1歳6か月	173	316	658	1,041	12
					3歳	565	716	800	351	13
	5歳	927			914	600	133	6		
	6歳	397			383	210	33	4		
	本人回答	9歳	338	416	284	78	1			
		12歳	348	459	515	197	6			
全体		保護者回答	1歳6か月	495	789	1568	3435	21		
			3歳	1,722	2,015	2,082	1,066	24		
	5歳		2,540	2,361	1,492	309	16			
	6歳		743	681	410	73	9			
	本人回答	9歳	587	714	508	161	3			
		12歳	586	819	884	323	6			
		%	特別区	保護者回答	1歳6か月	7.8%	11.5%	22.2%	58.3%	0.2%
					3歳	25.9%	29.1%	28.7%	16.0%	0.2%
5歳	39.0%				35.0%	21.6%	4.3%	0.2%		
6歳	38.9%				33.5%	22.5%	4.5%	0.6%		
本人回答	9歳			29.1%	34.7%	26.2%	9.7%	0.2%		
	12歳			21.8%	32.9%	33.8%	11.5%	0.0%		
	多摩地区			保護者回答	1歳6か月	7.9%	14.4%	29.9%	47.3%	0.5%
					3歳	23.1%	29.3%	32.7%	14.4%	0.5%
5歳			35.9%		35.4%	23.3%	5.2%	0.2%		
6歳			38.7%		37.3%	20.4%	3.2%	0.4%		
本人回答	9歳		30.3%	37.2%	25.4%	7.0%	0.1%			
	12歳		22.8%	30.1%	33.8%	12.9%	0.4%			
	全体	保護者回答	1歳6か月	7.8%	12.5%	24.9%	54.5%	0.3%		
			3歳	24.9%	29.2%	30.1%	15.4%	0.3%		
5歳			37.8%	35.1%	22.2%	4.6%	0.2%			
6歳			38.8%	35.5%	21.4%	3.8%	0.5%			
本人回答		9歳	29.8%	36.2%	25.7%	8.2%	0.2%			
		12歳	22.4%	31.3%	33.8%	12.3%	0.2%			

表3 ほぼ毎日、甘味食品を摂取している者の割合の推移

年齢	（％）			
	平成11年度	平成16年度	平成21年度	平成26年度
1歳6か月	17.4	17.2	9.9	7.8
3歳	40.1	34.8	27.0	24.9
5歳	33.2	36.9	37.1	37.8
6歳	34.1	38.7	32.9	38.8
9歳	23.9	23.7	22.3	29.8
12歳	14.9	21.9	22.7	22.4

図1 ほぼ毎日、甘味食品を摂取している者の割合の推移



3 甘味飲料の摂取状況

子供が、ジュース・乳酸飲料・スポーツドリンクなどの甘い飲み物を、1週間のうちにどのくらい飲むかの設問について、以下のような結果となった。

表4に甘味飲料の摂取状況(1歳6か月、3歳、5歳、6歳は保護者が回答し、9歳、12歳は本人が回答)を示す。甘味食品とは異なり、年齢差はあまり大きくなく、「ほぼ毎日」の割合は1歳6か月が16.8%とやや低く、他の年齢層はいずれも20%台であった。

「ほぼ毎日」の経年的な推移(表5、図2)をみると、甘味食品と同様、低い年齢層では減少傾向が明らかで、平成11年度から平成26年度で1歳6か月が6割近く、3歳が3割近く減少していた。しかしながら平成26年度の3歳の値は26.0%で「いい歯東京」の目標値(20%以下)には達しなかった。一方、高い年齢層では甘味食品と同様、増加傾向にあり、12歳では3割以上増加していた。

表4 甘味飲料の摂取状況

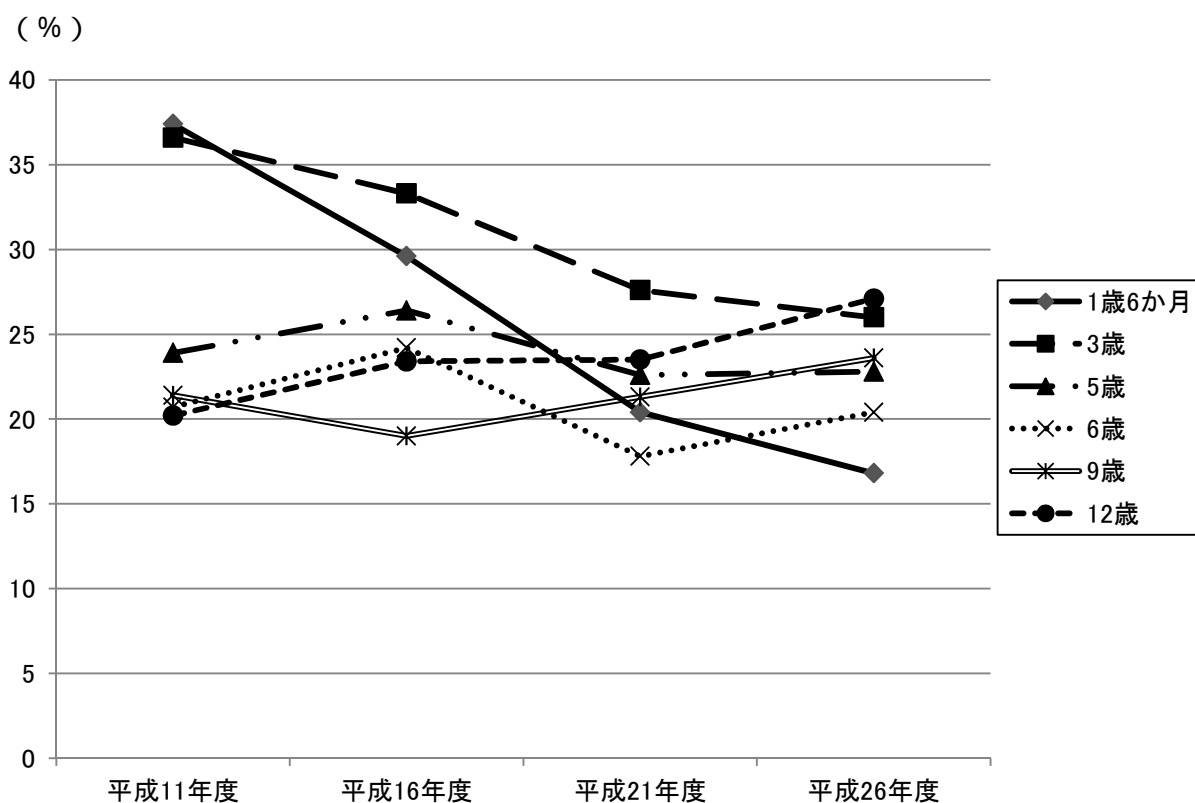
(人)

人数	地区		年齢	ほぼ	週に	週に	ほとんど	無回答
				毎日	3~4日	1~2日	ない	
人数	特別区	保護者回答	1歳6か月	733	535	887	1,945	8
			3歳	1,211	991	1,455	787	20
			5歳	970	904	1,480	777	7
			6歳	188	195	301	201	4
		本人回答	9歳	209	184	270	190	3
			12歳	307	298	343	143	2
	多摩地区	保護者回答	1歳6か月	326	333	627	911	3
			3歳	584	559	892	391	19
			5歳	559	538	935	544	4
			6歳	202	212	367	245	1
		本人回答	9歳	256	246	352	260	3
			12歳	403	400	452	265	5
全体	保護者回答	1歳6か月	1059	868	1514	2856	11	
		3歳	1,795	1,550	2,347	1,178	39	
		5歳	1,529	1,442	2,415	1,321	11	
		6歳	390	407	668	446	5	
	本人回答	9歳	465	430	622	450	6	
		12歳	710	698	795	408	7	
%	特別区	保護者回答	1歳6か月	17.8%	13.0%	21.6%	47.3%	0.2%
			3歳	27.1%	22.2%	32.6%	17.6%	0.4%
			5歳	23.4%	21.8%	35.8%	18.8%	0.2%
			6歳	21.1%	21.9%	33.9%	22.6%	0.4%
		本人回答	9歳	24.4%	21.5%	31.5%	22.2%	0.4%
			12歳	28.1%	27.3%	31.4%	13.1%	0.2%
	多摩地区	保護者回答	1歳6か月	14.8%	15.1%	28.5%	41.4%	0.1%
			3歳	23.9%	22.9%	36.5%	16.0%	0.8%
			5歳	21.7%	20.9%	36.2%	21.1%	0.2%
			6歳	19.7%	20.6%	35.7%	23.9%	0.1%
		本人回答	9歳	22.9%	22.0%	31.5%	23.3%	0.3%
			12歳	26.4%	26.2%	29.6%	17.4%	0.3%
全体	保護者回答	1歳6か月	16.8%	13.8%	24.0%	45.3%	0.2%	
		3歳	26.0%	22.4%	34.0%	17.1%	0.6%	
		5歳	22.8%	21.5%	35.9%	19.7%	0.2%	
		6歳	20.4%	21.2%	34.9%	23.3%	0.3%	
	本人回答	9歳	23.6%	21.8%	31.5%	22.8%	0.3%	
		12歳	27.1%	26.7%	30.4%	15.6%	0.3%	

表 5 ほぼ毎日、甘味飲料を摂取している者の割合の推移

年齢	(%)			
	平成 11 年度	平成 16 年度	平成 21 年度	平成 26 年度
1 歳 6 か月	37.4	29.6	20.4	16.8
3 歳	36.6	33.3	27.6	26.0
5 歳	23.9	26.4	22.6	22.8
6 歳	20.7	24.2	17.8	20.4
9 歳	21.4	19.0	21.3	23.6
12 歳	20.2	23.4	23.5	27.1

図 2 ほぼ毎日、甘味飲料を摂取している者の割合の推移



4 就寝時の授乳習慣

夜、母乳を飲みながら、または、哺乳びんでミルク等を飲みながら寝る習慣があるかとの設問について、以下のような結果となった。

表 6 に就寝時の授乳習慣(1歳6か月のみ調査)の有無を示す。習慣がある割合は全体の約3分の1であり、特別区と多摩地区での差はなかった。

表 7、図 3 に授乳習慣がある人の割合の推移を示す。全体では平成 11 年度以降増加傾向であったが、近年では横ばい傾向に変わりつつある。地域別傾向が異なり、特別区では 10 年前から横ばい傾向であったのに対し、多摩地区では増加傾向にある。

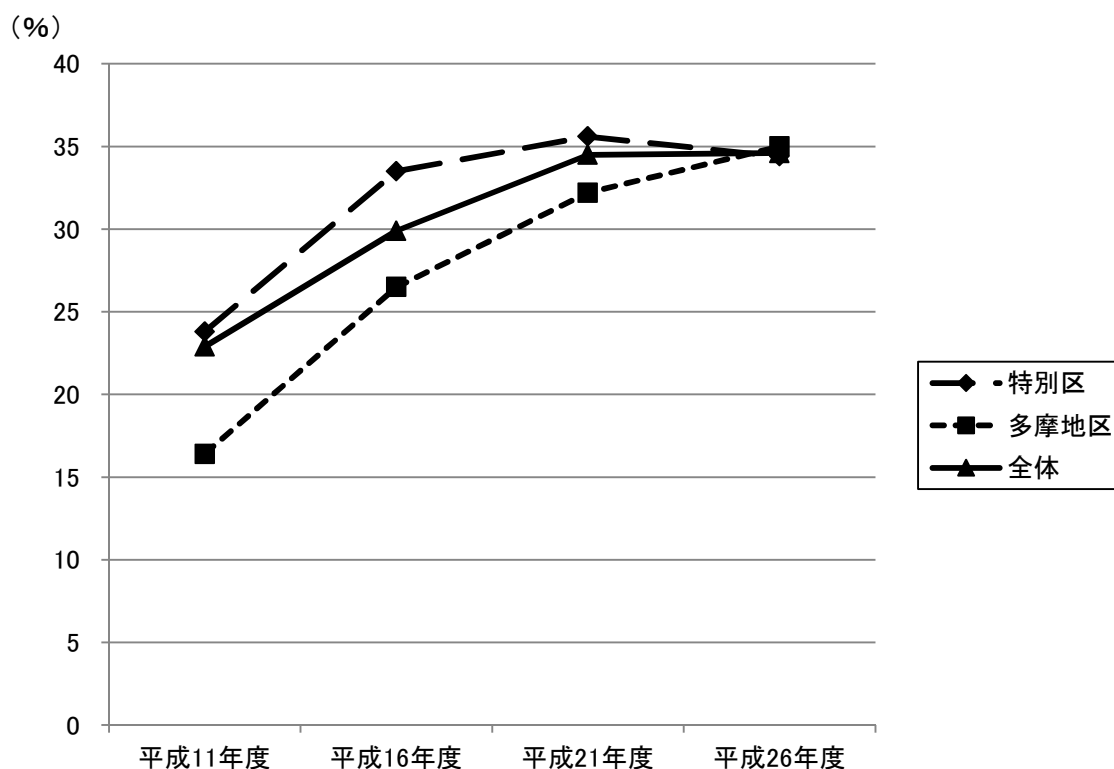
表 6 就寝時の授乳習慣(1歳6か月)

		(人)		
	地区	ある	ない	無回答
人数	特別区	1,413	2,664	31
	多摩地区	771	1,411	18
	全体	2184	4075	49
%	特別区	34.4%	64.8%	0.8%
	多摩地区	35.0%	64.1%	0.8%
	全体	34.6%	64.6%	0.8%

表 7 就寝時の授乳習慣がある割合の推移(1歳6か月)

		(%)			
地区		平成 11 年度	平成 16 年度	平成 21 年度	平成 26 年度
特別区		23.8	33.5	35.6	34.4
多摩地区		16.4	26.5	32.2	35.0
全体		22.9	29.9	34.5	34.6

図 3 就寝時の授乳習慣がある割合の推移(1歳6か月)



5 歯や口腔の観察状況

表 8 に歯や口腔の観察状況を示す。1 歳 6 か月、3 歳、5 歳、6 歳は保護者による観察で「週 1 回以上」は 8 割前後であったが、9 歳、12 歳は本人による観察で「週 1 回以上」は 4 割強であった。特別区と多摩地区の差はほとんどなかった。

表 9、図 4 は「週 1 回以上」の推移を示したものである。保護者による観察は全体的に漸増傾向を示したが、平成 26 年度の 3 歳の値は 81.2% で「いい歯東京」の目標値(90%以上)には達しなかった。

本人による観察では、9 歳は平成 16 年度から漸減傾向であり、12 歳は平成 11 年度から漸増傾向と、全体としてみた場合は傾向不定であった。

表 8 歯や口腔の観察状況

(人)

	地区		年齢	週1回以上	月1回以上	ほとんど ない	無回答		
人数	特別区	保護者による観察	1歳6か月	3,278	406	393	31		
			3歳	3,695	373	363	33		
			5歳	3,289	547	291	11		
			6歳	664	145	79	1		
		本人による観察	9歳	366	222	264	4		
			12歳	454	308	326	5		
			多摩地区	保護者による観察	1歳6か月	1,713	237	234	16
					3歳	1,913	278	239	15
	5歳	2,041			347	184	8		
	6歳	758			167	102	0		
	本人による観察	9歳	470	283	361	3			
		12歳	604	455	452	14			
全体		保護者による観察	1歳6か月	4991	643	627	47		
			3歳	5,608	651	602	48		
	5歳		5,330	894	475	19			
	6歳		1,422	312	181	1			
	本人による観察	9歳	836	505	625	7			
		12歳	1,058	763	778	19			
		%	特別区	保護者による観察	1歳6か月	79.8%	9.9%	9.6%	0.8%
					3歳	82.8%	8.4%	8.1%	0.7%
5歳	79.5%				13.2%	7.0%	0.3%		
6歳	74.7%				16.3%	8.9%	0.1%		
本人による観察	9歳			42.8%	25.9%	30.8%	0.5%		
	12歳			41.5%	28.2%	29.8%	0.5%		
	多摩地区			保護者による観察	1歳6か月	77.9%	10.8%	10.6%	0.7%
					3歳	78.2%	11.4%	9.8%	0.6%
5歳			79.1%		13.4%	7.1%	0.3%		
6歳			73.8%		16.3%	9.9%	0.0%		
本人による観察	9歳		42.1%	25.3%	32.3%	0.3%			
	12歳		39.6%	29.8%	29.6%	0.9%			
	全体	保護者による観察	1歳6か月	79.1%	10.2%	9.9%	0.7%		
			3歳	81.2%	9.4%	8.7%	0.7%		
5歳			79.3%	13.3%	7.1%	0.3%			
6歳			74.2%	16.3%	9.4%	0.1%			
本人による観察		9歳	42.4%	25.6%	31.7%	0.4%			
		12歳	40.4%	29.1%	29.7%	0.7%			

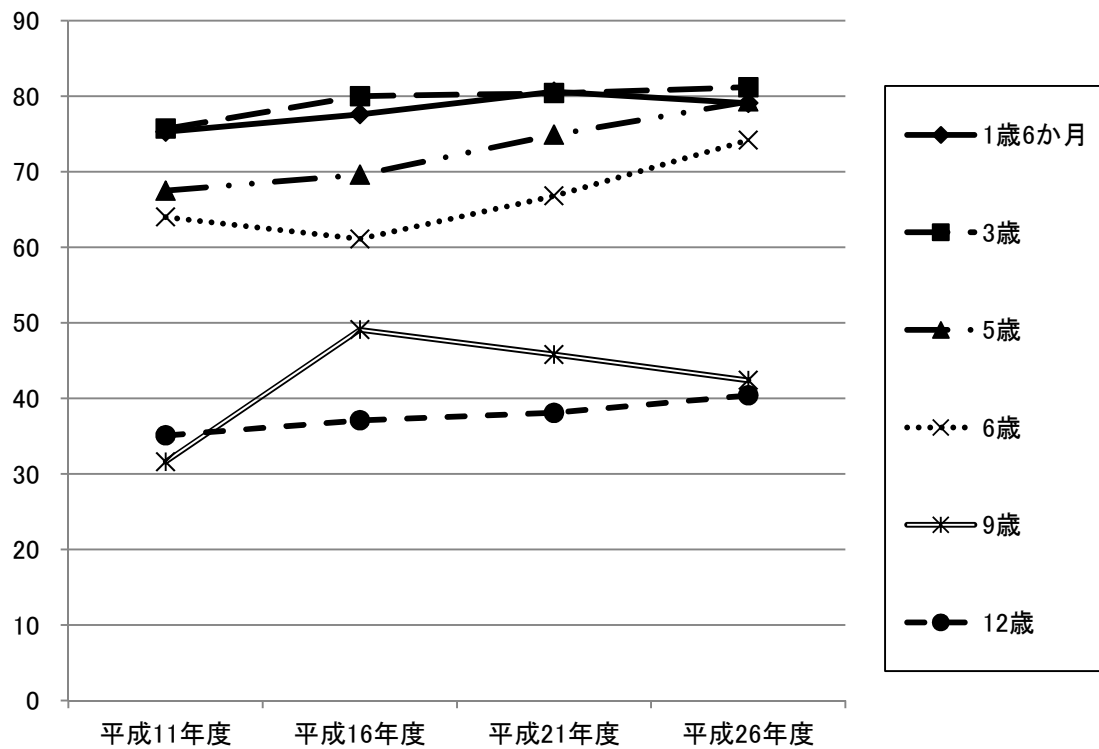
表9 週1回以上、子供の歯や口腔の観察をしている保護者・本人による観察の割合の推移

(%)

	年齢	平成11年度	平成16年度	平成21年度	平成26年度
保護者による観察	1歳6か月	75.3	77.6	80.6	79.1
	3歳	75.7	80.0	80.4	81.2
	5歳	67.5	69.6	74.9	79.3
	6歳	64.0	61.1	66.8	74.2
本人による観察	9歳	31.6	49.1	45.8	42.4
	12歳	35.1	37.1	38.1	40.4

図4 週1回以上、子供の歯や口腔の観察をしている保護者・本人による観察の割合の推移

(%)



6 フッ化物配合歯磨剤の使用状況

子供が歯をみがくときにフッ素入りの歯みがき剤を使うかとの設問について、以下のような結果となった。

表10にフッ化物配合歯磨剤の使用状況を示す。フッ化物配合歯磨剤の使用者は保護者が回答した3歳、5歳、6歳では7割前後であった。歯磨き剤を使用しない割合は、低年齢ほど高く、3歳は23.3%、5歳は12.4%、6歳では12.2%であった。本人が回答した年齢層ではフッ化物配合歯磨剤使用者が9歳では57.6%、12歳で29.8%と低かった。一方、歯磨き剤を使っているがフッ化物配合かどうか不明が9歳で26.3%、12歳で60.6%と高かった。

表11、図5にフッ化物配合歯磨剤使用者の割合の推移を示す。3歳、5歳、6歳、9歳では増加傾向が顕著であった。「いい歯東京」の目標値が定められている3歳では66.8%と、あと少しで目標値達成のレベルまで増加していた。しかしながら12歳では平成21年度以降、減少していた。

表10 フッ化物配合歯磨剤の使用状況

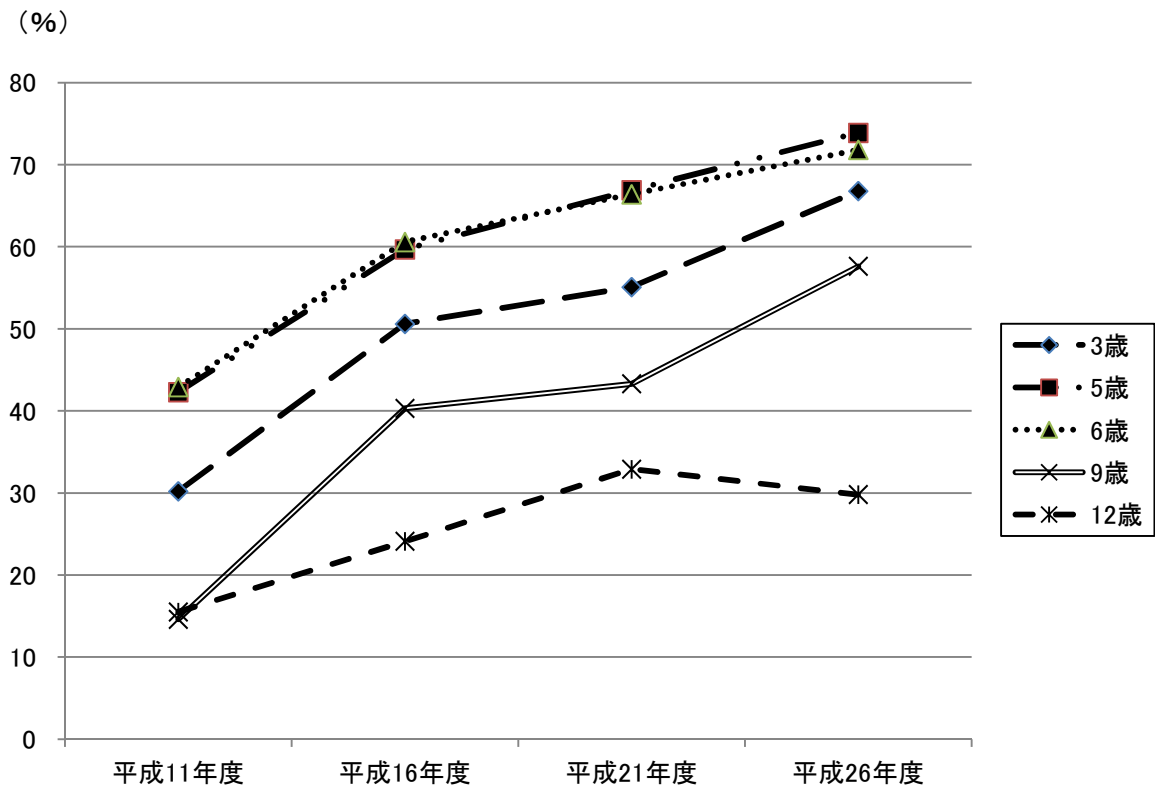
(人)

	地区	アンケート回答	年齢	歯みがき剤使用						歯みがき剤は使用しない	無回答
				フッ素入り				フッ素入りか不明	フッ素入りではない		
				全体	使用頻度						
					毎日	ときどき	無回答				
人数	特別区	保護者回答	3歳	3,032	2,592	351	89	282	129	1,003	18
			5歳	3,118	2,727	315	76	312	229	471	8
			6歳	636	559	65	12	87	72	90	4
		本人回答	9歳	468	384	55	29	239	88	59	2
			12歳	361	295	45	21	630	47	45	10
	多摩地区	保護者回答	3歳	1,584	1,377	181	26	144	97	608	12
			5歳	1,845	1,610	187	48	237	134	360	4
			6歳	739	644	69	26	71	73	144	0
		本人回答	9歳	668	546	77	45	279	75	92	3
			12歳	418	325	54	39	957	55	88	7
全体	保護者回答	3歳	4,616	3,969	532	115	426	226	1,611	30	
		5歳	4,963	4,337	502	124	549	363	831	12	
		6歳	1,375	1,203	134	38	158	145	234	4	
	本人回答	9歳	1,136	930	132	74	518	163	151	5	
		12歳	779	620	99	60	1,587	102	133	17	
%	特別区	保護者回答	3歳	67.9%	58.1%	7.9%	2.0%	6.3%	2.9%	22.5%	0.4%
			5歳	75.4%	65.9%	7.6%	1.8%	7.5%	5.5%	11.4%	0.2%
			6歳	71.5%	62.9%	7.3%	1.3%	9.8%	8.1%	10.1%	0.4%
		本人回答	9歳	54.7%	44.9%	6.4%	3.4%	27.9%	10.3%	6.9%	0.2%
			12歳	33.0%	27.0%	4.1%	1.9%	57.6%	4.3%	4.1%	0.9%
	多摩地区	保護者回答	3歳	64.8%	56.3%	7.4%	1.1%	5.9%	4.0%	24.9%	0.5%
			5歳	71.5%	62.4%	7.2%	1.9%	9.2%	5.2%	14.0%	0.2%
			6歳	72.0%	62.7%	6.7%	2.5%	6.9%	7.1%	14.0%	0.0%
		本人回答	9歳	59.8%	48.9%	6.9%	4.0%	25.0%	6.7%	8.2%	0.3%
			12歳	27.4%	21.3%	3.5%	2.6%	62.8%	3.6%	5.8%	0.5%
全体	保護者回答	3歳	66.8%	57.4%	7.7%	1.7%	6.2%	3.3%	23.3%	0.4%	
		5歳	73.9%	64.6%	7.5%	1.8%	8.2%	5.4%	12.4%	0.2%	
		6歳	71.8%	62.8%	7.0%	2.0%	8.2%	7.6%	12.2%	0.2%	
	本人回答	9歳	57.6%	47.1%	6.7%	3.8%	26.3%	8.3%	7.7%	0.3%	
		12歳	29.8%	23.7%	3.8%	2.3%	60.6%	3.9%	5.1%	0.6%	

表 11 フッ化物配合歯磨剤を使用している者の割合の推移

年齢	平成 11 年度	平成 16 年度	平成 21 年度	平成 26 年度
3 歳	30.2	50.6	55.1	66.8
5 歳	42.3	59.7	66.9	73.9
6 歳	42.9	60.6	66.4	71.8
9 歳	14.6	40.3	43.3	57.6
12 歳	15.5	24.1	32.9	29.8

図 5 フッ化物配合歯磨剤を使用している者の割合の推移



7 歯間清掃用器具の使用状況

歯をみがくとき、デンタルフロス(糸ようじなど)を使うことがあるかとの設問について、以下のような結果となった。

歯間部清掃用器具の使用状況は12歳のみで調査されており、表12に使用状況を示す。週に1回以上の頻度で歯間部清掃用器具を使用している12歳は35.5%で、特別区と多摩地区の差はなかった。

表13、図6は、平成11年度以降における週に1回以上の頻度で歯間部清掃用器具を使用している12歳の割合の推移を示したもので、平成26年度は平成11年度に比べて1.7倍に増加していた。

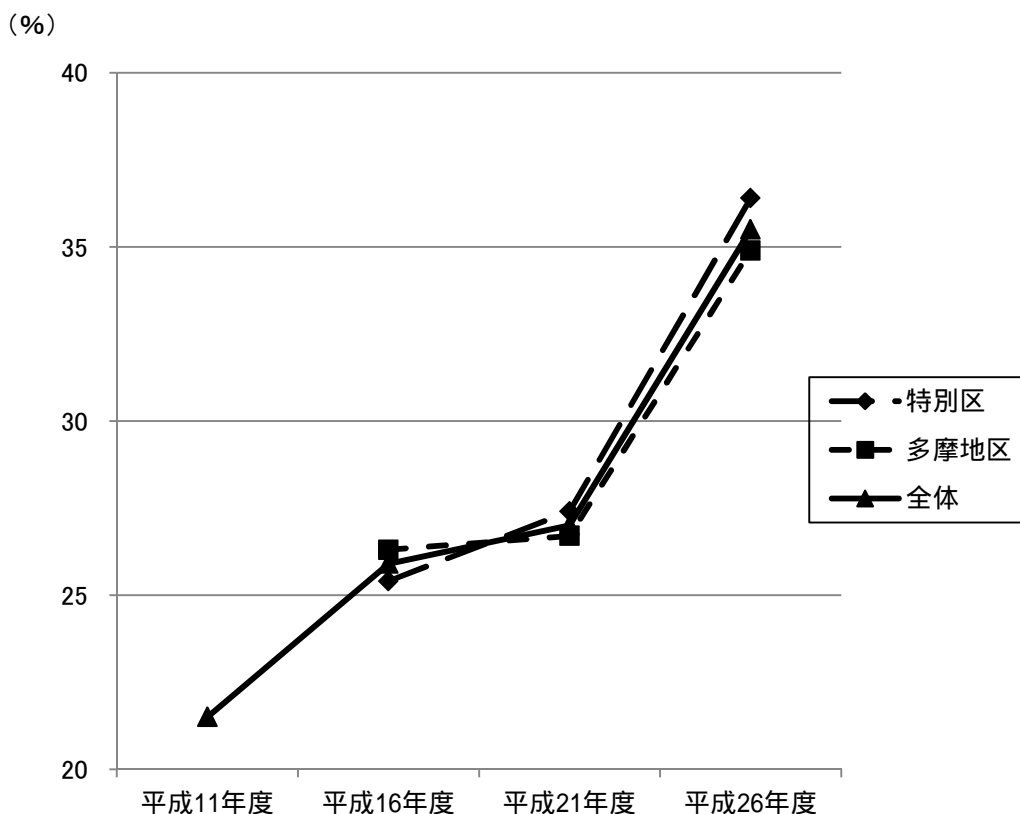
表12 歯間部清掃用器具の使用状況(12歳)

地区	(人)				
	ほぼ毎日	週に3~4日	週に1~2日	ほとんどない	無回答
特別区	66	80	252	691	4
多摩地区	77	112	343	990	3
全体	143	192	595	1681	7
特別区	6.0%	7.3%	23.1%	63.2%	0.4%
多摩地区	5.0%	7.3%	22.5%	64.9%	0.2%
全体	5.5%	7.3%	22.7%	64.2%	0.3%

表13 週に1回以上歯間部清掃用器具を使用している(12歳)の割合の推移

地区	(%)			
	平成11年度	平成16年度	平成21年度	平成26年度
特別区	-	25.4	27.4	36.4
多摩地区	-	26.3	26.7	34.9
全体	21.5	25.9	27.0	35.5

図6 週に1回以上歯間部清掃用器具を使用している(12歳)の割合の推移



8 かかりつけ歯科医院の状況

(1) かかりつけ歯科医院の有無

子供の、かかりつけの歯科医院を決めているかとの設問について、以下のような結果となった。

表 14 にかかりつけ歯科医院の有無を示す。かかりつけ歯科医院を持つ割合は年齢による違いが顕著で、5歳、6歳、9歳では8割前後と高かったが、年齢が低い層と高い層で低く、1歳6か月では2割弱、12歳では6割弱であった。特別区と多摩地区を比較すると、かかりつけ歯科医院を持つ割合は特別区のほうが高かった。

かかりつけ歯科医院を持つ割合の推移(表 15、図 7)は平成 11 年度以降、全般的に増加傾向にあった。平成 21 年度から平成 26 年度の推移をみると、3歳では 44.9%から 48.5%と増加が認められたが、目標値(60%以上)には及ばなかった。また、12歳では 58.9%から 57.6%と減少し、こちらも目標値(90%以上)には遠く及ばなかった。

表 14 かかりつけ歯科医院の有無

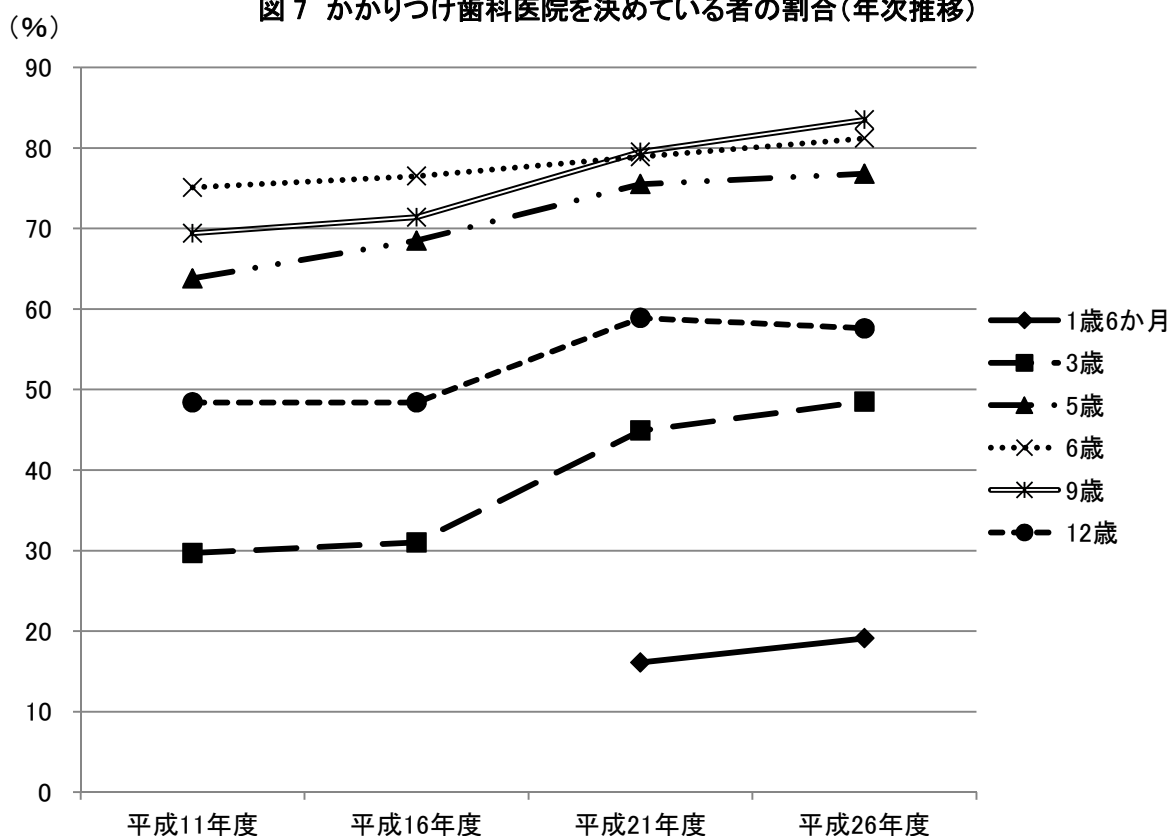
(人)

	地区	アンケート回答	年齢	人数		
				ある	ない	無回答
人数	特別区	保護者が回答	1歳6か月	858	3,243	7
			3歳	2,359	2,098	7
			5歳	3,325	810	3
			6歳	753	135	1
		小児本人が回答	9歳	714	139	3
			12歳	701	378	14
	多摩地区	保護者が回答	1歳6か月	345	1,823	32
			3歳	992	1,441	12
			5歳	1,836	742	2
			6歳	802	223	2
		小児本人が回答	9歳	934	177	6
			12歳	808	710	7
全体	保護者が回答	1歳6か月	1203	5066	39	
		3歳	3,351	3,539	19	
		5歳	5,161	1,552	5	
		6歳	1,555	358	3	
	小児本人が回答	9歳	1,648	316	9	
		12歳	1,509	1,088	21	
%	特別区	保護者が回答	1歳6か月	20.9%	78.9%	0.2%
			3歳	52.8%	47.0%	0.2%
			5歳	80.4%	19.6%	0.1%
			6歳	84.7%	15.2%	0.1%
		小児本人が回答	9歳	83.4%	16.2%	0.4%
			12歳	64.1%	34.6%	1.3%
	多摩地区	保護者が回答	1歳6か月	15.7%	82.9%	1.5%
			3歳	40.6%	58.9%	0.5%
			5歳	71.2%	28.8%	0.1%
			6歳	78.1%	21.7%	0.2%
		小児本人が回答	9歳	83.6%	15.8%	0.5%
			12歳	53.0%	46.6%	0.5%
全体	保護者が回答	1歳6か月	19.1%	80.3%	0.6%	
		3歳	48.5%	51.2%	0.3%	
		5歳	76.8%	23.1%	0.1%	
		6歳	81.2%	18.7%	0.2%	
	小児本人が回答	9歳	83.5%	16.0%	0.5%	
		12歳	57.6%	41.6%	0.8%	

表 15 かかりつけ歯科医院を決めている者の割合(年次推移)

年齢	(%)			
	平成 11 年度	平成 16 年度	平成 21 年度	平成 26 年度
1 歳 6 か月	-	-	16.1	19.1
3 歳	29.7	31.0	44.9	48.5
5 歳	63.8	68.5	75.5	76.8
6 歳	75.1	76.5	78.9	81.2
9 歳	69.4	71.4	79.5	83.5
12 歳	48.4	48.4	58.9	57.6

図 7 かかりつけ歯科医院を決めている者の割合(年次推移)



(2) 受けている内容(複数回答)

表 16 にかかりつけ歯科医院で受けている予防処置や指導の内容について、該当する人数と割合を年齢階級及び特別区・多摩地区別に示す。

図 8 は、かかりつけ歯科医院を持つと回答した者を母数とした割合の状況を図示したものである。

図 9 は、図 8 に示した割合にかかりつけ歯科医を持つ人の割合(表 14)を乗じたもので、回答者全体のうち、どのくらいの割合が歯科医院で予防処置・指導を受けているかをみることができる。予防処置・指導の中で、受けている割合が最も高かったのが定期健診とフッ化物歯面塗布、次いで歯磨き指導の順で、その他とフッ化物洗口は低かった。

また、どの予防処置・指導も、年齢による違いが顕著で、5 歳、6 歳及び 9 歳が他の年齢に比べて高い割合を示し、定期健診では 6 割前後、フッ化物歯面塗布では 5 割前後、歯磨き指導では 3 割前後、シーラントでは 2 割弱であった。これらに比べて 12 歳は、どの予防処置・指導ともに低率であった。

表 16 かかりつけ歯科医院で受けている予防処置・指導の内容 (人)

地区	アンケート回答	年齢	定期健診 (年1回以上)	フッ化物 歯面塗布	フッ化物 洗口	歯みがき 指導	シーラント 処置	その他	全ての 項目 該当なし	決めているが 受診したこと はない
特別区	保護者	1歳6か月	385	399	-	175	-	43	147	76
		3歳	1,703	1,667	82	638	171	54	133	-
		5歳	2,561	2,573	159	1,278	740	74	162	-
		6歳	595	520	41	315	152	32	44	-
	小児本人	9歳	468	420	32	290	133	88	53	-
		12歳	380	257	36	274	109	92	100	-
多摩地区	保護者	1歳6か月	162	161	-	84	-	22	80	28
		3歳	685	645	26	302	42	37	118	-
		5歳	1,385	1,272	73	592	273	53	159	-
		6歳	584	518	36	267	178	34	84	-
	小児本人	9歳	599	495	41	317	180	158	76	-
		12歳	402	222	32	215	92	125	142	-
全体	保護者	1歳6か月	547	560	-	259	-	65	227	104
		3歳	2,388	2,312	108	940	213	91	251	-
		5歳	3,946	3,845	232	1,870	1,013	127	321	-
		6歳	1,179	1,038	77	582	330	66	128	-
	小児本人	9歳	1,067	915	73	607	313	246	129	-
		12歳	782	479	68	489	201	217	242	-
特別区	保護者	1歳6か月	44.9%	46.5%	-	20.4%	-	5.0%	17.1%	8.9%
		3歳	72.2%	70.7%	3.5%	27.0%	7.2%	2.3%	5.6%	-
		5歳	77.0%	77.4%	4.8%	38.4%	22.3%	2.2%	4.9%	-
		6歳	79.0%	69.1%	5.4%	41.8%	20.2%	4.2%	5.8%	-
	小児本人	9歳	65.5%	58.8%	4.5%	40.6%	18.6%	12.3%	7.4%	-
		12歳	54.2%	36.7%	5.1%	39.1%	15.5%	13.1%	14.3%	-
多摩地区	保護者	1歳6か月	47.0%	46.7%	-	24.3%	-	6.4%	23.2%	8.1%
		3歳	69.1%	65.0%	2.6%	30.4%	4.2%	3.7%	11.9%	-
		5歳	75.4%	69.3%	4.0%	32.2%	14.9%	2.9%	8.7%	-
		6歳	72.8%	64.6%	4.5%	33.3%	22.2%	4.2%	10.5%	-
	小児本人	9歳	64.1%	53.0%	4.4%	33.9%	19.3%	16.9%	8.1%	-
		12歳	49.8%	27.5%	4.0%	26.6%	11.4%	15.5%	17.6%	-
全体	保護者	1歳6か月	45.5%	46.6%	-	21.5%	-	5.4%	18.9%	8.6%
		3歳	71.3%	69.0%	3.2%	28.1%	6.4%	2.7%	7.5%	-
		5歳	76.5%	74.5%	4.5%	36.2%	19.6%	2.5%	6.2%	-
		6歳	75.8%	66.8%	5.0%	37.4%	21.2%	4.2%	8.2%	-
	小児本人	9歳	64.7%	55.5%	4.4%	36.8%	19.0%	14.9%	7.8%	-
		12歳	51.8%	31.7%	4.5%	32.4%	13.3%	14.4%	16.0%	-

図8 かかりつけ歯科医院で受けている予防処置・指導の内容(かかりつけ歯科医院を持つ者)

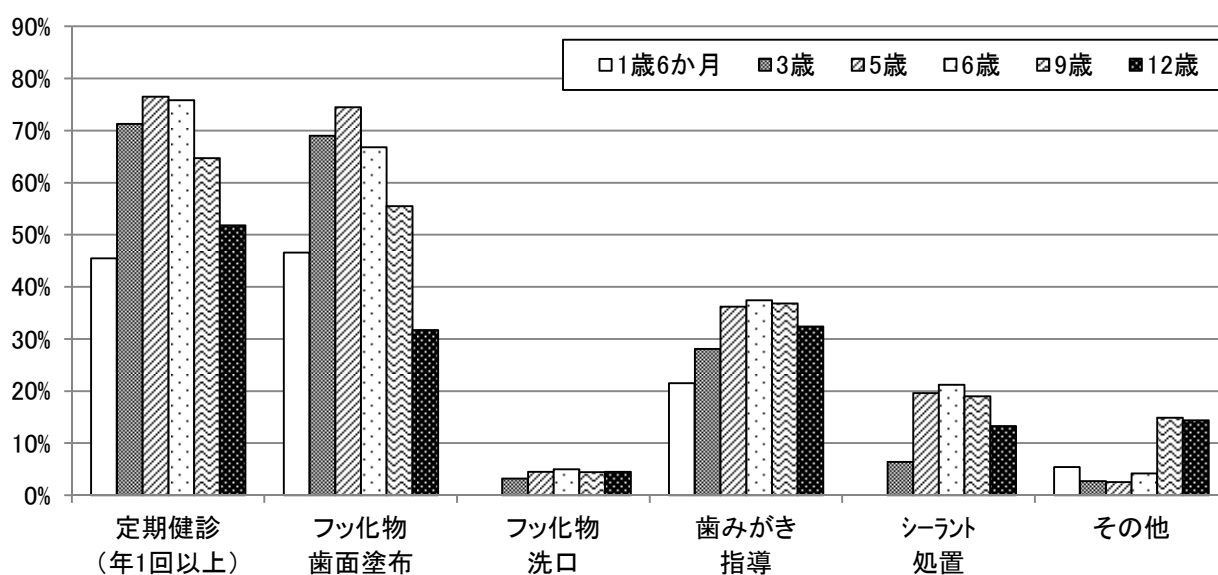
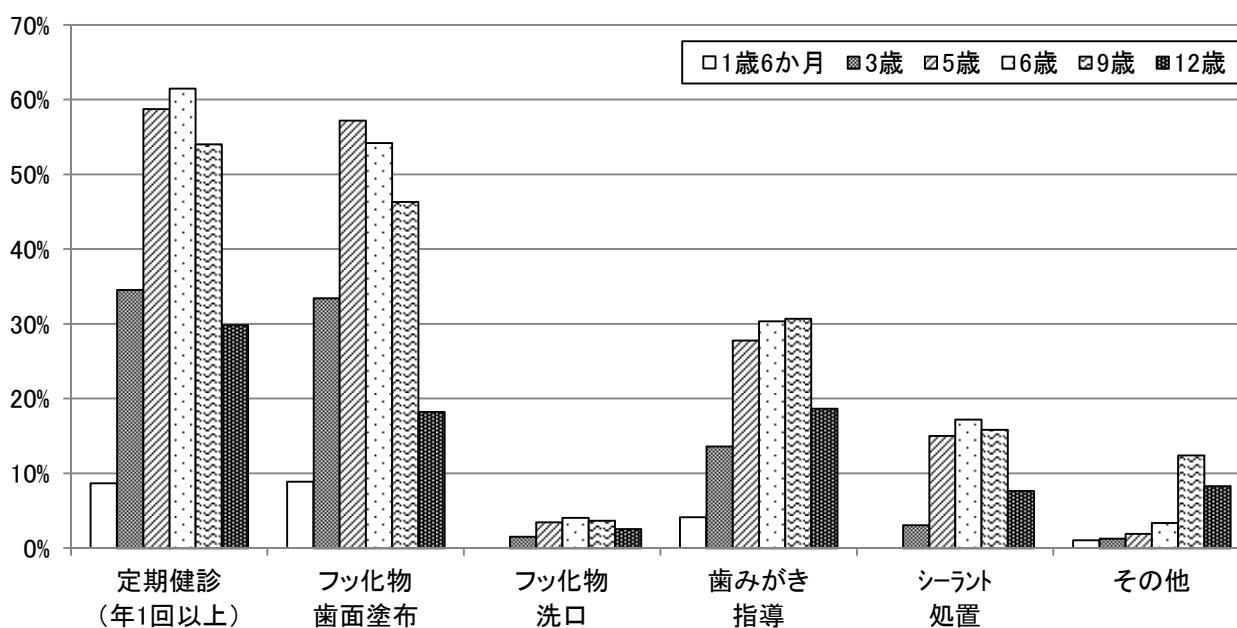


図9 かかりつけ歯科医院で受けている予防処置・指導の内容(回答者全体)



9 ゆっくりよく噛む習慣

(1) ゆっくりよく噛む習慣づけ(3歳、5歳、6歳)

表 17 にゆっくりよく噛んで食べる習慣づけをしている3歳、5歳、6歳の保護者の割合と習慣づけの内容を示す。5、6割の保護者が習慣づけを「している」と回答し、性差はなかった。習慣づけの内容は、「ゆっくりよく噛むように声をかけている」が最も多く、「適度に噛み応えのある食品を取り入れるようにしている」がこれに次ぎ、「その他」はわずかであった。

表 18 は、ゆっくりよく噛んで食べる習慣づけをしている保護者の割合の推移を示したものであるが、平成21年度から平成26年度での変化はわずかであった。

表 17 ゆっくりよく噛んで食べる習慣づけをしている保護者の割合と習慣づけの内容

(人)

	性別	年齢	している			どのようなことをしていますか			
			している	していない	無回答	噛み応えのある食品	ゆっくりよく噛むよう声かけ	その他	全ての項目該当なし
人数	男子	3歳	2,064	1,357	48	649	1,685	40	34
		5歳	1,802	1,577	12	598	1,415	69	20
		6歳	536	463	7	193	432	25	6
	女子	3歳	1,956	1,278	54	669	1,533	45	55
		5歳	1,689	1,526	12	620	1,291	71	19
		6歳	480	405	8	175	361	24	6
	無記入	3歳	86	61	5	30	71	2	1
		5歳	53	47	0	15	43	4	0
		6歳	10	7	0	3	7	0	1
	全体	3歳	4,106	2,696	107	1,348	3,289	87	90
		5歳	3,544	3,150	24	1,233	2,749	144	39
		6歳	1,026	875	15	371	800	49	13
%	男子	3歳	59.5%	39.1%	1.4%	31.4%	81.6%	1.9%	1.6%
		5歳	53.1%	46.5%	0.4%	33.2%	78.5%	3.8%	1.1%
		6歳	53.3%	46.0%	0.7%	36.0%	80.6%	4.7%	1.1%
	女子	3歳	59.5%	38.9%	1.6%	34.2%	78.4%	2.3%	2.8%
		5歳	52.3%	47.3%	0.4%	36.7%	76.4%	4.2%	1.1%
		6歳	53.8%	45.4%	0.9%	36.5%	75.2%	5.0%	1.3%
	無記入	3歳	56.6%	40.1%	3.3%	34.9%	82.6%	2.3%	1.2%
		5歳	53.0%	47.0%	0.0%	28.3%	81.1%	7.5%	0.0%
		6歳	58.8%	41.2%	0.0%	30.0%	70.0%	0.0%	10.0%
	全体	3歳	59.4%	39.0%	1.5%	32.8%	80.1%	2.1%	2.2%
		5歳	52.8%	46.9%	0.4%	34.8%	77.6%	4.1%	1.1%
		6歳	53.5%	45.7%	0.8%	36.2%	78.0%	4.8%	1.3%

表 18 ゆっくりよく噛んで食べるように習慣づけている保護者の割合の推移

(%)

年齢	平成21年度	平成26年度
3歳	60.4	59.4
5歳	54.6	52.8
6歳	55.1	53.5

(2) ゆっくりよく噛む習慣化(9歳、12歳)

表19に、9歳、12歳におけるゆっくりよく噛んで食べる習慣の状況を示す。「いつも」と「だいたい」を合わせた割合は、9歳が59.3%、12歳が52.3%であり、どちらの年齢も男子より女子のほうが高率を示した。

表20は、平成21年度から平成26年度における推移を示したものである。「いい歯東京」の目標は、この割合を「増やす」ことであり、12歳はやや増加し目標を達成したが、9歳では変化がなく、目標達成とはいえなかった。

表19 ゆっくりよく噛んで食べる習慣(9歳、12歳)

(人)

	性別	年齢	いつも	だいたい	ときどき	ゆっくりかまない	無回答
人数	男子	9歳	148	353	305	159	10
		12歳	127	508	538	168	10
	女子	9歳	216	445	259	60	4
		12歳	125	601	431	85	11
	無記入	9歳	4	4	4	2	0
		12歳	0	10	1	2	1
	全体	9歳	368	802	568	221	14
		12歳	252	1,119	970	255	22
%	男子	9歳	15.2%	36.2%	31.3%	16.3%	1.0%
		12歳	9.4%	37.6%	39.8%	12.4%	0.7%
	女子	9歳	22.0%	45.2%	26.3%	6.1%	0.4%
		12歳	10.0%	48.0%	34.4%	6.8%	0.9%
	無記入	9歳	28.6%	28.6%	28.6%	14.3%	0.0%
		12歳	0.0%	71.4%	7.1%	14.3%	7.1%
	全体	9歳	18.7%	40.6%	28.8%	11.2%	0.7%
		12歳	9.6%	42.7%	37.1%	9.7%	0.8%

表20 ゆっくりよく噛んで食べる習慣をもつ者の推移(9歳、12歳)

(%)

年齢		いつも	だいたい	計
9歳	平成21年度	17.4	41.9	59.3
	平成26年度	18.7	40.6	59.3
12歳	平成21年度	9.6	40.7	50.3
	平成26年度	9.6	42.7	52.3

10 丁寧な歯磨きの状況(9歳、12歳)

表 21 に、「歯を1本ずつ丁寧に時間をかけて磨く」の実践状況を示す(9歳、12歳)。「ほぼ毎日」実践している割合は、9歳が40.4%、12歳が53.1%で、女子のほうが男子よりも高率を示した。

表 22 は、平成16年度から平成26年度における推移を示したものである。「いい歯東京」の目標は、この割合を「増やす」ことであり、9歳は37.9%から40.4%、12歳は49.0%から53.1%で、ともに増加し、目標を達成した。

表 21 丁寧な歯磨きの状況(9歳、12歳)

			(人)				
	性別	年齢	ほぼ毎日	週に3~4日	週に1~2日	ほとんどない	無回答
人数	男子	9歳	354	212	230	160	19
		12歳	700	322	224	93	12
	女子	9歳	436	223	227	91	7
		12歳	688	326	167	54	18
	無記入	9歳	8	2	2	1	1
		12歳	3	5	4	1	1
	全体	9歳	798	437	459	252	27
		12歳	1,391	653	395	148	31
%	男子	9歳	36.3%	21.7%	23.6%	16.4%	1.9%
		12歳	51.8%	23.8%	16.6%	6.9%	0.9%
	女子	9歳	44.3%	22.7%	23.1%	9.2%	0.7%
		12歳	54.9%	26.0%	13.3%	4.3%	1.4%
	無記入	9歳	57.1%	14.3%	14.3%	7.1%	7.1%
		12歳	21.4%	35.7%	28.6%	7.1%	7.1%
	全体	9歳	40.4%	22.1%	23.3%	12.8%	1.4%
		12歳	53.1%	24.9%	15.1%	5.7%	1.2%

表 22 「ほぼ毎日、丁寧な歯磨きをしている」割合の推移(9歳、12歳)

(%)			
年齢	平成17年度	平成21年度	平成26年度
9歳	37.9	37.5	40.4
12歳	49.0	46.8	53.1

11 8020を知っている者の割合(12歳)

表 23 に8020を知っている 12 歳の割合を示す。21.4%が知っており、男子よりも女子の割合がやや高かった。

表 24 は前回(平成 21 年度)と比較したもので、20.4%から 21.4%であり、微増であった。

表 23 8020を知っている者(12歳) (人)

	性別	知っている	知らない	無回答
人数	男	271	1,074	6
	女	289	960	4
	無記入	1	12	1
	全体	561	2,046	11
%	男	20.1%	79.5%	0.4%
	女	23.1%	76.6%	0.3%
	無記入	7.1%	85.7%	7.1%
	全体	21.4%	78.2%	0.4%

表 24 8020を知っている者(12歳)の推移
(%)

年齢	平成 21 年度	平成 26 年度
12 歳	20.4	21.4

12 3歳児のう蝕の状況

区市の協力を得て、3歳児歯科健診の健診結果(現在歯数、未処置歯数、処置歯数)を保護者への質問票に転記した。

う蝕の有無については、特別区と多摩地区で大きな差はなく、多摩地区のう蝕率は特別区に比べ1.5%高かった。

表 25 3歳児のう蝕の状況

(人)

	地区	う蝕あり	う蝕なし
人数	特別区	456	3,463
	多摩地区	262	1,735
	全体	718	5,198
%	特別区	11.6%	88.4%
	多摩地区	13.1%	86.9%
	全体	12.1%	87.9%

13 3歳児のう蝕の状況と歯科保健行動・生活習慣調査の関係

3歳児の歯科健診結果について回答の得られた5,916人に対し、う蝕の有無と歯科保健行動・生活習慣調査の結果を集計した。

(1) う蝕の有無と甘味食品の摂取状況

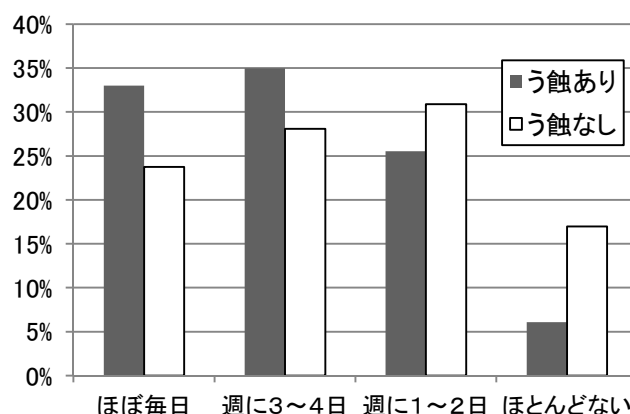
甘味食品の摂取状況をう蝕の有無で比較してみると、う蝕のない3歳児は、甘味食品の摂取を「週に1～2日」と「ほとんどない」をあわせて47.9%で、ほぼ半数であった。一方、う蝕のある3歳児は、「ほぼ毎日」と「週に3～4日」をあわせて68.0%で、甘味食品の摂取状況はう蝕の有無との関連がうかがえる。

表 26 う蝕と甘味食品摂取の状況

(人)

		甘味食品の摂取状況				
		ほぼ毎日	週に3～4日	週に1～2日	ほとんどない	無回答
人数	う蝕あり	234	248	181	43	3
	う蝕なし	1,234	1,460	1,606	882	16
%	う蝕あり	33.0%	35.0%	25.5%	6.1%	0.4%
	う蝕なし	23.7%	28.1%	30.9%	17.0%	0.3%

図 10 う蝕と甘味食品摂取の状況



(2) う蝕の有無と甘味飲料の摂取状況

甘味飲料の摂取状況をう蝕の有無で比較してみると、「ほぼ毎日」と回答したう蝕ありの3歳児は35.3%、う蝕のない3歳児は24.8%で、1割近い差が生じた。

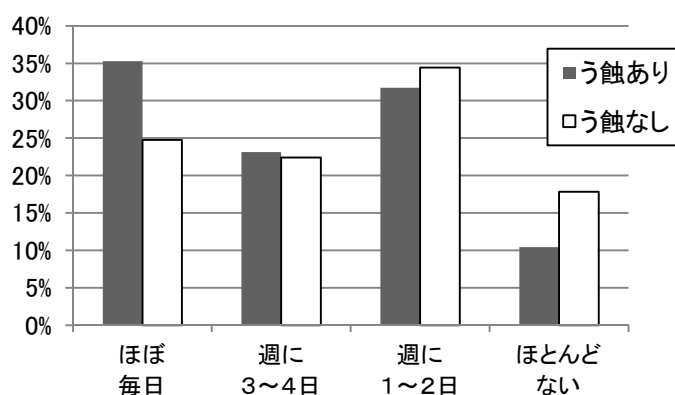
また、「ほとんどない」と回答したう蝕なしの3歳児は17.8%、う蝕ありの3歳児は10.4%であった。

表 27 う蝕の有無と甘味飲料の摂取状況

(人)

		甘味飲料				
		ほぼ毎日	週に3～4日	週に1～2日	ほとんどない	無回答
人数	う蝕あり	250	164	225	74	5
	う蝕なし	1,287	1,165	1,790	927	29
%	う蝕あり	35.3%	23.1%	31.7%	10.4%	0.7%
	う蝕なし	24.8%	22.4%	34.4%	17.8%	0.6%

図 11 う蝕の有無と甘味飲料の摂取状況



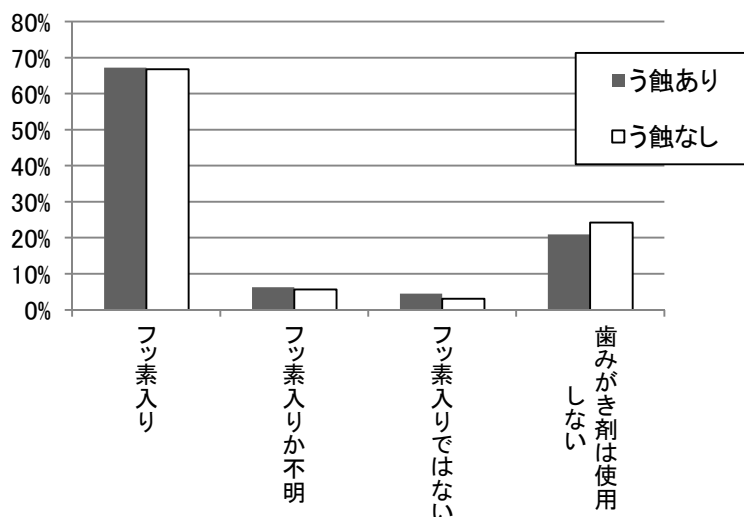
(3) う蝕の有無とフッ化物配合歯磨剤の使用状況

フッ化物配合歯磨剤の使用の状況をう蝕の有無で比較してみると、大きな差は生じなかった。

表 28 う蝕の有無とフッ化物配合歯磨剤の使用状況

		(人)				
		フッ素入り	フッ素入り か不明	フッ素入り ではない	歯みがき 剤は使用 しない	無回答
人数	う蝕あり	483	45	32	150	8
	う蝕なし	3,471	292	160	1,257	18
%	う蝕あり	67.3%	6.3%	4.5%	20.9%	1.1%
	う蝕なし	66.8%	5.6%	3.1%	24.2%	0.3%

図 12 う蝕の有無とフッ化物配合歯磨剤の使用状況



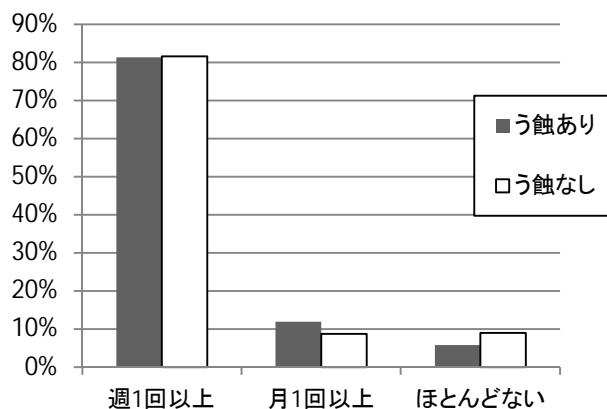
(4) う蝕の有無と歯や口の観察状況

歯や口の観察状況をう蝕の有無で比較してみると、大きな差は生じなかった。

表 29 う蝕の有無と歯や口の観察状況

		(人)			
		週1回以上 観察する	月1回以上 観察する	ほとんど ない	無回答
人数	う蝕あり	584	86	42	6
	う蝕なし	4,241	454	469	34
%	う蝕あり	81.3%	12.0%	5.8%	0.8%
	う蝕なし	81.6%	8.7%	9.0%	0.7%

図 13 う蝕の有無と歯や口の観察状況



(5) う蝕の有無とゆっくりよく噛む習慣

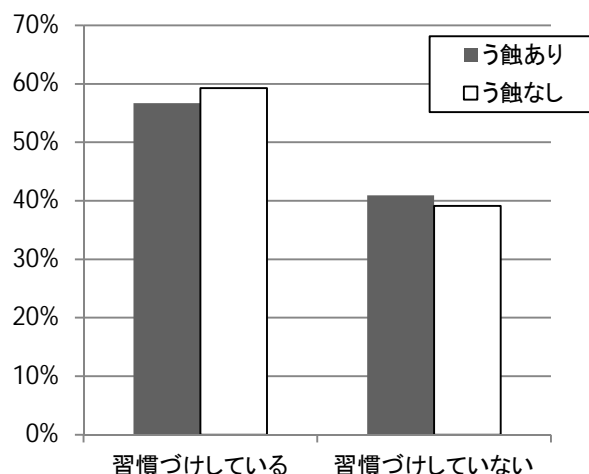
ゆっくりよく噛んで食べる習慣づけの有無をう蝕の有無で比較してみると、大きな差は生じなかった。

表 30 う蝕の有無とゆっくりよく噛む習慣

(人)

		習慣づけしている	習慣づけしていない	無回答
人数	う蝕あり	407	294	17
	う蝕なし	3,082	2,033	83
%	う蝕あり	56.7%	40.9%	2.4%
	う蝕なし	59.3%	39.1%	1.6%

図 14 う蝕の有無とゆっくりよく噛む習慣



(6) う蝕の有無とかかりつけ歯科医院の有無

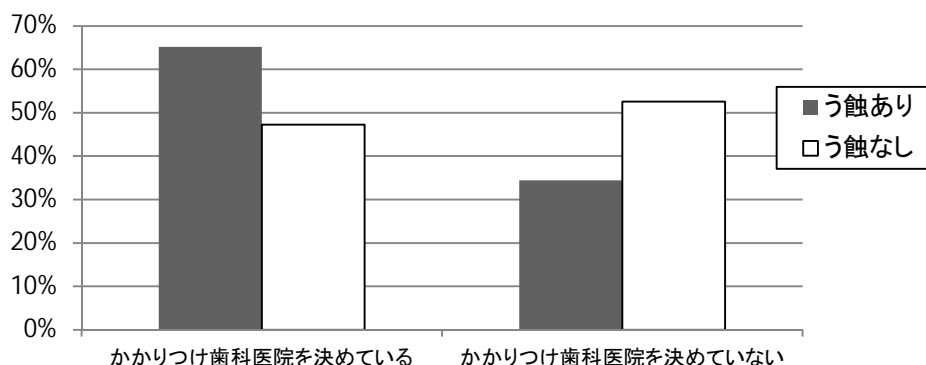
かかりつけ歯科医院の有無をう蝕の有無で比較してみると、う蝕がない 3 歳児は 52.5%がかかりつけ歯科医院を決めていない。一方、う蝕のある 3 歳児は 65.2%がかかりつけ歯科医院を決めている。

表 31 う蝕の有無とかかりつけ歯科医院の有無

(人)

		かかりつけ歯科医院を決めている	かかりつけ歯科医院を決めていない	無回答
人数	う蝕あり	468	247	3
	う蝕なし	2,456	2,731	11
%	う蝕あり	65.2%	34.4%	0.4%
	う蝕なし	47.2%	52.5%	0.2%

図 15 う蝕の有無とかかりつけ歯科医院の有無



14 3歳う蝕の地域差と関連要因

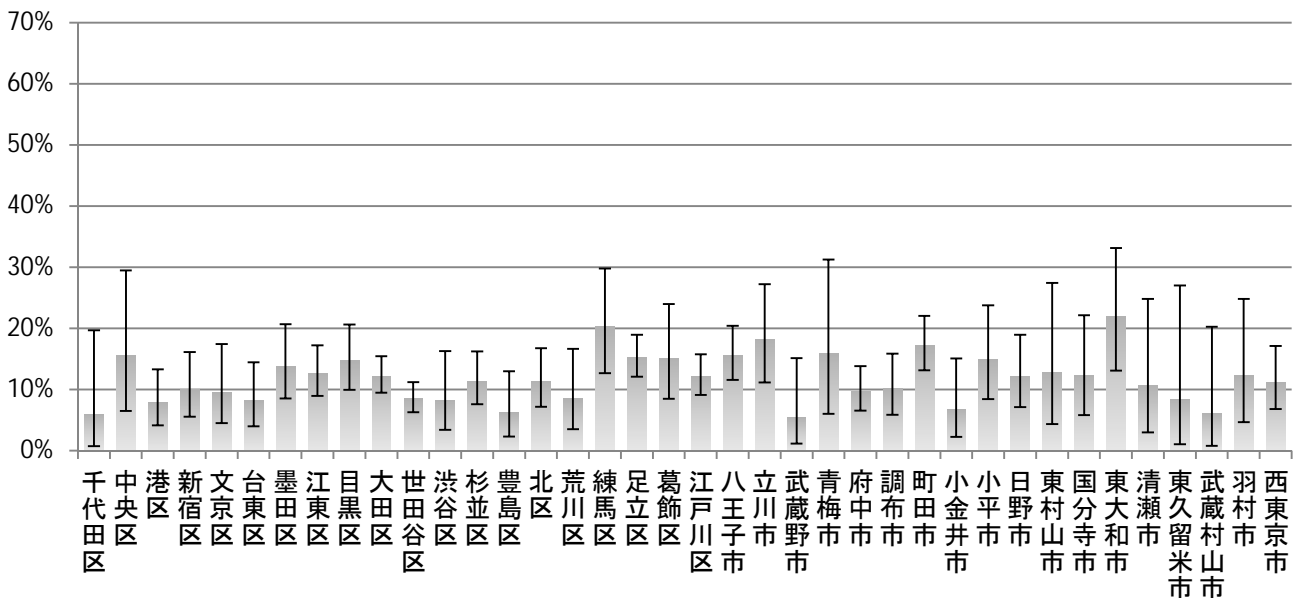
(1) 区市町村別にみた3歳う蝕の状況

今回の調査における3歳は、市区町村で行われる3歳児歯科健診を受けていることから、本調査の対象者について歯科健診結果の主要項目（現在歯数、未処置歯数及び処置歯数）を本調査の調査票に転記し、う蝕有病者率の地域差と関連要因について分析を行った。3歳について質問紙調査を行った51市区町村の6,931人のうち、40市区町村の5,934人から、う蝕に関する情報を得た。

図10は、う蝕の情報が得られた40市区町村について、う蝕有病者率を市区町村別に95%信頼区間とともに示したものである。95%信頼区間は例数が少ない市区町村ほど幅が広がっているが、全般的にみて、地域差はそれほど大きくなかった。

なお、大島町(対象者4人)と八丈町(対象者14人)については、対象者が少なかつたため、図16から除いた。

図16 市区町村別にみた3歳う蝕有病者率と95%信頼区間



(2) う蝕の有無と生活習慣

表 25 にう蝕の有無を目的変数としたロジスティック回帰分析結果を示す。このロジスティック回帰分析では説明変数を同時投入しているため、各説明変数のオッズ比は他の要因を調整した結果である。

う蝕の有無と最も関連が強かったのは「甘いお菓子」で、摂取頻度が「ほとんどない」のオッズ比は 0.3 であった。これは、甘いお菓子の摂取頻度が「ほとんどない」3 歳児は、「ほぼ毎日」甘いお菓子を摂取する 3 歳に比べて、う蝕である確率が 3 割しかないことを示す。次いで関連が強かったのは「甘い飲み物」で、「ほとんどない」のオッズ比は 0.6、すなわち「ほぼ毎日」甘い飲み物を摂取する 3 歳に比べて、う蝕である確率は 6 割であった。

このほかの要因で、う蝕の有無との関連が認められたものは、フッ化物配合歯磨剤、口の中の観察、かかりつけ歯科医、地区であった。このうち、フッ化物配合歯磨剤では、フッ化物が配合されていない歯磨剤を使用していると保護者が回答した 3 歳は、フッ化物配合歯磨剤を使っていると保護者が回答した 3 歳に比べて、う蝕である確率が 1.7 倍高かった。

口の中の観察では統計的に有意な関連は認められたが、傾向は不定で、「週1回以上」と保護者が回答した 3 歳に比べて、「月に1回以上」ではう蝕である確率が 1.3 倍高かったが、「ほとんどない」では逆にう蝕である確率が 6 割と低かった。

かかりつけ歯科医は「あり」すなわち「かかりつけ歯科医がある」3 歳は、「かかりつけ歯科医がない」3 歳に比べて、う蝕である確率が 2.2 倍高いという結果が得られた。

地区については、多摩地区は区部に対して、う蝕である確率が 1.2 倍高かった。

以上のロジスティックモデルの説明力(表 25 Pseudo R²)は 5.2%であった。

表 32 3 歳う蝕の有無に関するロジスティック回帰分析結果

説明変数		Odds比	p値	95%信頼区間
性	男[参照]	1.00		
	女	0.89	0.171	0.76 - 1.05
甘いお菓子(回数/週)	ほぼ毎日[参照]	1.00		
	週に3~4日	0.92	0.405	0.75 - 1.13
	週に1~2日	0.64	0.000	0.51 - 0.80
	ほとんどない	0.30	0.000	0.21 - 0.44
甘い飲み物(回数/週)	ほぼ毎日[参照]	1.00		
	週に3~4日	0.74	0.009	0.59 - 0.93
	週に1~2日	0.70	0.001	0.57 - 0.87
	ほとんどない	0.60	0.001	0.45 - 0.81
F歯磨剤・使用有無	歯磨剤(+) [*] ・F(+) [*] [参照]	1.00		
	歯磨剤(+) [*] ・F(?)	1.16	0.431	0.81 - 1.66
	歯磨剤(+) [*] ・F(-)	1.66	0.019	1.09 - 2.53
	歯磨剤(-)	1.02	0.832	0.83 - 1.25
口の中の観察	週に1回以上 [参照]	1.00		
	月に1回以上	1.32	0.042	1.01 - 1.72
	ほとんどない	0.62	0.008	0.44 - 0.88
ゆっくりよく噛む習慣	はい[参照]	1.00		
	いいえ	1.02	0.841	0.86 - 1.21
かかりつけ歯科	なし[参照]	1.00		
	あり	2.24	0.000	1.88 - 2.67
地区(3区分)	区部[参照]	1.00		
	多摩地区	1.24	0.017	1.04 - 1.48
	島しょ地区	0.80	0.766	0.18 - 3.58
定数項		0.31	0.000	0.25 - 0.39

Number of obs = 5,643

Pseudo R² = 0.0520

15 幼児期・学齢期の歯科保健行動に関する調査のまとめ

東京都の幼児期・学齢期の歯科保健行動に関する調査は、主たる歯科疾患に関連する保健行動等を把握するもので、平成 11 年度から今回まで計 4 回実施し、調査内容がほぼ一貫している。さらに、今回の調査では、3 歳について、個人単位のデータを用いて、う蝕情報とこれらの保健行動との関連について分析することができた。

そこで、3 歳に注目して、う蝕とこれに影響すると考えられる保健行動の推移に注目すると、3 歳う蝕の有病者率は平成 11 年度では 25.4%、平成 16 年度では 20.7%、平成 21 年度では 16.2%、平成 26 年度では 12.6%と、低下傾向が顕著である。一方、保健行動では、1 歳 6 か月と 3 歳における甘味食品飲料を毎日摂取する割合の低下(表 3・5、図 1・2)が顕著である。この結果から、甘味食品・飲料摂取の減少は、3 歳う蝕の減少に寄与したと解釈される。フッ化物配合歯磨剤を利用している割合も顕著に増加し(表 11、図 5)、う蝕減少に寄与したことが示唆されるが、甘味食品・飲料とは異なり 1 歳 6 か月の情報が得られていないので、明確なことは言い難い。

今回、3 歳について行った横断的なロジスティック回帰分析結果(表 32)は、以上の解釈と整合し、3 歳時点で「甘いお菓子」「甘い飲み物」の摂取が少ないとう蝕である確率が低く、フッ化物非配合の歯磨剤を用いているとう蝕である確率が高いという結果が得られた。このほかの要因では、「かかりつけ歯科医院を決めている」とう蝕である確率が高いという結果が得られた。これは、う蝕リスクが高いほど歯科医院への受診行動が高まり、「かかりつけ歯科医院を決めている」ことにつながった結果と解釈される。「かかりつけ歯科医」を持つことは「いい歯東京」の目標の一つであり、本来的には「かかりつけ歯科医」を持つことにより、う蝕を予防するセルフケア及びプロフェッショナルケアが高まることが期待されるものであるが、確認は容易ではないと思われる。少なくとも現在行っている目標値達成状況に関するデータ収集の一環として確認するのは困難といえる。

今回の調査では試行的に 3 歳の調査対象者について、3 歳児歯科健診結果から未処置歯数・処置歯数の転記を行い、高い協力を得ることができたので、次回以降も継続できる見通しは高いと考えられる。また、さらに意義ある結果を得るため、3 歳だけでなく他の年齢での実施や、調査項目を吟味することが必要と思われる。

保護者の皆様へ

～東京都歯科保健行動調査へのご協力をお願い～

この調査は、お子さんの日常の歯科保健習慣などをお聞きすることにより、今後の子供たちの歯の健康づくり対策の参考とさせていただくことを目的として、区市町村のご協力を得て、1歳6か月児歯科健康診査を受診される保護者の皆さまを対象に実施させていただいているものです。

調査結果は全体として集計いたしますので、個人にご迷惑をおかけすることはありません。お忙しいところ恐縮ですが、以下の質問にご回答くださいますようお願い申し上げます。

東京都福祉保健局

幼児期・学齢期の歯科保健行動調査 質問票（1歳6か月児用）

【下記の質問の該当する番号に○、または必要な事項や数字を記入してください。】

- 1 お子さんは、あめ・チョコレート・ガム・アイスクリームなどの甘いお菓子を、1週間のうちにどのくらい食べますか。
(1) ほぼ毎日 (2) 週に3～4日 (3) 週に1～2日 (4) ほとんどない
- 2 お子さんは、ジュース・乳酸飲料・スポーツドリンクなどの甘い飲み物を、1週間のうちにどのくらい飲みますか。
(1) ほぼ毎日 (2) 週に3～4日 (3) 週に1～2日 (4) ほとんどない
- 3 夜、母乳を飲みながら、または、哺乳びんでミルク等を飲みながら寝る習慣がありますか。
(1) はい (2) いいえ
- 4 保護者の方は、お子さんの口の中(歯や歯ぐきの様子)を観察することがありますか。
(1) 週に1回以上している (2) 月に1回以上している (3) ほとんどない
- 5 お子さんは、かかりつけの歯科医院を決めていますか。
(1) 決めている (2) 決めていない

4-2 「決めている」と回答した方、その歯科医院ではむし歯などの治療を受けているほかに、次のような予防処置や指導を受けていますか。受けている場合は、該当する項目にいくつでも○をつけてください。

- (1) 定期健診(年1回以上)
- (2) フッ化物歯面塗布^{かぶつしめんとふ}*1
- (3) 歯みがき指導
- (4) その他()

*1 フッ化物歯面塗布：歯にフッ素を塗り、むし歯になるのを予防する処置のことです。

- 6 お子さんの性別をご記入ください。 性別：男・女

* ご協力ありがとうございました。この調査に関するお問い合わせは、下記にお願いいたします。

問い合わせ先：福祉保健局医療政策部医療政策課（電話 03-5320-4433）

～東京都歯科保健行動調査へのご協力のお願い～

この調査は、お子さんの日常の歯科保健習慣などをお聞きすることにより、今後の子供たちの歯の健康づくり対策の参考とさせていただきますことを目的として、区市町村のご協力を得て、3歳児歯科健康診査を受診される保護者の皆さまを対象に実施させていただいているものです。

調査結果は全体として集計いたしますので、個人にご迷惑をおかけすることはありません。お忙しいところ恐縮ですが、以下の質問にご回答くださいますようお願い申し上げます。

東京都福祉保健局

幼児期・学齢期の歯科保健行動調査 質問票（3歳児用）

【下記の質問の該当する番号に○、または必要な事項や数字を記入してください。】 *太線内のご記入ください。

1 お子さんは、あめ・チョコレート・ガム・アイスクリームなどの甘いお菓子を、1週間のうちにどのくらい食べますか。
 (1) ほぼ毎日 (2) 週に3～4日 (3) 週に1～2日 (4) ほとんどない

2 お子さんは、ジュース・乳酸飲料・スポーツドリンクなどの甘い飲み物を、1週間のうちにどのくらい飲みますか。
 (1) ほぼ毎日 (2) 週に3～4日 (3) 週に1～2日 (4) ほとんどない

3 お子さんは、歯をみがくときフッ素入りの歯みがき剤を使っていますか。

- (1) フッ素入りの歯みがき剤を使っている
 (2) 歯みがき剤は使っているが、フッ素入りかどうかはわからない
 (3) 歯みがき剤は使っているが、フッ素入りではない
 (4) 歯みがき剤は使っていない

3-2 どの程度使っていますか。

- (1) 毎日使っている
 (2) ときどき使う

4 保護者の方は、お子さんの口の中(歯や歯ぐきの様子)を観察することがありますか。

- (1) 週に1回以上している (2) 月に1回以上している (3) ほとんどない

5 保護者の方は、お子さんにゆっくりよく噛んで食べる習慣をつけるようにしていますか。

- (1) 習慣をつけるようにしている (2) 習慣をつけるようにはしていない

5-2 「習慣をつけるようにしている」と回答した方、どのようなことをしていますか。該当する項目にいくつでも○をつけてください。

- (1) 適度に噛み応えのある食品をとり入れるようにしている (2) ゆっくりよく噛むように声をかけている
 (3) その他()

6 お子さんは、かかりつけの歯科医院を決めていますか。

- (1) 決めている (2) 決めていない

6-2 「決めている」と回答した方、その歯科医院ではむし歯などの治療を受けているほかに、次のような予防処置や指導を受けていますか。受けている場合は、該当する項目にいくつでも○をつけてください。

- (1) 定期健診(年1回以上) (2) フッ化物歯面塗布^{*1}
 (3) フッ化物洗口の指導^{*2} (4) 歯みがき指導
 (5) シーラント処置^{*3} (6) その他()

*1 フッ化物歯面塗布 : 歯にフッ素を塗り、むし歯になるのを予防する処置のことです。

*2 フッ化物洗口の指導 : むし歯予防のために、フッ素入りのうがい薬の使い方を習うことです。

*3 シーラント処置 : むし歯になりやすいお歯のみぞにプラスチックなどをつめ、むし歯になるのを予防する処置のことです。

7 お子さんの性別をご記入ください。

性別 : 男 ・ 女

*ご協力ありがとうございました。この調査に関するお問い合わせは、下記にお願いいたします。

問い合わせ先: 福祉保健局医療政策部医療政策課(電話 03-5320-4433)

*健診時使用欄

現在歯数	未処置歯数	処置歯数

保護者の皆様へ

～幼児期・学齢期歯科保健行動調査へのご協力願い～

この調査は、お子さんの日常の歯科保健習慣などをお聞きすることにより、今後の子供たちの歯の健康づくり対策の参考とさせていただくことを目的として実施するものです。
調査結果は全体として集計いたしますので、個人にご迷惑をおかけすることはありません。お忙しいところ恐縮ですが、以下の質問にご回答くださいますようお願い申し上げます。

東京都福祉保健局

幼児期・学齢期歯科保健行動調査 質問票(5歳児保護者用)

【下記の質問の該当する番号に○、または必要な事項や数字を記入してください。】

- 1 お子さんは、あめ・チョコレート・ガム・アイスクリームなどの甘いお菓子を、1週間のうちにどのくらい食べますか。
(1) ほぼ毎日 (2) 週に3～4日 (3) 週に1～2日 (4) ほとんどない
- 2 お子さんは、ジュース・乳酸飲料・スポーツドリンクなどの甘い飲み物を、1週間のうちにどのくらい飲みますか。
(1) ほぼ毎日 (2) 週に3～4日 (3) 週に1～2日 (4) ほとんどない

- 3 お子さんは、歯をみがくときフッ素入りの歯みがき剤を使っていますか。

- (1) フッ素入りの歯みがき剤を使っている
(2) 歯みがき剤は使っているが、フッ素入りかどうかはわからない
(3) 歯みがき剤は使っているが、フッ素入りではない
(4) 歯みがき剤は使っていない

3-2 どの程度、使っていますか。

- (1) 毎日使っている
(2) ときどき使う

- 4 保護者の方は、お子さんの口の中(歯や歯ぐきの様子)を観察することがありますか。

- (1) 週に1回以上している (2) 月に1回以上している (3) ほとんどない

- 5 保護者の方は、お子さんにゆっくりよく噛んで食べる習慣をつけるようにしていますか。

- (1) 習慣をつけるようにしている (2) 習慣をつけるようにはしていない

5-2 「習慣をつけるようにしている」と回答した方、どのようなことをしていますか。該当する項目にいくつでも○をつけてください。

- (1) 適度に噛み応えのある食品をとり入れるようにしている (2) ゆっくりよく噛むように声をかけている
(3) その他()

- 6 お子さんの、かかりつけの歯科医院を決めていますか。

- (1) 決めている (2) 決めていない

6-2 その歯科医院ではむし歯などの治療を受けているほかに、次のような予防処置や指導を受けていますか。受けている場合は、該当する項目にいくつでも○をつけてください。

- (1) 定期健診(年1回以上) (2) フッ化物歯面塗布^{*1}
(3) フッ化物洗口の指導^{*2} (4) 歯みがき指導
(5) シーラント処置^{*3} (6) その他()

*1 フッ化物歯面塗布 : 歯にフッ素を塗り、むし歯になるのを予防する処置のことです。

*2 フッ化物洗口の指導 : むし歯予防のために、フッ素入りのうがい薬の使い方を習うことです。

*3 シーラント処置 : むし歯になりやすいお歯のみぞにプラスチックなどをつめ、むし歯になるのを予防する処置のことです。

- 7 お子さんの性別をご記入ください。 性別 : 男 ・ 女

*ご協力ありがとうございました。この調査に関するお問い合わせは、下記にお願いいたします。

問い合わせ先: 福祉保健局医療政策部医療政策課(電話 03-5320-4433)

保護者の皆様へ

～幼児期・学齢期歯科保健行動調査へのご協力願い～

この調査は、お子さんの日常の歯科保健習慣などをお聞きすることにより、今後の子供たちの歯の健康づくり対策の参考とさせていただくことを目的として実施するものです。調査結果は全体として集計いたしますので、個人にご迷惑をおかけすることはありません。お忙しいところ恐縮ですが、以下の質問にご回答くださいますようお願い申し上げます。

東京都福祉保健局

幼児期・学齢期歯科保健行動調査 質問票(小学校第1学年保護者用)

【下記の質問の該当する番号に○、または必要な事項や数字を記入してください。】

- 1 お子さんは、あめ・チョコレート・ガム・アイスクリームなどの甘いお菓子を、1週間のうちにどのくらい食べますか。
(1) ほぼ毎日 (2) 週に3～4日 (3) 週に1～2日 (4) ほとんどない
- 2 お子さんは、ジュース・乳酸飲料・スポーツドリンクなどの甘い飲み物を、1週間のうちにどのくらい飲みますか。
(1) ほぼ毎日 (2) 週に3～4日 (3) 週に1～2日 (4) ほとんどない

- 3 お子さんは、歯をみがくときフッ素入りの歯みがき剤を使っていますか。

- (1) フッ素入りの歯みがき剤を使っている
(2) 歯みがき剤は使っているが、フッ素入りかどうかはわからない
(3) 歯みがき剤は使っているが、フッ素入りではない
(4) 歯みがき剤は使っていない

3-2 どの程度、使っていますか。

- (1) 毎日使っている
(2) ときどき使う

- 4 保護者の方は、お子さんの口の中(歯や歯ぐきの様子)を観察することがありますか。

- (1) 週に1回以上している (2) 月に1回以上している (3) ほとんどない

- 5 保護者の方は、お子さんにゆっくりよく噛んで食べる習慣をつけるようにしていますか。

- (1) 習慣をつけるようにしている (2) 習慣をつけるようにはしていない

5-2 「習慣をつけるようにしている」と回答した方、どのようなことをしていますか。該当する項目にいくつでも○をつけてください。

- (1) 適度に噛み応えのある食品をとり入れるようにしている (2) ゆっくりよく噛むように声をかけている
(3) その他()

- 6 お子さんの、かかりつけの歯科医院を決めていますか。

- (1) 決めている (2) 決めていない

6-2 その歯科医院ではむし歯などの治療を受けているほかに、次のような予防処置や指導を受けていますか。受けている場合は、該当する項目にいくつでも○をつけてください。

- (1) 定期健診(年1回以上) (2) フッ化物歯面塗布^{*1}
(3) フッ化物洗口の指導^{*2} (4) 歯みがき指導
(5) シーラント処置^{*3} (6) その他()

*1 フッ化物歯面塗布 : 歯にフッ素を塗り、むし歯になるのを予防する処置のことです。

*2 フッ化物洗口の指導 : むし歯予防のために、フッ素入りのうがい薬の使い方を習うことです。

*3 シーラント処置 : むし歯になりやすいお歯のみぞにプラスチックなどをつめ、むし歯になるのを予防する処置のことです。

- 7 お子さんの性別を○で囲んでください。 性別 : 男 ・ 女

* ご協力ありがとうございました。この調査に関するお問い合わせは、下記にお願いいたします。

問い合わせ先: 福祉保健局医療政策部医療政策課(電話 03-5320-4433)

幼児期・学齢期歯科保健行動調査 質問票(小学校第4学年児童用)

この調査は、あなたの日ごろの生活のようすなどをお聞きすることにより、これからの子どもたちの歯のけんこうづくりの参考とさせていただきますことを目的としておこなうものです。あなたにごめいわくをおかけすることはありません。ご協力をおねがいいたします。

東京都福祉保健局

【つぎの質問のあてはまる番号に○、また、()の中に必要なことを書いてください。】

1 あなたは、あめ・チョコレート・ガム・アイスクリームなどの甘いお菓子を、1週間のうちにどのくらい食べますか。
 (1) ほぼ毎日 (2) 週に3～4日 (3) 週に1～2日 (4) ほとんどない

2 あなたは、ジュース・乳酸飲料・スポーツドリンクなどの甘い飲み物を、1週間のうちにどのくらい飲みますか。
 (1) ほぼ毎日 (2) 週に3～4日 (3) 週に1～2日 (4) ほとんどない

3 歯をみがくときは、1本ずついねいに時間をかけていますか。
 (1) ほぼ毎日 (2) 週に3～4日 (3) 週に1～2日 (4) ほとんどない

4 歯をみがくときフッ素入りの歯みがき剤を使っていますか。
 (1) フッ素入りの歯みがき剤を使っている
 (2) 歯みがき剤は使っているが、フッ素入りかどうかはわからない
 (3) 歯みがき剤は使っているが、フッ素入りではない
 (4) 歯みがき剤は使っていない

4-2 どの程度、使っていますか。
 (1) 毎日使っている
 (2) ときどき使う

5 鏡などを使って、自分で歯や歯ぐきの様子を観察することがありますか。
 (1) 週に1回以上している (2) 月に1回以上している (3) ほとんどない

6 あなたは食べるときに、ゆっくりよくかむようにしていますか。
 (1) いつもゆっくりよくかむようにしている (2) だいたいゆっくりよくかむようにしている
 (3) ときどきゆっくりよくかむようにしている (4) ゆっくりよくかむことはない

7 あなたは、いつも行く歯医者さんがありますか。
 (1) ある (2) ない

7-2 その歯医者さんではむし歯をなおしてもらうほかに、次のようなことをしてもらっていますか。当てはまる番号に、いくつでも○をつけてください。

- (1) 定期的に歯をけんさする(年1回以上)
- (2) 歯にフッ素をぬる
- (3) フッ素入りうがい薬の使い方を習う
- (4) 歯みがきのしかたを習う
- (5) シーラント処置*³
- (6) その他()

*シーラント:むし歯になりやすいお歯のみぞにプラスチックなどをつけて、むし歯になるのを予防する処置のことです。

8 あなたの性別を教えてください。(どちらかに○印) 性別： 男 ・ 女

*ご協力ありがとうございました。この調査に関するお問い合わせは、下記をお願いいたします。

問い合わせ先: 福祉保健局医療政策部医療政策課(電話 03-5320-4433)

幼児期・学齢期歯科保健行動調査 質問票(中学校第1学年生徒用)

この調査は、あなたの日常生活習慣などをお聞きすることにより、今後の生徒の歯の健康づくり対策の参考とさせていただきますを目的としておこなうものです。調査結果は全体として集計いたしますので、あなたに
ご迷惑をおかけすることはありません。ご協力をよろしくお願いいたします。

東京都福祉保健局

【次の質問の当てはまる番号に○、または()の中に必要なことを記入してください。】

- 1 あなたは、あめ・チョコレート・アイスクリームなどの甘いお菓子を、1週間のうちにどのくらい食べますか。
(1) ほぼ毎日 (2) 週に3～4日 (3) 週に1～2日 (4) ほとんどない

- 2 あなたは、ジュース・乳酸飲料・スポーツドリンクなどの甘い飲み物を、1週間のうちにどのくらい飲みますか。
(1) ほぼ毎日 (2) 週に3～4日 (3) 週に1～2日 (4) ほとんどない

- 3 歯をみがくときは、1本ずついいねいに時間をかけていますか。
(1) ほぼ毎日 (2) 週に3～4日 (3) 週に1～2日 (4) ほとんどない

- 4 歯をみがくとき、フッ素入りの歯みがき剤を使っていますか。
(1) フッ素入りの歯みがき剤を使っている → 4-2 どの程度、使っていますか。
(1) 毎日使っている
(2) ときどき使う
(2) 歯みがき剤は使っているが、フッ素入りかどうかはわからない
(3) 歯みがき剤は使っているが、フッ素入りではない
(4) 歯みがき剤は使っていない

- 5 歯をみがくとき、デンタルフロス(糸ようじなど)を使うことがありますか。
(1) ほぼ毎日 (2) 週に3～4日 (3) 週に1～2日 (4) 使っていない

- 6 鏡などを使って、自分で歯や歯ぐきの様子を観察することがありますか。
(1) 週に1回以上している (2) 月に1回以上している (3) ほとんどない

- 7 あなたは食べるときに、ゆっくりよくかむようにしていますか。
(1) いつもゆっくりよくかむようにしている (2) だいたいゆっくりよくかむようにしている
(3) ときどきゆっくりよくかむようにしている (4) ゆっくりよくかむことはない

- 8 20本以上の自分の歯があると、ほとんどの食物をかんで食べることができます。「8020(ハチマルニイマル)」とは、80歳になっても20本以上の自分の歯を保つ、歯の健康の目標です。あなたは、「8020」を知っていますか。
(1) 知っていた (2) 知らなかった

- 9 あなたは、かかりつけの歯科医院がありますか。
(1) ある (2) ない

9-2 「ある」と答えた人は、その歯科医院でむし歯などの治療を受けているほかに、次のような予防処置や指導を受けていますか。受けている場合は、当てはまる番号にいくつかも○をつけてください。

(1) 定期健診(年1回以上)	(2) フッ化物歯面塗布 ^{*1}
(3) フッ化物洗口の指導 ^{*2}	(4) 歯みがき指導
(5) シーラント処置 ^{*3}	(6) その他()

- 10 あなたの性別を教えてください。(どちらかに○印) 性別 : 男 ・ 女

*ご協力ありがとうございました。この調査に関するお問い合わせは、下記にお願いいたします。

問い合わせ先: 福祉保健局医療政策部医療政策課(電話 03-5320-4433)

保護者の皆様へ

～幼児期・学齢期歯科保健行動調査へのご協力願い～

この調査は、お子さんの日常の歯科保健習慣などをお聞きすることにより、今後の子供たちの歯の健康づくり対策の参考とさせていただきますことを目的として実施するものです。

調査結果は全体として集計いたしますので、個人にご迷惑をおかけすることはありません。お忙しいところ恐縮ですが、以下の質問にご回答くださいますようお願い申し上げます。

東京都福祉保健局

幼児期・学齢期歯科保健行動調査 質問票(特別支援学校小学部第1学年保護者用)

【下記の質問の該当する番号に○、または必要な事項や数字を記入してください。なお、経管栄養のお子さんについては右のチェック欄に✓を入れ、回答できる質問についておこたえください。】

(チェック欄)

経管栄養

1 お子さんは、あめ・チョコレート・ガム・アイスクリームなどの甘いお菓子を、1週間のうちにどのくらい食べますか。

- (1) ほぼ毎日 (2) 週に3～4日 (3) 週に1～2日 (4) ほとんどない

2 お子さんは、ジュース・乳酸飲料・スポーツドリンクなどの甘い飲み物を、1週間のうちにどのくらい飲みますか。

- (1) ほぼ毎日 (2) 週に3～4日 (3) 週に1～2日 (4) ほとんどない

3 お子さんは、歯をみがくときフッ素入りの歯みがき剤を使っていますか。

- (1) フッ素入りの歯みがき剤を使っている
(2) 歯みがき剤は使っているが、フッ素入りかどうかはわからない
(3) 歯みがき剤は使っているが、フッ素入りではない
(4) 歯みがき剤は使っていない

3-2 どの程度、使っていますか。

- (1) 毎日使っている
(2) とときき使う

4 保護者の方は、お子さんの口の中(歯や歯ぐきの様子)を観察することがありますか。

- (1) 週に1回以上している (2) 月に1回以上している (3) ほとんどない

5 保護者の方は、お子さんにゆっくりよく噛んで食べる習慣をつけるようにしていますか。

- (1) 習慣をつけるようにしている (2) 習慣をつけるようにはしていない

5-2 「習慣をつけるようにしている」と回答した方、どのようなことをしていますか。該当する項目にいくつでも○をつけてください。

- (1) 適度に噛み応えのある食品をとり入れるようにしている (2) ゆっくりよく噛むように声をかけている
(3) その他()

6 お子さんの、かかりつけの歯科医院を決めていますか。

- (1) 決めている (2) 決めていない

6-2 その歯科医院ではむし歯などの治療を受けているほかに、次のような予防処置や指導を受けていますか。受けている場合は、該当する項目にいくつでも○をつけてください。

- (1) 定期健診(年1回以上) (2) フッ化物歯面塗布^{*1}
(3) フッ化物洗口の指導^{*2} (4) 歯みがき指導
(5) シーラント処置^{*3} (6) その他()

*1 フッ化物歯面塗布 : 歯にフッ素を塗り、むし歯になるのを予防する処置のことです。

*2 フッ化物洗口の指導 : むし歯予防のために、フッ素入りのうがい薬の使い方を習うことです。

*3 シーラント処置 : むし歯になりやすいお歯のみぞにプラスチックなどをつめ、むし歯になるのを予防する処置のことです。

7 お子さんの性別を○で囲んでください。

性別 : 男 ・ 女

*ご協力ありがとうございました。この調査に関するお問い合わせは、下記にお願いいたします。

問い合わせ先: 福祉保健局医療政策部医療政策課(電話 03-5320-4433)

幼児期・学齢期歯科保健行動調査 質問票 (特別支援学校小学部第4学年児童用)

この調査は、あなたの日ごろの生活のようすなどをお聞きすることにより、これからの子どもたちの歯のけんこうづくりの参考とさせていただきますことを目的としておこなうものです。あなたにごめいわくをおかけすることはありません。ご協力をおねがいいたします。

東京都福祉保健局

【つぎの質問のあてはまる番号に○、また、()の中に必要なことを書いてください。なお、経管栄養の方 (チェック欄) については右のチェック欄に✓を入れ、回答できる質問についておこたえください。】 経管栄養

1 あなたは、あめ・チョコレート・ガム・アイスクリームなどの甘いお菓子を、1週間のうちにどのくらい食べますか。
 (1) ほぼ毎日 (2) 週に3～4日 (3) 週に1～2日 (4) ほとんどない

2 あなたは、ジュース・乳酸飲料・スポーツドリンクなどの甘い飲み物を、1週間のうちにどのくらい飲みますか。
 (1) ほぼ毎日 (2) 週に3～4日 (3) 週に1～2日 (4) ほとんどない

3 歯をみがくときは、1本ずついいねいに時間をかけていますか。
 (1) ほぼ毎日 (2) 週に3～4日 (3) 週に1～2日 (4) ほとんどない

4 歯をみがくときフッ素入りの歯みがき剤を使っていますか。
 (1) フッ素入りの歯みがき剤を使っている → 4-2 どの程度、使っていますか。
 (2) 歯みがき剤は使っているが、フッ素入りかどうかはわからない (1) 毎日使っている
 (3) 歯みがき剤は使っているが、フッ素入りではない (2) ときどき使う
 (4) 歯みがき剤は使っていない

5 鏡などを使って、自分で歯や歯ぐきの様子を観察することがありますか。
 (1) 週に1回以上している (2) 月に1回以上している (3) ほとんどない

6 あなたは食べるときに、ゆっくりよくかむようにしていますか。
 (1) いつもゆっくりよくかむようにしている (2) だいたいゆっくりよくかむようにしている
 (3) ときどきゆっくりよくかむようにしている (4) ゆっくりよくかむことはない

7 あなたは、いつも行く歯医者さんがありますか。
 (1) ある (2) ない

7-2 その歯医者さんではむし歯をなおしてもらうほかに、次のようなことをしてもらっていますか。当てはまる番号に、いくつでも○をつけてください。

- (1) 定期的に歯をけんさする(年1回以上) (2) 歯にフッ素をぬる
 (3) フッ素入りうがい薬の使い方を習う (4) 歯みがきのしかたを習う
 (5) シーラント処置*3 (6) その他()

*シーラント:むし歯になりやすいお歯のみぞにプラスチックなどをつけて、むし歯になるのを予防する処置のことです。

8 あなたの性別を教えてください。(どちらかに○印) 性別 : 男 ・ 女

*ご協力ありがとうございました。この調査に関するお問い合わせは、下記をお願いいたします。

問い合わせ先: 福祉保健局医療政策部医療政策課(電話 03-5320-4433)

幼児期・学齢期歯科保健行動調査 質問票 (特別支援学校中学部第1学年生徒用)

この調査は、あなたの日常生活習慣などをお聞きすることにより、今後の生徒の歯の健康づくり対策の参考とさせていただくことを目的としておこなうものです。調査結果は全体として集計いたしますので、あなたに
めいわく
ご迷惑をおかけすることはありません。ご協力をよろしくお願いいたします。

東京都福祉保健局

【つぎの質問のあてはまる番号に○、また、()の中に必要なことを書いてください。なお、経管栄養の方については右のチェック欄に✓を入れ、回答できる質問についておこたえください。】

(チェック欄)

経管栄養

- 1 あなたは、あめ・チョコレート・アイスクリームなどの甘いお菓子を、1週間のうちにどのくらい食べますか。
(1) ほぼ毎日 (2) 週に3～4日 (3) 週に1～2日 (4) ほとんどない
- 2 あなたは、ジュース・乳酸飲料・スポーツドリンクなどの甘い飲み物を、1週間のうちにどのくらい飲みますか。
(1) ほぼ毎日 (2) 週に3～4日 (3) 週に1～2日 (4) ほとんどない
- 3 歯をみがくときは、1本ずついいねいに時間をかけていますか。
(1) ほぼ毎日 (2) 週に3～4日 (3) 週に1～2日 (4) ほとんどない
- 4 歯をみがくとき、フッ素入りの歯みがき剤を使っていますか。
(1) フッ素入りの歯みがき剤を使っている → 4-2 どの程度、使っていますか。
(2) 歯みがき剤は使っているが、フッ素入りかどうかはわからない (1) 毎日使っている
(3) 歯みがき剤は使っているが、フッ素入りではない (2) ときどき使う
(4) 歯みがき剤は使っていない
- 5 歯をみがくとき、デンタルフロス(糸ようじなど)を使うことがありますか。
(1) ほぼ毎日 (2) 週に3～4日 (3) 週に1～2日 (4) 使っていない
- 6 鏡などを使って、自分で歯や歯ぐきの様子を観察することがありますか。
(1) 週に1回以上している (2) 月に1回以上している (3) ほとんどない
- 7 あなたは食べるときに、ゆっくりよくかむようにしていますか。
(1) いつもゆっくりよくかむようにしている (2) だいたいゆっくりよくかむようにしている
(3) ときどきゆっくりよくかむようにしている (4) ゆっくりよくかむことはない
- 8 20本以上の自分の歯があると、ほとんどの食物をかんで食べることができます。「8020(ハチマルニマル)」とは、80歳になっても20本以上の自分の歯を保つ、歯の健康の目標です。あなたは、「8020」を知っていますか。
(1) 知っていた (2) 知らなかった
- 9 あなたは、かかりつけの歯科医院がありますか。
(1) ある (2) ない
↓
9-2 「ある」と答えた人は、その歯科医院でむし歯などの治療を受けているほかに、次のような予防処置や指導を受けていますか。受けている場合は、当てはまる番号にいくつでも○をつけてください。
(1) 定期健診(年1回以上) (2) フッ化物歯面塗布^{*1}
(3) フッ化物洗口の指導^{*2} (4) 歯みがき指導
(5) シーラント処置^{*3} (6) その他()
- 10 あなたの性別を教えてください。(どちらかに○印) 性別： 男 ・ 女

^{*1} フッ化物歯面塗布： 歯にフッ素を塗り、むし歯になるのを予防する処置のことです。

^{*2} フッ化物洗口の指導： むし歯予防のために、フッ素入りのうがい薬の使い方を習うことです。

^{*3} シーラント処置： むし歯になりやすいお歯のみぞにプラスチックなどをつめ、むし歯になるのを予防する処置のことです。

*ご協力ありがとうございました。この調査に関するお問い合わせは、下記にお願いいたします。

問い合わせ先: 福祉保健局医療政策部医療政策課(電話 03-5320-4433)

平成 26 年度東京都歯科診療所患者調査結果

目的

都内の成人・高齢者の歯科疾患状況、歯科保健行動・生活習慣を把握することにより、東京都歯科保健目標「いい歯東京」の達成度を評価し、新たな歯科保健目標策定に向けた基礎資料を得ることを目的とした。

対象及び方法

本調査は、平成 21 年に「いい歯東京」を策定するために実施した、歯科診療所における調査をほぼ同じ調査を実施したものである。

1 対象者

平成 26 年 10 月から 11 月に、都内の歯科診療所(193 施設)に来院した 20 歳以上の患者を対象とした。

2 実施方法

公益社団法人東京都歯科医師会員を調査担当歯科医師として実施した。なお、調査担当歯科医師は、地区歯科医師会を単位として会員数の割合で地区ごとに無作為に選出し、調査の協力を得た。

3 調査項目

(1) 口腔内診査

現在歯数、健全歯数、処置歯数、未処置歯数、喪失歯数、欠損補綴歯数、歯周疾患の有無、歯周ポケットの深さ(最大値)について、患者ごとに歯科医師が記録票に記入する方式で調査した。

(2) アンケート調査

口腔内状況について調査した患者に対して、歯科保健行動、生活習慣に関する自記式質問紙調査を行った。

4 解析

調査結果の解析は、東京歯科大学社会歯科学研究室 平田創一郎教授が行った。

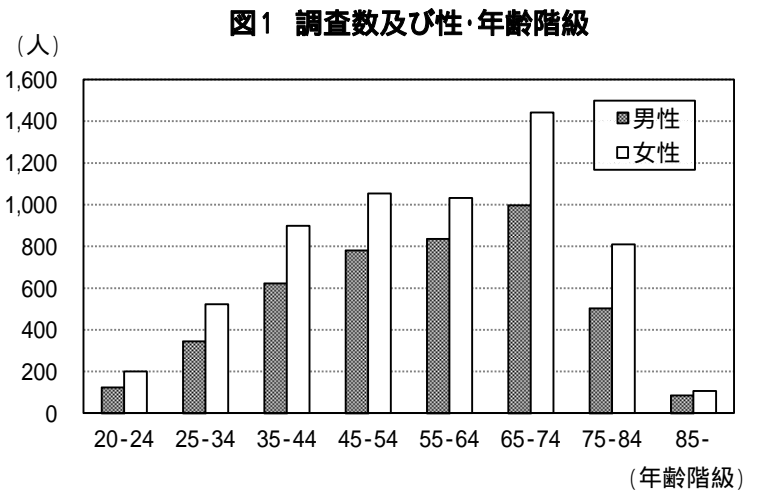
結果

1 調査者数及び性・年齢階級

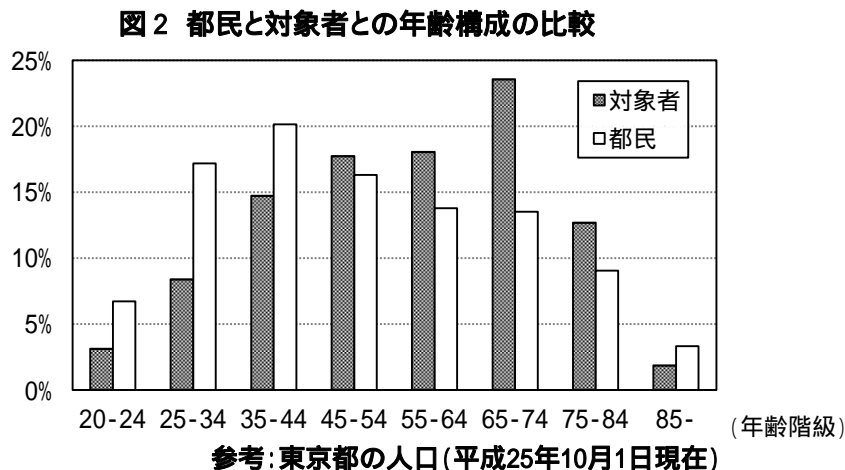
本調査における調査者総数は 10,459 人であった。このうち、調査集計に用いることができたのは、10,356 人(男性 4,291 人、女性 6,065 人)であった。

表1 調査数及び性・年齢階級

(人)			
年齢階級	男性	女性	総数
20-24	123	200	323
	2.9%	3.3%	3.1%
25-34	345	523	868
	8.0%	8.6%	8.4%
35-44	623	899	1,522
	14.5%	14.8%	14.7%
45-54	780	1,054	1,834
	18.2%	17.4%	17.7%
55-64	836	1,032	1,868
	19.5%	17.0%	18.0%
65-74	996	1,442	2,438
	23.2%	23.8%	23.5%
75-84	503	809	1,312
	11.7%	13.3%	12.7%
85-	85	106	191
	2.0%	1.7%	1.8%
総計	4,291	6,065	10,356
	41.4%	58.6%	100%



20 歳から 44 歳までの年齢層について、本調査の対象者の割合は低く、45 歳以上の年齢層については、本調査の対象者の割合は高かった。



2 口腔内診査結果

(1) 現在歯(第三大臼歯を含む)の状況

ア 8020達成者の割合

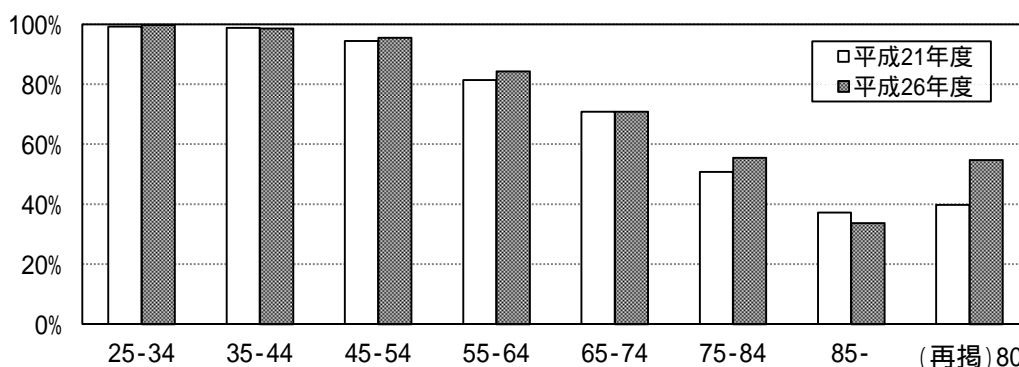
8020の達成者は54.7%と半数以上を占め、「いい歯東京」の目標値50%以上を達成した。
また、前回調査(平成21年度)と比べると、39.8%から14.9%増加した。

表2 現在歯数20歯以上の者の割合

(%)

年齢階級	25-34	35-44	45-54	55-64	65-74	75-84	85-	(再掲)80
平成21年度	99.2	98.8	94.4	81.4	70.8	50.7	37.2	39.8
平成26年度	99.8	98.6	95.5	84.2	70.8	55.5	33.7	54.7

図3 現在歯数20歯以上の者の割合



(年齢階級)

イ 現在歯数24歯以上の割合

85歳以上を除くすべての年齢階級で現在歯数24歯以上の割合が増加した。

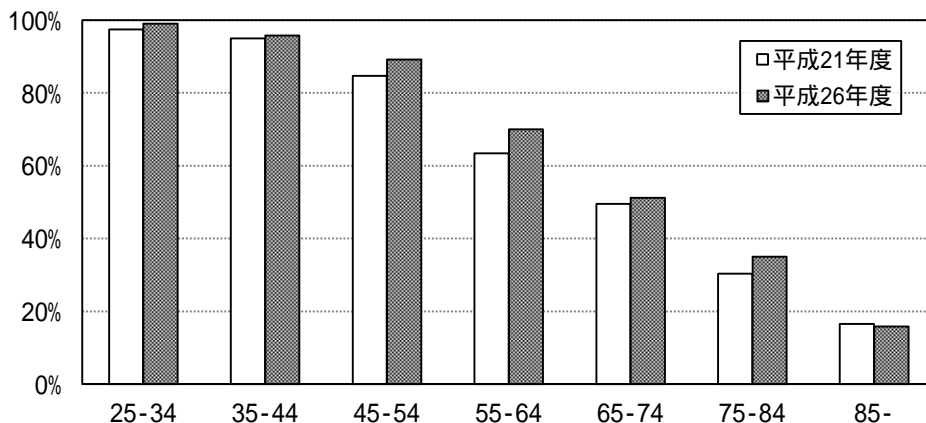
60歳(55歳~64歳)で24歯以上有する者も70.0%で、「いい歯東京」の目標値70%以上を達成した。

表3 現在歯数24歯以上の者の割合

(%)

年齢階級	25-34	35-44	45-54	55-64	65-74	75-84	85-
平成21年度	97.5	95.0	84.7	63.4	49.5	30.3	16.5
平成26年度	99.1	95.8	89.2	70.0	51.2	35.0	15.8

図4 現在歯数24歯以上の者の割合



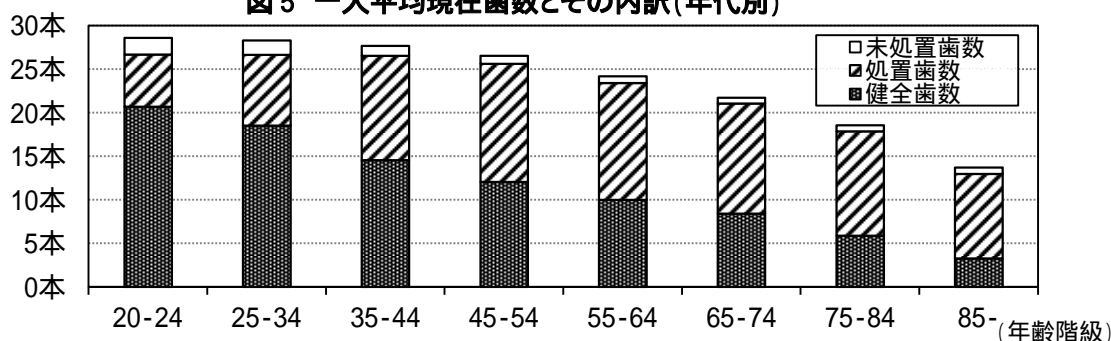
(年齢階級)

1人平均現在歯数は、20歳から84歳まで概ね前回(平成21年度)と同じであったが、85歳以上では14.7本から13.7本へ1本減少した。

表4 一人平均現在歯数とその内訳(年代別) (本)

年齢階級	20-24	25-34	35-44	45-54	55-64	65-74	75-84	85-
健全歯数	20.7	18.5	14.6	12.1	10.0	8.4	5.9	3.3
処置歯数	6.0	8.2	12.0	13.6	13.4	12.6	12.0	9.7
未処置歯数	1.9	1.6	1.2	0.9	0.8	0.7	0.7	0.7
現在歯数	28.6	28.3	27.7	26.6	24.2	21.7	18.6	13.7

図5 一人平均現在歯数とその内訳(年代別)



1人平均現在歯数の男女間の比較では、85歳以上で女性が男性よりも2.8本少ないが、それ以外の年齢階級では大きな差は認められなかった。なお、前回(平成21年度)においても同様の傾向が認められた。

表5 一人平均現在歯数(男性) (本)

年齢階級	20-24	25-34	35-44	45-54	55-64	65-74	75-84	85-
健全歯数	21.0	18.3	14.4	12.4	10.5	9.1	6.7	3.8
処置歯数	5.7	8.2	11.8	12.8	12.4	11.5	11.4	10.5
未処置歯数	2.3	2.1	1.6	1.1	0.9	0.7	0.8	1.0
現在歯数	28.9	28.5	27.8	26.3	23.8	21.4	18.9	15.3

表6 一人平均現在歯数(女性) (本)

年齢階級	20-24	25-34	35-44	45-54	55-64	65-74	75-84	85-
健全歯数	20.5	18.7	14.6	11.8	9.6	8.0	5.4	2.9
処置歯数	6.2	8.1	12.1	14.1	14.2	13.4	12.4	9.1
未処置歯数	1.7	1.3	0.8	0.8	0.7	0.6	0.6	0.6
現在歯数	28.4	28.1	27.6	26.7	24.5	22.0	18.4	12.5

図6 一人平均現在歯数とその内訳(男性)

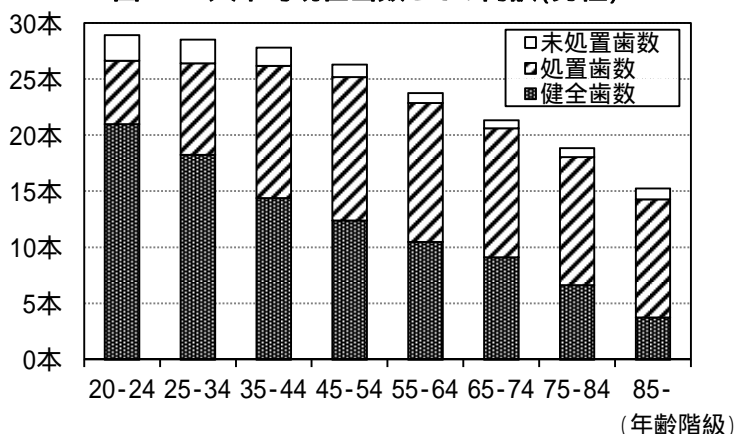


図7 一人平均現在歯数とその内訳(女性)

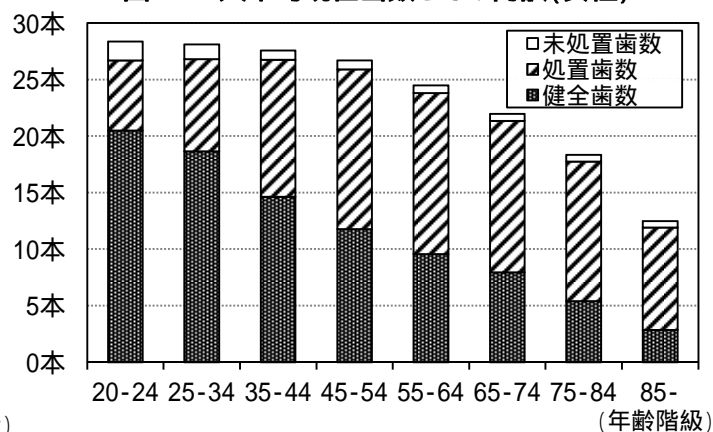


表7 現在歯の保有状況(年代別)

(人)

年齢階級	20-24	25-34	35-44	45-54	55-64	65-74	75-84	85-	(再掲)80
24本以上	322	854	1446	1623	1297	1241	456	30	39
20~23本	0	6	43	115	263	475	267	34	31
10~19本	0	2	19	71	247	545	355	57	31
1~9本	0	0	2	10	38	142	175	47	20
0本	0	0	0	1	7	21	50	22	7

図8 現在歯の保有状況(年代別)

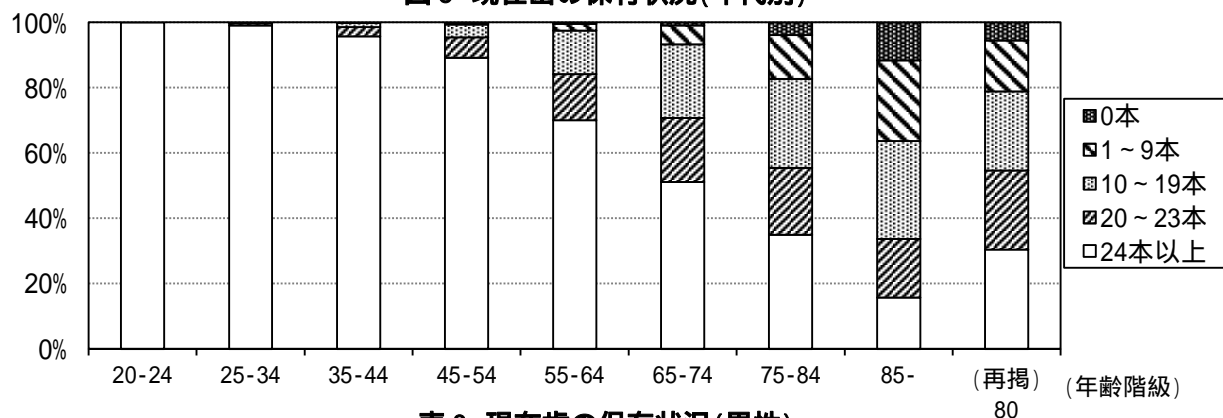


表8 現在歯の保有状況(男性)

(人)

年齢階級[男性]	20-24	25-34	35-44	45-54	55-64	65-74	75-84	85-	(再掲)80
24本以上	123	339	593	675	565	490	183	19	14
20~23本	0	3	16	48	109	172	109	16	13
10~19本	0	2	8	39	128	245	121	24	14
1~9本	0	0	0	9	24	65	66	16	6
0本	0	0	0	1	5	12	20	10	2

表9 現在歯の保有状況(女性)

(人)

年齢階級[女性]	20-24	25-34	35-44	45-54	55-64	65-74	75-84	85-	(再掲)80
24本以上	199	515	853	948	732	751	273	11	25
20~23本	0	3	27	67	154	303	158	18	18
10~19本	0	0	11	32	119	300	234	33	17
1~9本	0	0	2	1	14	77	109	31	14
0本	0	0	0	0	2	9	30	12	5

図9 現在歯の保有状況(男性)

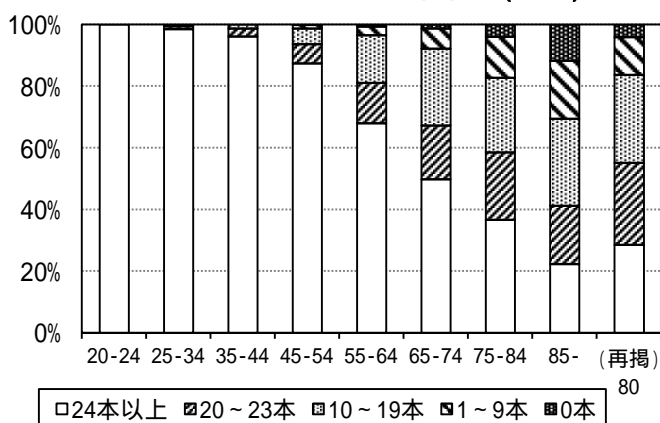


図10 現在歯の保有状況(女性)

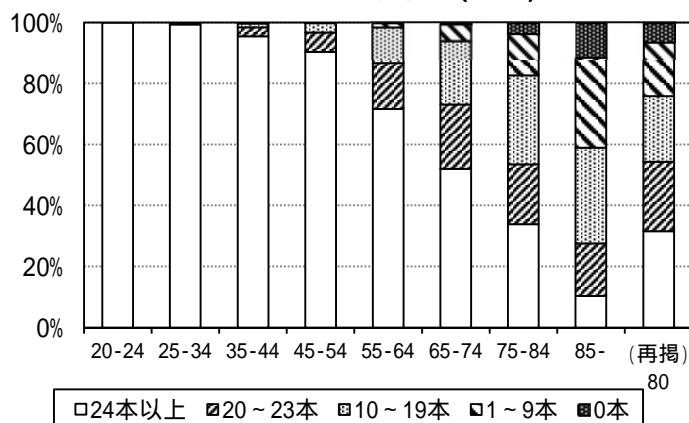


図11 現在歯の分布(20-24歳)

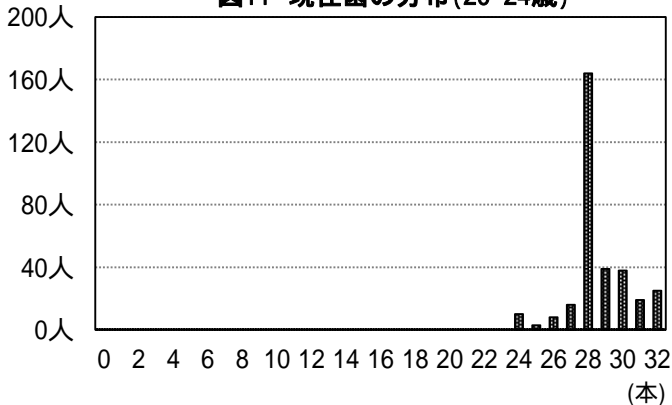


図12 現在歯の分布(25-34歳)

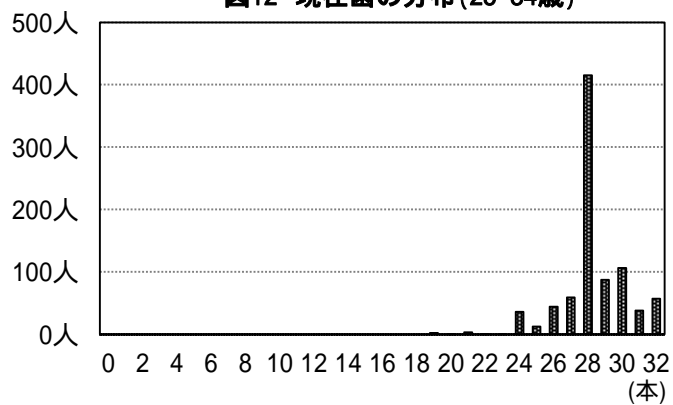


図13 現在歯の分布(35-44歳)

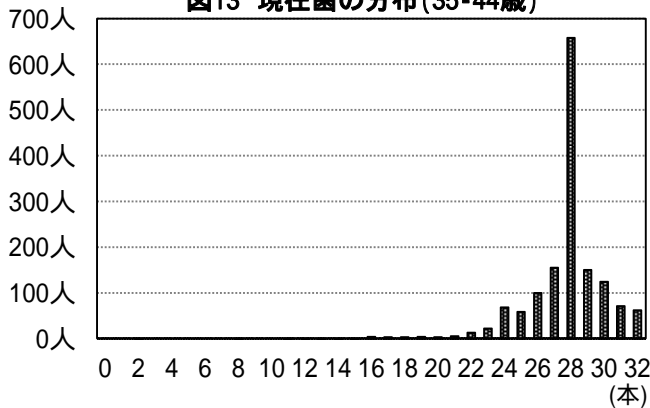


図14 現在歯の分布(45-54歳)

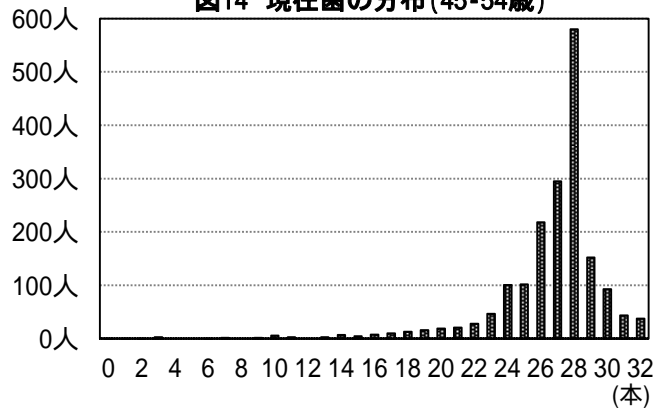


図15 現在歯の分布(55-64歳)

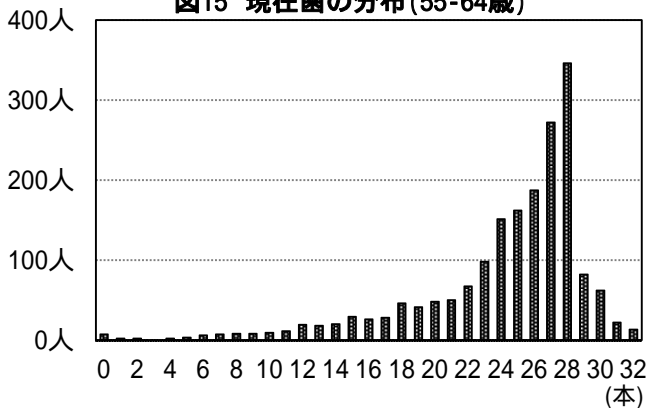


図16 現在歯の分布(65-74歳)

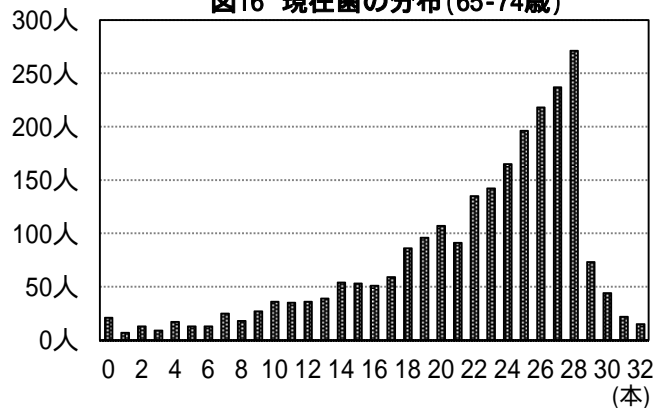


図17 現在歯の分布(75-84歳)

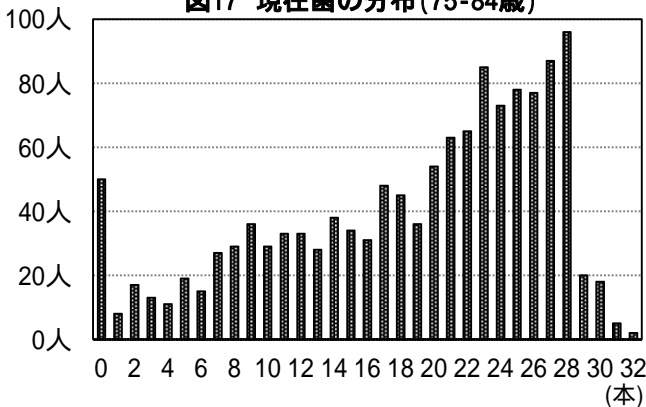


図18 現在歯の分布(85歳-)

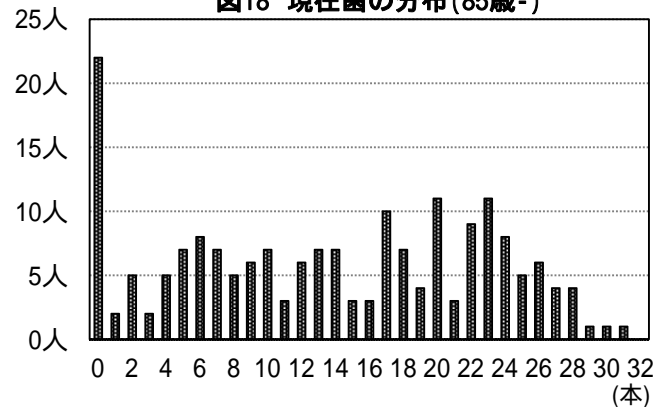


図19 現在歯の分布(80歳)

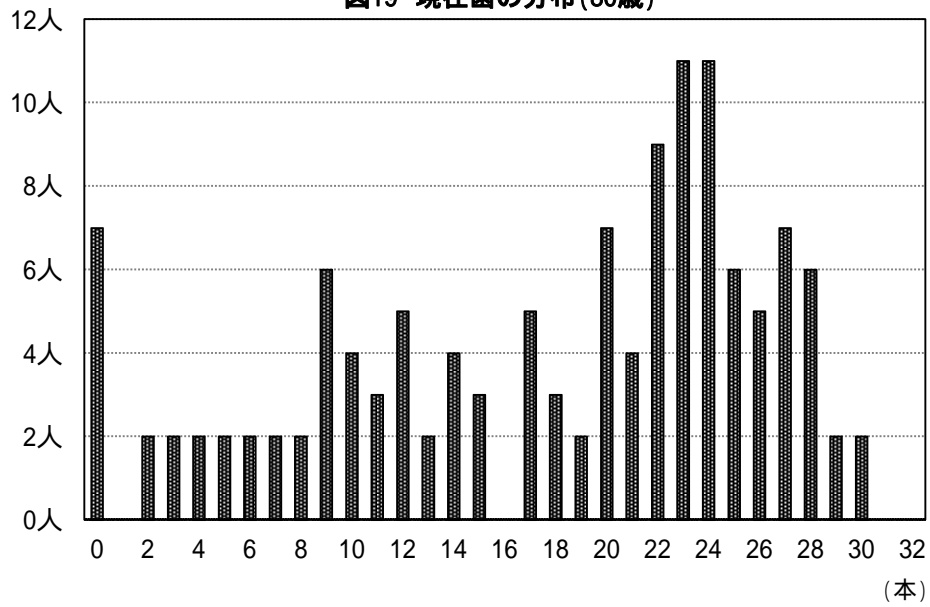


表10 健全歯の保有状況(年代別)

年齢階級	20-24	25-34	35-44	45-54	55-64	65-74	75-84	85-
28本以上	51	72	26	11	3	3	2	0
20~27本	149	358	333	224	141	157	46	1
10~19本	100	351	817	929	793	763	262	13
3~9本	15	69	300	560	711	1032	512	74
1~2本	3	5	18	49	74	151	127	17
0本	4	7	16	47	130	318	354	85

図20 健全歯の保有状況(年代別)

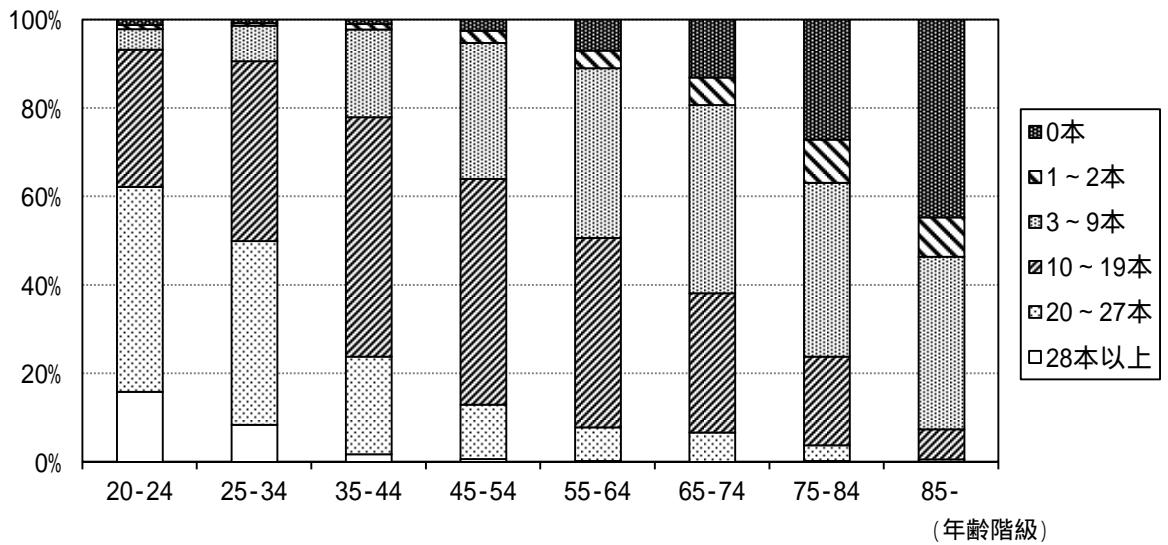


表 11 健全歯の保有状況(男性)

【男性】									(人)
年齢階級	20-24	25-34	35-44	45-54	55-64	65-74	75-84	85-	
28本以上	23	26	13	8	1	3	1	0	
20～27本	54	147	140	114	78	90	29	0	
10～19本	39	127	311	376	375	328	119	8	
3～9本	6	35	137	232	281	367	170	34	
1～2本	0	4	9	19	34	65	48	10	
0本	1	5	7	23	62	131	132	33	

表 12 健全歯の保有状況(女性)

【女性】									(人)
年齢階級	20-24	25-34	35-44	45-54	55-64	65-74	75-84	85-	
28本以上	28	46	13	3	2	0	1	0	
20～27本	95	211	193	110	63	67	17	1	
10～19本	61	224	506	553	418	435	143	5	
3～9本	9	34	163	328	430	665	342	40	
1～2本	3	1	9	30	40	86	79	7	
0本	3	2	9	24	68	187	222	52	

図 21 健全歯の保有状況(男性)

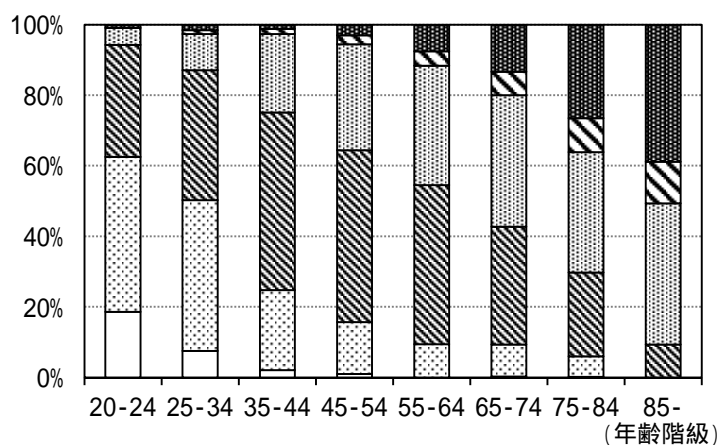
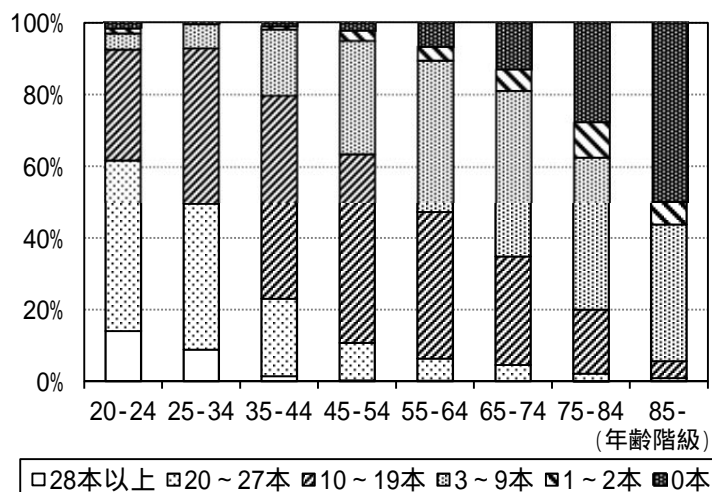


図 22 健全歯の保有状況(女性)



(2) 無歯顎者の状況

無歯顎者の割合は、前回(平成21年度)と比して65歳以上ですべて増加し、特に85歳以上では倍増していた。前回(平成21年度)の1つ上の年齢階級と比較しても大幅に増加しており、85歳を境に歯を急激に失うイベントが発生したか、本調査が歯科診療所を受診した患者を対象としているため無歯顎者の受診頻度が高くなった等の理由が考えられる。

一方、44歳以下の無歯顎者がいなくなり、前回(平成21年度)より年齢階級1つ分改善が見られた。歯の喪失は不可逆的であるため、若年層での無歯顎者の減少は今後の高齢者における無歯顎者の割合の減少に寄与するものと期待される。

表13 無歯顎者の状況(前回)

【平成21年度】									(人)
年齢階級	20-24	25-34	35-44	45-54	55-64	65-74	75-84	85-	
無歯顎者	0	0	1	0	10	13	29	7	
	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	0.5%	0.6%	3.1%	6.0%	
総数	423	1,135	1,584	1,621	2,116	2,083	928	116	

表14 無歯顎者の状況(今回)

【平成26年度】									(人)
年齢階級	20-24	25-34	35-44	45-54	55-64	65-74	75-84	85-	
無歯顎者	0	0	0	1	7	21	50	22	
	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.4%	0.9%	3.8%	11.6%	
総数	322	862	1,510	1,820	1,852	2,424	1,303	190	

図23 無歯顎者の割合(前回比較)

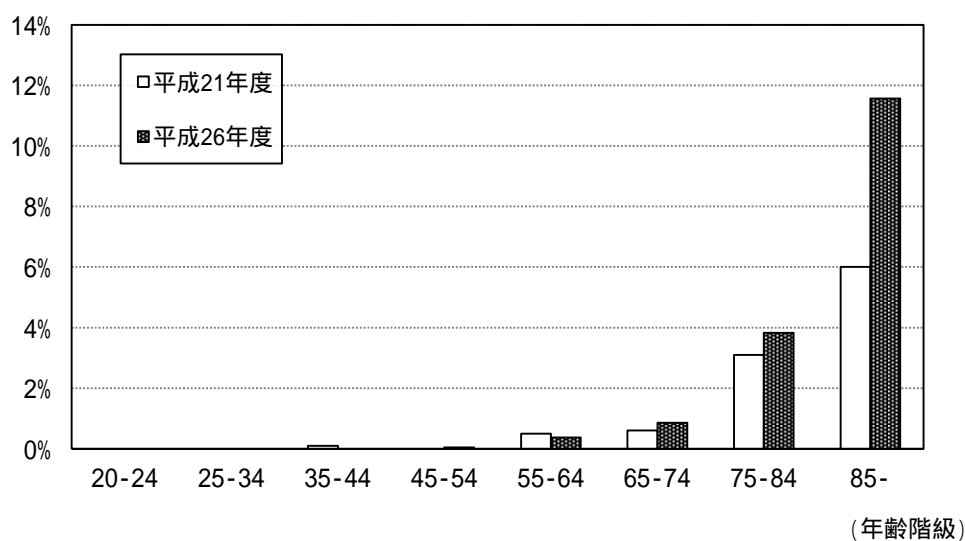


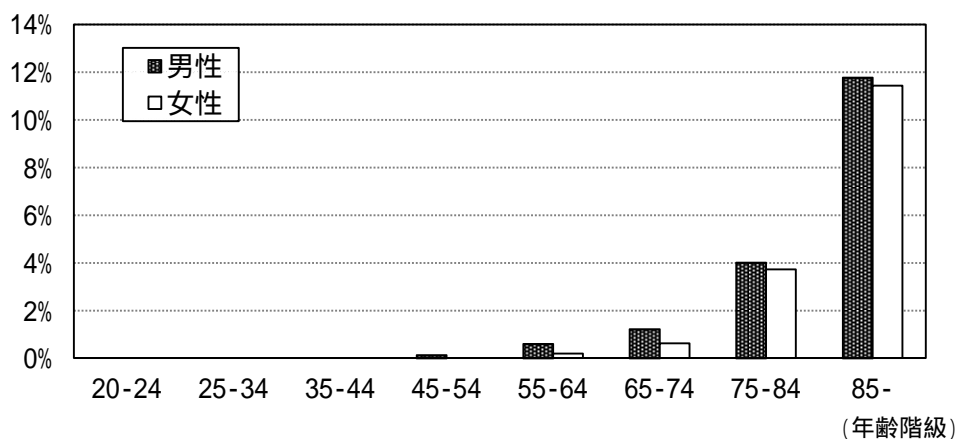
表 15 無歯顎者の割合(男性)

【男性】								(人)
年齢階級	20-24	25-34	35-44	45-54	55-64	65-74	75-84	85-
無歯顎者	0	0	0	1	5	12	20	10
	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.6%	1.2%	4.0%	11.8%
総数	123	344	617	772	831	984	499	85

表 16 無歯顎者の割合(女性)

【女性】								(人)
年齢階級	20-24	25-34	35-44	45-54	55-64	65-74	75-84	85-
無歯顎者	0	0	0	0	2	9	30	12
	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.2%	0.6%	3.7%	11.4%
総数	199	518	893	1,048	1,021	1,440	804	105

図 24 無歯顎者の割合(性別)



(3) 歯周組織の状況

前回(平成 21 年度)と同じく、CPI プローブを用いた歯周ポケット測定ではないため、ポケット 5mm 以上を重度歯周病(CPI コード 3 以上に相当)とした。35～64 歳までと 85 歳以上で、前回(平成 21 年度)よりも重度歯周病のある者の割合は減少した。若い年代で減少したことは、歯周病に対する周知と早期治療が奏功している結果と考えられる。特に 85 歳以上では 39.7%から 30.4%へと改善した。対象歯がない者は集計から除外しているため、前述の無歯顎者の割合の増加はこの改善に影響は排除されているものの、20 本以上歯を有する者の割合も減少しており、現在歯数の減少の影響も考えられる。一方、65～74 歳はほぼ同じであるものの、75～84 歳では増加が認められた。65～84 歳の間には重度歯周病により歯を喪失している可能性が考えられる。

40 歳(35 歳～44 歳)で進行した歯周病に罹っている者(CPI コード 3 以上)は 19.3%と、前回(平成 21 年度)の 20.1%からは改善したものの、いい歯東京の目標値 18%以下には届かなかった。

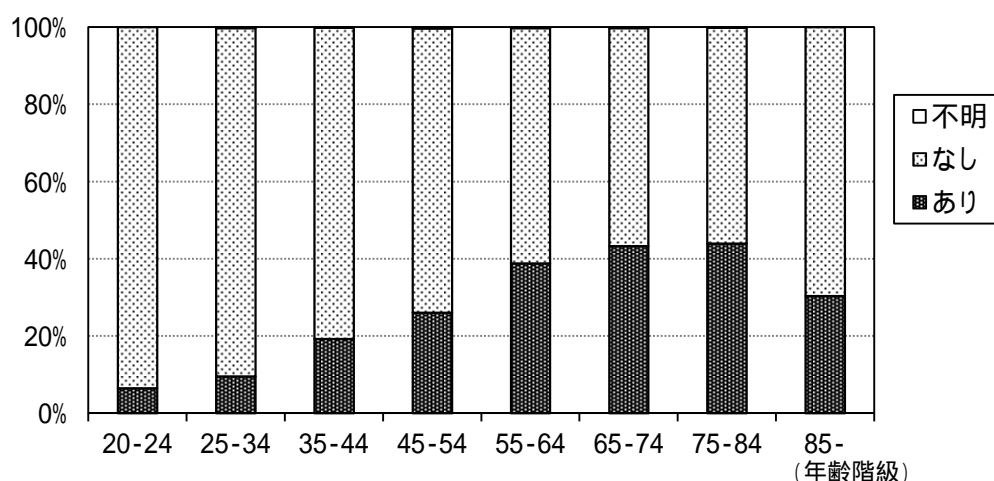
東京都区市町村の歯周疾患検診およびその他の成人歯科健康診査結果を用いた、性、年齢階級別 CPI 最大値 3 以上の者の割合(平成 25 年度)(東京都の歯科保健—東京都歯科保健医療関係資料集—平成 26 年 10 月)によると、35～39 歳の男性 42.6%、女性 32.9%、40～44 歳の男性 43.1%、女性 34.5%と、本調査の 2 割程度と大きく乖離している。45～54 歳についても同様である。本調査では、対象者が検診受診者ではなく歯科診療所を受診している患者であることから、歯周疾患の治療も進められている結果であること、また、ポケット深さが 5mm 以上と、4～5mm の者が除外されていることが原因と考えられる。従って、本調査の結果をもってただちに 30、40 歳代の歯周疾患の罹患率が低下しているとは言いがたいことに注意を要する。

表 17 歯周組織の状況(年代別)

(人)

年齢階級	20-24	25-34	35-44	45-54	55-64	65-74	75-84	85-
あり	21	83	293	478	721	1,043	548	51
	6.5%	9.6%	19.3%	26.1%	38.8%	43.3%	43.9%	30.4%
なし	302	783	1,228	1,349	1,133	1,360	697	117
不明	0	2	1	6	4	6	2	0
総計	323	868	1,522	1,833	1,858	2,409	1,247	168

図 25 重度歯周病(ポケット 5 mm以上)の有無



**表 18 重度歯周病(ポケット5 mm以上)
ある者の割合(年代別)**

年齢階級	割合 (%)	
	平成21年度	平成26年度
35-44	20.1	19.3
45-54	32.4	26.1
55-64	41.6	38.8
65-74	42.2	43.3
75-84	40.4	43.9
85-	39.7	30.4

**図 26 重度歯周病(ポケット5 mm以上)
ある者の割合(年代別)**

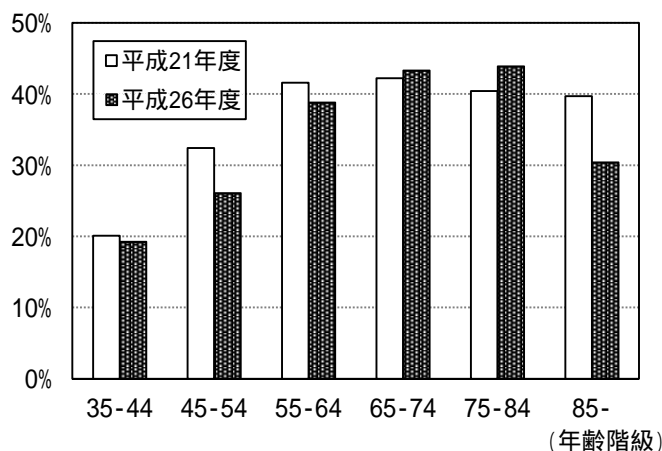


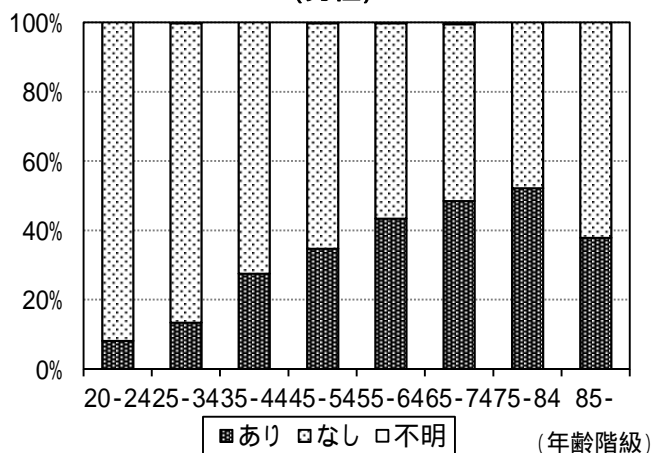
表 19 重度歯周病(ポケット5mm 以上)の有無(男性)

年齢階級	人数 (人)							
	20-24	25-34	35-44	45-54	55-64	65-74	75-84	85-
あり	10	46	171	270	359	475	249	28
	8.1%	13.3%	27.4%	34.6%	42.9%	47.7%	49.5%	32.9%
なし	113	298	452	507	467	500	228	46
不明	0	1	0	2	2	5	0	0
総計	123	345	623	779	828	980	477	74

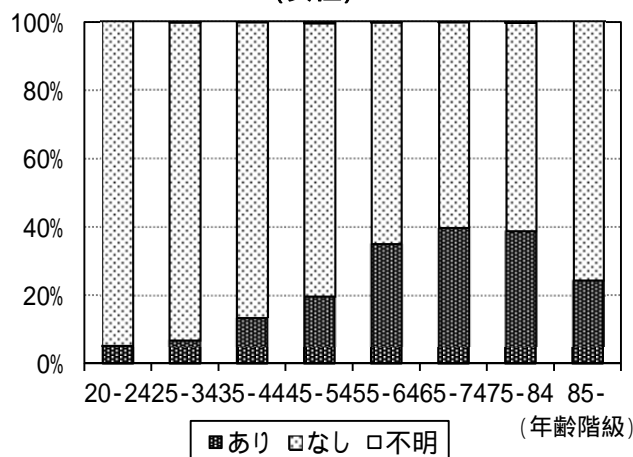
表 20 重度歯周病(ポケット5mm 以上)の有無(女性)

年齢階級	人数 (人)							
	20-24	25-34	35-44	45-54	55-64	65-74	75-84	85-
あり	11	37	122	208	362	568	299	23
	5.5%	7.1%	13.6%	19.7%	35.1%	39.4%	37.0%	21.7%
なし	189	485	776	842	666	860	469	71
不明	0	1	1	4	2	1	2	0
総計	200	523	899	1,054	1,030	1,429	770	94

**図 27 重度歯周病(ポケット5mm 以上)の有無
(男性)**



**図 28 重度歯周病(ポケット5mm 以上)の有無
(女性)**



3 歯科保健行動調査結果

(1) 歯や口腔の満足度

ア 歯や口腔の満足度の状況

歯・口や入れ歯の状態にほぼ満足していると回答した者は、前回(平成21年度)よりすべての年齢階級で減少した。80歳以上でほぼ満足していると回答したのは、前回(平成21年度)の57.9%から54.8%へと減少し、「いい歯東京」の目標である、割合を増やすは達成できなかった。

年齢が高い方がほぼ満足と回答する割合が増加する傾向は、前回(平成21年度)と同様であった。

表 21 歯や口腔の満足度(年代別) (人)

年齢階級	ほぼ満足	やや不満	不自由や苦痛を感じる	無回答
20-29	287	350	69	7
	40.3%	49.1%	9.7%	1.0%
30-39	409	591	89	6
	37.4%	54.0%	8.1%	0.5%
40-49	710	943	149	24
	38.9%	51.6%	8.2%	1.3%
50-59	702	866	146	30
	40.3%	49.7%	8.4%	1.7%
60-69	1,034	1,023	185	37
	45.4%	44.9%	8.1%	1.6%
70-79	1,071	767	137	85
	52.0%	37.2%	6.7%	4.1%
80-	350	202	57	30
	54.8%	31.6%	8.9%	4.7%
(再掲)				
20-39	696	941	158	13
	38.5%	52.0%	8.7%	0.7%
40-64	1,840	2,299	401	67
	39.9%	49.9%	8.7%	1.5%
65-	2,027	1,502	273	139
	51.4%	38.1%	6.9%	3.5%
総計	4,563	4,742	832	219
	44.1%	45.8%	8.0%	2.1%

*: やや不満だが日常生活には困らない

図 29 歯や口腔の満足度(年代別)

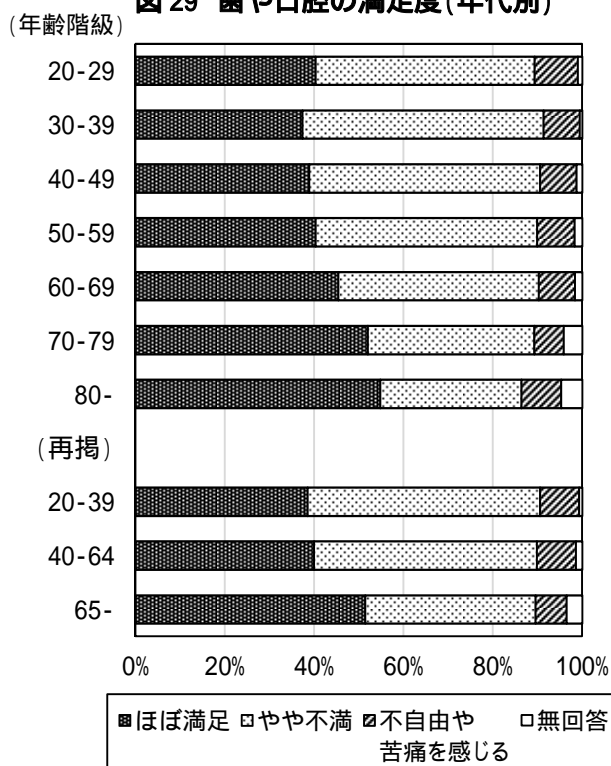


表 22,図 30 歯・口や入れ歯の状態にほぼ満足している者の割合(前回比較)

(%)		
年齢階級	平成21年度	平成26年度
20-39	44.5	38.5
40-64	46.8	39.9
65-	56.8	51.4
(再掲)		
80-	57.9	54.8

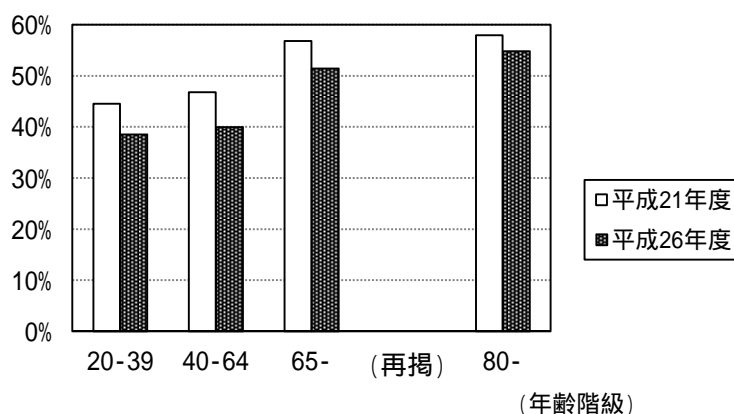


表 23 歯や口腔の満足度(男性) (人)

年齢階級	ほぼ満足	やや不満	不自由や苦痛を感じる	無回答
20-29	104	131	25	4
	39.4%	49.6%	9.5%	1.5%
30-39	184	246	42	2
	38.8%	51.9%	8.9%	0.4%
40-49	317	343	66	14
	42.8%	46.4%	8.9%	1.9%
50-59	317	345	71	15
	42.4%	46.1%	9.5%	2.0%
60-69	466	433	82	21
	46.5%	43.2%	8.2%	2.1%
70-79	426	283	50	38
	53.5%	35.5%	6.3%	4.8%
80-	140	83	29	14
	52.6%	31.2%	10.9%	5.3%
(再掲)				
20-39	288	377	67	6
	39.0%	51.1%	9.1%	0.8%
40-64	839	911	182	37
	42.6%	46.3%	9.2%	1.9%
65-	827	576	116	65
	52.2%	36.4%	7.3%	4.1%
総計	1,954	1,864	365	108
	45.5%	43.4%	8.5%	2.5%

表 24 歯や口腔の満足度(女性) (人)

年齢階級	ほぼ満足	やや不満	不自由や苦痛を感じる	無回答
20-29	183	219	44	3
	40.8%	48.8%	9.8%	0.7%
30-39	225	345	47	4
	36.2%	55.6%	7.6%	0.6%
40-49	393	600	83	10
	36.2%	55.2%	7.6%	0.9%
50-59	385	521	75	15
	38.7%	52.3%	7.5%	1.5%
60-69	568	590	103	16
	44.5%	46.2%	8.1%	1.3%
70-79	645	484	87	47
	51.1%	38.3%	6.9%	3.7%
80-	210	119	28	16
	56.3%	31.9%	7.5%	4.3%
(再掲)				
20-39	408	564	91	7
	38.1%	52.7%	8.5%	0.7%
40-64	1,001	1,388	219	30
	37.9%	52.6%	8.3%	1.1%
65-	1,200	926	157	74
	50.9%	39.3%	6.7%	3.1%
総計	2,609	2,878	467	111
	43.0%	47.5%	7.7%	1.8%

イ 現在歯数と「歯や口腔の満足度」の相関関係

70歳代以上では、現在歯数が0～9本と少なくても、ほぼ満足していると回答する者の割合が相対的に高かった。一方、40～60歳代では現在歯数によらず、やや不満だが日常生活には困らないとの回答が相対的に多く、何らかのトラブルを抱えたままである可能性が示唆された。

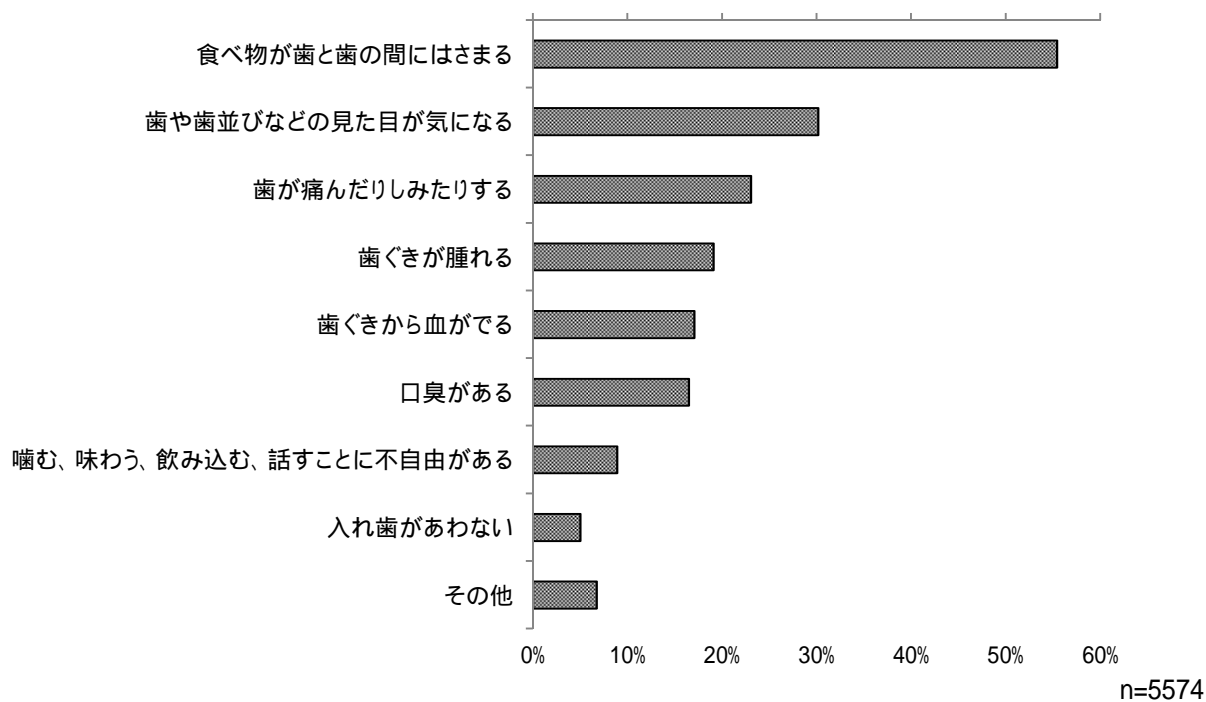
表 25 現在歯数と「歯や口腔の満足度」 (人)

年代別	現在歯数	歯や口の満足度				合計
		ほぼ満足している	やや不満だが日常生活には困らない	不自由や苦痛を感じている	無回答	
40歳代	0～9本	2 33.3%	2 33.3%	2 33.3%	0 0.0%	6
	10～19本	10 27.0%	16 43.2%	10 27.0%	1 2.7%	37
	20本以上	688 39.0%	918 52.1%	135 7.7%	22 1.2%	1,763
	合計	700 38.8%	936 51.8%	147 8.1%	23 1.3%	1,806
50歳代	0～9本	8 42.1%	5 26.3%	5 26.3%	1 5.3%	19
	10～19本	48 35.3%	71 52.2%	17 12.5%	0 0.0%	136
	20本以上	641 40.7%	785 49.8%	122 7.7%	27 1.7%	1,575
	合計	697 40.3%	861 49.8%	144 8.3%	28 1.6%	1,730
60歳代	0～9本	33 34.0%	48 49.5%	14 14.4%	2 2.1%	97
	10～19本	170 40.8%	185 44.4%	55 13.2%	7 1.7%	417
	20本以上	827 47.3%	780 44.6%	115 6.6%	28 1.6%	1,750
	合計	1,030 45.5%	1,013 44.7%	184 8.1%	37 1.6%	2,264
70歳代	0～9本	95 43.0%	92 41.6%	24 10.9%	10 4.5%	221
	10～19本	250 48.1%	195 37.5%	55 10.6%	20 3.8%	520
	20本以上	718 55.0%	476 36.4%	57 4.4%	55 4.2%	1,306
	合計	1,063 51.9%	763 37.3%	136 6.6%	85 4.2%	2,047
80歳以上	0～9本	78 45.6%	59 34.5%	29 17.0%	5 2.9%	171
	10～19本	97 53.9%	61 33.9%	16 8.9%	6 3.3%	180
	20本以上	174 61.1%	80 28.1%	12 4.2%	19 6.7%	285
	合計	349 54.9%	200 31.4%	57 9.0%	30 4.7%	636

(2) 歯や口腔に不満や不自由を感じる内容

歯や口腔に不満や不自由を感じる内容は、食べ物が歯と歯の間にはさまるとい回答が最も多く、次いで歯や歯並びなどの見た目が気になる、歯が痛んだりしんだりするという回答が続いた。

図 31 歯や口腔に不満や不自由を感じる者の内容(複数回答)



ア 歯の痛みやしみること

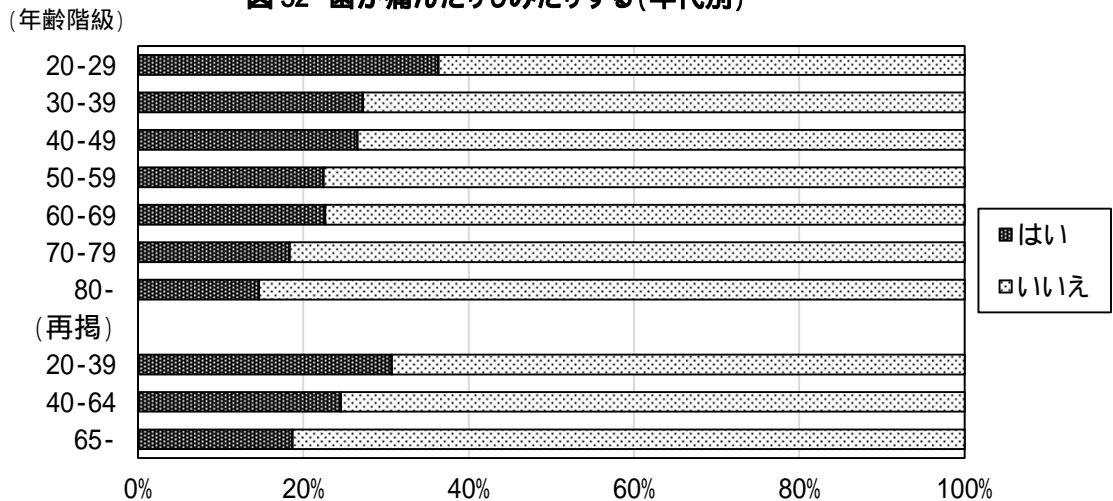
歯が痛んだりしみたりすると回答した者は、20～29歳で36.3%と最も多く、年齢が若い程多い傾向であった。

また、すべての年代を通じて男性の方が女性より多い傾向が認められた。

表 26,27,28 歯が痛んだりしみたりする(性別、年代別)

【全体】			【男性】			【女性】		
(人)			(人)			(人)		
年齢階級	はい	いいえ	年齢階級	はい	いいえ	年齢階級	はい	いいえ
20-29	149 36.3%	261 63.7%	20-29	64 41.3%	91 58.7%	20-29	85 33.3%	170 66.7%
30-39	181 27.2%	485 72.8%	30-39	82 28.9%	202 71.1%	30-39	99 25.9%	283 74.1%
40-49	280 26.5%	776 73.5%	40-49	109 27.7%	284 72.3%	40-49	171 25.8%	492 74.2%
50-59	219 22.4%	757 77.6%	50-59	105 26.3%	295 73.8%	50-59	114 19.8%	462 80.2%
60-69	262 22.6%	897 77.4%	60-69	115 23.2%	381 76.8%	60-69	147 22.2%	516 77.8%
70-79	159 18.3%	709 81.7%	70-79	74 23.0%	248 77.0%	70-79	85 15.6%	461 84.4%
80-	35 14.6%	205 85.4%	80-	17 16.0%	89 84.0%	80-	18 13.4%	116 86.6%
(再掲)			(再掲)			(再掲)		
20-39	330 30.7%	746 69.3%	20-39	146 33.3%	293 66.7%	20-39	184 28.9%	453 71.1%
40-64	639 24.5%	1,969 75.5%	40-64	277 26.4%	774 73.6%	40-64	362 23.2%	1,195 76.8%
65-	316 18.7%	1,375 81.3%	65-	143 21.5%	523 78.5%	65-	173 16.9%	852 83.1%
総計	1,285 23.9%	4,090 76.1%	総計	566 26.3%	1,590 73.7%	総計	719 22.3%	2,500 77.7%

図 32 歯が痛んだりしみたりする(年代別)



イ 歯ぐきからの出血

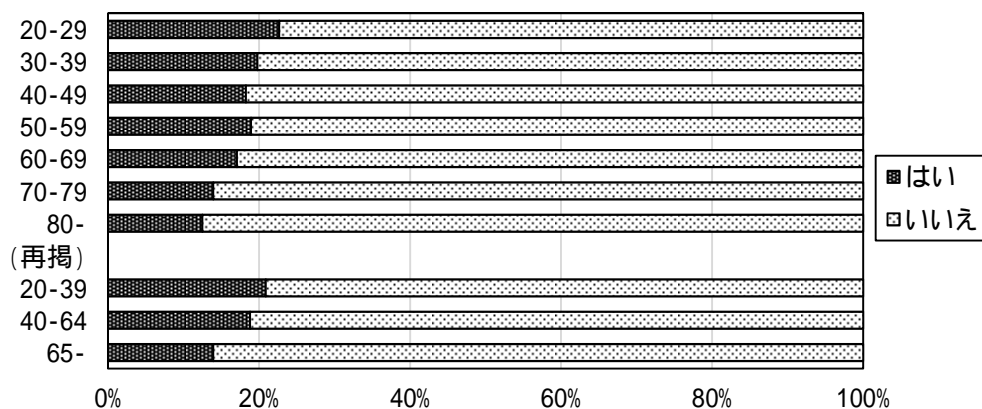
歯ぐきから血がでると回答した者も、20～29歳が22.7%と最も多く、若い年代ほど多い傾向であったが、歯が痛んだりしみたりすると回答した者よりは少なく年代間の差も小さかった。

また、すべての年代を通して男性の方が女性より多い傾向が認められた。男性の方が高齢者での現在歯数が多く、重度歯周病に罹患している者も多かったことが影響している可能性が考えられる。

表 29,30,31 歯ぐきから血が出る(性別、年代別)

【全体】			【男性】			【女性】		
年齢階級	はい	いいえ	年齢階級	はい	いいえ	年齢階級	はい	いいえ
20-29	93 22.7%	317 77.3%	20-29	36 23.2%	119 76.8%	20-29	57 22.4%	198 77.6%
30-39	132 19.8%	534 80.2%	30-39	62 21.8%	222 78.2%	30-39	70 18.3%	312 81.7%
40-49	193 18.3%	863 81.7%	40-49	89 22.6%	304 77.4%	40-49	104 15.7%	559 84.3%
50-59	185 19.0%	791 81.0%	50-59	80 20.0%	320 80.0%	50-59	105 18.2%	471 81.8%
60-69	198 17.1%	961 82.9%	60-69	98 19.8%	398 80.2%	60-69	100 15.1%	563 84.9%
70-79	121 13.9%	747 86.1%	70-79	50 15.5%	272 84.5%	70-79	71 13.0%	475 87.0%
80-	30 12.5%	210 87.5%	80-	15 14.2%	91 85.8%	80-	15 11.2%	119 88.8%
(再掲)			(再掲)			(再掲)		
20-39	225 20.9%	851 79.1%	20-39	98 22.3%	341 77.7%	20-39	127 19.9%	510 80.1%
40-64	491 18.8%	2,117 81.2%	40-64	226 21.5%	825 78.5%	40-64	265 17.0%	1,292 83.0%
65-	236 14.0%	1,455 86.0%	65-	106 15.9%	560 84.1%	65-	130 12.7%	895 87.3%
総計	952 17.7%	4,423 82.3%	総計	430 19.9%	1,726 80.1%	総計	522 16.2%	2,697 83.8%

図 33 歯ぐきから血が出る(年代別)



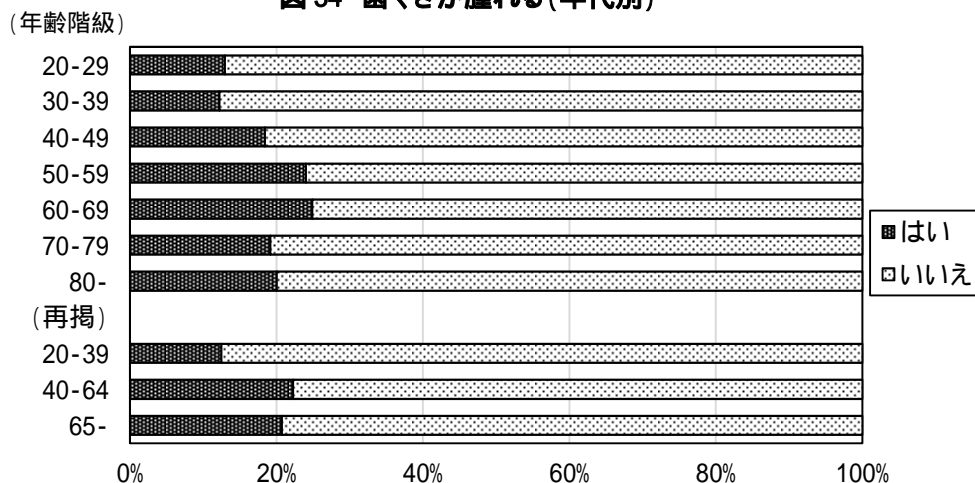
ウ 歯ぐきの腫れ

歯ぐきが腫れると回答した者は、60～69歳が24.8%で最も多く、次いで50～59歳が多く、年代が高い方が多い傾向であった。49歳までは男性が女性より多い傾向であったが、50歳以上では女性の方が多かった。前述の歯ぐきから血がでるとは異なる傾向であり、軽度の歯周疾患の病態を反映している可能性がうかがわれる。

表 32,33,34 歯ぐきが腫れる(性別、年代別)

【全体】 (人)			【男性】 (人)			【女性】 (人)		
年齢階級	はい	いいえ	年齢階級	はい	いいえ	年齢階級	はい	いいえ
20-29	53 12.9%	357 87.1%	20-29	21 13.5%	134 86.5%	20-29	32 12.5%	223 87.5%
30-39	81 12.2%	585 87.8%	30-39	37 13.0%	247 87.0%	30-39	44 11.5%	338 88.5%
40-49	194 18.4%	862 81.6%	40-49	88 22.4%	305 77.6%	40-49	106 16.0%	557 84.0%
50-59	234 24.0%	742 76.0%	50-59	88 22.0%	312 78.0%	50-59	146 25.3%	430 74.7%
60-69	288 24.8%	871 75.2%	60-69	116 23.4%	380 76.6%	60-69	172 25.9%	491 74.1%
70-79	166 19.1%	702 80.9%	70-79	45 14.0%	277 86.0%	70-79	121 22.2%	425 77.8%
80-	48 20.0%	192 80.0%	80-	18 17.0%	88 83.0%	80-	30 22.4%	104 77.6%
(再掲)			(再掲)			(再掲)		
20-39	134 12.5%	942 87.5%	20-39	58 13.2%	381 86.8%	20-39	76 11.9%	561 88.1%
40-64	580 22.2%	2,028 77.8%	40-64	244 23.2%	807 76.8%	40-64	336 21.6%	1,221 78.4%
65-	350 20.7%	1,341 79.3%	65-	111 16.7%	555 83.3%	65-	239 23.3%	786 76.7%
総計	1,064 19.8%	4,311 80.2%	総計	413 19.2%	1,743 80.8%	総計	651 20.2%	2,568 79.8%

図 34 歯ぐきが腫れる(年代別)



エ 口臭

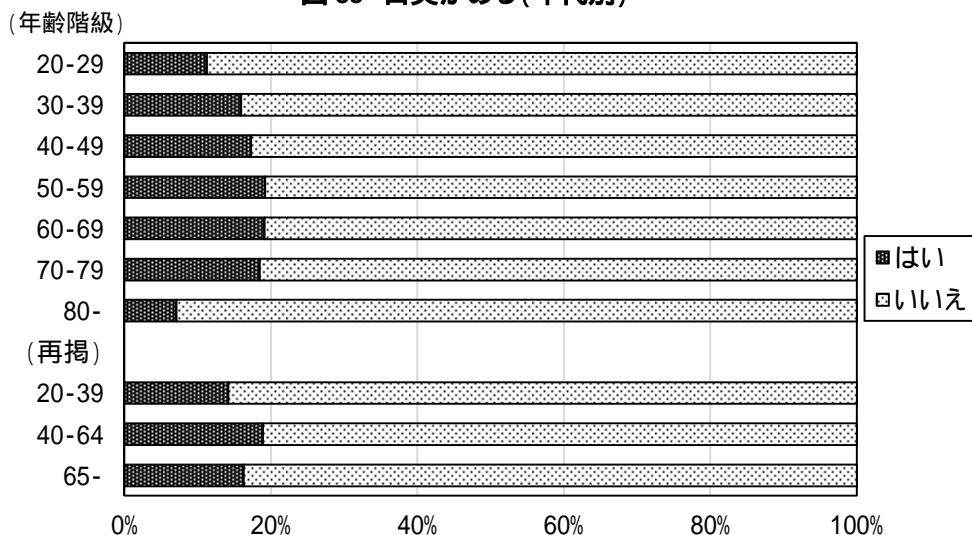
口臭があると回答した者は、50～69歳が19.2%でピークであったが、全年代を通じて20%に満たない水準であった。80歳以上で最も低く7.1%であった。

また、男性が女性よりやや高い傾向が認められた。

表 35,36,37 口臭がある(性別、年代別)

【全体】			【男性】			【女性】		
年齢階級	はい	いいえ	年齢階級	はい	いいえ	年齢階級	はい	いいえ
20-29	46 11.2%	364 88.8%	20-29	20 12.9%	135 87.1%	20-29	26 10.2%	229 89.8%
30-39	106 15.9%	560 84.1%	30-39	57 20.1%	227 79.9%	30-39	49 12.8%	333 87.2%
40-49	182 17.2%	874 82.8%	40-49	83 21.1%	310 78.9%	40-49	99 14.9%	564 85.1%
50-59	187 19.2%	789 80.8%	50-59	74 18.5%	326 81.5%	50-59	113 19.6%	463 80.4%
60-69	221 19.1%	938 80.9%	60-69	102 20.6%	394 79.4%	60-69	119 17.9%	544 82.1%
70-79	160 18.4%	708 81.6%	70-79	64 19.9%	258 80.1%	70-79	96 17.6%	450 82.4%
80-	17 7.1%	223 92.9%	80-	6 5.7%	100 94.3%	80-	11 8.2%	123 91.8%
(再掲)			(再掲)			(再掲)		
20-39	152 14.1%	924 85.9%	20-39	77 17.5%	362 82.5%	20-39	75 11.8%	562 88.2%
40-64	492 18.9%	2,116 81.1%	40-64	216 20.6%	835 79.4%	40-64	276 17.7%	1,281 82.3%
65-	275 16.3%	1,416 83.7%	65-	113 17.0%	553 83.0%	65-	162 15.8%	863 84.2%
総計	919 17.1%	4,456 82.9%	総計	406 18.8%	1,750 81.2%	総計	513 15.9%	2,706 84.1%

図 35 口臭がある(年代別)



オ 食べ物が歯と歯の間にはさまること

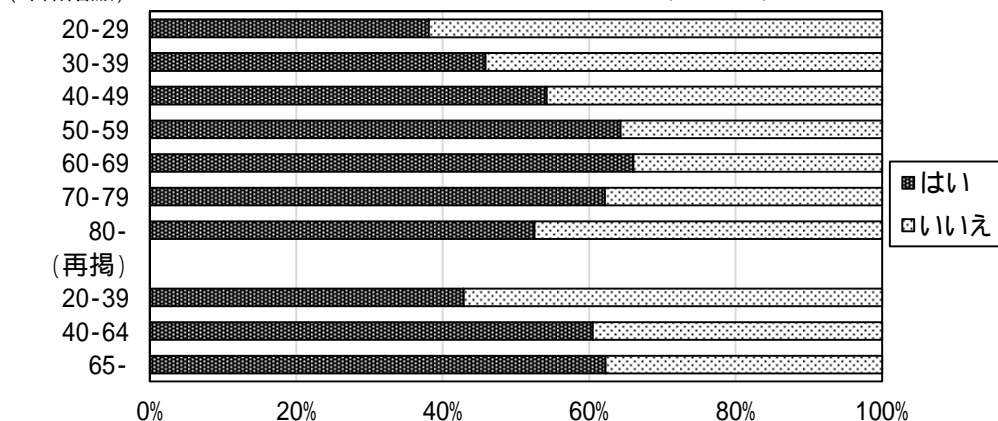
食べ物が歯と歯の間にはさまると回答した者は、年代・性別を通じて他の質問項目よりも高い傾向であり、57.5%と半数を超えた。歯科診療所を受診している患者を対象とした調査であるにも関わらず、満足度が最も低かった理由として、この質問項目については様々な原因が考えられ、原因によっては治療も困難であることが考えられる。

また、治療中の問題である可能性もうかがわれる。男女間の差は、概ね認められなかった。

表 38,39,40 食べ物が歯と歯の間にはさまる(性別、年代別)

【全体】			【男性】			【女性】		
	(人)			(人)			(人)	
年齢階級	はい	いいえ	年齢階級	はい	いいえ	年齢階級	はい	いいえ
20-29	156 38.0%	254 62.0%	20-29	52 33.5%	103 66.5%	20-29	104 40.8%	151 59.2%
30-39	305 45.8%	361 54.2%	30-39	127 44.7%	157 55.3%	30-39	178 46.6%	204 53.4%
40-49	572 54.2%	484 45.8%	40-49	212 53.9%	181 46.1%	40-49	360 54.3%	303 45.7%
50-59	627 64.2%	349 35.8%	50-59	264 66.0%	136 34.0%	50-59	363 63.0%	213 37.0%
60-69	765 66.0%	394 34.0%	60-69	321 64.7%	175 35.3%	60-69	444 67.0%	219 33.0%
70-79	539 62.1%	329 37.9%	70-79	205 63.7%	117 36.3%	70-79	334 61.2%	212 38.8%
80-	126 52.5%	114 47.5%	80-	53 50.0%	53 50.0%	80-	73 54.5%	61 45.5%
(再掲)			(再掲)			(再掲)		
20-39	461 42.8%	615 57.2%	20-39	179 40.8%	260 59.2%	20-39	282 44.3%	355 55.7%
40-64	1,577 60.5%	1,031 39.5%	40-64	645 61.4%	406 38.6%	40-64	932 59.9%	625 40.1%
65-	1,052 62.2%	639 37.8%	65-	410 61.6%	256 38.4%	65-	642 62.6%	383 37.4%
総計	3,090 57.5%	2,285 42.5%	総計	1,234 57.2%	922 42.8%	総計	1,856 57.7%	1,363 42.3%

図 36 食べ物が歯と歯の間にはさまる(年代別)



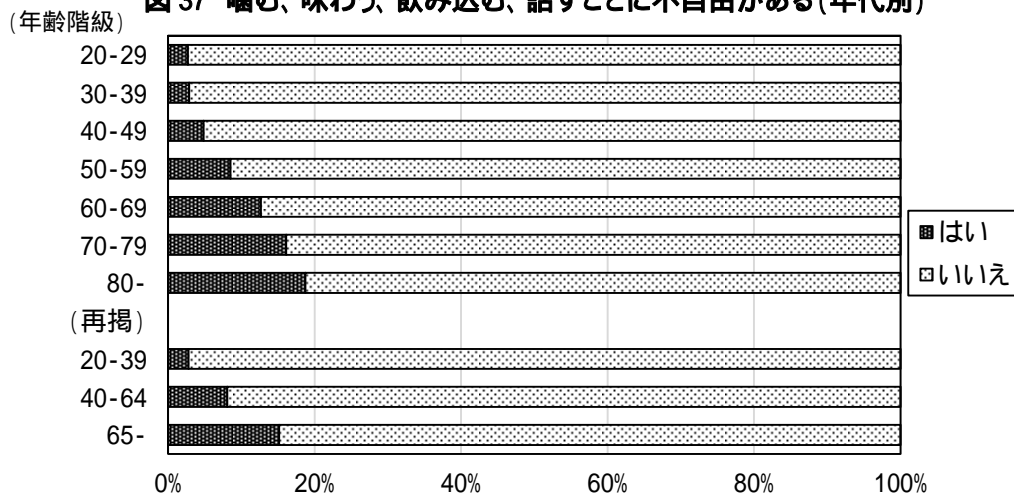
カ 噛む、味わう、飲み込む、話すことに不自由があること

噛む、味わう、飲み込む、話すことに不自由があると回答した者は、20～39歳で3%程度と極めて低く、年代が上がるにつれて増加した。それでも80歳以上で2割に満たなかったのは、対象者が歯科医院に来院可能であることによる影響が考えられる。

表 41,42,43 噛む、味わう、飲み込む、話すことに不自由がある(性別、年代別)

【全体】			【男性】			【女性】		
年齢階級	はい	いいえ	年齢階級	はい	いいえ	年齢階級	はい	いいえ
20-29	11 2.7%	399 97.3%	20-29	3 1.9%	152 98.1%	20-29	8 3.1%	247 96.9%
30-39	19 2.9%	647 97.1%	30-39	9 3.2%	275 96.8%	30-39	10 2.6%	372 97.4%
40-49	51 4.8%	1,005 95.2%	40-49	25 6.4%	368 93.6%	40-49	26 3.9%	637 96.1%
50-59	83 8.5%	893 91.5%	50-59	39 9.8%	361 90.3%	50-59	44 7.6%	532 92.4%
60-69	147 12.7%	1,012 87.3%	60-69	78 15.7%	418 84.3%	60-69	69 10.4%	594 89.6%
70-79	140 16.1%	728 83.9%	70-79	54 16.8%	268 83.2%	70-79	86 15.8%	460 84.2%
80-	45 18.8%	195 81.3%	80-	19 17.9%	87 82.1%	80-	26 19.4%	108 80.6%
(再掲)			(再掲)			(再掲)		
20-39	30 2.8%	1,046 97.2%	20-39	12 2.7%	427 97.3%	20-39	18 2.8%	619 97.2%
40-64	210 8.1%	2,398 91.9%	40-64	109 10.4%	942 89.6%	40-64	101 6.5%	1,456 93.5%
65-	256 15.1%	1,435 84.9%	65-	106 15.9%	560 84.1%	65-	150 14.6%	875 85.4%
総計	496 9.2%	4,879 90.8%	総計	227 10.5%	1,929 89.5%	総計	269 8.4%	2,950 91.6%

図 37 噛む、味わう、飲み込む、話すことに不自由がある(年代別)



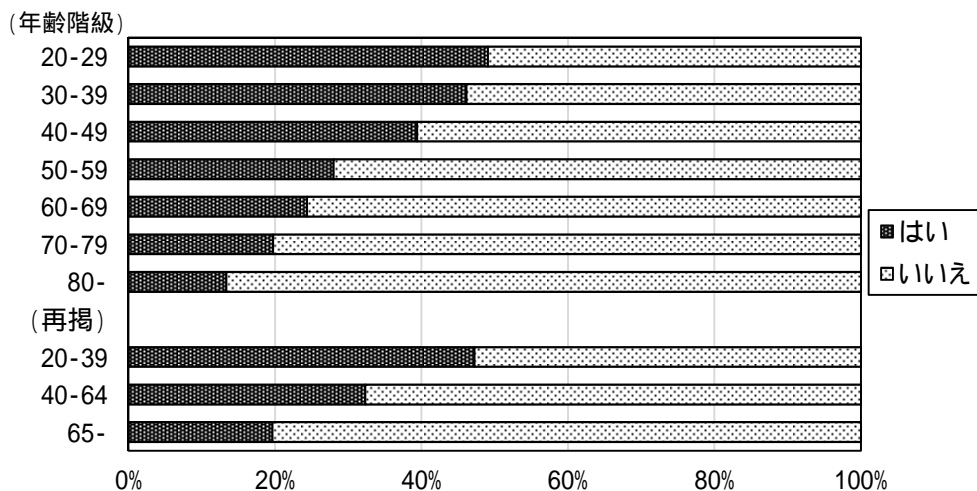
キ 歯や歯並びなどの見た目

歯や歯並びなどの見た目が気になると回答したのは20～29歳の約5割をピークに、年代が進むにつれ減少した。すべての年代で女性が男性を上回ったことは、見た目による受療行動の差と推察される。

表 44,45,46 歯や歯並びなどの見た目が気になる(性別、年代別)

【全体】			【男性】			【女性】		
(人)			(人)			(人)		
年齢階級	はい	いいえ	年齢階級	はい	いいえ	年齢階級	はい	いいえ
20-29	201	209	20-29	64	91	20-29	137	118
	49.0%	51.0%		41.3%	58.7%		53.7%	46.3%
30-39	307	359	30-39	122	162	30-39	185	197
	46.1%	53.9%		43.0%	57.0%		48.4%	51.6%
40-49	416	640	40-49	128	265	40-49	288	375
	39.4%	60.6%		32.6%	67.4%		43.4%	56.6%
50-59	273	703	50-59	86	314	50-59	187	389
	28.0%	72.0%		21.5%	78.5%		32.5%	67.5%
60-69	282	877	60-69	99	397	60-69	183	480
	24.3%	75.7%		20.0%	80.0%		27.6%	72.4%
70-79	171	697	70-79	50	272	70-79	121	425
	19.7%	80.3%		15.5%	84.5%		22.2%	77.8%
80-	32	208	80-	13	93	80-	19	115
	13.3%	86.7%		12.3%	87.7%		14.2%	85.8%
(再掲)			(再掲)			(再掲)		
20-39	508	568	20-39	186	253	20-39	322	315
	47.2%	52.8%		42.4%	57.6%		50.5%	49.5%
40-64	842	1,766	40-64	274	777	40-64	568	989
	32.3%	67.7%		26.1%	73.9%		36.5%	63.5%
65-	332	1,359	65-	102	564	65-	230	795
	19.6%	80.4%		15.3%	84.7%		22.4%	77.6%
総計	1,682	3,693	総計	562	1,594	総計	1,120	2,099
	31.3%	68.7%		26.1%	73.9%		34.8%	65.2%

図 38 歯や歯並びなどの見た目が気になる(年代別)



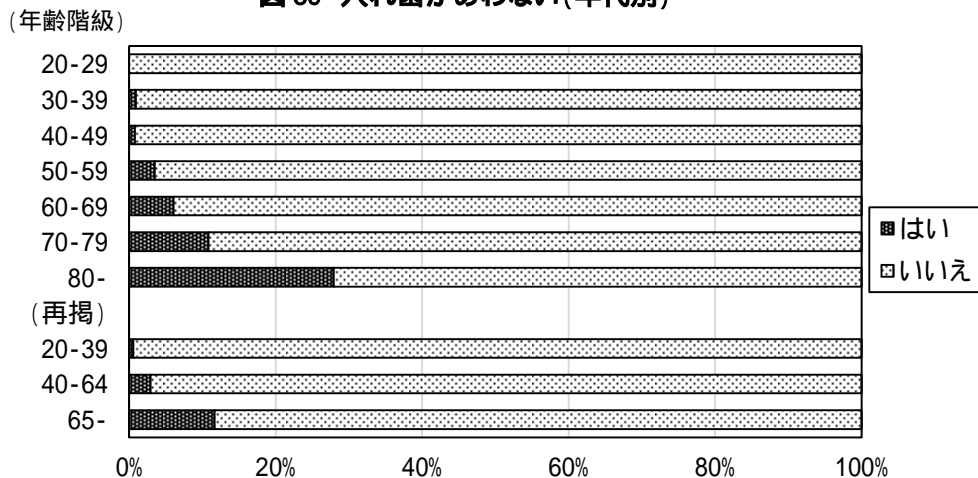
ク 入れ歯があわないこと

入れ歯があわないと回答した者は80歳以上が多かったものの、男女とも70～79歳では1割程度であったものが80歳以上で3割近くまで増加しており、この年代層の義歯に問題が多いことが明らかとなった。

表 47,48,49 入れ歯があわない(性別、年代別)

【全体】			【男性】			【女性】		
年齢階級	はい	いいえ	年齢階級	はい	いいえ	年齢階級	はい	いいえ
20-29	0	410	20-29	0	155	20-29	0	255
	0.0%	100.0%		0.0%	100.0%		0.0%	100.0%
30-39	6	660	30-39	4	280	30-39	2	380
	0.9%	99.1%		1.4%	98.6%		0.5%	99.5%
40-49	8	1,048	40-49	3	390	40-49	5	658
	0.8%	99.2%		0.8%	99.2%		0.8%	99.2%
50-59	34	942	50-59	21	379	50-59	13	563
	3.5%	96.5%		5.3%	94.8%		2.3%	97.7%
60-69	70	1,089	60-69	36	460	60-69	34	629
	6.0%	94.0%		7.3%	92.7%		5.1%	94.9%
70-79	94	774	70-79	35	287	70-79	59	487
	10.8%	89.2%		10.9%	89.1%		10.8%	89.2%
80-	67	173	80-	31	75	80-	36	98
	27.9%	72.1%		29.2%	70.8%		26.9%	73.1%
(再掲)			(再掲)			(再掲)		
20-39	6	1,070	20-39	4	435	20-39	2	635
	0.6%	99.4%		0.9%	99.1%		0.3%	99.7%
40-64	76	2,532	40-64	41	1,010	40-64	35	1,522
	2.9%	97.1%		3.9%	96.1%		2.2%	97.8%
65-	197	1,494	65-	85	581	65-	112	913
	11.6%	88.4%		12.8%	87.2%		10.9%	89.1%
総計	279	5,096	総計	130	2,026	総計	149	3,070
	5.2%	94.8%		6.0%	94.0%		4.6%	95.4%

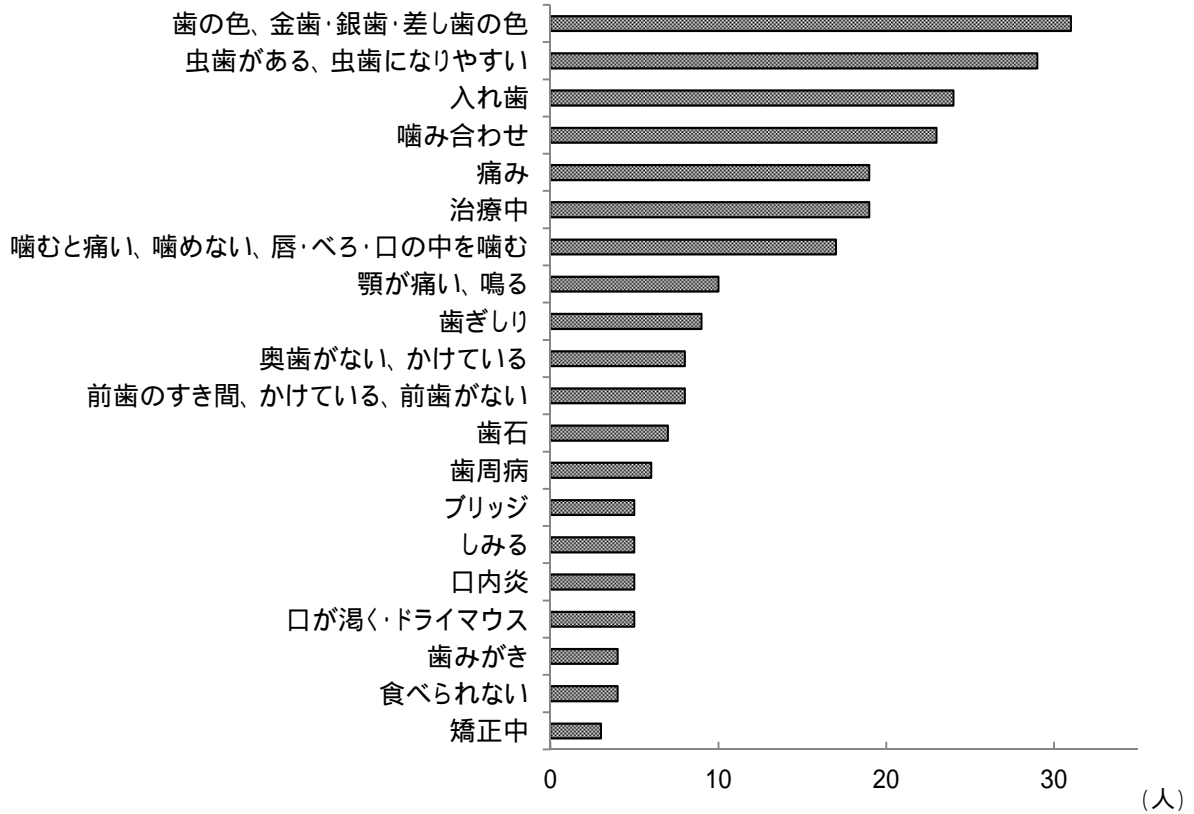
図 39 入れ歯があわない(年代別)



ケ その他

自由記載で最も多かったのは、「歯の色、金歯・銀歯・差し歯の色」であった。治療前の問題か治療後の問題化は本調査では明らかでないが、見た目の問題に関心が高いことがうかがわれた。

図 40 歯や口腔の不満の理由 その他 主な自由記載項目



※複数記載があったもののうち、主なものを抜粋

(3) 歯科保健行動等の状況

ア 丁寧な歯磨きの状況(1回10分程度)

1回に10分程度の時間をかけて磨くことのある者の割合は、全年代を通じて前回(平成21年度)と概ね同じ傾向であった。ほとんどないと回答した者が、すべての年代を通じて4割前後おり、歯口腔清掃のより一層の普及啓発が必要と考える。一方、年代が上がるにつれ、ほぼ毎日の割合は増加しており、歯を喪失していくと現在歯への関心が高まっていく傾向がうかがわれた。男女間では大きな差異は認められなかった。

表50 歯をみがくとき、1回に10分程度の時間をかけてみがくことがある (人)

年齢階級	ほぼ毎日	週に3-4日	週に1-2日	ほとんどない	無回答
20-39	424 23.5%	255 14.1%	401 22.2%	727 40.2%	1 0.1%
40-49	401 22.0%	188 10.3%	368 20.2%	867 47.5%	2 0.1%
50-59	390 22.4%	203 11.6%	317 18.2%	829 47.5%	5 0.3%
60-69	608 26.7%	248 10.9%	377 16.5%	1,033 45.3%	13 0.6%
70-79	746 36.2%	186 9.0%	320 15.5%	760 36.9%	48 2.3%
80-	253 39.6%	43 6.7%	68 10.6%	250 39.1%	25 3.9%
(再掲)					
40-64	1,035 22.5%	504 10.9%	863 18.7%	2,195 47.6%	10 0.2%
65-	1,363 34.6%	364 9.2%	587 14.9%	1,544 39.2%	83 2.1%
総計	2,822 27.2%	1,123 10.8%	1,851 17.9%	4,466 43.1%	94 0.9%

図41 歯をみがくとき、1回に10分程度の時間をかけてみがくことがある

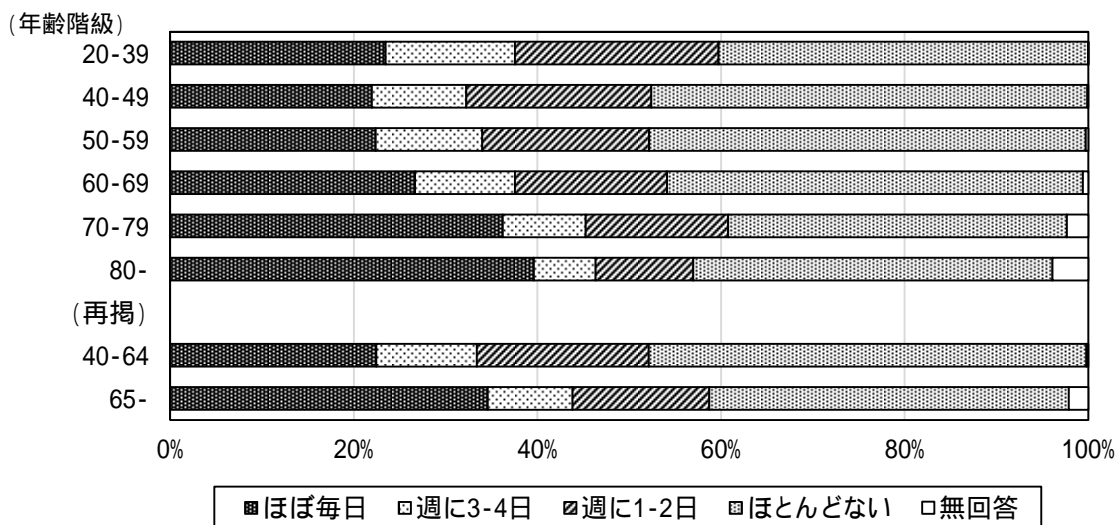


表 51、図 42 歯をみがくとき、1回に10分程度の時間をかけてみがくことがほぼ毎日ある者の割合(前回比較)

(%)

年齢階級	平成21年度	平成26年度
20-39	24.2	23.5
40-64	25.2	22.5
65-	33.6	34.6

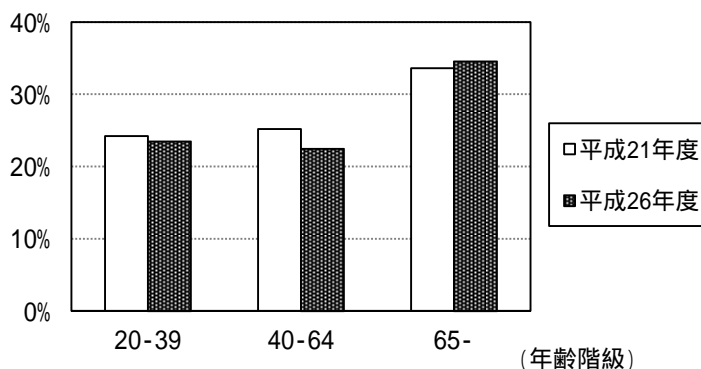


表 52 歯をみがくとき、1回に10分程度の時間をかけてみがくことがある(男性)

[男性] (人)

年齢階級	ほぼ毎日	週に3-4日	週に1-2日	ほとんどない	無回答
20-39	165 22.4%	89 12.1%	158 21.4%	325 44.0%	1 0.1%
40-49	171 23.1%	78 10.5%	144 19.5%	346 46.8%	1 0.1%
50-59	152 20.3%	72 9.6%	122 16.3%	401 53.6%	1 0.1%
60-69	285 28.4%	91 9.1%	139 13.9%	481 48.0%	6 0.6%
70-79	319 40.0%	60 7.5%	92 11.5%	311 39.0%	15 1.9%
80-	102 38.3%	17 6.4%	26 9.8%	113 42.5%	8 3.0%
(再掲)					
40-64	438 22.2%	195 9.9%	339 17.2%	993 50.4%	4 0.2%
65-	591 37.3%	123 7.8%	184 11.6%	659 41.6%	27 1.7%
総計	1,194 27.8%	407 9.5%	681 15.9%	1,977 46.1%	32 0.7%

表 53 歯をみがくとき、1回に10分程度の時間をかけてみがくことがある(女性)

[女性] (人)

年齢階級	ほぼ毎日	週に3-4日	週に1-2日	ほとんどない	無回答
20-39	259 24.2%	166 15.5%	243 22.7%	402 37.6%	0 0.0%
40-49	230 21.2%	110 10.1%	224 20.6%	521 48.0%	1 0.1%
50-59	238 23.9%	131 13.2%	195 19.6%	428 43.0%	4 0.4%
60-69	323 25.3%	157 12.3%	238 18.6%	552 43.2%	7 0.5%
70-79	427 33.8%	126 10.0%	228 18.1%	449 35.6%	33 2.6%
80-	151 40.5%	26 7.0%	42 11.3%	137 36.7%	17 4.6%
(再掲)					
40-64	597 22.6%	309 11.7%	524 19.9%	1,202 45.6%	6 0.2%
65-	772 32.8%	241 10.2%	403 17.1%	885 37.5%	56 2.4%
総計	1,628 26.8%	716 11.8%	1,170 19.3%	2,489 41.0%	62 1.0%

イ 丁寧な歯磨きの状況(1本ずつ丁寧な歯磨き)

ほぼ毎日1本ずつ丁寧に時間をかけてみがくと回答した者は、年代が上がるにつれて増加し、80歳以上では5割弱であった。週に1~2日まで含めると、逆に20~39歳が最も多く、年代が上がるにつれ減少した。一方、ほとんどないと回答は年代間で大きな差は見られず、4分の1程度であった。無回答は年代が上がるにつれ増加した。無歯顎者の増加と、歯の本数の減少に伴う1本あたりへの関心の向上がうかがわれる結果と考えられる。年代を通じて、女性の方が男性より1本ずつ丁寧に時間をかけてみがいている傾向であった。

表 54 歯をみがくとき、1本ずつ丁寧に時間をかけている

(人)

年齢階級	ほぼ毎日	週に3-4日	週に1-2日	合計	ほとんどない	無回答
20-39	537 29.7%	356 19.7%	474 26.2%	1,367 75.6%	441 24.4%	0 0.0%
40-49	606 33.2%	312 17.1%	445 24.4%	1,363 74.6%	458 25.1%	5 0.3%
50-59	616 35.3%	271 15.5%	404 23.2%	1,291 74.0%	445 25.5%	8 0.5%
60-69	870 38.2%	326 14.3%	423 18.6%	1,619 71.0%	626 27.5%	34 1.5%
70-79	859 41.7%	269 13.1%	317 15.4%	1,445 70.1%	537 26.1%	78 3.8%
80-	302 47.3%	61 9.5%	68 10.6%	431 67.4%	174 27.2%	34 5.3%
(再掲)						
40-64	1,588 34.5%	726 15.8%	1,064 23.1%	3,378 73.3%	1,202 26.1%	27 0.6%
65-	1,665 42.2%	513 13.0%	593 15.0%	2,771 70.3%	1,038 26.3%	132 3.3%
総計	3,790 36.6%	1,595 15.4%	2,131 20.6%	7,516 72.6%	2,681 25.9%	159 1.5%

図 43 歯をみがくとき、1本ずつ丁寧に時間をかけている

(年齢階級)

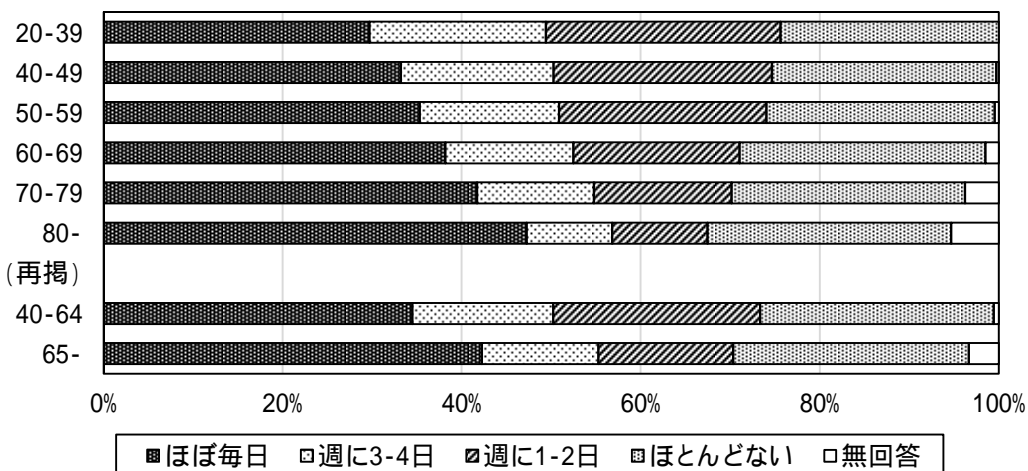


表 55 歯をみがくとき、
1本ずつ丁寧に時間をかけている(男性)

【男性】		(人)			
年齢 階級	ほぼ 毎日	週に 3-4日	週に 1-2日	ほとん ど ない	無回答
20-39	185 25.1%	123 16.7%	190 25.7%	240 32.5%	0 0.0%
40-49	231 31.2%	120 16.2%	164 22.2%	224 30.3%	1 0.1%
50-59	243 32.5%	102 13.6%	154 20.6%	246 32.9%	3 0.4%
60-69	363 36.2%	118 11.8%	171 17.1%	339 33.8%	11 1.1%
70-79	336 42.2%	93 11.7%	102 12.8%	245 30.7%	21 2.6%
80-	124 46.6%	24 9.0%	21 7.9%	89 33.5%	8 3.0%
(再掲)					
40-64	623 31.6%	279 14.2%	417 21.2%	640 32.5%	10 0.5%
65-	674 42.6%	178 11.2%	195 12.3%	503 31.8%	34 2.1%
総計	1,482 34.5%	580 13.5%	802 18.7%	1,383 32.2%	44 1.0%

表 56 歯をみがくとき、
1本ずつ丁寧に時間をかけている(女性)

【女性】		(人)			
年齢 階級	ほぼ 毎日	週に 3-4日	週に 1-2日	ほとん ど ない	無回答
20-39	352 32.9%	233 21.8%	284 26.5%	201 18.8%	0 0.0%
40-49	375 34.5%	192 17.7%	281 25.9%	234 21.5%	4 0.4%
50-59	373 37.4%	169 17.0%	250 25.1%	199 20.0%	5 0.5%
60-69	507 39.7%	208 16.3%	252 19.7%	287 22.5%	23 1.8%
70-79	523 41.4%	176 13.9%	215 17.0%	292 23.1%	57 4.5%
80-	178 47.7%	37 9.9%	47 12.6%	85 22.8%	26 7.0%
(再掲)					
40-64	965 36.6%	447 16.9%	647 24.5%	562 21.3%	17 0.6%
65-	991 42.0%	335 14.2%	398 16.9%	535 22.7%	98 4.2%
総計	2,308 38.1%	1,015 16.7%	1,329 21.9%	1,298 21.4%	115 1.9%

ウ 丁寧な歯磨きの状況(歯間部清掃用器具を用いた清掃)

デンタルフロスや歯間ブラシなどの歯間部清掃用器具を用いた清掃習慣は、ほぼ毎日行う者のピークは60～69歳、次いで70～79歳であったのに対し、週に1～2日までを含めると50～59歳が最頻値であった。40歳代から歯間部清掃用具の使用ニーズが高まるのに対し、日常的に使用しなければならなくなるのは高齢者になってからという結果であった。デンタルフロスと歯間ブラシをわけると、使用する年代が分かれた可能性も考えられる。

40歳(35～44歳)で週に1回以上、フロスや歯間ブラシを使用している者の割合は62.0%で、前回(平成21年度)の62.3%をわずかに下回り、目標の80%以上を達成できなかった。歯周病予防の観点から、セルフケアにおける歯間部清掃用具使用により一層の指導やプロモーションが重要であると考ええる。

また、男性よりも女性の方が歯間部清掃用具の使用率が高い傾向が見られた。

表 57 デンタルフロスや歯間ブラシを使うことがある(年代別)

(人)

年齢階級	ほぼ毎日	週に3-4日	週に1-2日	合計	ほとんどない	無回答
20-39	348 19.2%	199 11.0%	429 23.7%	976 54.0%	825 45.6%	7 0.4%
40-49	507 27.8%	243 13.3%	417 22.8%	1,167 63.9%	654 35.8%	5 0.3%
50-59	612 35.1%	202 11.6%	364 20.9%	1,178 67.5%	556 31.9%	10 0.6%
60-69	913 40.1%	198 8.7%	349 15.3%	1,460 64.1%	799 35.1%	20 0.9%
70-79	797 38.7%	181 8.8%	261 12.7%	1,239 60.1%	776 37.7%	45 2.2%
80-	201 31.5%	49 7.7%	59 9.2%	309 48.4%	290 45.4%	40 6.3%
(再掲)						
35-44	400 26.3%	193 12.7%	350 23.0%	943 62.0%	570 37.5%	9 0.6%
40-64	1,503 32.6%	533 11.6%	971 21.1%	3,007 65.3%	1,579 34.3%	21 0.5%
65-	1,527 38.7%	340 8.6%	479 12.2%	2,346 59.5%	1,496 38.0%	99 2.5%
総計	3,378 32.6%	1,072 10.4%	1,879 18.1%	6,329 61.1%	3,900 37.7%	127 1.2%

図 44 デンタルフロスや歯間ブラシを使うことがある(年代別)

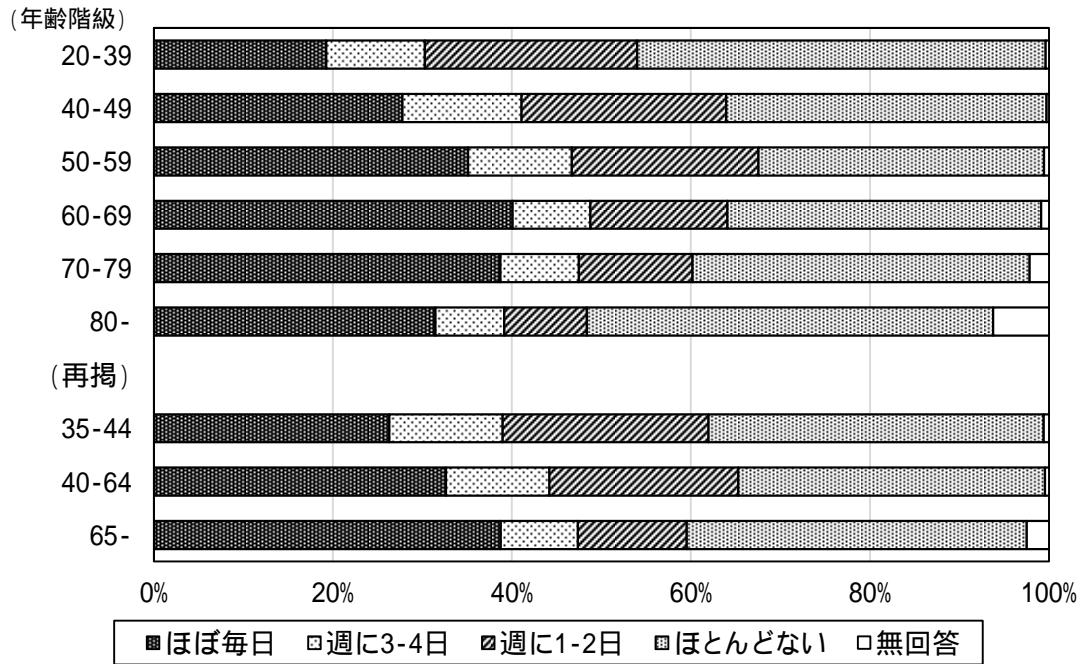


表 58, 図 45 週 1 回以上、デンタルフロスや歯間ブラシを使うことがある者の割合(前回比較)

年齢階級	(%)	
	平成21年度	平成26年度
20-39	53.4	54.0
40-64	64.2	65.3
65-	58.3	59.5
(再掲)		
35-44	62.3	62.0

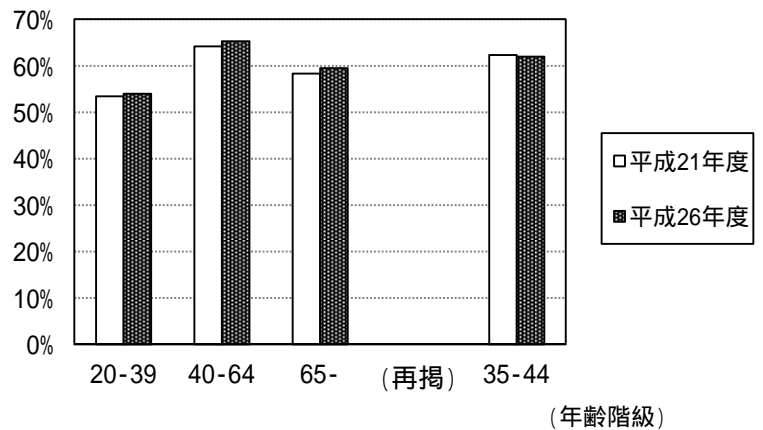


表 59 デンタルフロスや
歯間ブラシを使うことがある(男性)

【男性】		(人)				
年齢 階級	ほぼ 毎日	週に 3-4日	週に 1-2日	ほとんど ない	無回答	
20-39	98	62	160	416	2	
	13.3%	8.4%	21.7%	56.4%	0.3%	
40-49	162	76	146	354	2	
	21.9%	10.3%	19.7%	47.8%	0.3%	
50-59	185	77	165	315	6	
	24.7%	10.3%	22.1%	42.1%	0.8%	
60-69	310	54	146	487	5	
	30.9%	5.4%	14.6%	48.6%	0.5%	
70-79	258	59	96	368	16	
	32.4%	7.4%	12.0%	46.2%	2.0%	
80-	71	17	23	143	12	
	26.7%	6.4%	8.6%	53.8%	4.5%	
(再掲)						
40-64	471	179	401	907	11	
	23.9%	9.1%	20.4%	46.1%	0.6%	
65-	515	104	175	760	30	
	32.5%	6.6%	11.0%	48.0%	1.9%	
総計	1,084	345	736	2,083	43	
	25.3%	8.0%	17.2%	48.5%	1.0%	

表 60 デンタルフロスや
歯間ブラシを使うことがある(女性)

【女性】		(人)				
年齢 階級	ほぼ 毎日	週に 3-4日	週に 1-2日	ほとんど ない	無回答	
20-39	250	137	269	409	5	
	23.4%	12.8%	25.1%	38.2%	0.5%	
40-49	345	167	271	300	3	
	31.8%	15.4%	25.0%	27.6%	0.3%	
50-59	427	125	199	241	4	
	42.9%	12.6%	20.0%	24.2%	0.4%	
60-69	603	144	203	312	15	
	47.2%	11.3%	15.9%	24.4%	1.2%	
70-79	539	122	165	408	29	
	42.7%	9.7%	13.1%	32.3%	2.3%	
80-	130	32	36	147	28	
	34.9%	8.6%	9.7%	39.4%	7.5%	
(再掲)						
40-64	1,032	354	570	672	10	
	39.1%	13.4%	21.6%	25.5%	0.4%	
65-	1,012	236	304	736	69	
	42.9%	10.0%	12.9%	31.2%	2.9%	
総計	2,294	727	1,143	1,817	84	
	37.8%	12.0%	18.8%	30.0%	1.4%	

エ フッ化物配合歯磨剤の使用

フッ化物配合歯磨剤の使用については、前回(平成 21 年度)と概ね同じ傾向であったが、65 歳以上で若干減少した。全年齢でのフッ化物配合と認識して歯磨剤を使用している者は 3 割を切っており、市販の歯磨剤の 9 割がフッ化物配合であるといわれているものの、その知識の普及がまだ十分でなく、また、進んでいないことがうかがわれた。同時に、歯磨剤のフッ化物によるう蝕予防効果についての具体的な認識も不足しているものと推察される。女性の方が男性よりフッ化物配合と認識して歯磨剤を使用している者が多い傾向が認められた。

フッ化物配合歯磨剤の使用頻度についても、前回(平成 21 年度)と概ね同じ傾向であったが、80 歳以上での減少が顕著であった。ただし、無回答が増加しているため、その内訳は明らかでない。ほぼ毎日使うと回答した者については、男女間で大きな差を認めなかった。

表 61 フッ化物配合歯磨剤の使用

(人)

年齢 階級	フッ化物入り 歯磨剤を使用	フッ化物入り かどうか不明	フッ化物入り でないものを 使用	歯磨剤を 未使用	無回答
20-39	610 33.7%	942 52.1%	141 7.8%	98 5.4%	17 0.9%
40-49	619 33.9%	860 47.1%	191 10.5%	134 7.3%	22 1.2%
50-59	494 28.3%	844 48.4%	213 12.2%	168 9.6%	25 1.4%
60-69	540 23.7%	1,097 48.1%	300 13.2%	280 12.3%	62 2.7%
70-79	560 27.2%	917 44.5%	213 10.3%	261 12.7%	109 5.3%
80-	152 23.8%	283 44.3%	76 11.9%	93 14.6%	35 5.5%
(再掲)					
40-64	1,372 29.8%	2,204 47.8%	537 11.7%	426 9.2%	68 1.5%
65-	993 25.2%	1,797 45.6%	456 11.6%	510 12.9%	185 4.7%
総計	2,975 28.7%	4,943 47.7%	1,134 11.0%	1,034 10.0%	270 2.6%

図 46 フッ化物配合歯磨剤の使用(年代別)

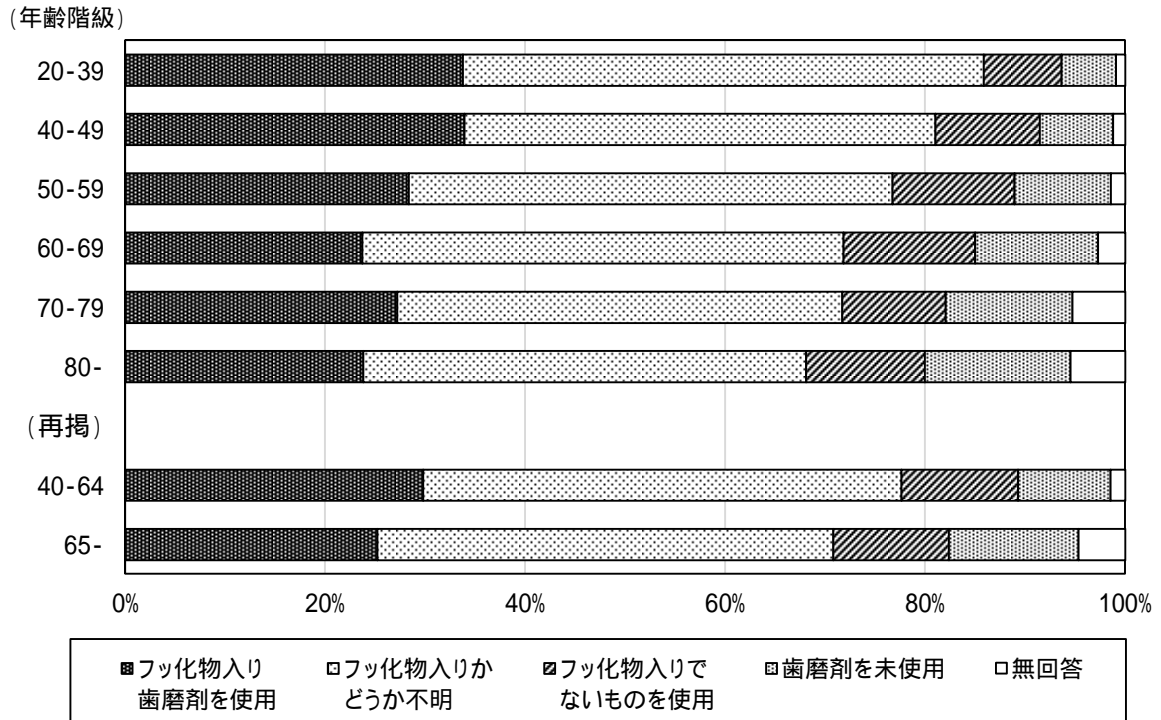


表 62, 図 47 フッ化物配合歯磨剤使用者の割合(前回比較)

(%)

年齢階級	平成21年度	平成26年度
20-39	33.3	33.7
40-64	29.0	29.8
65-	28.5	25.2

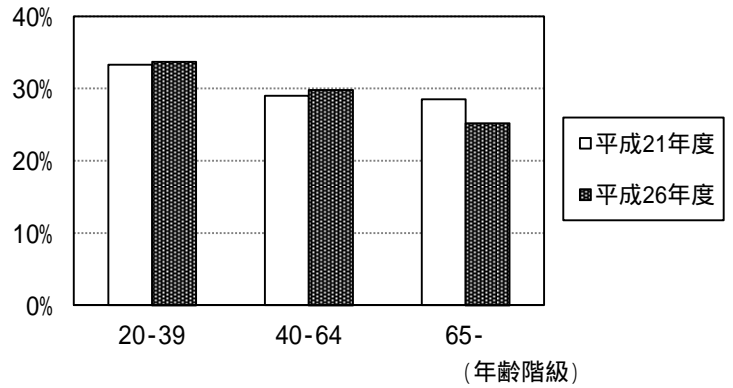


表 63 フッ化物配合歯磨剤の使用(男性)

【男性】						(人)
年齢 階級	フッ化物 入り歯 磨剤を 使用	フッ化物 入りかど うか不明	フッ化物 入りでな いものを 使用	歯磨剤 を 未使用	無回答	
20-39	204	428	60	38	8	
	27.6%	58.0%	8.1%	5.1%	1.1%	
40-49	196	396	65	71	12	
	26.5%	53.5%	8.8%	9.6%	1.6%	
50-59	163	396	102	76	11	
	21.8%	52.9%	13.6%	10.2%	1.5%	
60-69	216	480	130	149	27	
	21.6%	47.9%	13.0%	14.9%	2.7%	
70-79	194	384	77	116	26	
	24.3%	48.2%	9.7%	14.6%	3.3%	
80-	63	115	33	47	8	
	23.7%	43.2%	12.4%	17.7%	3.0%	
(再掲)						
40-64	471	1,023	227	212	36	
	23.9%	52.0%	11.5%	10.8%	1.8%	
65-	361	748	180	247	48	
	22.8%	47.2%	11.4%	15.6%	3.0%	
総計	1,036	2,199	467	497	92	
	24.1%	51.2%	10.9%	11.6%	2.1%	

表 64 フッ化物配合歯磨剤の使用(女性)

【女性】						(人)
年齢 階級	フッ化物 入り歯 磨剤を 使用	フッ化物 入りかど うか不明	フッ化物 入りでな いものを 使用	歯磨剤 を 未使用	無回答	
20-39	406	514	81	60	9	
	37.9%	48.0%	7.6%	5.6%	0.8%	
40-49	423	464	126	63	10	
	39.0%	42.7%	11.6%	5.8%	0.9%	
50-59	331	448	111	92	14	
	33.2%	45.0%	11.1%	9.2%	1.4%	
60-69	324	617	170	131	35	
	25.4%	48.3%	13.3%	10.3%	2.7%	
70-79	366	533	136	145	83	
	29.0%	42.2%	10.8%	11.5%	6.6%	
80-	89	168	43	46	27	
	23.9%	45.0%	11.5%	12.3%	7.2%	
(再掲)						
40-64	901	1,181	310	214	32	
	34.2%	44.8%	11.8%	8.1%	1.2%	
65-	632	1,049	276	263	137	
	26.8%	44.5%	11.7%	11.2%	5.8%	
総計	1,939	2,744	667	537	178	
	32.0%	45.2%	11.0%	8.9%	2.9%	

表 65 フッ化物配合歯磨剤の使用頻度 (人)

年齢階級	毎日使用	ときどき使用	無回答
20-39	506 83.0%	57 9.3%	47 7.7%
40-49	515 83.2%	44 7.1%	60 9.7%
50-59	387 78.3%	54 10.9%	53 10.7%
60-69	408 75.6%	45 8.3%	87 16.1%
70-79	424 75.7%	30 5.4%	106 18.9%
80-	101 66.4%	12 7.9%	39 25.7%
(再掲)			
40-64	1,102 80.3%	120 8.7%	150 10.9%
65-	733 73.8%	65 6.5%	195 19.6%
総計	2,341 78.7%	242 8.1%	392 13.2%

図 48 フッ化物配合歯磨剤の使用頻度

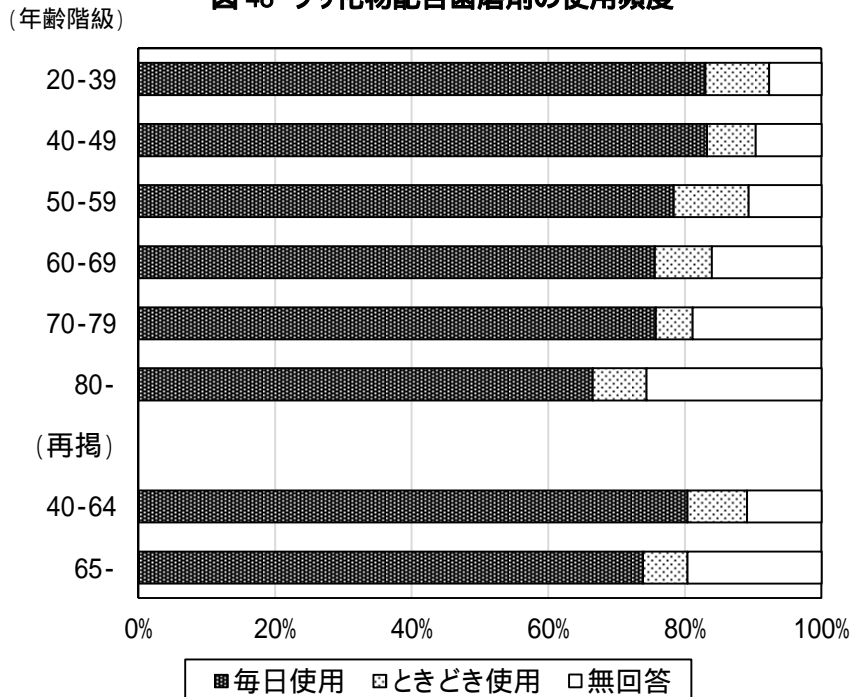


表 66 フッ化物配合歯磨剤の使用頻度(男性)

【男性】			
年齢階級	毎日使用	ときどき使用	無回答
20-39	164	23	17
	80.4%	11.3%	8.3%
40-49	159	17	20
	81.1%	8.7%	10.2%
50-59	123	19	21
	75.5%	11.7%	12.9%
60-69	165	16	35
	76.4%	7.4%	16.2%
70-79	146	12	36
	75.3%	6.2%	18.6%
80-	44	6	13
	69.8%	9.5%	20.6%
(再掲)			
40-64	369	44	58
	78.3%	9.3%	12.3%
65-	268	26	67
	74.2%	7.2%	18.6%
総計	801	93	142
	77.3%	9.0%	13.7%

表 67 フッ化物配合歯磨剤の使用頻度(女性)

【女性】			
年齢階級	毎日使用	ときどき使用	無回答
20-39	342	34	30
	84.2%	8.4%	7.4%
40-49	356	27	40
	84.2%	6.4%	9.5%
50-59	264	35	32
	79.8%	10.6%	9.7%
60-69	243	29	52
	75.0%	9.0%	16.0%
70-79	278	18	70
	76.0%	4.9%	19.1%
80-	57	6	26
	64.0%	6.7%	29.2%
(再掲)			
40-64	733	76	92
	81.4%	8.4%	10.2%
65-	465	39	128
	73.6%	6.2%	20.3%
総計	1,540	149	250
	79.4%	7.7%	12.9%

オ 歯や口腔の観察状況

週に1回以上、鏡を見て、歯や歯ぐきの様子を自分で観察する者の割合は70～79歳がピークで49.3%、月に1回以上(週に1回以上を含む)では50～59歳がピークで75.2%であった。

月に1回以上と週に1回以上を合わせると、セルフチェックする者の割合は、年代を通じて7割程度であり、20～39歳で前回(平成21年度)と比してわずかに減少したものの、他の年代では増加傾向にあり、特に高齢者において伸びが大きかった。年代を通じて、女性の方がセルフチェックする者の割合が高かった。

表 68 鏡を見て、歯や歯ぐきの様子を自分で観察すること

(人)

年齢階級	週に1回以上	月に1回以上	計	ほとんどない	無回答
20-39	762	518	1,280	516	12
	42.1%	28.7%	70.8%	28.5%	0.7%
40-49	844	480	1,324	495	7
	46.2%	26.3%	72.5%	27.1%	0.4%
50-59	826	485	1,311	429	4
	47.4%	27.8%	75.2%	24.6%	0.2%
60-69	1,083	546	1,629	628	22
	47.5%	24.0%	71.5%	27.6%	1.0%
70-79	1,015	466	1,481	542	37
	49.3%	22.6%	71.9%	26.3%	1.8%
80-	295	109	404	217	18
	46.2%	17.1%	63.2%	34.0%	2.8%
(再掲)					
40-64	2,156	1,222	3,378	1,209	20
	46.8%	26.5%	73.3%	26.2%	0.4%
65-	1,907	864	2,771	1,102	68
	48.4%	21.9%	70.3%	28.0%	1.7%
総計	4,825	2,604	7,429	2,827	100
	46.6%	25.1%	71.7%	27.3%	1.0%

図 49 鏡を見て、歯や歯ぐきの様子を自分で観察すること

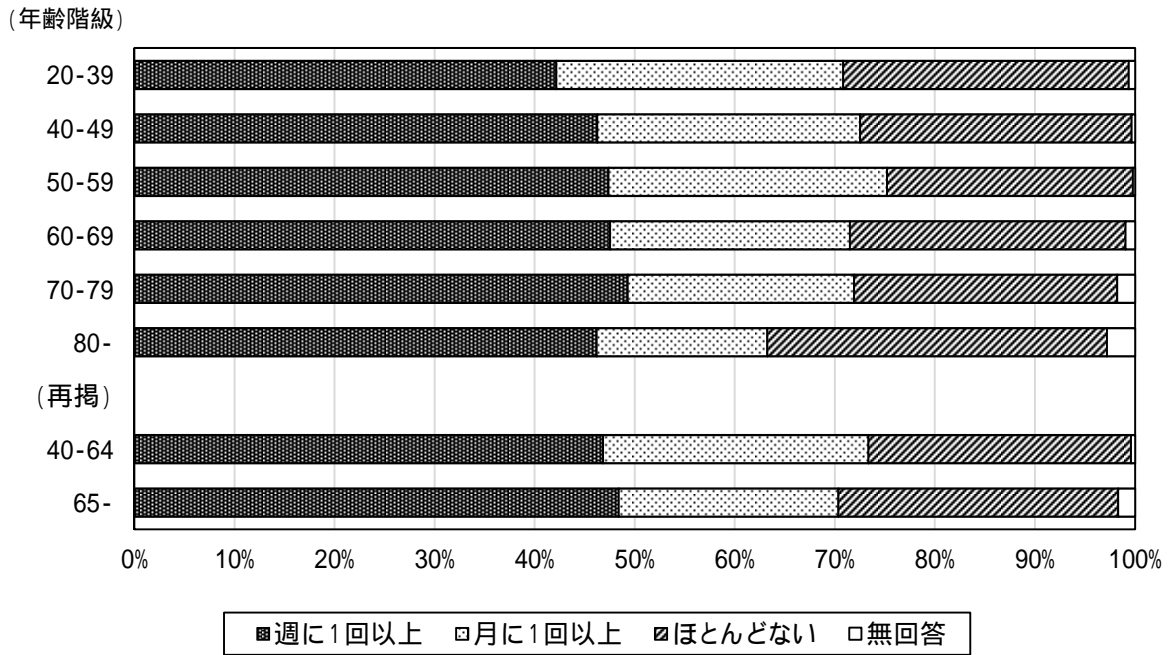


表 69, 図 50 月に1回以上セルフチェックする者の割合(前回比較)

年齢階級	(%)	
	平成21年度	平成26年度
20-39	71.8	70.8
40-64	69.2	73.3
65-	63.3	70.3

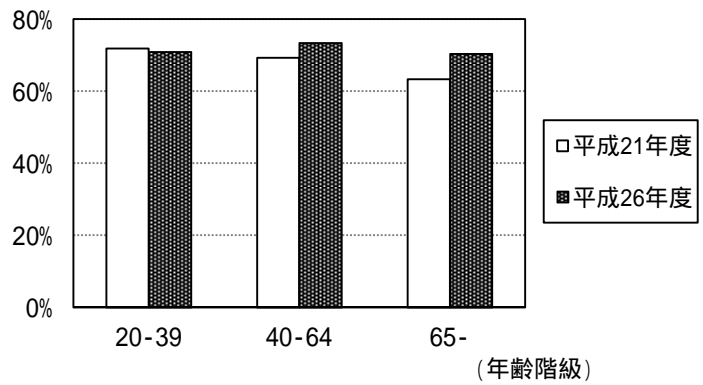


表 70 鏡を見て、歯や歯ぐきの様子を
自分で観察すること(男性)

【男性】		(人)			
年齢階級			計	ほとんど ない	無回答
	週に 1回以上	月に 1回以上			
20-39	236	225	461	272	5
	32.0%	30.5%	62.5%	36.9%	0.7%
40-49	265	202	467	271	2
	35.8%	27.3%	63.1%	36.6%	0.3%
50-59	287	196	483	263	2
	38.4%	26.2%	64.6%	35.2%	0.3%
60-69	404	237	641	354	7
	40.3%	23.7%	64.0%	35.3%	0.7%
70-79	340	169	509	279	9
	42.7%	21.2%	63.9%	35.0%	1.1%
80-	98	52	150	111	5
	36.8%	19.5%	56.4%	41.7%	1.9%
(再掲)					
40-64	751	512	1,263	699	7
	38.1%	26.0%	64.1%	35.5%	0.4%
65-	643	344	987	579	18
	40.6%	21.7%	62.3%	36.6%	1.1%
総計	1,630	1,081	2,711	1,550	30
	38.0%	25.2%	63.2%	36.1%	0.7%

表 71 鏡を見て、歯や歯ぐきの様子を
自分で観察すること(女性)

【女性】		(人)			
年齢階級			計	ほとんど ない	無回答
	週に 1回以上	月に 1回以上			
20-39	526	293	819	244	7
	49.2%	27.4%	76.5%	22.8%	0.7%
40-49	579	278	857	224	5
	53.3%	25.6%	78.9%	20.6%	0.5%
50-59	539	289	828	166	2
	54.1%	29.0%	83.1%	16.7%	0.2%
60-69	679	309	988	274	15
	53.2%	24.2%	77.4%	21.5%	1.2%
70-79	675	297	972	263	28
	53.4%	23.5%	77.0%	20.8%	2.2%
80-	197	57	254	106	13
	52.8%	15.3%	68.1%	28.4%	3.5%
(再掲)					
40-64	1,405	710	2,115	510	13
	53.3%	26.9%	80.2%	19.3%	0.5%
65-	1,264	520	1,784	523	50
	53.6%	22.1%	75.7%	22.2%	2.1%
総計	3,195	1,523	4,718	1,277	70
	52.7%	25.1%	77.8%	21.1%	1.2%

カ かかりつけ歯科医院

かかりつけ歯科医院を決めている者の割合は、前回(平成 21 年度)より 20～29 歳で減少したものの、それ以上の年代では増加し、全体では 9 割を超えた。歯科診療所を受診している患者を対象とした調査であるため、非常に高い割合となった。ただし、20～29 歳では 7 割に満たず、定期受診をより一層推進する必要があると考えられる。女性の方が男性より決めている者の割合が高い傾向は前回(平成 21 年度)と同じであった。

表 72 かかりつけ歯科医院を決めているか (人)

年齢階級	決めている	決めていない	無回答
20-29	491 68.9%	220 30.9%	2 0.3%
30-39	871 79.5%	221 20.2%	3 0.3%
40-49	1,603 87.8%	215 11.8%	8 0.4%
50-59	1,603 91.9%	136 7.8%	5 0.3%
60-69	2,178 95.6%	93 4.1%	8 0.4%
70-79	1,989 96.6%	55 2.7%	16 0.8%
80-	614 96.1%	17 2.7%	8 1.3%
(再掲)			
20-39	1,362 75.3%	441 24.4%	5 0.3%
40-64	4,197 91.1%	393 8.5%	17 0.4%
65-	3,790 96.2%	123 3.1%	28 0.7%
総計	9,349 90.3%	957 9.2%	50 0.5%

図 51 かかりつけ歯科医院を決めているか (年齢階級)

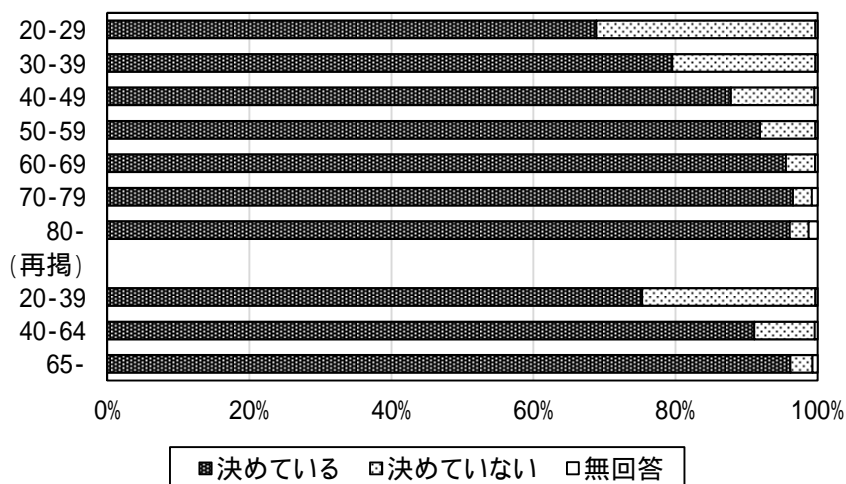


表 73 かかりつけ歯科医院を決めているか(男性)

【男性】		(人)	
年齢階級	決めている	決めていない	無回答
20-29	163	100	1
	61.7%	37.9%	0.4%
30-39	358	115	1
	75.5%	24.3%	0.2%
40-49	621	115	4
	83.9%	15.5%	0.5%
50-59	660	85	3
	88.2%	11.4%	0.4%
60-69	941	57	4
	93.9%	5.7%	0.4%
70-79	762	32	3
	95.6%	4.0%	0.4%
80-	251	12	3
	94.4%	4.5%	1.1%
(再掲)			
20-39	521	215	2
	70.6%	29.1%	0.3%
40-64	1,738	222	9
	88.3%	11.3%	0.5%
65-	1,497	79	8
	94.5%	5.0%	0.5%
総計	3,756	516	19
	87.5%	12.0%	0.4%

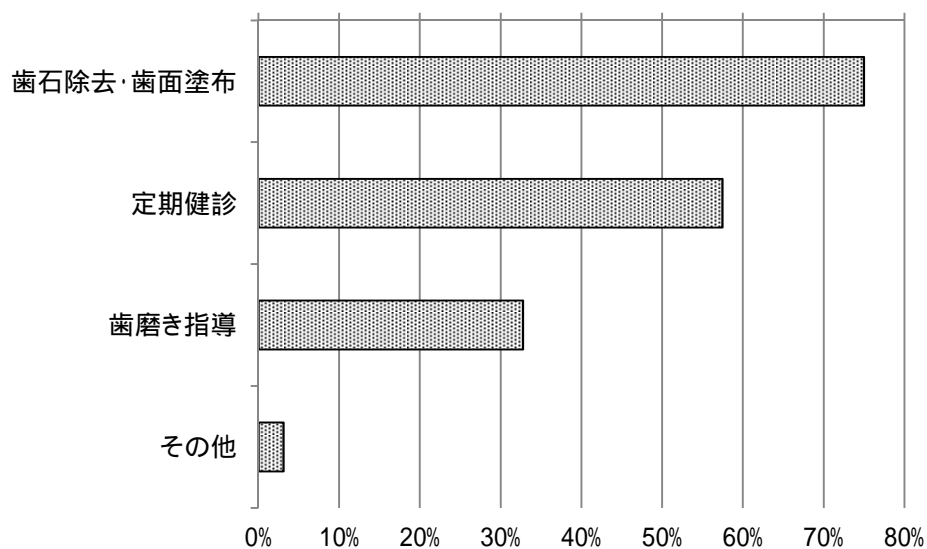
表 74 かかりつけ歯科医院を決めているか(女性)

【女性】		(人)	
年齢階級	決めている	決めていない	無回答
20-29	328	120	1
	73.1%	26.7%	0.2%
30-39	513	106	2
	82.6%	17.1%	0.3%
40-49	982	100	4
	90.4%	9.2%	0.4%
50-59	943	51	2
	94.7%	5.1%	0.2%
60-69	1,237	36	4
	96.9%	2.8%	0.3%
70-79	1,227	23	13
	97.1%	1.8%	1.0%
80-	363	5	5
	97.3%	1.3%	1.3%
(再掲)			
20-39	841	226	3
	78.6%	21.1%	0.3%
40-64	2,459	171	8
	93.2%	6.5%	0.3%
65-	2,293	44	20
	97.3%	1.9%	0.8%
総計	5,593	441	31
	92.2%	7.3%	0.5%

キ かかりつけ歯科医院で受けている内容

年1回以上の定期健診を受けている者は6割弱、歯石除去・歯面清掃は75%、歯みがき指導は3分の1程度であった。回答数が少ないため参考程度であるが、自由記載欄で最も多かった内容は入れ歯で、治療、虫歯と治療に関するもの等が上位を占め、定期健診や予防処置は定期的な治療とあわせて受けているものとうかがわれる。

図 52 かかりつけ歯科医院で受けている内容



(ア) 定期健診又は歯石除去等

かかりつけ歯科医で定期健診や歯石除去等の予防処置を受けている者の割合は、すべての年代で前回(平成 21 年度)より増加した。特に 20～39 歳で顕著で、2 割程度増加した。40 歳(35～44 歳)では 71.9%であり、「いい歯東京」の目標値 70%以上を達成した。ただし、すべての年齢層で女性の方が男性より高い傾向であり、40 歳(35～44 歳)では女性の 75.3%に対し、男性は 66.5%であり 70%に届かなかった。働き盛りの年代の男性の定期受診を促す方が必要であると考えられる。

表 75 定期健診又は歯石除去等を受けている

(人)

年齢階級	受けている	受けていない	無回答
20-29	303 61.7%	166 33.8%	22 4.5%
30-39	633 72.7%	188 21.6%	50 5.7%
40-49	1,128 70.4%	350 21.8%	125 7.8%
50-59	1,203 75.0%	289 18.0%	111 6.9%
60-69	1,730 79.4%	294 13.5%	154 7.1%
70-79	1,593 80.1%	235 11.8%	161 8.1%
80-	455 74.1%	106 17.3%	53 8.6%
(再掲)			
35-44	930 71.9%	283 21.9%	81 6.3%
20-39	936 68.7%	354 26.0%	72 5.3%
40-64	3,103 73.9%	794 18.9%	300 7.1%
65-	3,006 79.3%	480 12.7%	304 8.0%
総計	7,045 75.4%	1,628 17.4%	676 7.2%

図 53 定期健診又は歯石除去等を受けている

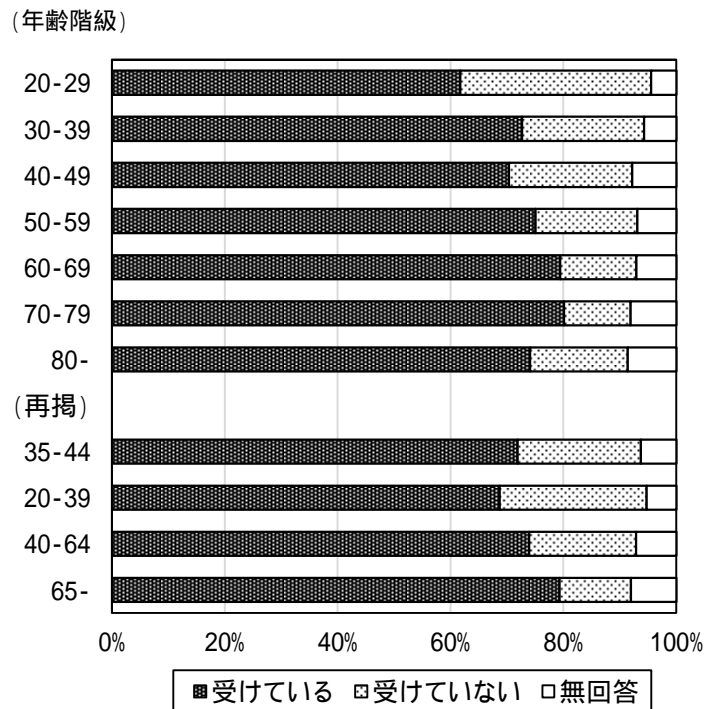


表 76,図 54 定期健診又は歯石除去等を受けている者の割合

(%)		
年齢階級	平成21年度	平成26年度
20-39	48.9	68.7
40-64	69.9	73.9
65-	77.2	79.3
(再掲)		
35-44	59.6	71.9

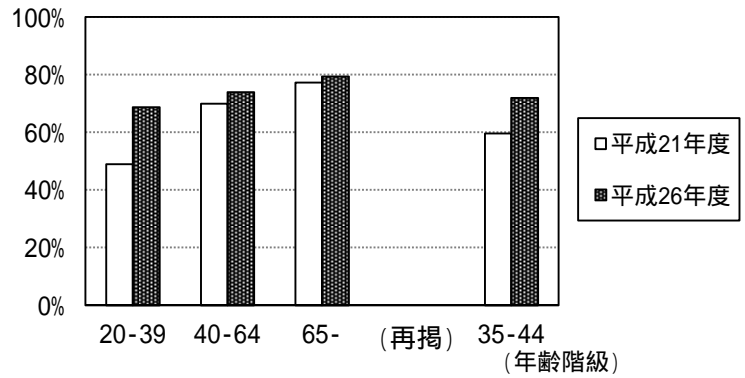


表 77 定期健診又は歯石除去等を受けている(男性)

[男性] (人)			
年齢階級	受けている	受けていない	無回答
20-29	94	59	10
	57.7%	36.2%	6.1%
30-39	241	94	23
	67.3%	26.3%	6.4%
40-49	400	168	53
	64.4%	27.1%	8.5%
50-59	454	158	48
	68.8%	23.9%	7.3%
60-69	720	154	67
	76.5%	16.4%	7.1%
70-79	589	111	62
	77.3%	14.6%	8.1%
80-	174	59	18
	69.3%	23.5%	7.2%
(再掲)			
35-44	337	136	34
	66.5%	26.8%	6.7%
20-39	335	153	33
	64.3%	29.4%	6.3%
40-64	1,194	413	131
	68.7%	23.8%	7.5%
65-	1,143	237	117
	76.4%	15.8%	7.8%
総計	2,672	803	281
	71.1%	21.4%	7.5%

表 78 定期健診又は歯石除去等を受けている(女性)

[女性] (人)			
年齢階級	受けている	受けていない	無回答
20-29	209	107	12
	63.7%	32.6%	3.7%
30-39	392	94	27
	76.4%	18.3%	5.3%
40-49	728	182	72
	74.1%	18.5%	7.3%
50-59	749	131	63
	79.4%	13.9%	6.7%
60-69	1,010	140	87
	81.6%	11.3%	7.0%
70-79	1,004	124	99
	81.8%	10.1%	8.1%
80-	281	47	35
	77.4%	12.9%	9.6%
(再掲)			
35-44	593	147	47
	75.3%	18.7%	6.0%
20-39	601	201	39
	71.5%	23.9%	4.6%
40-64	1,909	381	169
	77.6%	15.5%	6.9%
65-	1,863	243	187
	81.2%	10.6%	8.2%
総計	4,373	825	395
	78.2%	14.8%	7.1%

表 79 定期健診(年1回以上) (人)

年齢階級	受けている	受けていない	無回答
20-29	172 56.8%	125 41.3%	6 2.0%
30-39	380 60.0%	227 35.9%	26 4.1%
40-49	666 59.0%	407 36.1%	55 4.9%
50-59	690 57.4%	441 36.7%	72 6.0%
60-69	996 57.6%	580 33.5%	154 8.9%
70-79	896 56.2%	508 31.9%	189 11.9%
80-	246 54.1%	128 28.1%	81 17.8%
(再掲)			
20-39	552 59.0%	352 37.6%	32 3.4%
40-64	1,796 57.9%	1,123 36.2%	184 5.9%
65-	1,698 56.5%	941 31.3%	367 12.2%
総計	4,046 57.4%	2,416 34.3%	583 8.3%

図 55 定期健診(年1回以上)

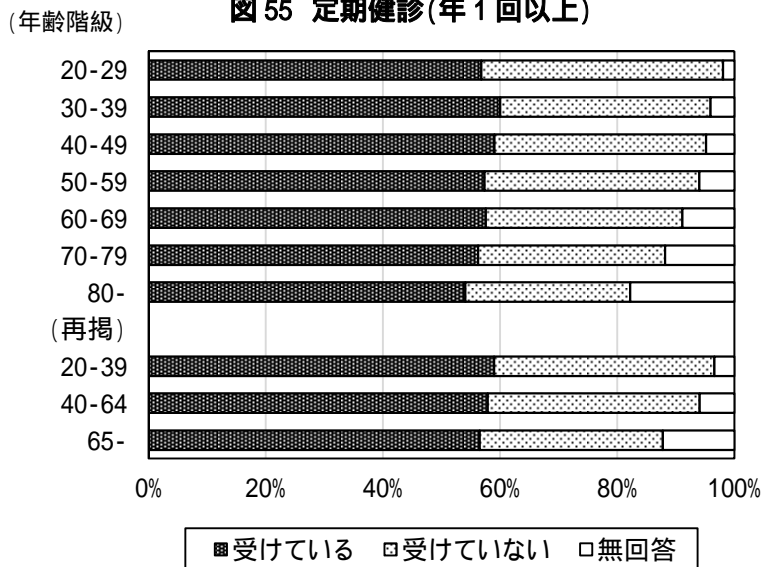


表 80 歯石除去・歯面清掃

(人)

年齢階級	受けている	受けていない	無回答
20-29	234 77.2%	63 20.8%	6 2.0%
30-39	501 79.1%	106 16.7%	26 4.1%
40-49	907 80.4%	166 14.7%	55 4.9%
50-59	953 79.2%	178 14.8%	72 6.0%
60-69	1,305 75.4%	271 15.7%	154 8.9%
70-79	1,115 70.0%	289 18.1%	189 11.9%
80-	268 58.9%	106 23.3%	81 17.8%
(再掲)			
20-39	735 78.5%	169 18.1%	32 3.4%
40-64	2,468 79.5%	451 14.5%	184 5.9%
65-	2,080 69.2%	559 18.6%	367 12.2%
総計	5,283 75.0%	1,179 16.7%	583 8.3%

(年齢階級)

図 56 歯石除去・歯面清掃

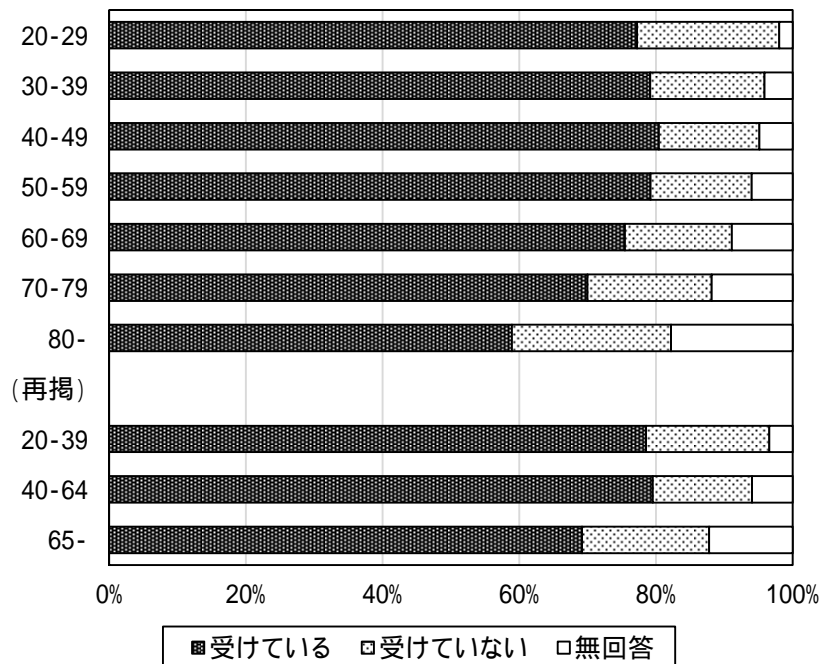


表 81 歯磨き指導

(人)

年齢階級	受けている	受けていない	無回答
20-29	107 35.3%	190 62.7%	6 2.0%
30-39	213 33.6%	394 62.2%	26 4.1%
40-49	377 33.4%	696 61.7%	55 4.9%
50-59	399 33.2%	732 60.8%	72 6.0%
60-69	582 33.6%	994 57.5%	154 8.9%
70-79	510 32.0%	894 56.1%	189 11.9%
80-	119 26.2%	255 56.0%	81 17.8%
(再掲)			
20-39	320 34.2%	584 62.4%	32 3.4%
40-64	1,045 33.7%	1,874 60.4%	184 5.9%
65-	942 31.3%	1,697 56.5%	367 12.2%
総計	2,307 32.7%	4,155 59.0%	583 8.3%

図 57 歯磨き指導

(年齢階級)

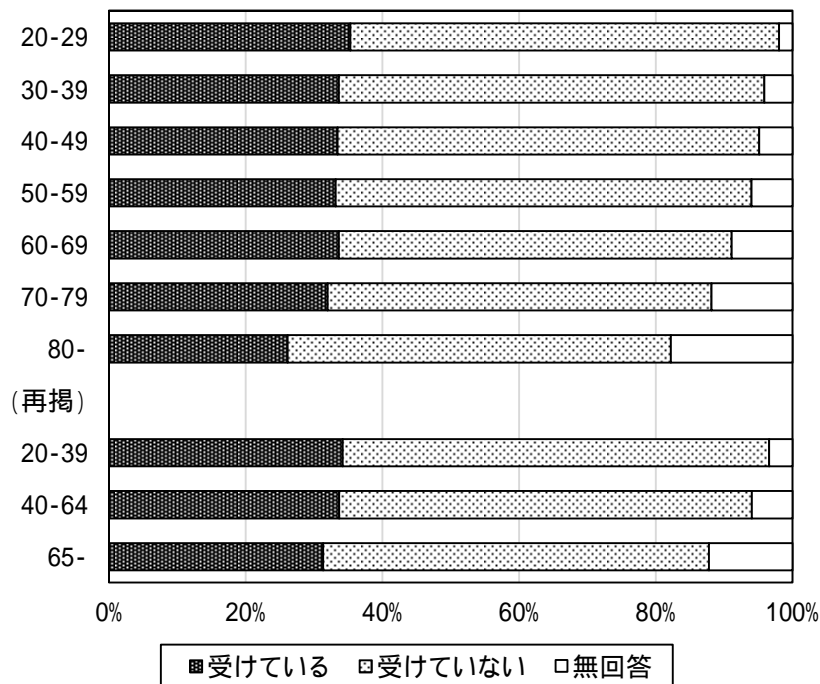


表 82 その他

(人)

年齢階級	受けている	受けていない	無回答
20-29	9 3.0%	288 95.0%	6 2.0%
30-39	16 2.5%	591 93.4%	26 4.1%
40-49	22 2.0%	1,051 93.2%	55 4.9%
50-59	31 2.6%	1,100 91.4%	72 6.0%
60-69	70 4.0%	1,506 87.1%	154 8.9%
70-79	56 3.5%	1,348 84.6%	189 11.9%
80-	13 2.9%	361 79.3%	81 17.8%
(再掲)			
20-39	25 2.7%	879 93.9%	32 3.4%
40-64	82 2.6%	2,837 91.4%	184 5.9%
65-	110 3.7%	2,529 84.1%	367 12.2%
総計	217 3.1%	6,245 88.6%	583 8.3%

図 58 その他

(年齢階級)

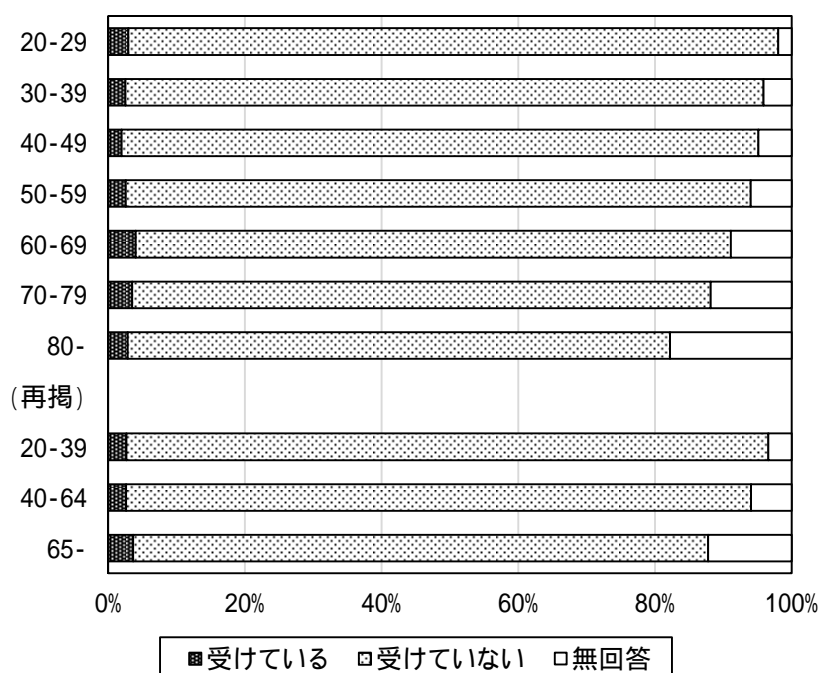
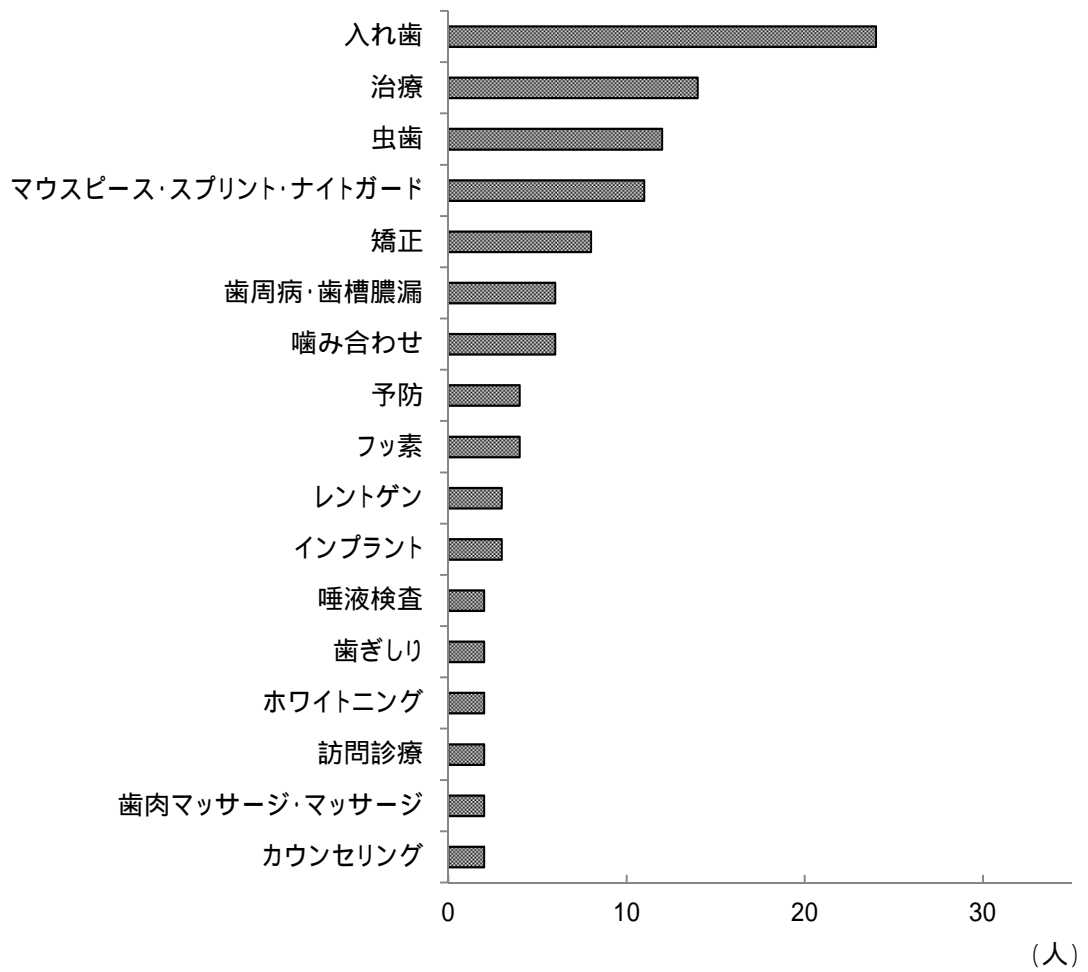


図 59 かかりつけ歯科医院で受けている その他 主な自由記載



ク 自分自身の口腔保健に関する関心(現在歯数と自己評価との差)

無回答の比率が相当に高いため、前回(平成 21 年度)と直接数値で比較するには妥当性が乏しいものの、現在歯数と自己評価の差が1歯以内の割合は、どの年代も1~2割ほど大きく減少した。現在歯数が多いほど誤差が大きくなることが推察されるが、自らの口腔内状況への興味の指標として見た場合、歯の本数に関する歯科保健指導・教育の拡充が望ましいと考える。

表 83 現在歯数と自己評価の差 (人)

年齢階級	1歯以内	2歯以上	無回答
20-29	276 38.7%	90 12.6%	347 48.7%
30-39	433 39.5%	141 12.9%	521 47.6%
40-49	704 38.6%	209 11.4%	913 50.0%
50-59	584 33.5%	208 11.9%	952 54.6%
60-69	619 27.2%	349 15.3%	1,311 57.5%
70-79	602 29.2%	335 16.3%	1,123 54.5%
80-	187 29.3%	85 13.3%	367 57.4%
(再掲)			
20-39	709 39.2%	231 12.8%	868 48.0%
40-64	1,561 33.9%	569 12.4%	2,477 53.8%
65-	1,135 28.8%	617 15.7%	2,189 55.5%
総計	3,405 32.9%	1,417 13.7%	5,534 53.4%

(年齢階級)

図 60 現在歯数と自己評価の差

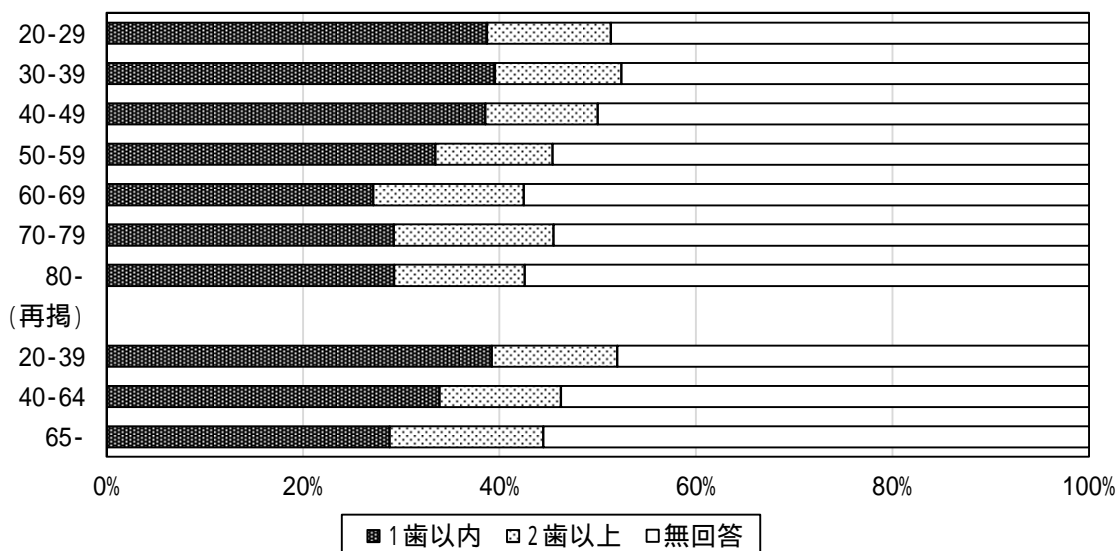


表 84,図 61 現在歯数と自己評価の差: 1 歯以内の割合 (前回比較)

年齢階級	(%)	
	平成21年度	平成26年度
20-39	56.3	39.2
40-64	46.1	33.9
65-	38.8	28.8

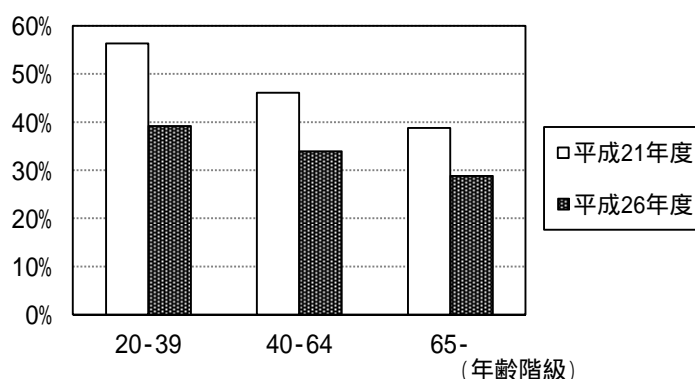


表 85 現在歯数と自己評価の差(男性)

年齢階級	[男性] (人)		
	1 歯以内	2 歯以上	無回答
20-29	89	37	138
	33.7%	14.0%	52.3%
30-39	163	62	249
	34.4%	13.1%	52.5%
40-49	264	86	390
	35.7%	11.6%	52.7%
50-59	199	100	449
	26.6%	13.4%	60.0%
60-69	251	166	585
	25.0%	16.6%	58.4%
70-79	233	150	414
	29.2%	18.8%	51.9%
80-	85	33	148
	32.0%	12.4%	55.6%
(再掲)			
20-39	252	99	387
	34.1%	13.4%	52.4%
40-64	578	261	1,130
	29.4%	13.3%	57.4%
65-	454	274	856
	28.7%	17.3%	54.0%
総計	1,284	634	2,373
	29.9%	14.8%	55.3%

表 86 現在歯数と自己評価の差(女性)

年齢階級	[女性] (人)		
	1 歯以内	2 歯以上	無回答
20-29	187	53	209
	41.6%	11.8%	46.5%
30-39	270	79	272
	43.5%	12.7%	43.8%
40-49	440	123	523
	40.5%	11.3%	48.2%
50-59	385	108	503
	38.7%	10.8%	50.5%
60-69	368	183	726
	28.8%	14.3%	56.9%
70-79	369	185	709
	29.2%	14.6%	56.1%
80-	102	52	219
	27.3%	13.9%	58.7%
(再掲)			
20-39	457	132	481
	42.7%	12.3%	45.0%
40-64	983	308	1,347
	37.3%	11.7%	51.1%
65-	681	343	1,333
	28.9%	14.6%	56.6%
総計	2,121	783	3,161
	35.0%	12.9%	52.1%

ケ 喫煙と歯周病の関係を知っている者

喫煙が歯周病のリスク因子であることを知っている者の割合は、20歳以上で前回(平成21年度)の54.4%から54.2%へとわずかに減少し、「いい歯東京」の目標を達成しなかった。半数強の認知度でありながら、ほぼすべての年代で横ばいであり、さらなる知識の普及が必要であろう。ただし、喫煙率も21.6%(成人男性33.7%、成人女性9.7%)(平成25年国民生活基礎調査)と年々減少していることも考慮すべき要素の1つであろう。学齢期までにおける正しい知識の普及が重要であると考えられる。

表 87,88,89 喫煙と歯周病の関係を知っている者(男女間の比較)

【全体】 (人)				【男性】 (人)				【女性】 (人)			
年齢 階級	知って いる	知らな い	無回答	年齢 階級	知って いる	知らな い	無回答	年齢 階級	知って いる	知らな い	無回答
20-29	403	310	0	20-29	144	120	0	20-29	259	190	0
	56.5%	43.5%	0.0%		54.5%	45.5%	0.0%		57.7%	42.3%	0.0%
30-39	568	526	1	30-39	239	235	0	30-39	329	291	1
	51.9%	48.0%	0.1%		50.4%	49.6%	0.0%		53.0%	46.9%	0.2%
40-49	969	854	3	40-49	382	357	1	40-49	587	497	2
	53.1%	46.8%	0.2%		51.6%	48.2%	0.1%		54.1%	45.8%	0.2%
50-59	983	758	3	50-59	410	337	1	50-59	573	421	2
	56.4%	43.5%	0.2%		54.8%	45.1%	0.1%		57.5%	42.3%	0.2%
60-69	1,256	996	27	60-69	534	462	6	60-69	722	534	21
	55.1%	43.7%	1.2%		53.3%	46.1%	0.6%		56.5%	41.8%	1.6%
70-79	1,135	845	80	70-79	413	370	14	70-79	722	475	66
	55.1%	41.0%	3.9%		51.8%	46.4%	1.8%		57.2%	37.6%	5.2%
80-	301	296	42	80-	117	141	8	80-	184	155	34
	47.1%	46.3%	6.6%		44.0%	53.0%	3.0%		49.3%	41.6%	9.1%
(再掲)				(再掲)				(再掲)			
20-39	971	836	1	20-39	383	355	0	20-39	588	481	1
	53.7%	46.2%	0.1%		51.9%	48.1%	0.0%		55.0%	45.0%	0.1%
40-64	2,511	2,083	13	40-64	1,047	918	4	40-64	1,464	1,165	9
	54.5%	45.2%	0.3%		53.2%	46.6%	0.2%		55.5%	44.2%	0.3%
65-	2,133	1,666	142	65-	809	749	26	65-	1,324	917	116
	54.1%	42.3%	3.6%		51.1%	47.3%	1.6%		56.2%	38.9%	4.9%
総計	5,615	4,585	156	総計	2,239	2,022	30	総計	3,376	2,563	126
	54.2%	44.3%	1.5%		52.2%	47.1%	0.7%		55.7%	42.3%	2.1%

図 62 喫煙と歯周病の関係を知っている者(年代別)

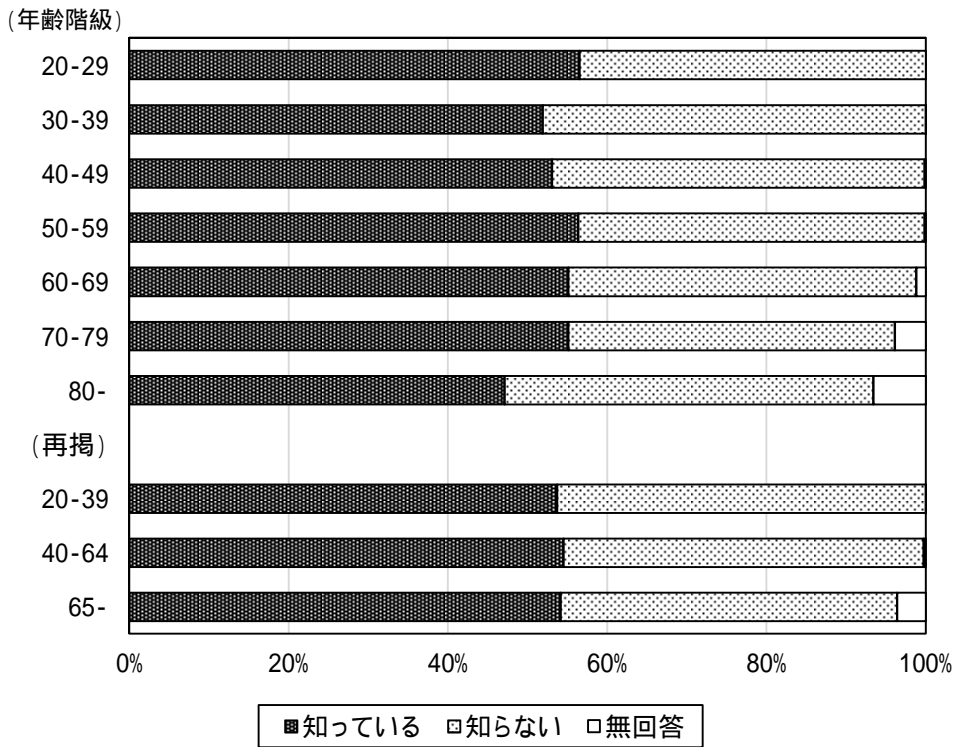
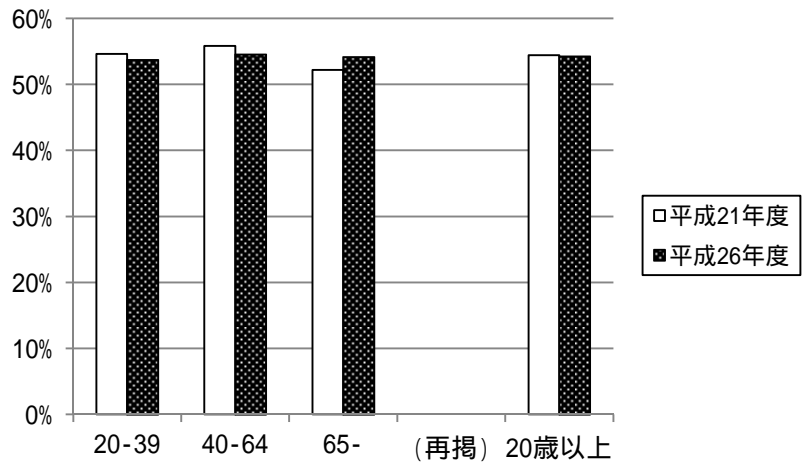


表 90, 図 63 喫煙が歯周病のリスク因子であることを知っている者の割合(前回比較)

年齢階級	平成21年度 (%)	平成26年度 (%)
20-39	54.6	53.7
40-64	55.8	54.5
65-	52.2	54.1
(再掲) 20歳以上	54.4	54.2



コ 糖尿病と歯周病の関係を知っている者

糖尿病が歯周病のリスク因子であることを知っている者の割合は、20 歳以上で前回(平成 21 年度)の 42.3%から 49.7%へと増加し、「いい歯東京」の目標を達成した。糖尿病については、「糖尿病が強く疑われる者」と「糖尿病の可能性を否定できない者」を合わせると成人男性が 27.3%、成人女性が 21.8% (平成 24 年国民健康・栄養調査)であることを考え合わせると、生活習慣病やメタボリックシンドロームに関する知識の普及啓発も相まって、糖尿病と歯周病の関連についても順調に知識の普及が進んでいるものと思われる。

表 91,92,93 糖尿病と歯周病の関係を知っている者(全体、性別)

【全体】 (人)				【男性】 (人)				【女性】 (人)			
年齢階級	知っている	知らない	無回答	年齢階級	知っている	知らない	無回答	年齢階級	知っている	知らない	無回答
20-29	251	458	4	20-29	76	188	0	20-29	175	270	4
	35.2%	64.2%	0.6%		28.8%	71.2%	0.0%		39.0%	60.1%	0.9%
30-39	406	684	5	30-39	127	345	2	30-39	279	339	3
	37.1%	62.5%	0.5%		26.8%	72.8%	0.4%		44.9%	54.6%	0.5%
40-49	816	1,008	2	40-49	275	464	1	40-49	541	544	1
	44.7%	55.2%	0.1%		37.2%	62.7%	0.1%		49.8%	50.1%	0.1%
50-59	957	785	2	50-59	340	406	2	50-59	617	379	0
	54.9%	45.0%	0.1%		45.5%	54.3%	0.3%		61.9%	38.1%	0.0%
60-69	1,299	960	20	60-69	524	471	7	60-69	775	489	13
	57.0%	42.1%	0.9%		52.3%	47.0%	0.7%		60.7%	38.3%	1.0%
70-79	1,122	894	44	70-79	371	418	8	70-79	751	476	36
	54.5%	43.4%	2.1%		46.5%	52.4%	1.0%		59.5%	37.7%	2.9%
80-	296	311	32	80-	103	156	7	80-	193	155	25
	46.3%	48.7%	5.0%		38.7%	58.6%	2.6%		51.7%	41.6%	6.7%
(再掲)				(再掲)				(再掲)			
20-39	657	1,142	9	20-39	203	533	2	20-39	454	609	7
	36.3%	63.2%	0.5%		27.5%	72.2%	0.3%		42.4%	56.9%	0.7%
40-64	2,374	2,226	7	40-64	881	1,084	4	40-64	1,493	1,142	3
	51.5%	48.3%	0.2%		44.7%	55.1%	0.2%		56.6%	43.3%	0.1%
65-	2,116	1,732	93	65-	732	831	21	65-	1,384	901	72
	53.7%	43.9%	2.4%		46.2%	52.5%	1.3%		58.7%	38.2%	3.1%
総計	5,147	5,100	109	総計	1,816	2,448	27	総計	3,331	2,652	82
	49.7%	49.2%	1.1%		42.3%	57.0%	0.6%		54.9%	43.7%	1.4%

図 64 糖尿病と歯周病の関係を知っている者(年代別)

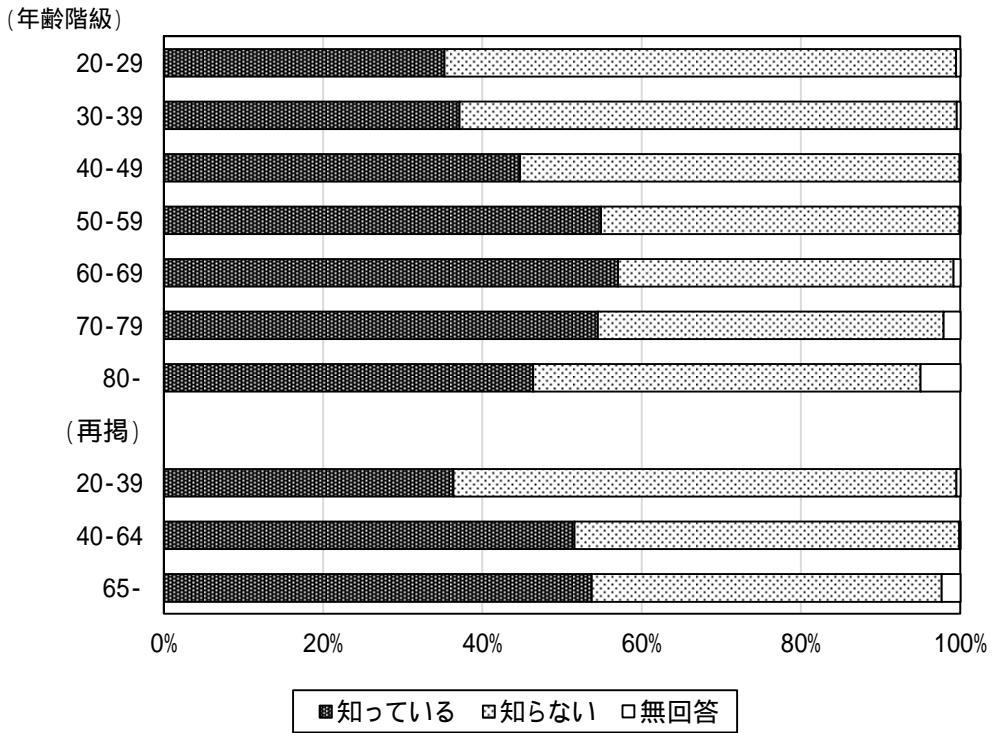
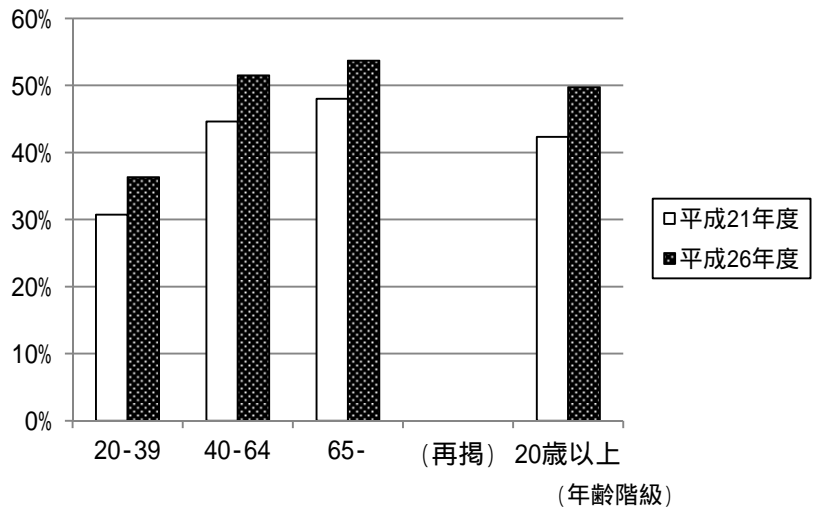


表 94, 図 65 糖尿病が歯周病のリスク因子であることを知っている(前回比較)

年齢階級	(%)	
	平成21年度	平成26年度
20-39	30.7	36.3
40-64	44.6	51.5
65-	48.0	53.7
(再掲) 20歳以上	42.3	49.7



サ 歯や入れ歯の(口腔)清潔と誤嚥性肺炎との関係を知っている者

歯や入れ歯、舌などを清潔にすることが誤嚥性肺炎を予防することを知っている者の割合は、前回(平成 21 年度)と比してすべての年代で増加した。65 歳以上ではほぼ半数が知っていると回答しており、知識の普及が進んでいる。一方、前回(平成 21 年度)同様、すべての年代で女性の方が男性より知っている割合が高かった。20 歳以上で知っている者の割合は 38.5%で、前回(平成 21 年度)の 31.6%を上回り、「いい歯東京」の目標を達成した。

表 95,96,97 歯や入れ歯の(口腔)清潔と誤嚥性肺炎との関係を知っている者(性別)

【全体】 (人)				【男性】 (人)				【女性】 (人)			
年齢 階級	知って いる	知ら ない	無回答	年齢 階級	知って いる	知ら ない	無回答	年齢 階級	知って いる	知ら ない	無回答
20-29	159	552	2	20-29	34	230	0	20-29	125	322	2
	22.3%	77.4%	0.3%		12.9%	87.1%	0.0%		27.8%	71.7%	0.4%
30-39	235	856	4	30-39	59	414	1	30-39	176	442	3
	21.5%	78.2%	0.4%		12.4%	87.3%	0.2%		28.3%	71.2%	0.5%
40-49	523	1,296	7	40-49	157	580	3	40-49	366	716	4
	28.6%	71.0%	0.4%		21.2%	78.4%	0.4%		33.7%	65.9%	0.4%
50-59	711	1,029	4	50-59	212	534	2	50-59	499	495	2
	40.8%	59.0%	0.2%		28.3%	71.4%	0.3%		50.1%	49.7%	0.2%
60-69	995	1,261	23	60-69	332	660	10	60-69	663	601	13
	43.7%	55.3%	1.0%		33.1%	65.9%	1.0%		51.9%	47.1%	1.0%
70-79	1,036	974	50	70-79	307	478	12	70-79	729	496	38
	50.3%	47.3%	2.4%		38.5%	60.0%	1.5%		57.7%	39.3%	3.0%
80-	324	293	22	80-	106	150	10	80-	218	143	12
	50.7%	45.9%	3.4%		39.8%	56.4%	3.8%		58.4%	38.3%	3.2%
(再掲)				(再掲)				(再掲)			
20-39	394	1,408	6	20-39	93	644	1	20-39	301	764	5
	21.8%	77.9%	0.3%		12.6%	87.3%	0.1%		28.1%	71.4%	0.5%
40-64	1,655	2,933	19	40-64	525	1,434	10	40-64	1,130	1,499	9
	35.9%	63.7%	0.4%		26.7%	72.8%	0.5%		42.8%	56.8%	0.3%
65-	1,934	1,920	87	65-	589	968	27	65-	1,345	952	60
	49.1%	48.7%	2.2%		37.2%	61.1%	1.7%		57.1%	40.4%	2.5%
総計	3,983	6,261	112	総計	1,207	3,046	38	総計	2,776	3,215	74
	38.5%	60.5%	1.1%		28.1%	71.0%	0.9%		45.8%	53.0%	1.2%

図 66 歯や入れ歯の(口腔)清潔と誤嚥性肺炎との関係を知っている者(年代別)

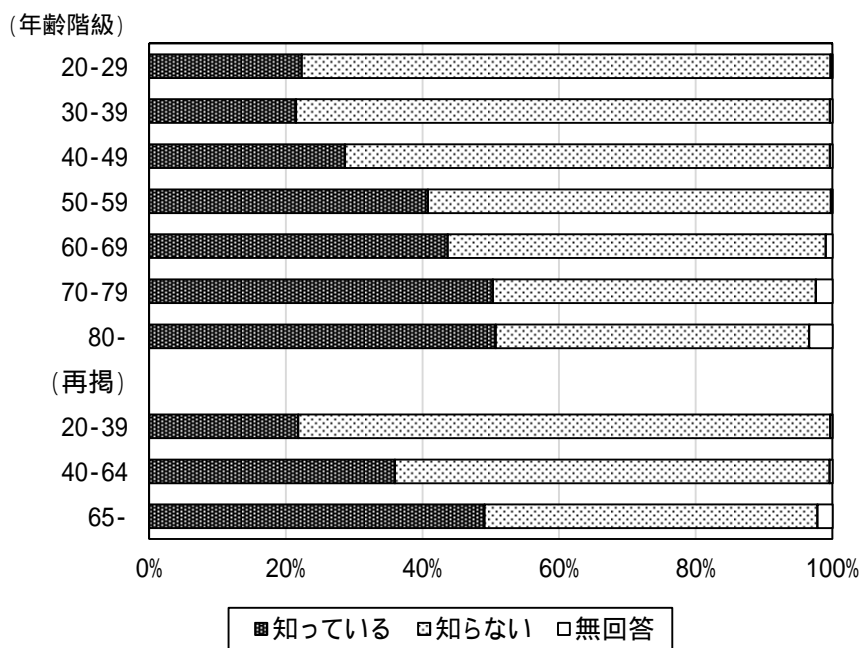
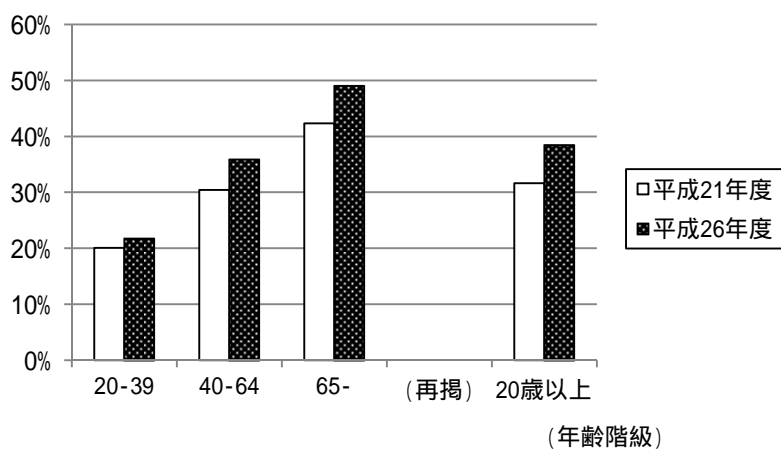


表 98,図 67 歯や入れ歯の(口腔)清潔と誤嚥性肺炎との関係を知っている者(前回比較)

年齢階級	(%)	
	平成21年度	平成26年度
20-39	20.1	21.8
40-64	30.4	35.9
65-	42.3	49.1
(再掲)		
20歳以上	31.6	38.5



シ よく噛む(一口 30 回程度)習慣

(ア) よく噛む(一口 30 回程度)習慣の状況

普段、よく噛む(一口 30 回程度)ようにしていると回答した者は、前回(平成 21 年度)の 39.4%から 38.4%へとわずかに減少した。すべての年代でわずかに減少しているものの、傾向は前回(平成 21 年度)から変わっていない。男女とも減少しており、女性の方が男性よりもよく噛む者の割合が高い傾向も前回(平成 21 年度)と同じであった。男女とも 30 歳代が最も噛むようにしている者の割合が少なく、仕事や子育てなど多忙により食への関心が低下していることが考えられる。一方で、同年代は子育て世代であることから、食育への取り組みが親子双方にとって効果的な方略であると思われる。

65 歳(60~69 歳)でよく噛む者の割合は 38.8%で、前回(平成 21 年度)の 41.4%を下回り、「いい歯 東京」の目標を達成しなかった。

表 99,100,101 よく噛む(一口 30 回程度)習慣について(性別)

【全体】 (人)				【男性】 (人)				【女性】 (人)			
年齢階級	噛むようにしている	していない	無回答	年齢階級	噛むようにしている	していない	無回答	年齢階級	噛むようにしている	していない	無回答
20-29	245	466	2	20-29	77	186	1	20-29	168	280	1
	34.4%	65.4%	0.3%		29.2%	70.5%	0.4%		37.4%	62.4%	0.2%
30-39	328	765	2	30-39	120	354	0	30-39	208	411	2
	30.0%	69.9%	0.2%		25.3%	74.7%	0.0%		33.5%	66.2%	0.3%
40-49	613	1,209	4	40-49	213	526	1	40-49	400	683	3
	33.6%	66.2%	0.2%		28.8%	71.1%	0.1%		36.8%	62.9%	0.3%
50-59	593	1,140	11	50-59	226	520	2	50-59	367	620	9
	34.0%	65.4%	0.6%		30.2%	69.5%	0.3%		36.8%	62.2%	0.9%
60-69	884	1,373	22	60-69	361	635	6	60-69	523	738	16
	38.8%	60.2%	1.0%		36.0%	63.4%	0.6%		41.0%	57.8%	1.3%
70-79	985	1,036	39	70-79	370	420	7	70-79	615	616	32
	47.8%	50.3%	1.9%		46.4%	52.7%	0.9%		48.7%	48.8%	2.5%
80-	331	295	13	80-	137	124	5	80-	194	171	8
	51.8%	46.2%	2.0%		51.5%	46.6%	1.9%		52.0%	45.8%	2.1%
(再掲)				(再掲)				(再掲)			
20-39	573	1,231	4	20-39	197	540	1	20-39	376	691	3
	31.7%	68.1%	0.2%		26.7%	73.2%	0.1%		35.1%	64.6%	0.3%
40-64	1,588	2,995	24	40-64	600	1,363	6	40-64	988	1,632	18
	34.5%	65.0%	0.5%		30.5%	69.2%	0.3%		37.5%	61.9%	0.7%
65-	1,818	2,058	65	65-	707	862	15	65-	1,111	1,196	50
	46.1%	52.2%	1.6%		44.6%	54.4%	0.9%		47.1%	50.7%	2.1%
総計	3,979	6,284	93	総計	1,504	2,765	22	総計	2,475	3,519	71
	38.4%	60.7%	0.9%		35.1%	64.4%	0.5%		40.8%	58.0%	1.2%

図 68 よく噛む(一口 30 回程度)習慣について(年代別)

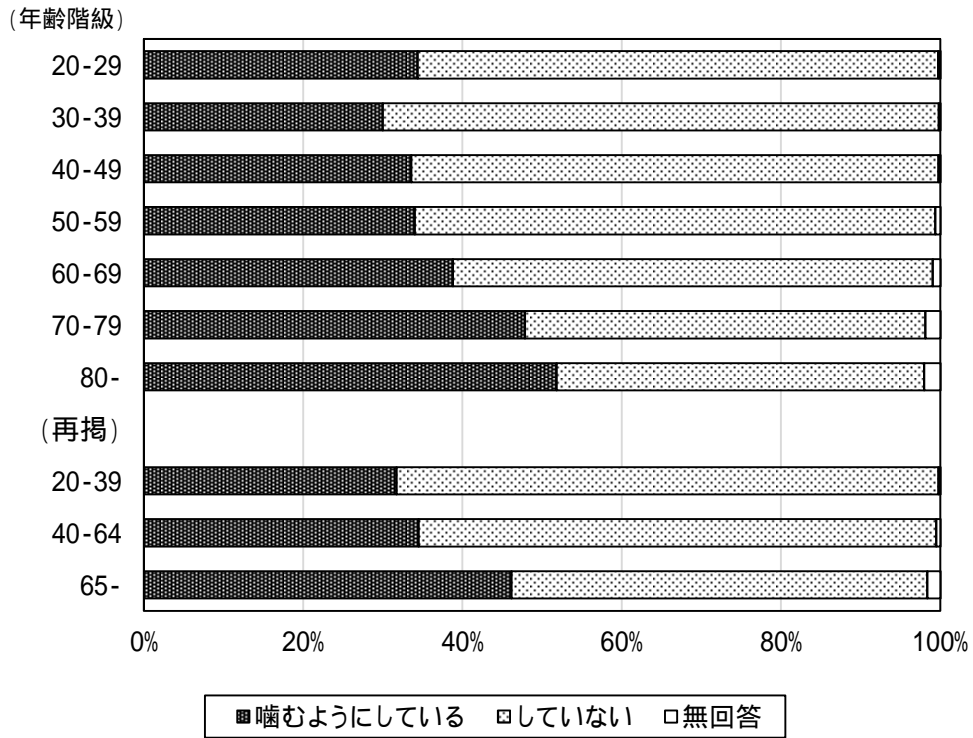
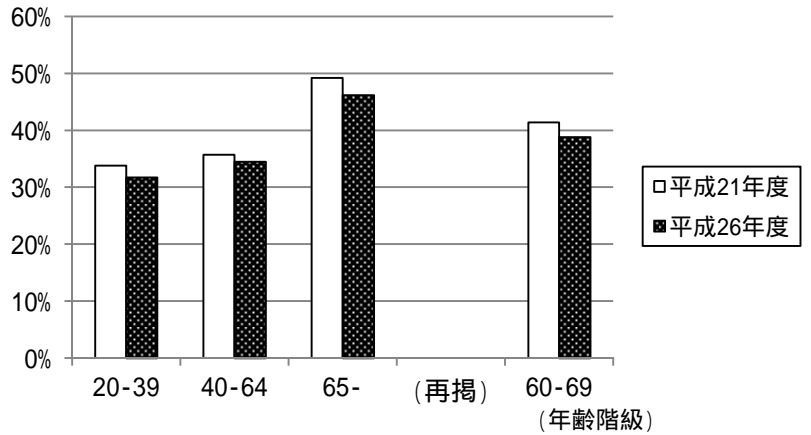


表 102,図 69 よく噛む(一口 30 回程度)習慣について(前回比較)

(%)		
年齢階級	平成21年度	平成26年度
20-39	33.8	31.7
40-64	35.7	34.5
65-	49.2	46.1
(再掲)		
60-69	41.4	38.8



(イ) 現在歯数と「よく噛む(一口30回程度)習慣」の相関関係

現在歯数に関わらず、年代が高いほどよく噛むようにしているとの回答が多い傾向であった。
また、同年代で比較すると概ね現在歯数が多いほど習慣としている傾向が認められた。

表 103 現在歯数と「よく噛む(一口30回程度)習慣」

年代別	現在歯数	よく噛む(一口30回程度)習慣			合計
		噛むようにしている	していない	無回答	
40歳代	0～9本	2 33.3%	4 66.7%	0 0.0%	6
	10～19本	8 21.6%	29 78.4%	0 0.0%	37
	20本以上	599 34.0%	1,160 65.8%	4 0.2%	1,763
	合計	609 33.7%	1,193 66.1%	4 0.2%	1,806
50歳代	0～9本	6 31.6%	13 68.4%	0 0.0%	19
	10～19本	42 30.9%	93 68.4%	1 0.7%	136
	20本以上	543 34.5%	1,022 64.9%	10 0.6%	1,575
	合計	591 34.2%	1,128 65.2%	11 0.6%	1,730
60歳代	0～9本	29 29.9%	66 68.0%	2 2.1%	97
	10～19本	149 35.7%	264 63.3%	4 1.0%	417
	20本以上	700 40.0%	1,034 59.1%	16 0.9%	1,750
	合計	878 38.8%	1,364 60.2%	22 1.0%	2,264
70歳代	0～9本	105 47.5%	114 51.6%	2 0.9%	221
	10～19本	230 44.2%	276 53.1%	14 2.7%	520
	20本以上	642 49.2%	641 49.1%	23 1.8%	1,306
	合計	977 47.7%	1,031 50.4%	39 1.9%	2,047
80歳以上	0～9本	78 45.6%	90 52.6%	3 1.8%	171
	10～19本	101 56.1%	77 42.8%	2 1.1%	180
	20本以上	151 53.0%	126 44.2%	8 2.8%	285
	合計	330 51.9%	293 46.1%	13 2.0%	636

ス 8020を知っている者

「8020運動」という言葉を知っていたと回答した者は37.2%、聞いたことがあると合わせると57.1%であった。前回(平成21年度)は聞いたことがあるという回答肢がなかったため、知っている57.6%と比較しても、概ね同等の結果であったが、「いい歯東京」の目標は達成しなかった。ケ～サの結果と8020運動の認知度との関連を検討すると、8020運動を知っている者は他の歯科と関連する疾患についても認知度が高いことがうかがわれる。今後も8020運動の知識普及を図るべきであろう。特に、20歳代では知らなかったが半数を超えており、若年層へのアプローチがまだ十分でないと考ええる。

「8020運動」についても、すべての年代において女性の方が男性より知っている者が多かった。

表 104 8020を知っている者(年代別)

(人)

年齢階級	知っていた	聞いたことがある	合計	知らなかった	無回答
20-29	218	116	334	379	0
	30.6%	16.3%	46.8%	53.2%	0.0%
30-39	355	233	588	506	1
	32.4%	21.3%	53.7%	46.2%	0.1%
40-49	647	394	1,041	781	4
	35.4%	21.6%	57.0%	42.8%	0.2%
50-59	725	374	1,099	641	4
	41.6%	21.4%	63.0%	36.8%	0.2%
60-69	916	432	1,348	924	7
	40.2%	19.0%	59.1%	40.5%	0.3%
70-79	787	403	1,190	840	30
	38.2%	19.6%	57.8%	40.8%	1.5%
80-	201	113	314	308	17
	31.5%	17.7%	49.1%	48.2%	2.7%
(再掲)					
20-39	573	349	922	885	1
	31.7%	19.3%	51.0%	48.9%	0.1%
40-64	1,799	961	2,760	1,838	9
	39.0%	20.9%	59.9%	39.9%	0.2%
65-	1,477	755	2,232	1,656	53
	37.5%	19.2%	56.6%	42.0%	1.3%
総計	3,849	2,065	5,914	4,379	63
	37.2%	19.9%	57.1%	42.3%	0.6%

図 70 8020を知っている者(年代別)

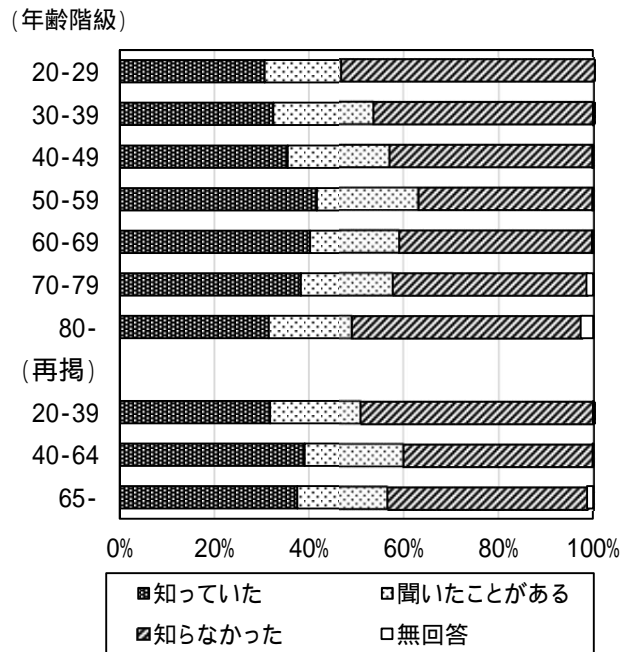


表 105 8020を知っている(男性)

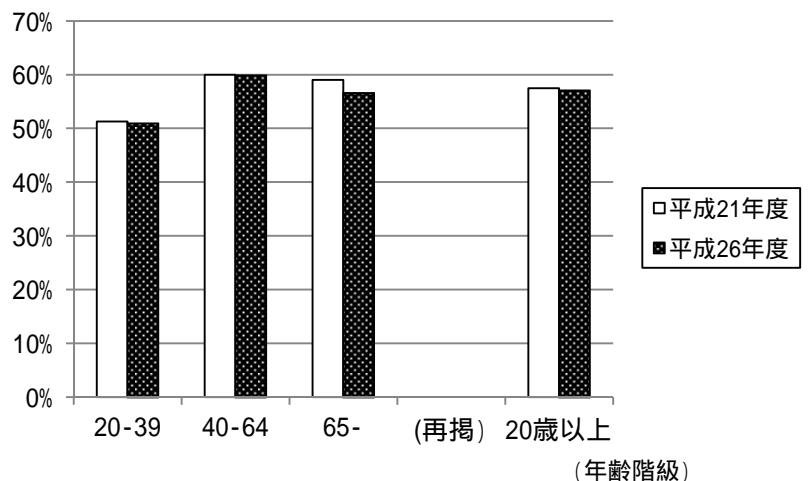
【男性】		(人)		
年齢階級	知っていた	聞いたことがある	知らなかった	無回答
20-29	60 22.7%	43 16.3%	161 61.0%	0 0.0%
30-39	101 21.3%	104 21.9%	269 56.8%	0 0.0%
40-49	178 24.1%	174 23.5%	387 52.3%	1 0.1%
50-59	233 31.1%	179 23.9%	336 44.9%	0 0.0%
60-69	296 29.5%	195 19.5%	508 50.7%	3 0.3%
70-79	251 31.5%	165 20.7%	377 47.3%	4 0.5%
80-	77 28.9%	43 16.2%	143 53.8%	3 1.1%
(再掲)				
20-39	161 21.8%	147 19.9%	430 58.3%	0 0.0%
40-64	567 28.8%	448 22.8%	952 48.3%	2 0.1%
65-	468 29.5%	308 19.4%	799 50.4%	9 0.6%
総計	1,196 27.9%	903 21.0%	2,181 50.8%	11 0.3%

表 106 8020を知っている(女性)

【女性】		(人)		
年齢階級	知っていた	聞いたことがある	知らなかった	無回答
20-29	158 35.2%	73 16.3%	218 48.6%	0 0.0%
30-39	254 40.9%	129 20.8%	237 38.2%	1 0.2%
40-49	469 43.2%	220 20.3%	394 36.3%	3 0.3%
50-59	492 49.4%	195 19.6%	305 30.6%	4 0.4%
60-69	620 48.6%	237 18.6%	416 32.6%	4 0.3%
70-79	536 42.4%	238 18.8%	463 36.7%	26 2.1%
80-	124 33.2%	70 18.8%	165 44.2%	14 3.8%
(再掲)				
20-39	412 38.5%	202 18.9%	455 42.5%	1 0.1%
40-64	1,232 46.7%	513 19.4%	886 33.6%	7 0.3%
65-	1,009 42.8%	447 19.0%	857 36.4%	44 1.9%
総計	2,653 43.7%	1,162 19.2%	2,198 36.2%	52 0.9%

表 107,図 71 8020を知っている者(前回比較)

(%)		
年齢階級	平成21年度	平成26年度
20-39	51.3	51.0
40-64	60.0	59.9
65-	59.0	56.6
(再掲)		
20歳以上	57.6	57.1



(ア) 「8020運動を知っている者」と「セルフチェック習慣のある者」のクロス

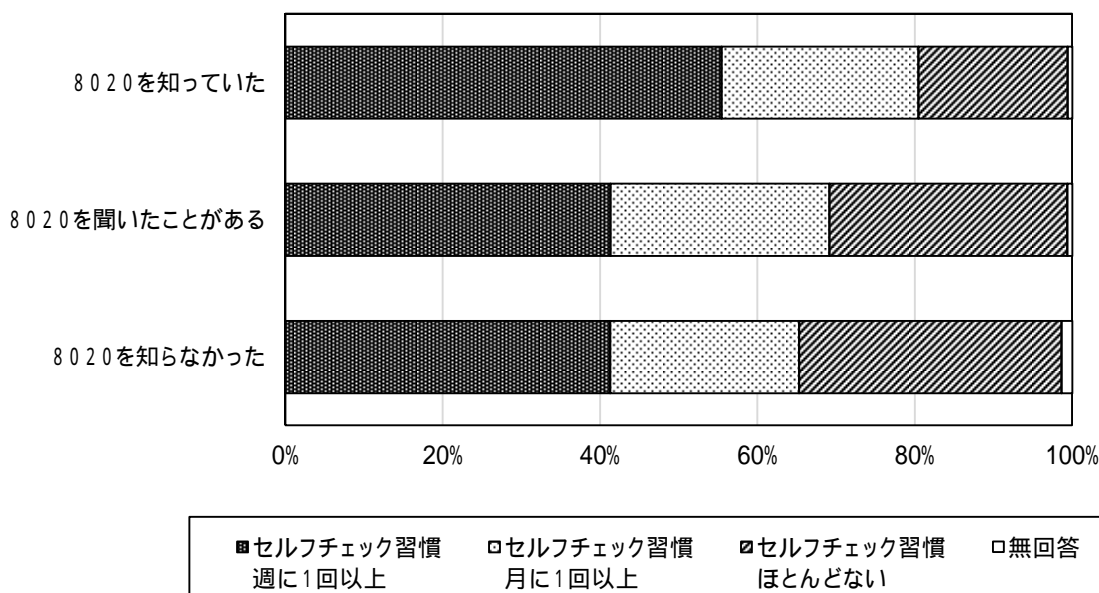
月に1回以上(週に1回以上を含む)セルフチェックを行う者は、8020運動を知っていた者で8割を超え、聞いたことがある、知らなかったの順であった。週に1回以上では、8020運動を知っていた者で5割を超えたが、聞いたことがあると知らなかったでは約4割で同等であった。8020運動の知識の普及と歯口腔の清掃への関心度の関係が示唆された。

表 108 「8020運動を知っている者」と「セルフチェック習慣のある者」のクロス

(人)

	セルフチェック習慣			計	ほとんどない	無回答	合計
	週に1回以上	月に1回以上					
8020を知っていた	2,133	964	3,097	729	23	3,849	
	55.4%	25.0%	80.5%	18.9%	0.6%	100.0%	
8020を聞いたことがある	853	575	1,428	624	13	2,065	
	41.3%	27.8%	69.2%	30.2%	0.6%	100.0%	
8020を知らなかった	1,807	1,051	2,858	1,461	60	4,379	
	41.3%	24.0%	65.3%	33.4%	1.4%	100.0%	
無回答	32	14	46	13	4	63	
	50.8%	22.2%	73.0%	20.6%	6.3%	100.0%	
総計	4,825	2,604	7,429	2,827	100	10,356	
	46.6%	25.1%	71.7%	27.3%	1.0%	100.0%	

図 72 「8020運動を知っている者」と「セルフチェック習慣のある者」のクロス



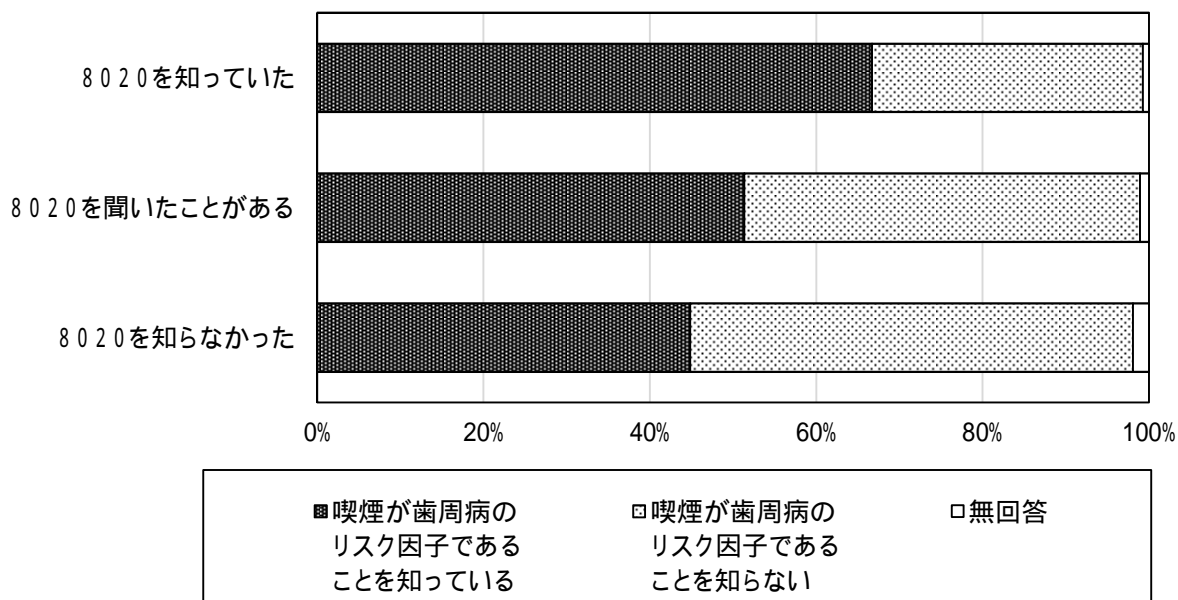
(イ) 「8020運動を知っている者」と「喫煙と歯周病の関係を知っている者」のクロス

表 109 「8020運動を知っている者」と「喫煙と歯周病の関係を知っている者」のクロス

(人)

	喫煙が歯周病のリスク因子であること			合計
	知っている	知らない	無回答	
8020を知っていた	2,568 66.7%	1,253 32.6%	28 0.7%	3,849 100.0%
8020を聞いたことがある	1,060 51.3%	983 47.6%	22 1.1%	2,065 100.0%
8020を知らなかった	1,964 44.9%	2,330 53.2%	85 1.9%	4,379 100.0%
無回答	23 36.5%	19 30.2%	21 33.3%	63 100.0%
総計	5,615 54.2%	4,585 44.3%	156 1.5%	10,356 100.0%

図 73 「8020運動を知っている者」と「喫煙と歯周病の関係を知っている者」のクロス

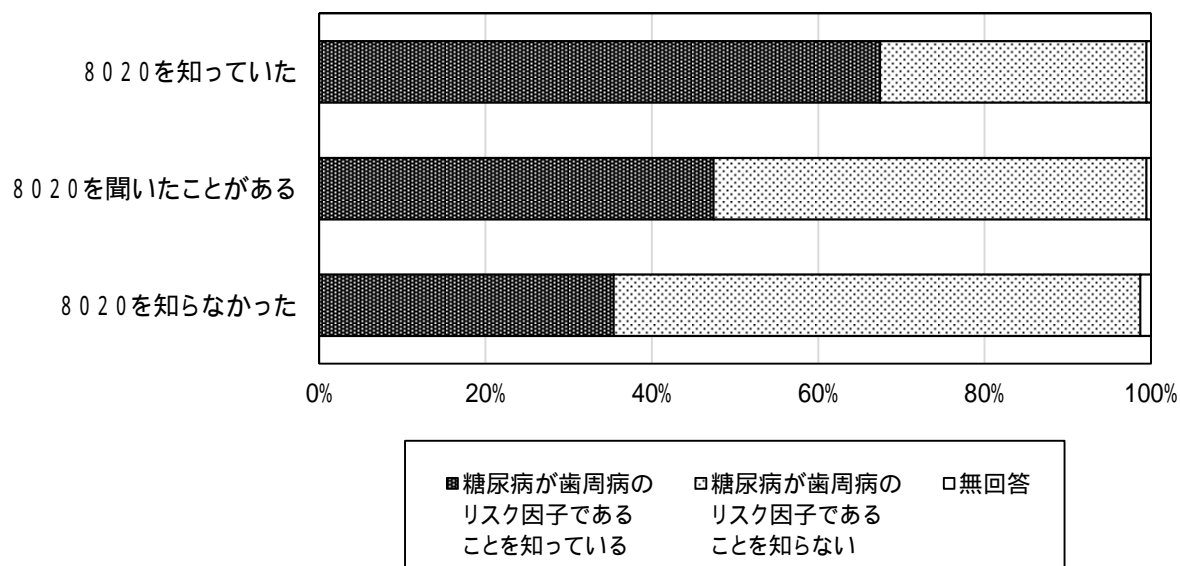


(ウ) 「8020運動を知っている者」と「糖尿病と歯周病の関係を知っている者」のクロス

表 110 「8020運動を知っている者」と「糖尿病と歯周病の関係を知っている者」のクロス

	糖尿病が歯周病のリスク因子であること			合計
	知っている	知らない	無回答	
8020を知っていた	2,595 67.4%	1,233 32.0%	21 0.5%	3,849 100.0%
8020を聞いたことがある	979 47.4%	1,075 52.1%	11 0.5%	2,065 100.0%
8020を知らなかった	1,551 35.4%	2,772 63.3%	56 1.3%	4,379 100.0%
無回答	22 34.9%	20 31.7%	21 33.3%	63 100.0%
総計	5,147 49.7%	5,100 49.2%	109 1.1%	10,356 100.0%

図 74 「8020運動を知っている者」と「糖尿病と歯周病の関係を知っている者」のクロス

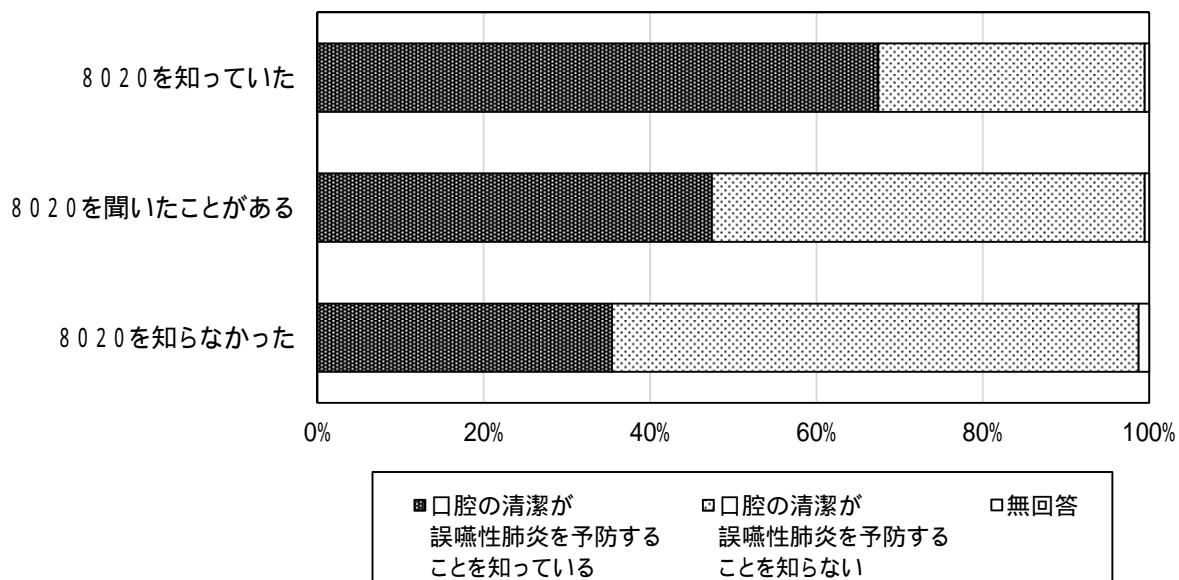


(エ) 「8020運動を知っている者」と「口腔清潔と誤嚥性肺炎の関係を知っている者」のクロス

表 111 「8020運動を知っている者」と「口腔清潔と誤嚥性肺炎の関係を知っている者」のクロス
(人)

	口腔の清潔が誤嚥性肺炎を予防すること			合計
	知っている	知らない	無回答	
8020を知っていた	2,178 56.6%	1,657 43.1%	14 0.4%	3,849 100.0%
8020を聞いたことがある	682 33.0%	1,366 66.2%	17 0.8%	2,065 100.0%
8020を知らなかった	1,101 25.1%	3,219 73.5%	59 1.3%	4,379 100.0%
無回答	22 34.9%	19 30.2%	22 34.9%	63 100.0%
総計	3,983 38.5%	6,261 60.5%	112 1.1%	10,356 100.0%

図 75 「8020運動を知っている者」と「口腔清潔と誤嚥性肺炎の関係を知っている者」のクロス



セ 8020の目標設定

歯が20本ないので目標にできないを除くと、80歳未満のすべての年代で、目標にしたいが約5割、できれば目標にしたいを合わせると20～29歳が最も多く98.0%、年代が上がるにつれ減少するものの70～79歳でも83.6%と高い水準であった。本調査を通じてでも8020に関する知識の普及により、20歳代でほとんどの者が目標にしたいと考えていることは大変興味深い知見である。

表 112 8020の目標設定(年代別)

年齢 階級	目標に したい	できれば 目標に したい	計	あまり 目標に したくない	その他	無回答	総計	(人)
								歯が20本 ないので 目標に できない
20-29	346 48.6%	352 49.4%	698 98.0%	6 0.8%	7 1.0%	1 0.1%	712 100%	1
30-39	551 51.3%	494 46.0%	1,045 97.3%	15 1.4%	7 0.7%	7 0.7%	1,074 100%	21
40-49	901 51.9%	770 44.4%	1,671 96.3%	26 1.5%	18 1.0%	21 1.2%	1,736 100%	90
50-59	786 50.6%	689 44.4%	1,475 95.0%	25 1.6%	22 1.4%	31 2.0%	1,553 100%	191
60-69	869 49.3%	721 40.9%	1,590 90.3%	63 3.6%	46 2.6%	62 3.5%	1,761 100%	518
70-79	765 50.7%	498 33.0%	1,263 83.6%	52 3.4%	61 4.0%	134 8.9%	1,510 100%	550
80-	158 39.6%	96 24.1%	254 63.7%	14 3.5%	59 14.8%	72 18.0%	399 100%	240
(再掲)			0					
20-39	897 50.2%	846 47.4%	1,743 97.6%	21 1.2%	14 0.8%	8 0.4%	1,786 100%	22
40-64	2,087 50.8%	1,818 44.2%	3,905 95.0%	78 1.9%	57 1.4%	71 1.7%	4,111 100%	496
65-	1,392 48.9%	956 33.6%	2,348 82.4%	102 3.6%	149 5.2%	249 8.7%	2,848 100%	1,093
総計	4,376 50.0%	3,620 41.4%	7,996 91.4%	201 2.3%	220 2.5%	328 3.8%	8,745 100%	1,611

図 76 8020の目標設定(年代別)

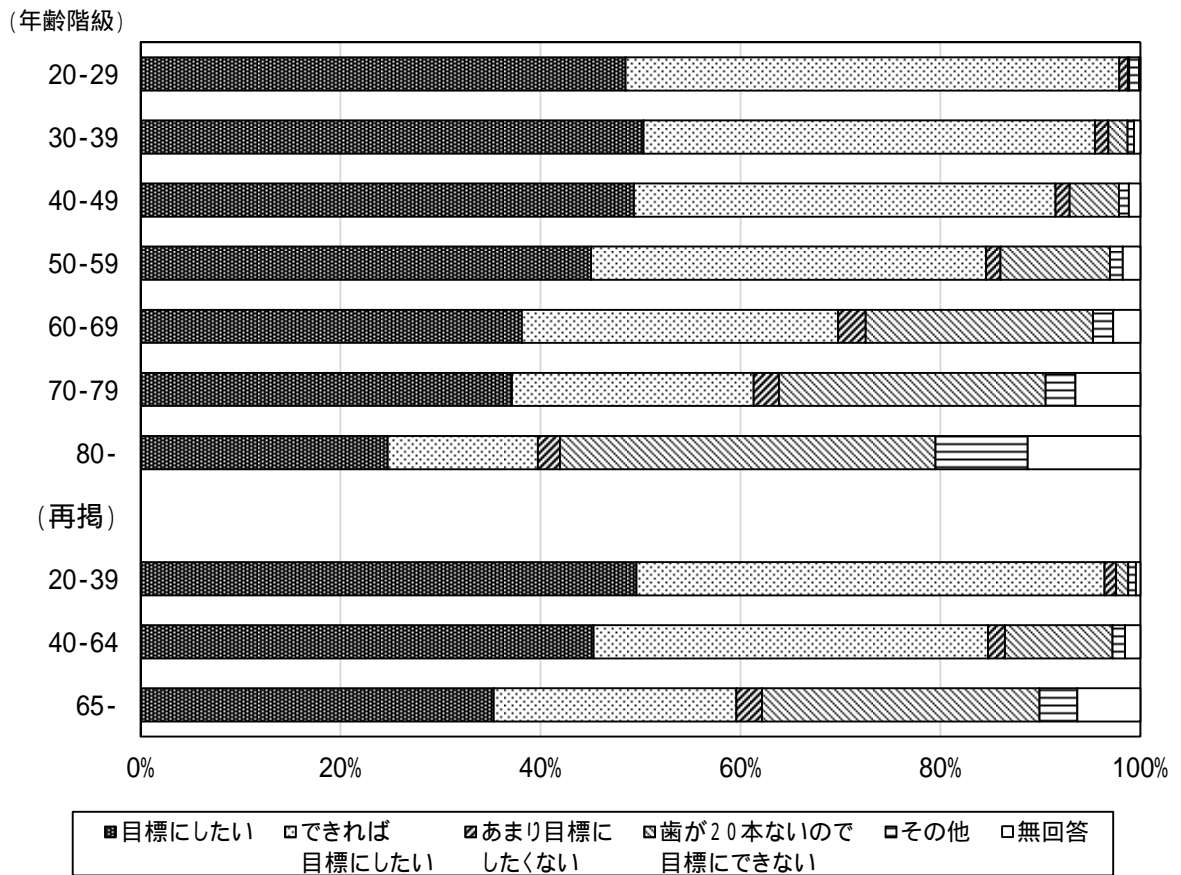


図 77 8020を目標にしたいと思うか(歯が20本ないを除く)(年代別)

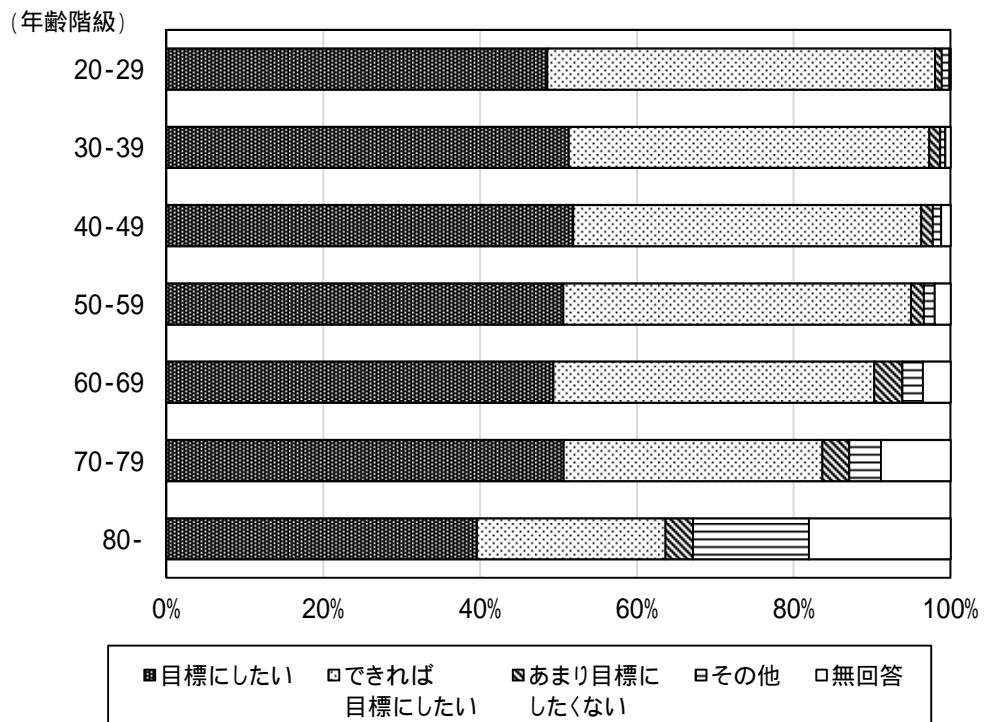


表 113 8020を目標にしたいと思うか(男性)

(人)

年齢 階級	目標に したい	できれば 目標に したい	計	あまり 目標に したくない	その他	無回答	総計	歯が20本 ないので 目標に できない
20-29	105 39.8%	153 58.0%	258 97.7%	4 1.5%	2 0.8%	0 0.0%	264 100%	0
30-39	190 40.1%	253 53.4%	443 95.9%	13 2.8%	3 0.6%	3 0.6%	462 100%	12
40-49	336 45.4%	323 43.6%	659 94.8%	18 2.6%	10 1.4%	8 1.2%	695 100%	45
50-59	282 37.7%	336 44.9%	618 93.9%	19 2.9%	12 1.8%	9 1.4%	658 100%	90
60-69	356 35.5%	340 33.9%	696 89.6%	42 5.4%	19 2.4%	20 2.6%	777 100%	225
70-79	302 37.9%	178 22.3%	480 82.3%	35 6.0%	25 4.3%	43 7.4%	583 100%	214
80-	71 26.7%	37 13.9%	108 65.5%	10 6.1%	27 16.4%	20 12.1%	165 100%	101
(再掲)			0					
20-39	295 40.0%	406 55.0%	701 96.6%	17 2.3%	5 0.7%	3 0.4%	726 100%	12
40-64	793 40.3%	826 42.0%	1,619 93.7%	55 3.2%	30 1.7%	24 1.4%	1,728 100%	241
65-	554 35.0%	388 24.5%	942 81.9%	69 6.0%	63 5.5%	76 6.6%	1,150 100%	434
総計	1,642 38.3%	1,620 37.8%	3,262 90.5%	141 3.9%	98 2.7%	103 2.9%	3,604 100%	687

表 114 8020を目標にしたいと思うか(女性)

(人)

年齢 階級	目標に したい	できれば 目標に したい	計	あまり 目標に したくない	その他	無回答	総計	歯が20本 ないので 目標に できない
20-29	241 53.7%	199 44.3%	440 98.2%	2 0.4%	5 1.1%	1 0.2%	448 100%	1
30-39	361 58.1%	241 38.8%	602 98.4%	2 0.3%	4 0.7%	4 0.7%	612 100%	9
40-49	565 52.0%	447 41.2%	1,012 97.2%	8 0.8%	8 0.8%	13 1.2%	1,041 100%	45
50-59	504 50.6%	353 35.4%	857 95.8%	6 0.7%	10 1.1%	22 2.5%	895 100%	101
60-69	513 40.2%	381 29.8%	894 90.9%	21 2.1%	27 2.7%	42 4.3%	984 100%	293
70-79	463 36.7%	320 25.3%	783 84.5%	17 1.8%	36 3.9%	91 9.8%	927 100%	336
80-	87 23.3%	59 15.8%	146 62.4%	4 1.7%	32 13.7%	52 22.2%	234 100%	139
(再掲)			0					
20-39	602 56.3%	440 41.1%	1,042 98.3%	4 0.4%	9 0.8%	5 0.5%	1,060 100%	10
40-64	1,294 49.1%	992 37.6%	2,286 95.9%	23 1.0%	27 1.1%	47 2.0%	2,383 100%	255
65-	838 35.6%	568 24.1%	1,406 82.8%	33 1.9%	86 5.1%	173 10.2%	1,698 100%	659
総計	2,734 45.1%	2,000 33.0%	4,734 92.1%	60 1.2%	122 2.4%	225 4.4%	5,141 100%	924

東京都歯科保健実態調査質問票（歯科診療所 成人用） 健診者番号

この調査は、皆様の日常の保健習慣などをお聞きすることにより、今後の都民の歯の健康づくり対策の参考とさせていただくことを目的として実施するものです。調査結果は全体として集計しますので、個人にご迷惑をおかけすることはありません。ご協力をよろしくお願いします。

【下記の質問の該当する番号に○、または必要な数字などを記入してください。】

1 あなたは、御自身の歯・口や入れ歯の状態について、どのように感じていますか。
 (1) ほぼ満足している (2) やや不満だが日常生活には困らない (3) 不自由や苦痛を感じている

↓

1-2 (2)(3)に回答した方、どんなことについて感じていますか。該当する項目にいくつでも○をつけてください。
 (1) 歯が痛んだりしみたりする (4) 口臭がある (7) 歯や歯並びなどの見た目が気になる
 (2) 歯ぐきから血がでる (5) 食べ物が歯と歯の間にはさまる (8) 入れ歯があわない
 (3) 歯ぐきが腫れる (6) 嘔む、味わう、飲み込む、話すことに不自由がある (9) その他 ()

2 歯をみがくとき、1回に10分程度の時間をかけてみがくことがありますか。
 (1) ほぼ毎日 (2) 週に3～4日 (3) 週に1～2日 (4) ほとんどない

3 歯をみがくとき、1本ずつ丁寧に時間をかけていますか。
 (1) ほぼ毎日 (2) 週に3～4日 (3) 週に1～2日 (4) ほとんどない

4 デンタルフロス(糸ようじなど)や歯間ブラシを使っていますか。
 (1) ほぼ毎日 (2) 週に3～4日 (3) 週に1～2日 (4) 使っていない

5 歯をみがくとき、フッ素入りの歯磨剤を使っていますか。
 (1) フッ素入りの歯磨剤を使っている → 5-2 どの程度、使っていますか。
 (2) 歯磨剤は使っているが、フッ素入りかどうかはわからない (1) 毎日使っている
 (3) 歯磨剤は使っているが、フッ素入りではない (2) とときどき使う
 (4) 歯磨剤は使っていない

6 鏡を見て、歯や歯ぐきの様子を自分で観察することがありますか。
 (1) 週に1回以上観察している (2) 月に1回以上観察している (3) ほとんどない

7 あなたは、かかりつけ歯科医院を決めていますか。
 (1) 決めている (2) 決めていない

7-2 「決めている」と回答した方、その歯科医院では、むし歯・歯周病の治療や入れ歯の作製・修理などのほかに次のような予防処置等を受けていますか。受けている場合は、該当する項目にいくつでも○をつけてください。
 (1) 受けている → ①定期健診(年1回以上) ②歯石除去・歯面清掃
 (2) 受けていない ③歯磨き指導 ④その他 ()

8 永久歯は、「親知らず」が4本すべて生えたと全部で32本です。あなたの歯の数は、現在、何本ですか。
 わからない方は、「？」と記入してください。 約 本

9 喫煙は歯ぐきの病気(歯周病)を進行させる要因の1つですが、あなたはこのことをご存じでしたか。
 (1) 知っていた (2) 知らなかった

10 糖尿病だと歯周病にもかかりやすく、歯周病が糖尿病に悪影響を及ぼすことを、ご存じでしたか。
 (1) 知っていた (2) 知らなかった

11 歯や入れ歯、舌などを清潔にすることが誤嚥性肺炎[※]を予防することをご存知でしたか。
 (1) 知っていた (2) 知らなかった

※誤嚥性肺炎(ごえんせいはいえん)とは、老化や脳血管障害の後遺症などによって、飲み込む力や咳をする力が弱くなると、口の中の細菌や食べかす、逆流した胃液などが間違っって気管に入りやすくなり、その結果起きる肺炎のこと

12 あなたは普段、よく嘔む(一口30回程度)ようにしていますか。
 (1) 嘔むようにしている (2) していない

13 あなたは「8020(ハチマルニイマル)運動」という言葉を知っていましたか
 (1) 知っていた (2) 聞いたことがある (3) 知らなかった

14 「8020(ハチマルニイマル)運動」とは80歳になっても自分の歯を20本以上保とうという運動です。
 あなたは「8020」を御自身の目標にしたいと思いませんか。
 (1) 目標にしたい (2) できれば目標にしたい (3) あまり目標にたくない
 (4) 歯が20本ないので目標にできない (5) その他 ()

15 あなたの性別と年齢を記入してください。
 性別 (1) 男性 (2)女性 年齢 歳

ご協力ありがとうございました。この調査に関するお問い合わせは、下記をお願いします。

問い合わせ先：公益社団法人東京都歯科医師会（電話 03-3262-1148）

歯科診療所患者調査記録票

調査年月日 平成26年 月 日 ~ 月 日

健診者 番号	性別 男性1 女性2	年齢	診療場所 診療所1 訪問2	*1 現在歯数(第三大臼歯を含む)*2		*3 喪失歯数(第三大臼歯を除く)*3		*4 歯周疾患 無し1 有り2	*5 歯周ポケットの深さ (最大値)
				健全歯数	処置歯数	未処置歯数	うち欠損補綴歯数		
1									mm
2									mm
3									mm
4									mm
5									mm
6									mm
7									mm
8									mm
9									mm
10									mm
11									mm
12									mm
13									mm
14									mm
15									mm

*1 診療場所 : 診療が診療所の場合と訪問診療の場合で区別する。

*2 現在歯数 : 第三大臼歯を含む全32歯を対象とする。

健全歯 : シーラント処置歯を含む。

処置歯 : 充填または歯冠修復が施されている歯

未処置歯 : 二次う蝕、残根を含む。

*3 喪失歯数 : 第三大臼歯を除く全28歯を対象とする。

うち欠損補綴歯 : 喪失歯のうち、有床義歯、ブリッジのポンティック、インプラント等で補綴処置された部位(歯)

*4 歯周疾患 : G(歯肉炎)、P(歯周炎)いずれかのある場合

*5 歯周ポケットの深さ(最大値) : $\frac{7}{7}$ $\frac{6}{6}$ $\frac{1}{1}$ $\frac{6}{6}$ $\frac{7}{7}$ のポケットを測定し、最大値(mm)を記入する。

健診者 番号	性別 男性1 女性2	年齢	診療場所 診療所1 訪問2	現在歯数(第三大臼歯を含む) ^{*2}			喪失歯数(第三大臼歯を除く) ^{*3}		歯周疾患 無し1 有り2	歯周ポケットの深さ (最大値) ^{*5}
				健全歯数	処置歯数	未処置歯数	総数	うち欠損補綴歯数		
16									mm	
17									mm	
18									mm	
19									mm	
20									mm	
21									mm	
22									mm	
23									mm	
24									mm	
25									mm	
26									mm	
27									mm	
28									mm	
29									mm	
30									mm	
31									mm	
32									mm	
33									mm	
34									mm	
35									mm	

健診者 番号	性別 男性1 女性2	年齢	診療場所 診療所1 訪問2	現在歯数(第三大臼歯を含む) ^{*2}			喪失歯数(第三大臼歯を除く) ^{*3}		歯周疾患 無し1 有り2	歯周ポケットの深さ (最大値) ^{*5}
				健全歯数	処置歯数	未処置歯数	総数	うち欠損補綴歯数		
36									mm	
37									mm	
38									mm	
39									mm	
40									mm	
41									mm	
42									mm	
43									mm	
44									mm	
45									mm	
46									mm	
47									mm	
48									mm	
49									mm	
50									mm	
51									mm	
52									mm	
53									mm	
54									mm	
55									mm	

平成 26 年度

介護保険施設等における口腔ケア等実態状況調査結果

目的

この調査は、都内の介護保険施設（訪問看護ステーションを含む。）等における口腔ケア等の実施状況を把握することにより、東京都歯科保健目標「いい歯東京」の達成度を評価するとともに、高齢期における新たな歯科保健目標及び対策に向けた基礎資料を得ることを目的とした。

対象及び方法

1 対象者

都内介護保険施設等の管理者及び都内の訪問看護ステーションの管理者

2 実施方法

(1) 特別養護老人ホーム、養護老人ホーム、ケアハウス

各施設に調査票をメールで配布し、平成 26 年 6 月 16 日を期限として回収した。

(2) 介護老人保健施設

各施設に調査用紙を郵送（平成 26 年 6 月 17 日）し、平成 26 年 7 月 1 日を期限として回収した。

(3) 有料老人ホーム、認知症グループホーム、都市型軽費老人ホーム

各施設に調査用紙を郵送（平成 26 年 5 月 29 日）し、平成 26 年 6 月 16 日を期限として回収した。

(4) 訪問看護ステーション

指定訪問看護事業者集団指導会（平成 26 年 5 月 19 日、20 日、26 日開催）の会場で調査用紙を配布し、平成 26 年 6 月 9 日を期限として回収した。

3 調査項目

(1) 介護保険施設等

利用者の日常の口腔ケア（歯みがきや義歯の清掃）について

- ・施設職員に対する口腔ケア研修の実施状況
- ・口腔ケアによる誤嚥性肺炎予防効果の認知度
- ・利用者の口腔の状況の把握
- ・専門職との連携

口腔機能の維持・向上プログラムの実施状況について

- ・利用者の誤嚥、窒息に関する心配
- ・口腔機能の維持・向上による介護予防効果の認知度
- ・利用者の口腔機能の把握
- ・専門職との連携
- ・職員同士の話し合い及びマニュアル

認知症の利用者の口腔ケア、食事支援・介助について

- ・口腔ケア、食事支援・介助の困難度
- ・施設職員に対する口腔ケア、食事支援・介助研修の実施状況

(2) 訪問看護ステーション

歯科的な対応が必要な割合

日常の口腔ケア(歯みがきや義歯の清掃)について

- ・施設職員に対する口腔ケア研修の実施状況
- ・利用者の口腔の状況の把握
- ・専門職との連携

摂食・嚥下機能に対する対応

- ・利用者の誤嚥、窒息に関する心配
- ・利用者の口腔機能の把握
- ・専門職との連携
- ・職員同士の話し合い及びマニュアル

認知症患者の口腔ケア、食事関連の問題について

- ・口腔ケア、食事対応の困難度
- ・職員に対する口腔ケア、食事対応研修の実施状況

4 解析

調査結果の解析は、東京歯科大学社会歯科学研究室 平田創一郎教授が行った。

結果

1 調査数

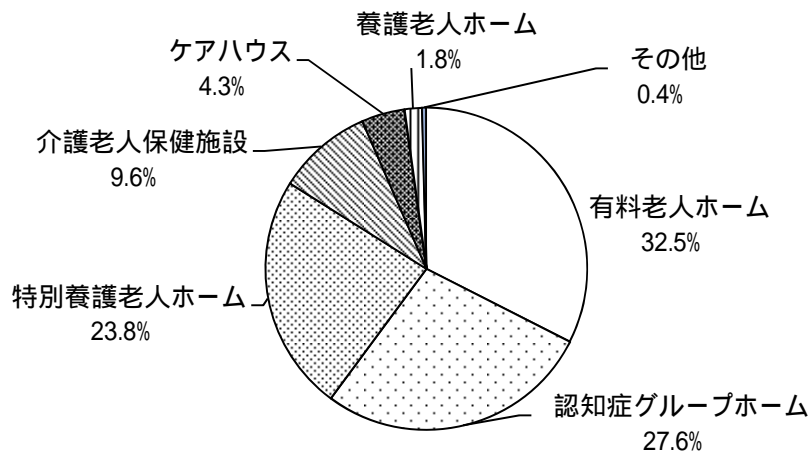
調査対象施設数は、前回(平成21年度)の1,211から1,910と増加しており、回答率も36.4%から56.8%へと上昇した。施設の内訳では、いずれも回答数は増えているものの、内訳としては、有料老人ホームは49.9%から32.5%、特別養護老人ホームは32.7%から23.8%へと減少した。一方、認知症グループホームは5.2%から27.6%、介護老人保健施設は6.6%から9.6%へと増加した。認知症グループホームの施設数は299から530へ増加し、回答率も7.7%から53.0%へと大きく増加しており、介護現場での認知症の方への口腔ケアに対する意識の向上がうかがわれた。

表1 回答の状況

対象施設	調査対象数	回答数	回答率
介護保険施設(全体)	1,910	1,084	56.8%
特別養護老人ホーム	456	231	50.7%
養護老人ホーム	34	15	44.1%
ケアハウス	83	30	36.1%
介護老人保健施設	184	139	75.5%
認知症グループホーム	530	281	53.0%
有料老人ホーム	623	380	61.0%
その他		8	-
訪問看護ステーション	712	472	66.3%
合計	2,622	1,556	59.3%

その他:小規模多機能型、高齢者在宅サービスセンター、高齢者住宅

図1 介護保険施設調査の施設内訳



n = 2,622

表2 回答職種

	(施設)					
	全体	施設長	看護職	介護職	その他	無回答
介護保険施設(全体)	1,084	482	116	117	319	50
	100%	44.5%	10.7%	10.8%	29.4%	4.6%
特別養護老人ホーム	231	39	28	41	116	7
	100%	16.9%	12.1%	17.7%	50.2%	3.0%
養護老人ホーム	15	2	4	1	8	0
	100%	13.3%	26.7%	6.7%	53.3%	0.0%
ケアハウス	30	16	1	0	13	0
	100%	53.3%	3.3%	0.0%	43.3%	0.0%
介護老人保健施設	139	8	56	17	53	5
	100%	5.8%	40.3%	12.2%	38.1%	3.6%
認知症グループホーム	281	171	2	23	66	19
	100%	60.9%	0.7%	8.2%	23.5%	6.8%
有料老人ホーム	380	245	25	33	59	18
	100%	64.5%	6.6%	8.7%	15.5%	4.7%
その他	8	1	0	2	4	1
	100%	12.5%	0.0%	25.0%	50.0%	12.5%
訪問看護ステーション	472	119	279	0	39	35
	100%	25.2%	59.1%	0.0%	8.3%	7.4%
合 計	1,556	601	395	117	358	85
	100%	38.6%	25.4%	7.5%	23.0%	5.5%

2 介護保険施設等調査結果

(1) 利用者に対する日常の口腔ケアの状況

ア 口腔ケアの研修を行ったり、受講をさせている施設

職員を対象に口腔ケア(歯みがきや義歯の清掃)の研修を行ったり、受講をさせている施設は、介護老人保健施設、特別養護老人ホームが7割を超え、次いで有料老人ホーム、認知症グループホームが5割を超えていた。一方、ケアハウスでは9割近くが行っていないと回答しており、職員の入所者への介護度合いを反映しているとも考えられる。

行っていると回答した施設は全体で、前回(平成21年度)の67.6%から62.4%と若干減少した。これは行っている率の高い、特別養護老人ホームが73.6%から72.3%、介護老人保健施設は72.4%から75.5%とほぼ横ばいであり、行っている率が低いケアハウスや養護老人ホームの回答数が増加したためと考えられる。

行っていると回答した施設における研修の頻度は、年に1回が6割以上を占めた。

一方、行っていないと回答した施設においても、行う予定がある施設が11.5%、行いたいのが78.4%と9割程度の施設が研修の実施に前向きな回答であった。前回(平成21年度)は今後行いたいのが8割程度であったことから、行っていない施設においても、口腔ケアの研修に対する姿勢は積極的になってきている傾向がうかがわれる。

表3 施設の職員を対象に、口腔ケアの研修を行ったり、受講をさせていますか。

	(施設)			
	全体	行っている	行っていない	無回答
特別養護老人ホーム	231 100%	167 72.3%	63 27.3%	1 0.4%
養護老人ホーム	15 100%	7 46.7%	8 53.3%	0 0.0%
ケアハウス	30 100%	4 13.3%	26 86.7%	0 0.0%
介護老人保健施設	139 100%	105 75.5%	34 24.5%	0 0.0%
認知症グループホーム	281 100%	144 51.2%	131 46.6%	6 2.1%
有料老人ホーム	380 100%	247 65.0%	129 33.9%	4 1.1%
その他	8 100%	2 25.0%	6 75.0%	0 0.0%
合計	1,084 100%	676 62.4%	397 36.6%	11 1.0%

図2 行っていると回答した施設における研修の頻度

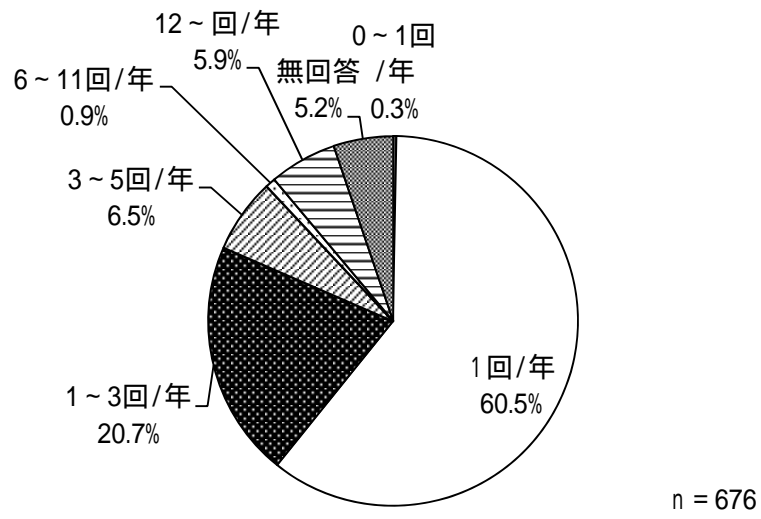
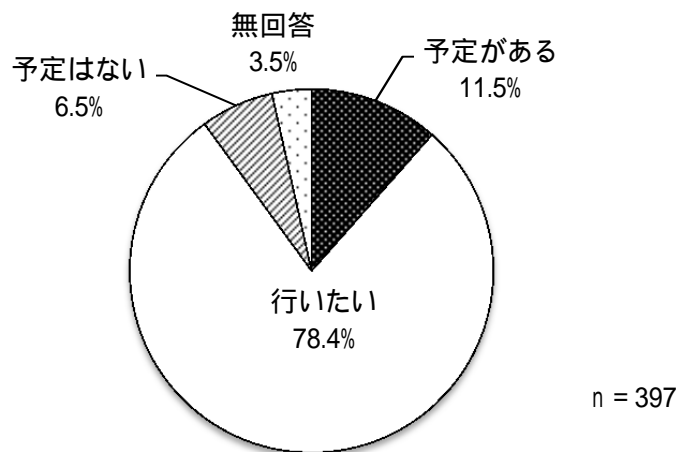


図3 行っていないと回答した施設における今後の予定



イ 口腔ケアが誤嚥性肺炎の予防に効果があることの認知度

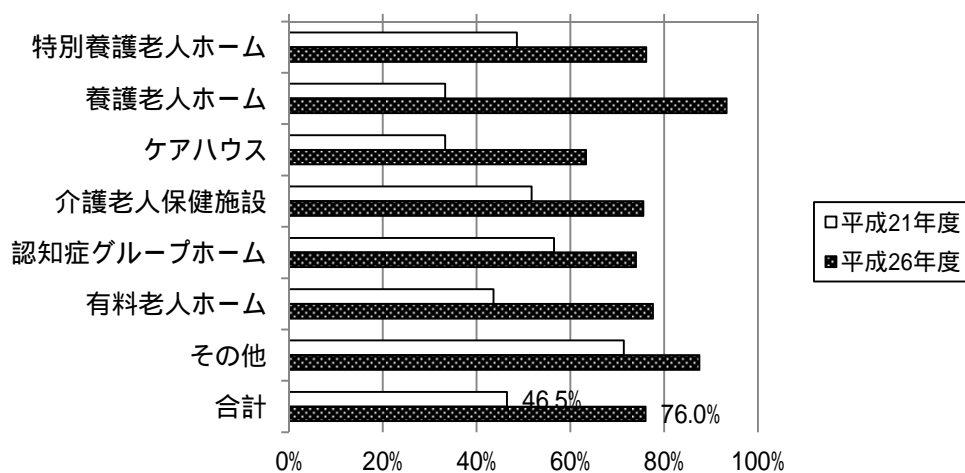
ほとんど知っているという回答した施設が76.0%で、前回(平成21年度)の46.5%を大幅に上回り、「いい歯東京」の目標を達成した。最も低いケアハウスにおいても63.3%で、前回(平成21年度)の33.3%の倍近い認知率となった。口腔ケアの誤嚥性肺炎予防効果に関する知識の普及が十分に進みつつあることが明らかとなった。

表4 口腔ケアが誤嚥性肺炎の予防に効果があることを知っている程度

(施設)

	全 体	ほとんど 知らない	一部の職員	半数程度	ほとんど 知っている	無回答
特別養護老人ホーム	231	1	7	46	176	1
	100%	0.4%	3.0%	19.9%	76.2%	0.4%
養護老人ホーム	15	0	0	1	14	0
	100%	0.0%	0.0%	6.7%	93.3%	0.0%
ケアハウス	30	2	4	5	19	0
	100%	6.7%	13.3%	16.7%	63.3%	0.0%
介護老人保健施設	139	0	8	25	105	1
	100%	0.0%	5.8%	18.0%	75.5%	0.7%
認知症グループホーム	281	0	22	51	208	0
	100%	0.0%	7.8%	18.1%	74.0%	0.0%
有料老人ホーム	380	0	21	60	295	4
	100%	0.0%	5.5%	15.8%	77.6%	1.1%
その他	8	0	0	1	7	0
	100%	0.0%	0.0%	12.5%	87.5%	0.0%
合 計	1,084	3	62	189	824	6
	100%	0.3%	5.7%	17.4%	76.0%	0.6%

図4 口腔ケアが誤嚥性肺炎の予防に効果があることを知っている割合(前回比較)



ウ 利用者の歯や口腔の把握状況

(ア) 把握の対象

利用者全員の歯や口腔の状況を把握している施設の割合は、前回(平成 21 年度)の 63.3%から 54.2%へと減少した。特別養護老人ホームでは 72.2%から 74.5%とわずかに増加したが、介護老人保健施設では 72.4%から 61.9%へと減少している。一方、必要な利用者のみ把握しているのは 35.4%から 45.2%へと増加していることから、一律にスクリーニングを行っているのではなく、利用者の訴えなどから何らかの形で必要性の把握はしているものと考えられる。ただし、表 3 と同じく、ケアハウスなどの回答数が増加したことにより、ほとんど把握していないも 0.2%から 0.9%へと増加が認められた。

表 5 把握の対象(複数回答)

	(施設)				
	全 体	利用者全員	必要な利用者のみ	ほとんど把握していない	無回答
特別養護老人ホーム	231 100%	172 74.5%	60 26.0%	0 0.0%	3 1.3%
養護老人ホーム	15 100%	5 33.3%	10 66.7%	0 0.0%	0 0.0%
ケアハウス	30 100%	3 10.0%	19 63.3%	6 20.0%	2 6.7%
介護老人保健施設	139 100%	86 61.9%	53 38.1%	0 0.0%	3 2.2%
認知症グループホーム	281 100%	194 69.0%	87 31.0%	0 0.0%	4 1.4%
有料老人ホーム	380 100%	122 32.1%	259 68.2%	4 1.1%	6 1.6%
その他	8 100%	6 75.0%	2 25.0%	0 0.0%	0 0.0%
合 計	1,084 100%	588 54.2%	490 45.2%	10 0.9%	18 1.7%

(イ) 把握の頻度

利用者の歯や口腔の把握の頻度は、半数以上が定期的に把握しているとの回答であり、前回(平成21年度)の24.0%から倍増した。月に1回以上把握を行っている施設も15.0%から42.2%へと増加した。前回(平成21年度)と集計方法が異なるため直接比較は難しいものの、前回(平成21年度)1回/0.5月が0.3%であったのに対し、今回、毎日実施している施設が6.6%となったことから、より日常的に口腔内の把握が行われていることが類推される。

また、施設の種類にかかわらず月に1回以上口腔内状況の把握している頻度が高かった。このことから、利用者の口腔内への関心度の向上がうかがえる。

表6 把握の頻度(複数回答)

	(施設)				
	全体	定期的	不定期	その他	無回答
特別養護老人ホーム	231 100%	135 58.4%	79 34.2%	79 34.2%	13 5.6%
養護老人ホーム	15 100%	6 40.0%	8 53.3%	6 40.0%	1 6.7%
ケアハウス	30 100%	4 13.3%	21 70.0%	10 33.3%	4 13.3%
介護老人保健施設	139 100%	74 53.2%	55 39.6%	49 35.3%	3 2.2%
認知症グループホーム	281 100%	167 59.4%	79 28.1%	104 37.0%	21 7.5%
有料老人ホーム	380 100%	182 47.9%	145 38.2%	117 30.8%	29 7.6%
その他	8 100%	1 12.5%	4 50.0%	3 37.5%	1 12.5%
合 計	1084 100%	569 52.5%	391 36.1%	368 33.9%	72 6.6%

表7 定期的把握の内訳(複数回答)

	(施設)					
	1回以上/月	毎日(再掲)	1回/2月	1回/3月	1回/6月	1回/12月
特別養護老人ホーム	100 43.3%	19 8.2%	3 1.3%	7 3.0%	9 3.9%	6 2.6%
養護老人ホーム	3 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 6.7%	2 13.3%
ケアハウス	2 6.7%	0 0.0%	1 3.3%	0 0.0%	0 0.0%	1 3.3%
介護老人保健施設	59 42.4%	17 12.2%	2 1.4%	5 3.6%	0 0.0%	1 0.7%
認知症グループホーム	139 49.5%	15 5.3%	2 0.7%	4 1.4%	2 0.7%	2 0.7%
有料老人ホーム	152 40.0%	21 5.5%	2 0.5%	3 0.8%	3 0.8%	2 0.5%
その他	2 25.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
合 計	457 42.2%	72 6.6%	10 0.9%	19 1.8%	15 1.4%	14 1.3%

(ウ) 把握する職種

表 8 誰が把握するか(複数回答)

(施設)

	全 体	施設職員	外部の歯科専門職	その他	無回答
特別養護老人ホーム	231 100%	199 86.1%	195 84.4%	3 1.3%	1 0.4%
養護老人ホーム	15 100%	11 73.3%	12 80.0%	0 0.0%	0 0.0%
ケアハウス	30 100%	20 66.7%	18 60.0%	0 0.0%	3 10.0%
介護老人保健施設	139 100%	131 94.2%	107 77.0%	1 0.7%	0 0.0%
認知症グループホーム	281 100%	235 83.6%	197 70.1%	1 0.4%	1 0.4%
有料老人ホーム	380 100%	337 88.7%	290 76.3%	4 1.1%	1 0.3%
その他	8 100%	8 100%	3 37.5%	0 0.0%	0 0.0%
合 計	1,084 100%	941 86.8%	822 75.8%	9 0.8%	6 0.6%

(エ) 把握を行う職種(複数回答)

把握を行っているのは、施設職員では介護士が最も多く、次いで看護師であった。歯科専門職は施設に勤務するものが少ないためと考えられる。

外部の歯科専門職では、歯科医師が歯科衛生士を上回っており、訪問診療や健診と併せて把握を行っていることが把握の頻度(表 6)の自由記載欄や次の把握の方法(表 9)からもうかがうことができた。また、少数であるが、言語聴覚士が行っているとの回答も見られた。

図 5 施設職員 内訳

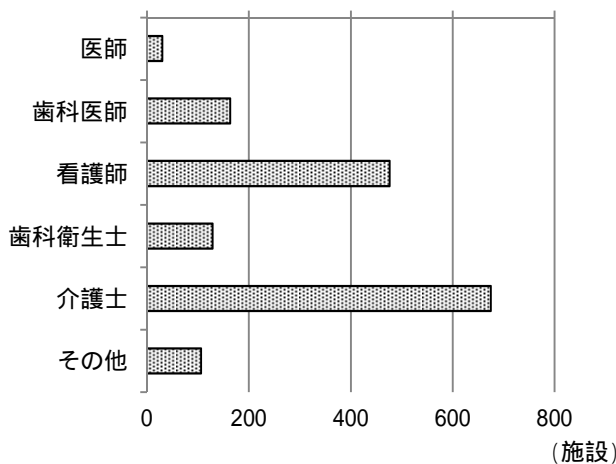
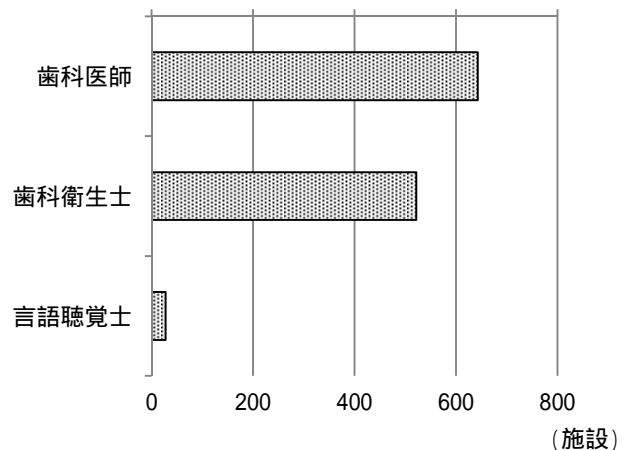


図 6 外部の歯科専門職 内訳



(オ) 把握の方法

把握の方法では、口腔内の観察が最も多く8割弱、次いで歯科健診と本人・家族の訴えとがほぼ同じ6割弱であった。口腔内の観察は前回(平成21年度)の79.6%からほぼ変わっていないが、歯科健診と本人・家族の訴えは約1割減少した。前回(平成21年度)より把握の頻度が倍増しており、日常的に施設の介護職が把握を行っているため、相対的に減少したと考えられる。

表9 把握の方法(複数回答)

	(施設)						
	全 体	本人・家族 の訴え	口腔内観察	マニュアルや 評価シート	歯科健診	その他	無回答
特別養護老人ホーム	231 100%	139 60.2%	192 83.1%	40 17.3%	146 63.2%	17 7.4%	4 1.7%
養護老人ホーム	15 100%	6 40.0%	7 46.7%	0 0.0%	8 53.3%	4 26.7%	1 6.7%
ケアハウス	30 100%	23 76.7%	8 26.7%	1 3.3%	10 33.3%	5 16.7%	2 6.7%
介護老人保健施設	139 100%	90 64.7%	122 87.8%	19 13.7%	67 48.2%	12 8.6%	0 0.0%
認知症グループホーム	281 100%	143 50.9%	203 72.2%	12 4.3%	167 59.4%	30 10.7%	4 1.4%
有料老人ホーム	380 100%	218 57.4%	314 82.6%	24 6.3%	227 59.7%	32 8.4%	4 1.1%
その他	8 100%	4 50.0%	7 87.5%	0 0.0%	4 50.0%	1 12.5%	0 0.0%
合 計	1,084 100%	623 57.5%	853 78.7%	96 8.9%	629 58.0%	101 9.3%	15 1.4%

エ 口腔ケアの実施における歯科医師・歯科衛生士等の専門職との連携

(ア) 連携の有無

口腔ケアの実施においては、歯科専門職と92.3%が連携をとっていると回答しており、前回(平成21年度)の90.5%から微増した。ケアハウスでは50.0%から60.0%へと10.0%の増加であったが、養護老人ホームでは41.7%から93.3%と大幅に増加しており、介護施設における歯科専門職との連携強化がうかがわれた。

表 10 口腔ケアの実施における歯科医師・歯科衛生士等の専門職との連携

	(施設)			
	全 体	とっていない	とっている	無回答
特別養護老人ホーム	231 100%	10 4.3%	220 95.2%	1 0.4%
養護老人ホーム	15 100%	1 6.7%	14 93.3%	0 0.0%
ケアハウス	30 100%	12 40.0%	18 60.0%	0 0.0%
介護老人保健施設	139 100%	9 6.5%	130 93.5%	0 0.0%
認知症グループホーム	281 100%	21 7.5%	257 91.5%	3 1.1%
有料老人ホーム	380 100%	20 5.3%	357 93.9%	3 0.8%
その他	8 100%	3 37.5%	5 62.5%	0 0.0%
合 計	1,084 100%	76 7.0%	1,001 92.3%	7 0.6%

(イ) 連携先

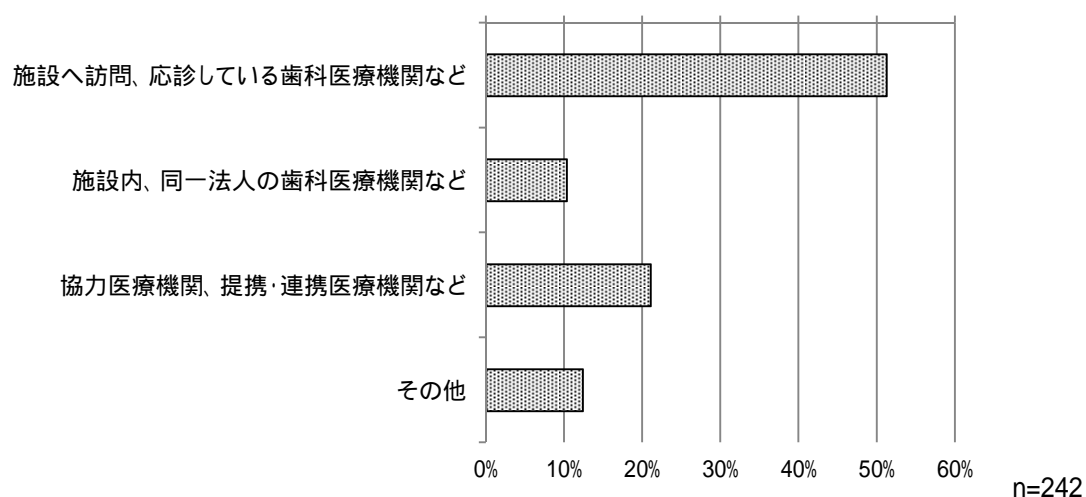
連携先は地域の歯科医療機関が37.0%と最も多く、次いでその他24.2%であった。その他として挙げられたものには、連携歯科医院や訪問専門の歯科診療所等による訪問歯科が多く、全体の17.5%を占めた。介護老人保健施設では、施設内・同法人の歯科医療機関との回答が12件あり、他の施設とは異なる傾向が見られた。歯科医師会は前回(平成21年度)の9.0%から5.1%へと減少した。

表 11 連携先(複数回答)

(施設)

	全 体	医師会 から	歯科 医師会から	地域の 歯科医療機関	その他	無回答
特別養護老人ホーム	220 100%	5 2.3%	31 14.1%	79 35.9%	51 23.2%	69 31.4%
養護老人ホーム	14 100%	0 0.0%	0 0.0%	7 50.0%	3 21.4%	5 35.7%
ケアハウス	18 100%	0 0.0%	1 5.6%	9 50.0%	6 33.3%	3 16.7%
介護老人保健施設	130 100%	0 0.0%	2 1.5%	48 36.9%	32 24.6%	50 38.5%
認知症グループホーム	257 100%	3 1.2%	9 3.5%	100 38.9%	45 17.5%	105 40.9%
有料老人ホーム	357 100%	1 0.0%	8 2.2%	127 35.6%	104 29.1%	129 36.1%
その他	5 100%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 20.0%	3 60.0%
合 計	1,001 100%	9 1.0%	51 5.1%	370 37.0%	242 24.2%	364 36.4%

図 7 連携先・その他の内訳



(ウ) 連携の頻度

定期的に連携を行っている施設の割合は74.9%で、うち9割は月に1回以上、33.9%が週に1回以上の連携を行っていた。この傾向は施設の種別にかかわらず同じであった。

表 12 連携の頻度(複数回答)

	(施設)				
	全体	定期的	不定期	その他	無回答
特別養護老人ホーム	220 100%	83 37.7%	20 9.1%	119 54.1%	7 3.2%
養護老人ホーム	14 100%	6 42.9%	2 14.3%	6 42.9%	1 7.1%
ケアハウス	18 100%	2 11.1%	8 44.4%	7 38.9%	2 11.1%
介護老人保健施設	130 100%	47 36.2%	25 19.2%	56 43.1%	10 7.7%
認知症グループホーム	257 100%	84 32.7%	49 19.1%	119 46.3%	12 4.7%
有料老人ホーム	357 100%	131 36.7%	67 18.8%	152 42.6%	23 6.4%
その他	5 100%	1 20.0%	1 20.0%	3 60.0%	0 0.0%
合 計	1001 100%	354 35.4%	172 17.2%	462 46.2%	55 5.5%

表 13 定期的の内訳

	(施設)					
	1回以上/1回	1回以上/1週 (再掲)	1回/2月	1回/3月	1回/6月	1回/12月
特別養護老人ホーム	172 78.2%	86 39.1%	1 0.5%	2 0.9%	1 0.5%	0 0.0%
養護老人ホーム	9 64.3%	4 28.6%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 14.3%
ケアハウス	7 38.9%	5 27.8%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
介護老人保健施設	87 66.9%	47 36.2%	0 0.0%	2 1.5%	0 0.0%	0 0.0%
認知症グループホーム	167 65.0%	77 30.0%	5 1.9%	2 0.8%	0 0.0%	3 1.2%
有料老人ホーム	236 66.1%	119 33.3%	0 0.0%	3 0.8%	0 0.0%	0 0.0%
その他	3 60.0%	1 20.0%	0 0.0%	3 60.0%	2 40.0%	0 0.0%
合 計	681 68.0%	339 33.9%	6 0.6%	12 1.2%	3 0.3%	5 0.5%

(エ) 連携のきっかけ

連携を行うきっかけは、施設側からが 65.6%を占め、前回(平成 21 年度)の 57.9%と同じ傾向であった。ただし、ケアハウスだけは連携先からが 44.4%で施設側からを上回っており、施設側からの割合が低い傾向は前回(平成 21 年度)の 33.3%と同様であった。

表 14 連携のきっかけ(複数回答)

	(施設)				
	全体	施設側から	連携先から	その他	無回答
特別養護老人ホーム	220	153	42	23	23
	100%	69.5%	19.1%	10.5%	10.5%
養護老人ホーム	14	9	4	2	2
	100%	64.3%	28.6%	14.3%	14.3%
ケアハウス	18	6	8	6	2
	100%	33.3%	44.4%	33.3%	11.1%
介護老人保健施設	130	98	28	9	13
	100%	75.4%	21.5%	6.9%	10.0%
認知症グループホーム	257	151	48	34	39
	100%	58.8%	18.7%	13.2%	15.2%
有料老人ホーム	357	237	65	37	73
	100%	66.4%	18.2%	10.4%	20.4%
その他	5	3	0	1	1
	100%	60.0%	0.0%	20.0%	20.0%
合 計	1,001	657	195	112	153
	100%	65.6%	19.5%	11.2%	15.3%

(2) 利用者の口腔機能の維持・向上を目的としたプログラムの実施の状況

ア 利用者の誤嚥・窒息について心配なことの有無

利用者の誤嚥・窒息について心配なことがあると回答した施設が9割弱を占め、すべての種別の施設に共通していた。心配なことがあった場合、相談できる機関があると回答した施設は82.1%で、前回(平成21年度)の78.5%を上回った。

表15 利用者の誤嚥・窒息について心配なことの有無

	(施設)			
	全体	ない	ある	無回答
特別養護老人ホーム	231	11	207	13
	100%	4.8%	89.6%	5.6%
養護老人ホーム	15	0	15	0
	100%	0.0%	100.0%	0.0%
ケアハウス	30	8	20	2
	100%	26.7%	66.7%	6.7%
介護老人保健施設	139	10	124	5
	100%	7.2%	89.2%	3.6%
認知症グループホーム	281	22	234	25
	100%	7.8%	83.3%	8.9%
有料老人ホーム	380	19	337	24
	100%	5.0%	88.7%	6.3%
その他	8	0	8	0
	100%	0.0%	100.0%	0.0%
合 計	1,084	70	945	69
	100%	6.5%	87.2%	6.4%

表16 心配なことがある場合相談できる機関の有無

	(施設)		
	相談できる 機関がある	相談できる 機関はない	無回答
特別養護老人ホーム	199	15	4
	86.1%	6.5%	1.7%
養護老人ホーム	11	2	2
	73.3%	13.3%	13.3%
ケアハウス	17	5	1
	56.7%	16.7%	3.3%
介護老人保健施設	104	19	1
	74.8%	13.7%	0.7%
認知症グループホーム	224	21	11
	79.7%	7.5%	3.9%
有料老人ホーム	329	17	16
	86.6%	4.5%	4.2%
その他	6	2	0
	75.0%	25.0%	0.0%
合 計	890	81	35
	82.1%	7.5%	3.2%

イ 職員の介護予防への口腔機能の維持・向上効果の知識

口腔機能の維持・向上が介護予防に効果があることを、ほとんどの職員が知っているという回答した施設が61.9%、半数以上が25.5%で、合わせると9割近くに上り、すべての種別の施設で同じ傾向であった。前回(平成21年度)のほとんど知っている(ほぼ全員知っている)が4割程度であったことから、口腔機能の向上についての知識が広く普及していることがうかがわれた。

表 17 職員の介護予防への口腔機能の維持・向上効果の知識

	(施設)					
	全 体	ほとんど 知らない	一部 知っている	半数程度 知っている	ほとんど 知っている	無回答
特別養護老人ホーム	231 100%	1 0.4%	30 13.0%	64 27.7%	135 58.4%	1 0.4%
養護老人ホーム	15 100%	1 6.7%	0 0.0%	3 20.0%	11 73.3%	0 0.0%
ケアハウス	30 100%	2 6.7%	5 16.7%	6 20.0%	17 56.7%	0 0.0%
介護老人保健施設	139 100%	0 0.0%	14 10.1%	33 23.7%	91 65.5%	1 0.7%
認知症グループホーム	281 100%	1 0.4%	39 13.9%	74 26.3%	166 59.1%	1 0.4%
有料老人ホーム	380 100%	1 0.3%	36 9.5%	95 25.0%	244 64.2%	4 1.1%
その他	8 100%	0 0.0%	0 0.0%	1 12.5%	7 87.5%	0 0.0%
合 計	1,084 100%	6 0.6%	124 11.4%	276 25.5%	671 61.9%	7 0.6%

ウ 利用者の口腔機能の把握について

(ア) 把握の対象

利用者の口腔機能の把握については、全員を把握しているとの回答が46.5%と前回(平成21年度)の57.6%を下回ったものの、必要な利用者のみとあわせると97.1%と前回(平成21年度)の97.7%とほぼ同じ水準であった。養護老人ホームやケアハウスでの把握状況が必要な利用者のみが多い傾向が認められ、入所者の状態に応じた対応が行われているものと推察される。

表 18 把握の対象(複数回答)

(施設)

	全 体	利用者全員	必要な 利用者のみ	ほとんど 把握していない	無回答
特別養護老人ホーム	231 100%	118 51.1%	107 46.3%	3 1.3%	6 2.6%
養護老人ホーム	15 100%	2 13.3%	12 80.0%	0 0.0%	1 6.7%
ケアハウス	30 100%	3 10.0%	20 66.7%	6 20.0%	1 3.3%
介護老人保健施設	139 100%	75 54.0%	61 43.9%	6 4.3%	1 0.7%
認知症グループホーム	281 100%	176 62.6%	98 34.9%	3 1.1%	9 3.2%
有料老人ホーム	380 100%	124 32.6%	249 65.5%	4 1.1%	7 1.8%
その他	8 100%	6 75.0%	2 25.0%	0 0.0%	0 0.0%
合 計	1,084 100%	504 46.5%	549 50.6%	22 2.0%	25 2.3%

(イ) 把握の頻度

口腔機能の把握の頻度は、歯や口腔の状況の把握の頻度と比べ、定期的に把握している割合はややおとるものの、不定期とあわせると85.6%とほぼ遜色ない割合で行っていた。月に1回以上把握を行っている施設が3分の1以上であり、前回(平成21年度)の13.6%を大きく上回ったものの、毎日行っている施設は3.0%にとどまった。歯や口腔の状況の把握を毎日行っている施設の6.6%と比して半分以下であった。

表 19 把握の頻度(複数回答)

(施設)

	全体	定期的	不定期	その他	無回答
特別養護老人ホーム	231 100%	118 51.1%	87 37.7%	45 19.5%	20 8.7%
養護老人ホーム	15 100%	6 40.0%	6 40.0%	6 40.0%	2 13.3%
ケアハウス	30 100%	3 10.0%	17 56.7%	7 23.3%	6 20.0%
介護老人保健施設	139 100%	62 44.6%	54 38.8%	34 24.5%	10 7.2%
認知症グループホーム	281 100%	129 45.9%	102 36.3%	84 29.9%	32 11.4%
有料老人ホーム	380 100%	148 38.9%	188 49.5%	78 20.5%	25 6.6%
その他	8 100%	3 37.5%	4 50.0%	3 37.5%	1 12.5%
合 計	1,084 100%	469 43.3%	458 42.3%	257 23.7%	96 8.9%

表 20 定期的把握の内訳

(施設)

	1回以上/月	毎日(再掲)	1回/2月	1回/3月	1回/6月	1回/12月
特別養護老人ホーム	76 32.9%	2 0.9%	5 2.2%	7 3.0%	8 3.5%	2 0.9%
養護老人ホーム	3 20.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 13.3%	0 0.0%
ケアハウス	3 10.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
介護老人保健施設	48 34.5%	6 4.3%	1 0.7%	2 1.4%	0 0.0%	0 0.0%
認知症グループホーム	116 41.3%	12 4.3%	1 0.4%	2 0.7%	1 0.4%	1 0.4%
有料老人ホーム	119 31.3%	12 3.2%	4 1.1%	4 1.1%	4 1.1%	1 0.3%
その他	3 37.5%	1 12.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
合 計	368 33.9%	33 3.0%	11 1.0%	15 1.4%	15 1.4%	4 0.4%

(ウ) 把握する職種(複数回答)

口腔機能について誰が把握しているかについては、施設職員の割合は歯や口腔の状況とほぼ同じで9割弱であったが、外部の歯科専門職は1割ほど低い結果であった。職種の内訳についても、歯や口腔の状況と同じ傾向であった。一方、前回(平成21年度)は施設職員の割合が9割を超えており、外部の歯科専門職の割合は6割弱であったことから、施設への外部の歯科専門職の介入度合いが増しているものと推察される。

表 21 誰が把握するか(複数回答)

	(施設)				
	全 体	施設職員	外部の歯科 専門職	その他	無回答
特別養護老人ホーム	231 100%	202 87.4%	165 71.4%	2 0.9%	9 3.9%
養護老人ホーム	15 100%	12 80.0%	10 66.7%	0 0.0%	0 0.0%
ケアハウス	30 100%	21 70.0%	17 56.7%	2 6.7%	2 6.7%
介護老人保健施設	139 100%	129 92.8%	85 61.2%	0 0.0%	3 2.2%
認知症グループホーム	281 100%	227 80.8%	169 60.1%	2 0.7%	12 4.3%
有料老人ホーム	380 100%	338 88.9%	260 68.4%	3 0.8%	6 1.6%
その他	8 100%	7 87.5%	2 25.0%	0 0.0%	0 0.0%
合 計	1,084 100%	936 86.3%	708 65.3%	9 0.8%	32 3.0%

図 8 施設職員 内訳

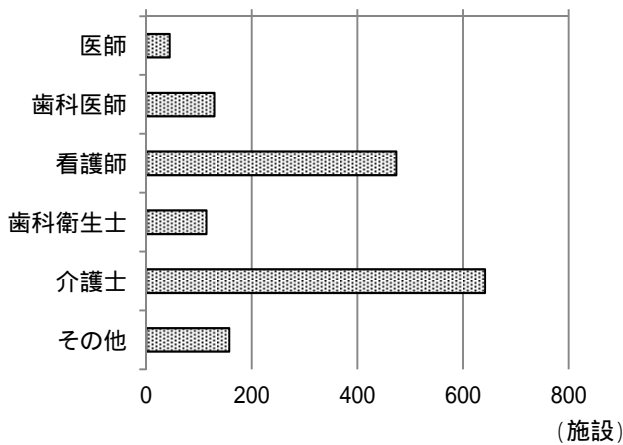
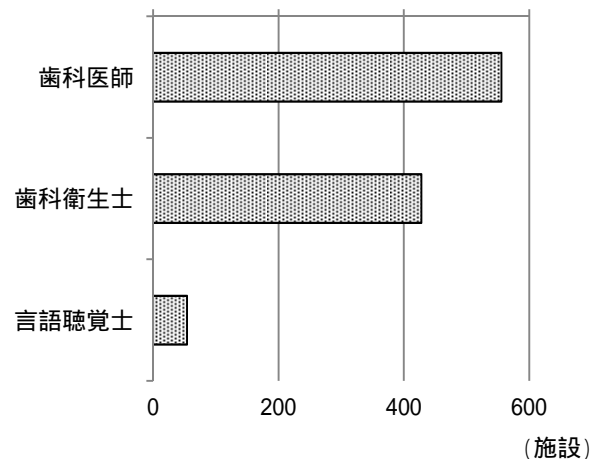


図 9 外部歯科専門職 内訳



(エ) 把握の方法

把握の方法については、前回(平成 21 年度)と比して専門的検査だけが増加(35.4%から 38.7%)しており、それ以外は減少した。前述のとおり、外部の歯科専門職の介入が増加したためと考えられる。

表 22 把握の方法(複数回答)

(施設)

	全 体	本人・家 族の訴え	食事時の 観察	マニユア ルや評価 シート	専門的 検査	その他	無回答
特別養護老人ホーム	231 100%	127 55.0%	189 81.8%	46 19.9%	102 44.2%	11 4.8%	11 4.8%
養護老人ホーム	15 100%	8 53.3%	10 66.7%	0 0.0%	6 40.0%	1 6.7%	1 6.7%
ケアハウス	30 100%	24 80.0%	15 50.0%	1 3.3%	4 13.3%	1 3.3%	3 10.0%
介護老人保健施設	139 100%	84 60.4%	117 84.2%	30 21.6%	34 24.5%	21 15.1%	4 2.9%
認知症グループホーム	281 100%	146 52.0%	219 77.9%	12 4.3%	89 31.7%	13 4.6%	19 6.8%
有料老人ホーム	380 100%	255 67.1%	321 84.5%	44 11.6%	182 47.9%	25 6.6%	9 2.4%
その他	8 100%	6 75.0%	5 62.5%	0 0.0%	2 25.0%	1 12.5%	0 0.0%
合 計	1,084 100%	650 60.0%	876 80.8%	133 12.3%	419 38.7%	73 6.7%	47 4.3%

エ 口腔機能の維持・向上プログラムの実施における医師・歯科医師・歯科衛生士・言語聴覚士等の専門職との連携

(ア) 連携の有無

口腔機能の維持・向上プログラムの実施において、専門職と連携をとっている施設の割合は 75.0%と、前回(平成 21 年度)の 73.0%から微増した。ケアハウスで低い傾向に変化はないが、養護老人ホームでの連携が 41.7%から 86.7%へと大きく増加した。

**表 23 口腔機能の維持・向上プログラムの実施における
医師・歯科医師・歯科衛生士・言語聴覚士等の専門職との連携**

	(施設)			
	全 体	とっていない	とっている	無回答
特別養護老人ホーム	231 100%	51 22.1%	177 76.6%	3 1.3%
養護老人ホーム	15 100%	2 13.3%	13 86.7%	0 0.0%
ケアハウス	30 100%	15 50.0%	14 46.7%	1 3.3%
介護老人保健施設	139 100%	21 15.1%	117 84.2%	1 0.7%
認知症グループホーム	281 100%	78 27.8%	199 70.8%	4 1.4%
有料老人ホーム	380 100%	80 21.1%	290 76.3%	10 2.6%
その他	8 100%	5 62.5%	3 37.5%	0 0.0%
合 計	1,084 100%	252 23.2%	813 75.0%	19 1.8%

(イ) 連携先

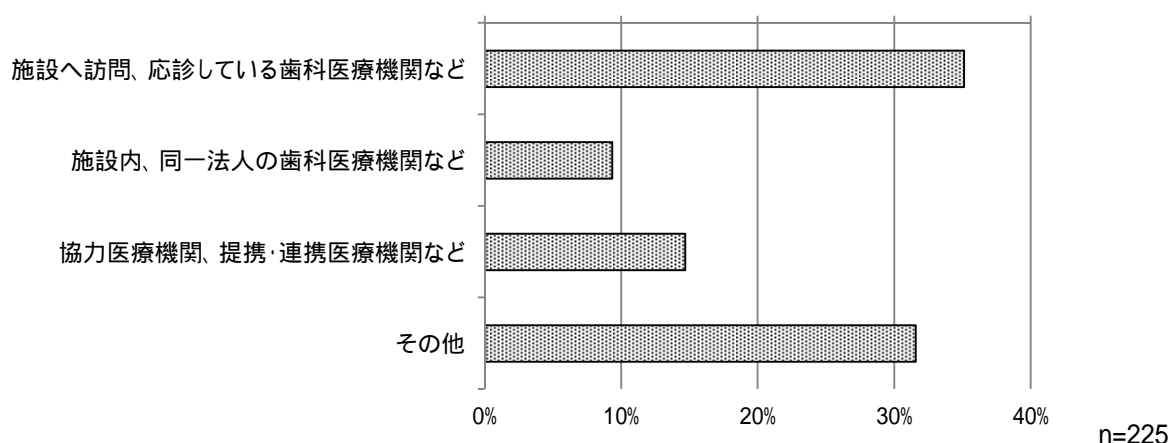
連携先は地域の歯科医療機関が34.3%と最も多く、次いでその他27.7%であった。その他として挙げられたものには、連携歯科医院や訪問専門の歯科診療所等による訪問歯科が多く、全体の13.8%を占めた。介護老人保健施設では、施設内・同法人の歯科医療機関との回答が9件あり、口腔ケア実施の連携先と同じ傾向が見られた。介護老人保健施設と有料老人ホームでは、言語聴覚士との回答がそれぞれ16件、28件あった。口腔ケアと異なり、口腔機能の維持・向上プログラムにおいては、言語聴覚士の活躍が見受けられた。なお、歯科医師会は前回(平成21年度)の9.9%から5.0%へと減少した。

表 24 連携先(複数回答)

(施設)

	全 体	医師会 から	歯科医 師会から	地域の 歯科医 療機関	その他	無回答
特別養護老人ホーム	177 100%	3 1.7%	22 12.4%	65 36.7%	52 29.4%	44 24.9%
養護老人ホーム	13 100%	0 0.0%	0 0.0%	5 38.5%	5 38.5%	4 30.8%
ケアハウス	14 100%	0 0.0%	1 7.1%	5 35.7%	5 35.7%	3 21.4%
介護老人保健施設	117 100%	0 0.0%	2 1.7%	39 33.3%	36 30.8%	45 38.5%
認知症グループホーム	199 100%	3 1.5%	11 5.5%	64 32.2%	35 17.6%	93 46.7%
有料老人ホーム	290 100%	2 0.7%	5 1.7%	101 34.8%	91 31.4%	108 37.2%
その他	3 100%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	2 66.7%
合 計	813 100%	8 1.0%	41 5.0%	279 34.3%	225 27.7%	299 36.8%

図 10 連携先・その他の内訳



(ウ) 連携の頻度

口腔ケアの実施における定期的な連携は74.9%であったのに対し、口腔機能の維持・向上プログラムの実施における定期的な連携は53.3%にとどまった。また、定期的な連携の頻度も少なかった。施設への外部の歯科専門職の介入度合いが増しているとはいえ、まだ連携を強化する余地があるものと考えられる。

表 25 連携の頻度(複数回答)

	(施設)				
	全体	定期的	不定期	その他	無回答
特別養護老人ホーム	177 100%	85 48.0%	38 21.5%	48 27.1%	15 8.5%
養護老人ホーム	13 100%	0 0.0%	5 38.5%	6 46.2%	2 15.4%
ケアハウス	14 100%	4 28.6%	6 42.9%	4 28.6%	2 14.3%
介護老人保健施設	117 100%	81 69.2%	31 26.5%	34 29.1%	8 6.8%
認知症グループホーム	199 100%	113 56.8%	63 31.7%	70 35.2%	14 7.0%
有料老人ホーム	290 100%	148 51.0%	117 40.3%	77 26.6%	18 6.2%
その他	3 100%	2 66.7%	0 0.0%	3 100.0%	0 0.0%
合 計	813 100%	433 53.3%	260 32.0%	242 29.8%	59 7.3%

表 26 定期的の内訳

	(施設)					
	1回以上/1月	1回以上/1週 (再掲)	1回/2月	1回/3月	1回/6月	1回/12月
特別養護老人ホーム	110 62.1%	26 14.7%	7 4.0%	2 1.1%	0 0.0%	0 0.0%
養護老人ホーム	4 30.8%	2 15.4%	0 0.0%	0 0.0%	2 15.4%	0 0.0%
ケアハウス	4 28.6%	2 14.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
介護老人保健施設	74 63.2%	28 23.9%	0 0.0%	3 2.6%	0 0.0%	0 0.0%
認知症グループホーム	98 49.2%	43 21.6%	3 1.5%	0 0.0%	1 0.5%	3 1.5%
有料老人ホーム	122 42.1%	48 16.6%	4 1.4%	6 2.1%	1 0.3%	2 0.7%
その他	2 66.7%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
合 計	414 50.9%	150 18.5%	14 1.7%	11 1.4%	4 0.5%	5 0.6%

(エ) 連携のきっかけ

連携のきっかけは7割弱が施設側からであり、前回(平成 21 年度)の 63.7%を上回った。一方、連携先からのアプローチは 27.6%から 19.1%へと減少した。連携先で最も多いのが地域の歯科であり、歯科医師会が減少したことから、組織的なアプローチが減少していることが原因ではないかと考えられる。

表 27 連携のきっかけ(複数回答)

	(施設)				
	全 体	施設側から	連携先から	その他	無回答
特別養護老人ホーム	177	135	33	12	17
	100%	76.3%	18.6%	6.8%	9.6%
養護老人ホーム	13	10	4	3	1
	100%	76.9%	30.8%	23.1%	7.7%
ケアハウス	14	6	4	4	3
	100%	42.9%	28.6%	28.6%	21.4%
介護老人保健施設	117	84	23	11	15
	100%	71.8%	19.7%	9.4%	12.8%
認知症グループホーム	199	118	41	18	37
	100%	59.3%	20.6%	9.0%	18.6%
有料老人ホーム	290	211	50	24	51
	100%	72.8%	17.2%	8.3%	17.6%
その他	3	2	0	0	1
	100%	66.7%	0.0%	0.0%	33.3%
合 計	813	566	155	72	125
	100%	69.6%	19.1%	8.9%	15.4%

オ 口腔ケアや口腔機能の維持・向上プログラムに対する取組み

(ア) 口腔ケアに関する話し合いの有無

口腔ケアに関する定期的な話し合いを行っている施設は65.8%で、前回(平成21年度)の58.5%から増加した。話し合いの頻度も1か月に1回以上が最も多く、30.2%から40.7%へと増加した。

表 28 口腔ケアに関する話し合いの有無

(施設)

	全体	ある	ない	無回答
特別養護老人ホーム	231	159	63	9
	100%	68.8%	27.3%	3.9%
養護老人ホーム	15	11	4	0
	100%	73.3%	26.7%	0.0%
ケアハウス	30	6	20	4
	100%	20.0%	66.7%	13.3%
介護老人保健施設	139	94	40	5
	100%	67.6%	28.8%	3.6%
認知症グループホーム	281	184	85	12
	100%	65.5%	30.2%	4.3%
有料老人ホーム	380	254	108	18
	100%	66.8%	28.4%	4.7%
その他	8	5	2	1
	100%	62.5%	25.0%	12.5%
合 計	1,084	713	322	49
	100%	65.8%	29.7%	4.5%

表 29 定期的な話し合いの内訳

(施設)

	1回以上 /1月	1回/ 1~2月	1回/2月	1回/ 2~3月	1回/3月	1回/ 3~4月	1回/4月	1回/6月	1回/12月
特別養護老人ホーム	93	0	6	1	9	1	0	15	2
	40.3%	0.0%	2.6%	0.4%	3.9%	0.4%	0.0%	6.5%	0.9%
養護老人ホーム	3	0	2	0	1	0	0	2	2
	20.0%	0.0%	13.3%	0.0%	6.7%	0.0%	0.0%	13.3%	13.3%
ケアハウス	5	0	0	0	1	0	0	0	0
	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	3.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
介護老人保健施設	71	0	0	1	6	0	1	2	0
	51.1%	0.0%	0.0%	0.7%	4.3%	0.0%	0.7%	1.4%	0.0%
認知症グループホーム	107	0	8	3	12	0	0	13	3
	38.1%	0.0%	2.8%	1.1%	4.3%	0.0%	0.0%	4.6%	1.1%
有料老人ホーム	160	2	6	5	17	0	0	16	4
	42.1%	0.5%	1.6%	1.3%	4.5%	0.0%	0.0%	4.2%	1.1%
その他	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
合 計	441	2	22	10	46	1	1	48	11
	40.7%	0.2%	2.0%	0.9%	4.2%	0.1%	0.1%	4.4%	1.0%

(イ) 口腔ケアマニュアルの有無

口腔ケアマニュアルがあると回答した施設は 47.1%で、前回(平成 21 年度)の 58.5%から減少した。施設職員等への口腔ケアに関する知識の普及に反して、マニュアルは整備されない傾向がうかがわれた。一度作成したマニュアルが使用されなくなった場合を考えると、現場でマニュアルがなくとも口腔ケアに対応が可能になっている状況が予想される。また、前回調査から対象施設数が大きく増えており、その増えた施設にマニュアルが整備されていない可能性も考えられるが、この場合も、施設側において現場対応に問題がないことがうかがわれる。

表 30 口腔ケアマニュアルの有無

	(施設)			
	全 体	あ る	な い	無回答
特別養護老人ホーム	231	130	83	18
	100%	56.3%	35.9%	7.8%
養護老人ホーム	15	5	9	1
	100%	33.3%	60.0%	6.7%
ケアハウス	30	6	18	6
	100%	20.0%	60.0%	20.0%
介護老人保健施設	139	82	50	7
	100%	59.0%	36.0%	5.0%
認知症グループホーム	281	105	132	44
	100%	37.4%	47.0%	15.7%
有料老人ホーム	380	181	154	45
	100%	47.6%	40.5%	11.8%
その他	8	2	5	1
	100%	25.0%	62.5%	12.5%
合 計	1,084	511	451	122
	100%	47.1%	41.6%	11.3%

(ウ) 口腔機能に関する話し合いの有無

口腔機能に関する定期的な話し合いを行っている施設は 56.5%で、口腔ケアよりも 10%程度少なかった。

また、前回(平成 21 年度)の 52.8%からは増加した。1月に1回以上話し合いを行っている施設が 3 分 1 程度であり、これも前回(平成 21 年度)の 27.0%を上回った。

表 31 口腔機能に関する話し合いの有無

	(施設)			
	全 体	あ る	な い	無回答
特別養護老人ホーム	231	142	78	11
	100%	61.5%	33.8%	4.8%
養護老人ホーム	15	8	7	0
	100%	53.3%	46.7%	0.0%
ケアハウス	30	8	20	2
	100%	26.7%	66.7%	6.7%
介護老人保健施設	139	85	48	6
	100%	61.2%	34.5%	4.3%
認知症グループホーム	281	151	113	17
	100%	53.7%	40.2%	6.0%
有料老人ホーム	380	214	140	26
	100%	56.3%	36.8%	6.8%
その他	8	5	2	1
	100%	62.5%	25.0%	12.5%
合 計	1,084	613	408	63
	100%	56.5%	37.6%	5.8%

表 32 定期的な話し合いの内訳

	(施設)								
	1回以上 /1月	1回/ 1~2月	1回/2月	1回/2~3月	1回/3月	1回/ 3~4月	1回/4月	1回/6月	1回/12月
特別養護老人ホーム	86	0	3	0	11	1	0	11	3
	37.2%	0.0%	1.3%	0.0%	4.8%	0.4%	0.0%	4.8%	1.3%
養護老人ホーム	2	0	1	0	1	0	0	1	0
	13.3%	0.0%	6.7%	0.0%	6.7%	0.0%	0.0%	6.7%	0.0%
ケアハウス	4	0	0	0	0	0	0	0	0
	13.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
介護老人保健施設	58	0	0	1	8	0	0	1	1
	41.7%	0.0%	0.0%	0.7%	5.8%	0.0%	0.0%	0.7%	0.7%
認知症グループホーム	81	0	5	2	8	1	1	13	3
	28.8%	0.0%	1.8%	0.7%	2.8%	0.4%	0.4%	4.6%	1.1%
有料老人ホーム	119	2	7	4	13	0	0	18	4
	31.3%	0.5%	1.8%	1.1%	3.4%	0.0%	0.0%	4.7%	1.1%
その他	2	0	0	0	0	0	0	0	0
	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
合 計	352	2	16	7	41	2	1	44	11
	32.5%	0.2%	1.5%	0.6%	3.8%	0.2%	0.1%	4.1%	1.0%

(エ) 口腔機能マニュアルの有無

口腔機能マニュアルを有する施設は3分の1以下であり、前回(平成21年度)の45.8%を大きく下回った。施設の種別で見てもほとんどの施設で減少しており、口腔ケアと同じく、知識の普及に反してマニュアルの整備は行われなくなる傾向がうかがわれた。

表 33 口腔機能マニュアルの有無

	(施設)			
	全 体	あ る	な い	無回答
特別養護老人ホーム	231	72	140	19
	100%	31.2%	60.6%	26.4%
養護老人ホーム	15	1	13	1
	100%	6.7%	86.7%	100%
ケアハウス	30	6	19	5
	100%	20.0%	63.3%	83.3%
介護老人保健施設	139	51	76	12
	100%	36.7%	54.7%	23.5%
認知症グループホーム	281	76	159	46
	100%	27.0%	56.6%	60.5%
有料老人ホーム	380	142	192	46
	100%	37.4%	50.5%	32.4%
その他	8	3	3	2
	100%	37.5%	37.5%	66.7%
合 計	1,084	351	602	131
	100%	32.4%	55.5%	37.3%

(3) 認知症の利用者の口腔ケア、食事支援・介助等の状況

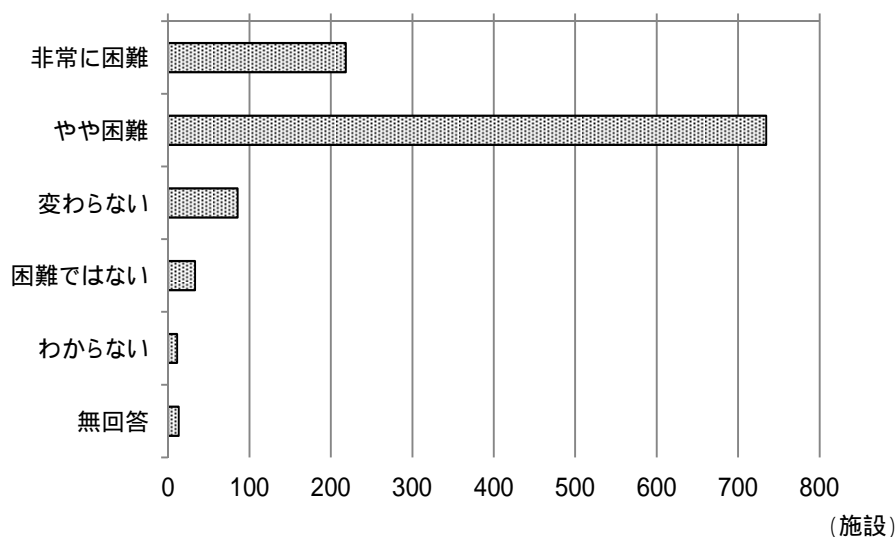
ア 口腔ケア、食事支援・介助等の困難さ

認知症のない方と比べ、口腔ケア、食事支援・介助等がやや困難だと回答が67.7%を占め、施設の種別を問わず最も多かった。

表 34 認知症のない方と比べ、口腔ケア、食事支援・介助等は困難だと思うか(複数回答)

	(施設)						
	全体	非常に困難	やや困難	変わらない	困難ではない	わからない	無回答
特別養護老人ホーム	231	63	152	15	2	0	1
	100%	27.3%	65.8%	6.5%	0.9%	0.0%	0.4%
養護老人ホーム	15	1	13	1	0	0	0
	100%	6.7%	86.7%	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%
ケアハウス	30	6	15	2	1	4	2
	100%	20.0%	50.0%	6.7%	3.3%	13.3%	6.7%
介護老人保健施設	139	51	80	7	1	1	0
	100%	36.7%	57.6%	5.0%	0.7%	0.7%	0.0%
認知症グループホーム	281	53	198	21	10	1	2
	100%	18.9%	70.5%	7.5%	3.6%	0.4%	0.7%
有料老人ホーム	380	42	272	38	18	5	8
	100%	11.1%	71.6%	10.0%	4.7%	1.3%	2.1%
その他	8	2	4	1	1	0	0
	100%	25.0%	50.0%	12.5%	12.5%	0.0%	0.0%
合 計	1,084	218	734	85	33	11	13
	100%	20.1%	67.7%	7.8%	3.0%	1.0%	1.2%

図 11 認知症のない方と比べ、口腔ケア・食事支援・介助等は困難だと思うか



イ 施設職員の研修の有無

施設の職員に、認知症がある入所者への口腔ケアや食事支援・介助に関する研修を行っている、または受講させている施設は46.9%で、前回(平成21年度)の46.0%からわずかに増加した。

**表 35 施設の職員を対象に、認知症がある場合の
口腔ケアや食事支援・介助に関する研修の実施・受講**

	(施設)			
	全体	行っている	行っていない	無回答
特別養護老人ホーム	231 100%	111 48.1%	120 51.9%	0 0.0%
養護老人ホーム	15 100%	6 40.0%	9 60.0%	0 0.0%
ケアハウス	30 100%	2 6.7%	27 90.0%	1 3.3%
介護老人保健施設	139 100%	77 55.4%	62 44.6%	0 0.0%
認知症グループホーム	281 100%	123 43.8%	156 55.5%	2 0.7%
有料老人ホーム	380 100%	187 49.2%	189 49.7%	4 1.1%
その他	8 100%	2 25.0%	6 75.0%	0 0.0%
合 計	1,084 100%	508 46.9%	569 52.5%	7 0.6%

表 36 行っているの内訳

(施設)

	0～1回/年	～2回/年	～3回/年	～4回/年	～5回/年	～6回/年	～12回/年
特別養護老人ホーム	64 27.7%	17 7.4%	7 3.0%	4 1.7%	1 0.4%	1 0.4%	7 3.0%
養護老人ホーム	3 20.0%	0 0.0%	1 6.7%	1 6.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
ケアハウス	2 6.7%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
介護老人保健施設	47 33.8%	15 10.8%	3 2.2%	2 1.4%	3 2.2%	0 0.0%	0 0.0%
認知症グループホーム	95 33.8%	15 5.3%	4 1.4%	0 0.0%	0 0.0%	1 0.4%	1 0.4%
有料老人ホーム	115 30.3%	32 8.4%	10 2.6%	3 0.8%	0 0.0%	3 0.8%	3 0.8%
その他	1 12.5%	0 0.0%	0 0.0%	1 12.5%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
合 計	327 30.2%	79 7.3%	25 2.3%	11 1.0%	4 0.4%	5 0.5%	11 1.0%

行っていない施設においても、今後行いたいと回答した施設が 45.1%で、44.9%からこちらも微増した。

表 37 行っていないの内訳

(施設)

	予定がある	行いたい	予定はない	無回答
特別養護老人ホーム	8 3.5%	99 42.9%	5 2.2%	10 4.3%
養護老人ホーム	1 6.7%	8 53.3%	0 0.0%	0 0.0%
ケアハウス	0 0.0%	21 70.0%	5 16.7%	1 3.3%
介護老人保健施設	3 2.2%	57 41.0%	2 1.4%	2 1.4%
認知症グループホーム	14 5.0%	132 47.0%	6 2.1%	8 2.8%
有料老人ホーム	13 3.4%	168 44.2%	5 1.3%	8 2.1%
その他	1 12.5%	4 50.0%	1 12.5%	0 0.0%
合 計	40 3.7%	489 45.1%	24 2.2%	29 2.7%

介護保険施設等における口腔ケア等実態調査 調査票（介護保険施設用）

下記の設問について、平成26年4月1日現在として該当するものをつけ、施設の実況等必要事項をご記入ください。

お手数ですが 6月6日(金曜日)までに ご返送ください。

送付先: 東京都福祉保健局医療政策部医療政策課 宛 FAX 03 - 5388 - 1436

施設名	施設の種類 ・特別養護老人ホーム・養護老人ホーム・ケアハウス ・介護老人保健施設・認知症グループホーム・有料老人ホーム ・その他	定員 利用者数()
所在地 区・市・町・村	記入者氏名 職種(施設長・看護職・介護職・その他)	連絡先 TEL 内線

問1 利用者の日常の口腔ケア（歯みがきや義歯の清掃）についてうかがいます。

- 1 施設の職員を対象に、口腔ケアの研修を行ったり、受講をさせていますか。
 ① 行っている(年に__回程度)
 ② 行っていない ⇒ ① 行う予定がある(いつごろ: _____) ② 予定はないが行いたい ③ 行う予定はない
- 2 貴施設の職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の予防に効果があることを知っていますか。
 ① ほとんど知らない ② 一部の職員は知っている ③ 半数程度は知っている ④ ほとんどの職員が知っている
- 3 利用者の口腔の状況の把握についてうかがいます。(複数回答可)

(1) 対象者	① 利用者全員 ② 必要な利用者のみ ③ ほとんど把握していない
(2) 把握の頻度	① 定期的(__か月に1回程度) ② 不定期 ③ その他(具体的に _____)
(3) 誰が把握するか	① 施設職員: 医師・歯科医師・看護師・歯科衛生士・介護士・その他(_____) ② 外部の歯科専門職: 歯科医師・歯科衛生士・言語聴覚士 ③ その他(具体的に _____)
(4) 把握の方法	① 本人・家族の訴え ② 口腔内の観察 ③ マニュアルや評価シート ④ 歯科健診 ⑤ その他(具体的に _____)

- 4 口腔ケアの実施において、歯科医師・歯科衛生士等の専門職と連携をとっていますか。
 ① とっていない ⇒ (1) 連携先 ① 医師会からの紹介 ② 歯科医師会からの紹介 ③ 地域の歯科医療機関
④ その他(具体的に _____)
 ② とっている ⇒ (2) 頻度 ① 定期的(__か月に1回程度) ② 不定期 ③ その他(具体的に _____)
 (3) きっかけ ① 施設側からの依頼 ② 連携先からの申し出 ③ その他(具体的に _____)

問2 利用者の口腔機能の維持・向上を目的としたプログラムの実施についてうかがいます。

- 1 利用者の誤嚥、窒息について心配なことはありますか。
 ① ない ② ある ⇒ 相談できる専門家・専門機関が ① ある ② ない
- 2 職員は、口腔機能の維持・向上が介護予防に効果があることを知っていますか。
 ① ほとんど知らない ② 一部の職員は知っている ③ 半数程度は知っている ④ ほとんどの職員が知っている
- 3 利用者の口腔機能の把握についてうかがいます。(複数回答可)

(1) 対象者	① 利用者全員 ② 必要な利用者のみ ③ ほとんど把握していない
(2) 把握の頻度	① 定期的(__か月に1回程度) ② 不定期 ③ その他(具体的に _____)
(3) 誰が把握するか	① 施設職員: 医師・歯科医師・看護師・歯科衛生士・介護士・その他(_____) ② 外部の歯科専門職: 歯科医師・歯科衛生士・言語聴覚士 ③ その他(具体的に _____)
(4) 把握の方法	① 本人・家族の訴え ② 食事時の観察 ③ マニュアルや評価シート ④ 専門的な検査(医師・歯科医師等による嚥下機能検査等) ⑤ その他(具体的に _____)

- 4 口腔機能の維持・向上プログラムの実施において、医師・歯科医師・歯科衛生士・言語聴覚士等の専門職と連携をとっていますか。
 ① とっていない ⇒ (1) 連携先 ① 医師会からの紹介 ② 歯科医師会からの紹介 ③ 地域の歯科医療機関
④ その他(具体的に _____)
 ② とっている ⇒ (2) 頻度 ① 定期的(__か月に1回程度) ② 不定期 ③ その他(具体的に _____)
 (3) きっかけ ① 施設側からの依頼 ② 連携先からの申し出 ③ その他(具体的に _____)
- 5 口腔ケアや口腔機能の維持・向上プログラムの実施に際し、施設内で定期的な話し合いの場や職員が共通で使用するマニュアルがありますか。
 (1) 口腔ケア 1) 話し合いの場が ① ある(頻度 __か月に1回程度) ② ない
2) マニュアルが ① ある ② ない
 (2) 口腔機能の維持・向上プログラム 1) 話し合いの場が ① ある(頻度 __か月に1回程度) ② ない
2) マニュアルが ① ある ② ない

問3 認知症のある利用者の口腔ケア、食事支援・介助についてうかがいます。

- 1 認知症のない方と比べ、口腔ケア、食事支援・介助は困難だと思いますか。
 ① 非常に困難 ② やや困難 ③ 変わらない ④ 困難ではない ⑤ わからない
- 2 施設の職員を対象に、認知症がある場合の口腔ケアや食事支援・介助に関する研修を行ったり、受講させていますか。
 ① 行っている(年に__回程度)
 ② 行っていない ⇒ ① 行う予定がある(いつごろ: _____) ② 予定はないが行いたい ③ 行う予定はない

ご協力ありがとうございました

3 訪問看護ステーション

(1) 在宅療養患者に対し、歯科的な対応が必要なケースについて

在宅療養患者で歯科的対応が必要なケースは、前回(平成 21 年度)と比して 1 割未満から 5 割以下で 71.1%が 63.6%へと減少、5 割を超えるものが 15.2%から 19.0%へと増加した。

表 38 在宅療養患者で、歯科的な対応が必要なケースの割合

(施設)

	全 体	0割 (なし)	1割 未満	1割	～2割	～3割	～4割	～5割	～6割	～7割	～8割	～9割	10割	無回答
総 数	472	16	5	99	75	63	24	34	12	24	35	10	9	66
割 合	100%	3.4%	1.1%	21.0%	15.9%	13.3%	5.1%	7.2%	2.5%	5.1%	7.4%	2.1%	1.9%	14.0%

(2) 利用者の日常の口腔ケアや歯科治療について

ア 職員の口腔ケアの研修実施・受講

口腔ケアの研修については、行っていると回答した施設は前回(平成 21 年度)の 49.5%から 42.6%へと減少したが、今後行いたいと回答した施設は 33.0%から 37.1%へと増加した。

表 39 職員の口腔ケアの研修実施 / 受講

(施設)

	全 体	行っていない	今後行いたい	行っている	無回答
総 数	472	86	175	201	10
割 合	100%	18.2%	37.1%	42.6%	2.1%

イ 利用者の歯や口腔の状況の把握

(ア) 把握の有無

利用者の歯や口腔状況を把握する対象は、ほとんど把握していない施設は前回(平成 21 年度)の 1.4%から 1.7%と概ね変わらなかった。一方、原則全員把握する施設は 38.5%から 35.0%に減少し、必要と思われた利用者のみが 59.2%から 64.2%へと増加した。

表 40 対象の把握(複数回答)

(施設)

	全 体	ほとんど 把握していない	必要と思われ た利用者のみ	原則全員 把握する	無回答
総 数	472	8	303	165	4
割 合	100%	1.7%	64.2%	35.0%	0.8%

(イ) 把握の頻度

把握の頻度は、初回訪問時が前回(平成21年度)の46.8%から48.9%へ、定期的が2.3%から3.8%へとわずかに増加したものの、不定期は73.9%から65.3%へと減少した。

表 41 把握の頻度(複数回答)

(施設)

	全 体	初回 訪問時	不定期	定期的	定期的の内訳(か月に1回)				その他	無回答
					1か月	1~2か月	3か月	3~6か月		
総 数	472	231	308	18	8	1	8	1	51	13
割 合	100%	48.9%	65.3%	3.8%	1.7%	0.2%	1.7%	0.2%	10.8%	2.8%

(ウ) 把握する職種

把握する職種は、ステーション職員が96.8%と大半を占め、前回(平成21年度)の72.5%を大きく上回った。訪問看護ステーションの職員にも、歯・口腔の状態把握への認識が高まったと考えられる。一方、歯科専門職が把握すると回答した割合は16.1%から13.6%へと減少した。

表 42 把握する職種(複数回答)

(施設)

	全 体	ステーション 職員	ステーション職員内訳		歯科専門職	その他	無回答
			看護職	その他			
総 数	472	457	294	56	64	17	14
割 合	100%	96.8%	62.3%	11.9%	13.6%	3.6%	3.0%

(エ) 把握の方法

把握の方法は、本人・家族からの情報が86.9%と最も多く、前回(平成21年度)とほぼ同じであった。一方、口腔内観察は87.2%から81.4%へと減少し、かかりつけ歯科医からが18.8%から24.4%へと増加した。訪問看護ステーションで直接把握するのではなく、情報の入手による把握が進んでいるものと考えられる。

表 43 把握の方法(複数回答)

(施設)

	全 体	本人・家族 からの情報	口腔内観察	マニュアルや 評価シート	利用者の かかりつけ 歯科医から	その他	無回答
総 数	472	410	384	11	115	23	10
割 合	100%	86.9%	81.4%	2.3%	24.4%	4.9%	2.1%

ウ 利用者の口腔ケア・歯科治療の実施に関する歯科医師・歯科衛生士等の専門職と連携の有無

(ア) 連携先の有無

歯科専門職との連携があると回答した施設の割合は、前回(平成 21 年度)の 70.2%から 72.5%へと増加しており、前の設問(表 43)の回答を裏付ける結果となった。

**表 44 利用者の口腔ケア・歯科治療の実施に関する
歯科医師・歯科衛生士等の専門職と連携の有無**

	(施設)			
	全 体	ない	ある	無回答
総 数	472	127	342	3
割 合	100%	26.9%	72.5%	0.6%

(イ) 連携先

連携先としては、利用者のかかりつけ歯科医が前回(平成 21 年度)の 59.5%から 65.8%へと増加した。これも先の設問(表 42)の回答を裏付ける結果である。一方、地区歯科医師会からの紹介は 24.2%から 14.6%へと減少した。

表 45 連携先(複数回答)

	(施設)				
	全 体	利用者の かかりつけ歯科医	地区歯科医師会 からの紹介	その他	無回答
総 数	342	225	50	102	39
割 合	100%	65.8%	14.6%	29.8%	11.4%

(ウ) 連携の頻度

定期的に連携していると回答した施設が前回(平成 21 年度)の 8.5%から 13.5%へと増加し、頻度も1か月に1回が最も多く、6.5%から 10.5%に増加した。

表 46 連携の頻度(複数回答)

	(施設)											
	全 体	不定期	定期的	定期的の内訳(か月に1回)							その他	無回答
				1 か月	1~2 か月	1~3 か月	2 か月	2~3 か月	3 か月	無回答		
総 数	342	272	46	36	3	1	1	1	3	1	17	26
割 合	100%	79.5%	13.5%	10.5%	0.9%	0.3%	0.3%	0.3%	0.9%	0.3%	5.0%	7.6%

(エ) 連携のきっかけ

連携のきっかけは訪問看護ステーションからが最も多く、4分の3を占めた。内訳は前回(平成21年度)とほぼ同じであった。

表 47 連携のきっかけ(複数回答)

	全 体	ステーションから	連携先から	その他	無回答
総 数	342	256	124	51	28
割 合	100%	74.9%	36.3%	14.9%	8.2%

(施設)

(3) 在宅療養患者の摂食・嚥下機能に対する対応の状況

ア 利用者の食事時の誤嚥・窒息について心配なことの有無

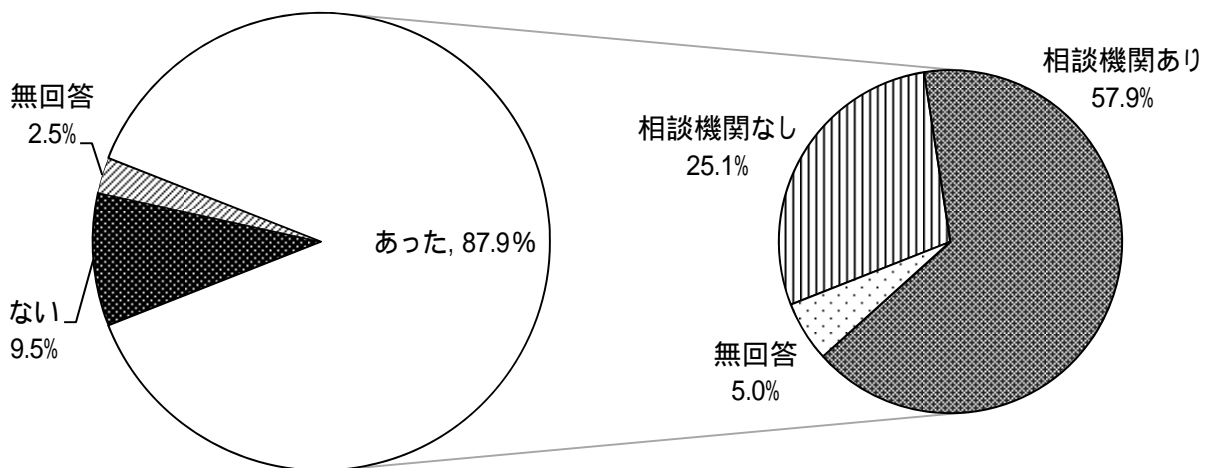
利用者の食事時の誤嚥・窒息について心配なことがないと回答した施設は、前回(平成21年度)の6.9%から9.5%へと増加し、あったと回答した施設は89.4%から87.9%へと減少したものの、9割近くを占めた。一方、相談できる機関があると回答した施設は56.9%から66.7%へと増加した。

表 48 利用者の食事時の誤嚥・窒息について心配なことの有無

	全 体	な い	あ っ た	あ っ た 内 訳			無 回 答
				相 談 可 能 機 関 な し	相 談 可 能 機 関 あ り	無 回 答	
総 数	472	45	415	120	277	24	12
割 合	100%	9.5%	87.9%	28.9%	66.7%	5.8%	2.5%

(施設)

**図12 利用者の食事時の誤嚥・窒息について
心配なことの有無**



イ 利用者の摂食・嚥下機能の状況の把握

(ア) 把握の有無

摂食・嚥下機能の把握は、原則全員把握するが前回(平成21年度)51.8%から38.3%へと大幅に減少し、ほとんど把握していないも0.5%から1.9%へと微増したものの、必要と思われた利用者に対しては46.8%から60.6%へと増加した。

表 49 対象の把握(複数回答)

	(施設)				
	全 体	ほとんど把握していない	必要と思われた利用者	原則全員把握する	無回答
総 数	472	9	286	181	4
割 合	100%	1.9%	60.6%	38.3%	0.8%

(イ) 把握の頻度

把握の頻度は、不定期が最も多く、次いで初回訪問時で、前回(平成21年度)とほぼ同じ傾向であった。

表 50 把握の頻度(複数回答)

	(施設)									
	全 体	初回訪問時	不定期	定期的	定期的の内訳(か月に1回)				その他	無回答
					1か月	1~2か月	1~3か月	3か月		
総 数	472	259	340	19	10	1	1	7	38	8
割 合	100%	54.9%	72.0%	4.0%	2.1%	0.2%	0.2%	1.5%	8.1%	1.7%

(ウ) 把握する職種

把握する職種はステーション職員が96.8%と大多数を占め、前回(平成21年度)の74.3%から大きく増加した。ステーション職員への摂食・嚥下機能に関する知識の普及がうかがわれる結果であった。口腔内の状況と異なり、歯科専門職の割合も7.8%から12.1%へと増加した。把握が必要な場合、歯科専門職が介入することが多くなり、専門性が求められる度合いが増えていることがうかがわれる。

表 51 把握する職種(複数回答)

	(施設)						
	全 体	ステーション職員	看護職	その他	歯科専門職	その他	無回答
総 数	472	457	270	81	57	10	12
割 合	100%	96.8%	57.2%	17.2%	12.1%	2.1%	2.5%

(エ) 把握の方法

把握の方法は、前回(平成21年度)と比して食事時の観察が84.4%から74.2%へ、本人・家族の訴えが96.3%から94.3%へ、マニュアルや評価シートが6.0%から5.5%へとそれぞれ減少し、利用者のかかりつけ歯科医からが11.5%から22.0%へとほぼ倍増した。前の設問(表51)と同じく、摂食・嚥下機能の把握には、歯科専門職の介入が求められる比率が上がってきていることが示された。

表 52 把握の方法(複数回答)

								(施設)
	全 体	本人・家族の訴え	食事時の観察	マニュアルや評価シート	利用者のかかりつけ歯科医から	スクリーニングテスト	その他	無回答
総 数	472	445	350	26	104	94	43	9
割 合	100%	94.3%	74.2%	5.5%	22.0%	19.9%	9.1%	1.9%

ウ 利用者の摂食・嚥下機能に関して、医師・歯科医師・歯科衛生士等の専門職と連携の有無

(ア) 連携の有無

専門職との連携は、先の設問(表44)の結果が示したのと同様、あるとの回答が前回(平成21年度)67.0%から75.4%へと増加し、「いい歯東京」の目標を達成した。

**表 53 利用者の摂食・嚥下機能に関して、
医師・歯科医師・歯科衛生士等の専門職と連携の有無**

					(施設)
	全 体	な い	あ る	無回答	
総 数	472	113	356	3	
割 合	100%	23.9%	75.4%	0.6%	

(イ) 連携先

連携先としては、患者のかかりつけ歯科医が前回(平成21年度)の32.2%から55.9%と半数以上に増加したのに対し、地区歯科医師会からの紹介は13.7%から10.1%へと減少した。

また、前回(平成21年度)54.8%と半数以上だった医師は43.5%へと減少しており、かかりつけ歯科医が摂食・嚥下機能においても中心的な役割を果たしつつある傾向がうかがわれた。

表 54 連携先(複数回答)

						(施設)
	全 体	患者のかかりつけ歯科医	地区歯科医師会からの紹介	医 師	その他	無回答
総 数	356	199	36	155	88	27
割 合	100%	55.9%	10.1%	43.5%	24.7%	7.6%

(ウ) 連携の頻度

連携の頻度は、不定期が前回(平成21年度)の82.9%から78.9%へと減少し、1か月に1回定期的に行う施設の割合が3.4%から7.9%へと倍増した。また全体的に見れば定期的な連携を図るに至っては
いないものの、日常的な連携が進みつつある傾向がうかがわれる。

表 55 連携の頻度(複数回答)

(施設)

	全 体	不定期	定期的	定期的の内訳(か月に1回)						その他	無回答
				1 か月	2 か月	1~3 か 月	2~3 か 月	3 か月	無回答		
総 数	356	281	38	28	3	1	1	3	2	18	41
割 合	100%	78.9%	10.7%	7.9%	0.8%	0.3%	0.3%	0.8%	0.6%	5.1%	11.5%

(エ) 連携のきっかけ

連携のきっかけは、連携先からが前回(平成21年度)の24.7%から34.8%へと増加しており、連携先が患者のかかりつけ歯科医が最も多かったことと合わせ、かかりつけ歯科医の積極的な介入の増加がう
かがわれる結果であった。

表 56 連携のきっかけ(複数回答)

(施設)

	全 体	ステーションから	連携先から	その他	無回答
総 数	356	270	124	43	31
割 合	100%	75.8%	34.8%	12.1%	8.7%

エ 利用者の口腔ケアや摂食・嚥下機能に関する職員の話し合いの場や共通のマニュアルの有無

(ア) 話し合いの有無

口腔ケアに関する話し合いについて、あると回答した施設の割合は前回(平成21年度)の37.2%から42.8%へと増加したものの、1か月に1回定期的実施している割合は17.4%から12.5%へと減少した。

表 57 口腔ケアに関する話し合いの有無及び頻度

	(施設)									
	全体	ない	ある	定期的な話し合いの内訳(か月に1回)						無回答
				~1か月	~2か月	~3か月	~6か月	12か月	無回答	
総数	472	252	202	59	12	16	12	6	97	18
割合	100%	53.4%	42.8%	12.5%	2.5%	3.4%	2.5%	1.3%	20.6%	3.8%

摂食・嚥下に関する話し合いについて、あると回答した施設の割合は前回(平成21年度)の39.9%から47.7%へと増加したものの、1か月に1回定期的実施している割合は16.5%から12.7%へと減少した。前回(平成21年度)も口腔ケアより摂食・嚥下に関する話し合いの方が多かった結果であったが、今回はさらにその差が拡大した。

表 58 摂食・嚥下に関する話し合いの有無及び頻度

	(施設)										
	全体	ない	ある	定期的な話し合いの内訳(か月に1回)							無回答
				1か月	~2か月	~3か月	~4か月	~6か月	12か月	無回答	
総数	472	225	225	60	13	13	2	11	6	106	22
割合	100%	47.7%	47.7%	12.7%	2.8%	2.8%	0.4%	2.3%	1.3%	22.5%	4.7%

(イ) マニュアルの有無

口腔ケアマニュアルがあると回答した施設は、前回(平成21年度)の45.0%から27.8%へと大きく減少した。訪問看護ステーションが直接、口腔ケアを実施するためのマニュアルが減少した理由として、(表45)で示されたように、口腔ケアの実施にあたっては利用者のかかりつけ歯科医との連携が多いことが考えられる。

表 59 口腔ケアマニュアルの有無

	(施設)			
	全体	ない	ある	無回答
総数	472	242	131	99
割合	100%	51.3%	27.8%	21.0%

摂食・嚥下マニュアルがあると回答した施設も口腔ケアマニュアルと同様、前回(平成 21 年度)の 39.4%から 26.9%へと大きく減少した。これも摂食・嚥下機能に関して、(表 54)で示されたように利用者のかかりつけ歯科医との連携が多いことによると考えられる。

表 60 摂食・嚥下マニュアルの有無

	(施設)			
	全 体	な い	あ る	無回答
総 数	472	244	127	101
割 合	100%	51.7%	26.9%	21.4%

(4) 認知症を持つ在宅療養患者の口腔ケア、食事等の状況

ア 対応の困難さ

認知症を持つ在宅療養患者の口腔ケア、食事に関連した問題への対応は、しばしば困難との回答が最も多く、次いでときどき困難であった。回答の比率は前回(平成 21 年度)とほぼ同じであった。

表 61 認知症のない方と比べ、口腔ケア、食事に関連した問題への対応は困難だと思うか

	(施設)						
	全 体	常に困難	しばしば困難	ときどき困難	困難ではない	経験がない	無回答
総 数	472	62	238	148	6	12	6
割 合	100%	13.1%	50.4%	31.4%	1.3%	2.5%	1.3%

イ 研修の有無

認知症の方の口腔か、食事に関する問題への研修の実施の有無は、前回(平成 21 年度)の 22.5%から 21.2%へとわずかに減少したものの、今後行いたいのが 59.2%から 62.7%へと増加しており、行っていないは 17.9%から 15.7%へと減少したことから、ステーションとしての関心はあまり減少していないものと考えられる。

表 62 職員を対象とした認知症の方の口腔ケアや食事に関連した問題への対応等に関する研修の実施 / 受講

	(施設)				
	全 体	行っていない	今後行いたい	行っている	無回答
総 数	472	74	296	100	2
割 合	100%	15.7%	62.7%	21.2%	0.4%

介護保険施設等における口腔ケア等実態調査 質問票 (訪問看護ステーション用)

下記の設問について、平成26年4月1日現在として該当するものをつけ、施設の状況等必要事項をご記入ください。
お手数ですが、6月9日(月曜日)までにご返送ください。

送付先: 東京都福祉保健局医療政策部医療政策課 FAX 03-5388-1436

施設名	所在地	記入者氏名
	区・市・町・村	職種(施設長・看護職・その他)
連絡先	内線	
開設主体 医療法人、社会福祉法人 医師会、国・地方公共団体、看護協会 公的・社会的保険関係団体、会社、その他	併設施設 ・なし ・病院・診療所・介護老人保健施設・特別養護老人ホーム ・特養以外の社会福祉施設・居宅介護支援事業所・在宅介護支援センター ・療養通所介護事業所・市町村保健センター・医師会館・看護協会会館・その他	

(設問中の”在宅療養患者”はこれまで貴施設で対応されてきた患者を対象としてお答え下さい)

問1 在宅療養患者(以下、利用者)に対し、口腔ケアや歯科治療等、歯科的な対応が必要なケースはどのくらいありますか。 歯科的な対応が必要なケースは___割程度ある。

問2 利用者の日常の口腔ケア(歯みがきや義歯の清掃)や歯科治療についてうかがいます。

1. 貴ステーションの職員を対象に、口腔ケアの研修を行ったり、受講をさせていますか。

- 1) 行っていない 2) 今後行いたい 3) 行っている

2. 利用者の歯や口腔の状況をどのように把握していますか。(複数回答可)

1) 対象の把握	①ほとんど把握していない ②必要と思われた利用者のみ ③原則全員把握する
2) 把握の頻度	①初回訪問時 ②不定期 ③ ___か月に1回程度定期的に ④その他
3) 把握する職種	①ステーション職員(看護職・その他) ②歯科専門職 ③その他
4) 把握の方法	①本人・家族からの情報 ②口腔内観察 ③マニュアルや評価シート ④利用者のかかりつけ歯科医から ⑤その他()

3. 利用者の口腔ケア・歯科治療の実施に関し、歯科医師・歯科衛生士・言語聴覚士等の専門職と連携がありますか。(複数回答可)

- 1) ない 2) ある ⇒
- | | |
|---------|--|
| 連携先 | ①利用者のかかりつけ歯科医 ②地区歯科医師会からの紹介 ③その他 |
| 連携の頻度 | ①不定期 ② ___か月に1回程度 ③その他 |
| 連携のきっかけ | ①貴ステーションからのアプローチ ②連携先からのアプローチ ③その他 |

問3 在宅療養患者の摂食・嚥下機能に対する対応についてうかがいます。

1. 利用者の食事時の誤嚥、窒息について心配なことはありませんでしたか。

- 1) ない 2) あった 相談できる専門家・専門機関は ①ない ②ある

2. 利用者の摂食・嚥下機能の状況をどのように把握していますか。(複数回答可)

1) 対象の把握	①ほとんど把握していない ②必要と思われた利用者 ③原則全員把握する
2) 把握の頻度	①初回訪問時 ②不定期 ③ ___か月に1回程度定期的に ④その他
3) 把握する職種	①ステーション職員(看護職・その他) ②歯科専門職 ③その他
4) 把握の方法	①本人・家族からの情報 ②食事観察 ③マニュアルや評価シート ④利用者のかかりつけ歯科医から ⑤RSST・水のみテスト等のスクリーニングテスト ⑥その他()

3. 利用者の摂食・嚥下機能に関して、医師・歯科医師・歯科衛生士等の専門職と連携がありますか。(複数回答可)

- 1) ない 2) ある ⇒
- | | |
|---------|--|
| 連携先 | ①患者のかかりつけ歯科医 ②地区歯科医師会からの紹介 ③医師 ④その他 |
| 連携の頻度 | ①不定期 ② ___か月に1回程度 ③その他 |
| 連携のきっかけ | ①貴ステーションからのアプローチ ②連携先からのアプローチ ③その他 |

4. 利用者の摂食・嚥下機能に関連した問題について、職員の話し合いの場や共通のマニュアルがありますか。

	ステーションで定期的な話し合いの機会が	職員が共通で使用するマニュアルが
1) 口腔ケア	①ない ②ある ⇒ 頻度 ___か月に1回程度	①ない ②ある
2) 摂食・嚥下	①ない ②ある ⇒ 頻度 ___か月に1回程度	①ない ②ある

問4 認知症を持つ在宅療養患者の口腔ケア、食事に関連した問題についてうかがいます。

1. 認知症のない方と比べ、口腔ケア、食事に関連した問題への対応は困難だと思いますか。

- 1) 常に困難 2) しばしば困難 3) とときどき困難 4) 困難ではない 5) 経験がない

2. 貴ステーションの職員を対象に、認知症の方の口腔ケアや食事に関連した問題への対応等に関する研修を行ったり、受講をさせていますか。

- 1) 行っていない 2) 今後行いたい 3) 行っている **ご協力ありがとうございました**

平成26年度

かかりつけ歯科医機能推進に関するアンケート調査結果

I 目的

地域におけるかかりつけ歯科医機能の推進状況に関する調査を行うことにより、東京都歯科保健目標「いい歯東京」の達成度を評価するとともに、かかりつけ歯科医機能の新たな歯科保健目標及び対策について検討するための基礎資料を得ることを目的とした。

II 対象及び方法

1 対象者

東京都歯科医師会員 8,067 人を対象とした。

2 実施方法

平成 26 年 9 月下旬、調査用紙を郵送にて配布、平成 26 年 10 月 31 日を期限としてファクシミリにて回収した。

3 調査項目

- ・ 回答者の属性:性別、年代、診療所の所在地
- ・ 8020運動の周知
- ・ 禁煙支援の取組
- ・ 歯周病と糖尿病の関係の周知
- ・ 口腔ケアによる誤嚥性肺炎の予防
- ・ 介護予防における口腔機能向上の事業やサービスの周知
- ・ 要請への対応状況
- ・ 各診療所の課題
- ・ フッ化物の応用
- ・ 歯科からの食育
- ・ 歯科からの子育て支援

4 解析

調査結果の解析は、東京歯科大学社会歯科学研究室 平田創一郎教授が行った。

Ⅲ 結果

1 回答の状況

有効回答数は554であった。

前回(平成21年度)と比して、回答者の年代の構成比率は50歳代が38.2%から40.3%へ、60歳代が17.5%から27.1%へ、40歳代が30.2%から16.6%へと推移しており、年齢層が上がった。

表1 回答者数 (人)

	男	女	不明	総計
40歳未満	16 47.1%	18 52.9%	0 0.0%	34 100%
40歳代	69 75.0%	23 25.0%	0 0.0%	92 100%
50歳代	200 89.7%	22 9.9%	1 0.4%	223 100%
60歳代	119 79.3%	28 18.7%	3 2.0%	150 100%
70歳以上	47 90.4%	5 9.6%	0 0.0%	52 100%
無回答	0 0.0%	0 0.0%	3 100%	3 100%
合計	451 81.4%	96 17.3%	7 1.3%	554 100.0%

図1 回答者(性別)

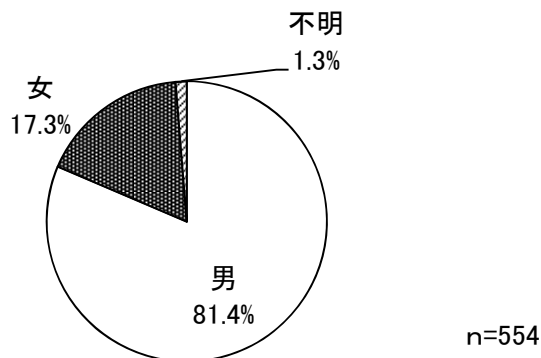
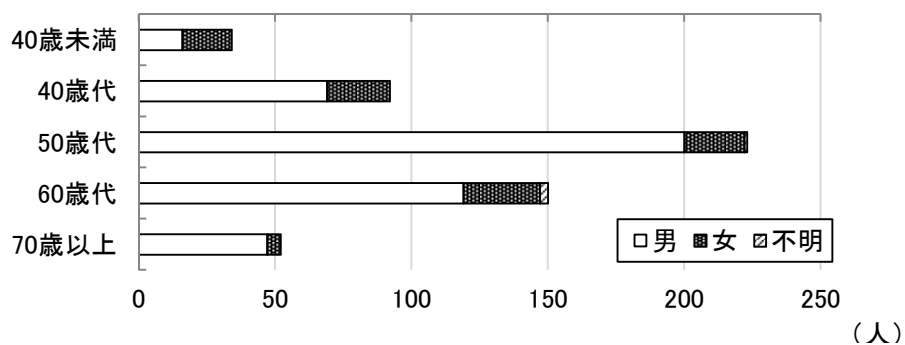


図2 回答者(年代別)



2 かかりつけ歯科医としての取組状況

(1) かかりつけ歯科医としての取り組んでいる内容

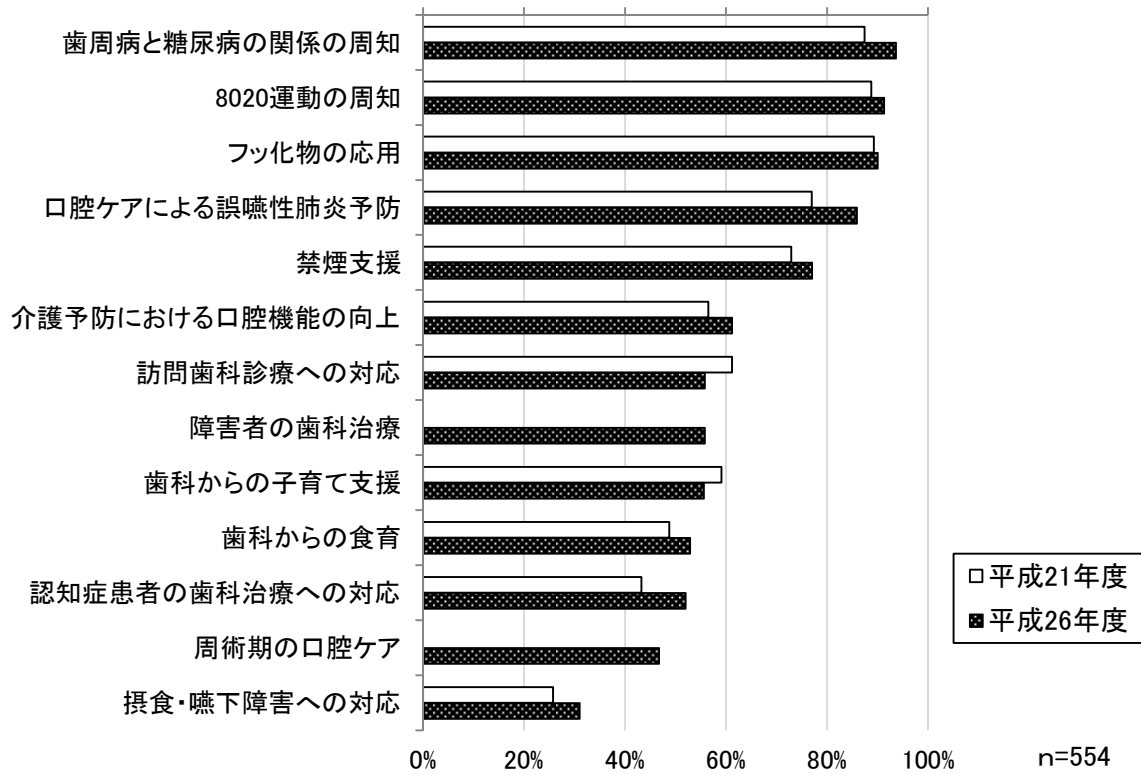
多くの項目について、前回(平成 21 年度)より取り組みが進んだが、訪問歯科診療への対応と歯科からの子育て支援については、減少した。

表 2 かかりつけ歯科医としての取組状況(前回比較)

	(人)	
	平成 21 年度	平成 26 年度
歯周病と糖尿病の関係の周知	710 87.4%	519 93.7%
8020 運動の周知	721 88.8%	506 91.3%
フッ化物の応用	725 89.3%	499 90.1%
口腔ケアによる誤嚥性肺炎予防	625 77.0%	476 85.9%
禁煙支援	592 72.9%	427 77.1%
介護予防における口腔機能の向上	459 56.5%	339 61.2%
訪問歯科診療への対応	497 61.2%	309 55.8%
障害者の歯科治療	-	309 55.8%
歯科からの子育て支援	480 59.1%	308 55.6%
歯科からの食育	396 48.8%	293 52.9%
認知症患者の歯科治療への対応	351 43.2%	288 52.0%
周術期の口腔ケア	-	259 46.8%
摂食・嚥下障害への対応	209 25.7%	172 31.0%
	n=812	n=554

- は今回調査新規項目

図3 かかりつけ歯科医としての取組状況(前回比較)

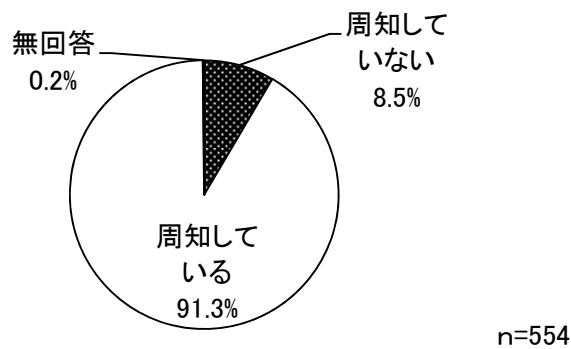


(2) 8020運動の周知

8020運動を周知していると回答した施設は、前回(平成21年度)の88.8%から91.3%へと増加した。周知の方法は、ポスターやリーフレットが減少し、口頭で内容を指導と「あなたの歯の数 現状・将来」を活用が増加した。

ア 8020運動を周知していますか。

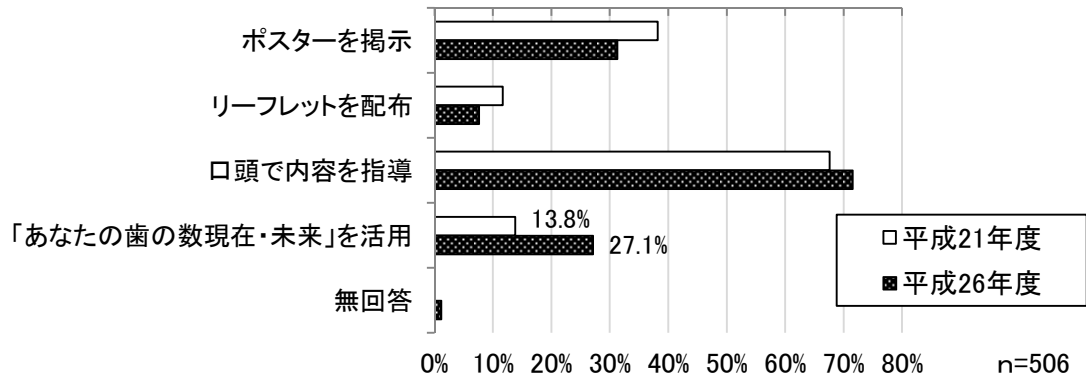
図4 8020運動の周知



イ 周知している場合、その方法(複数回答可)

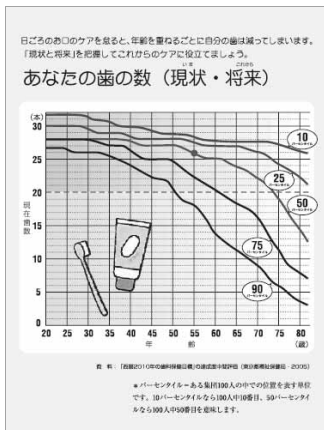
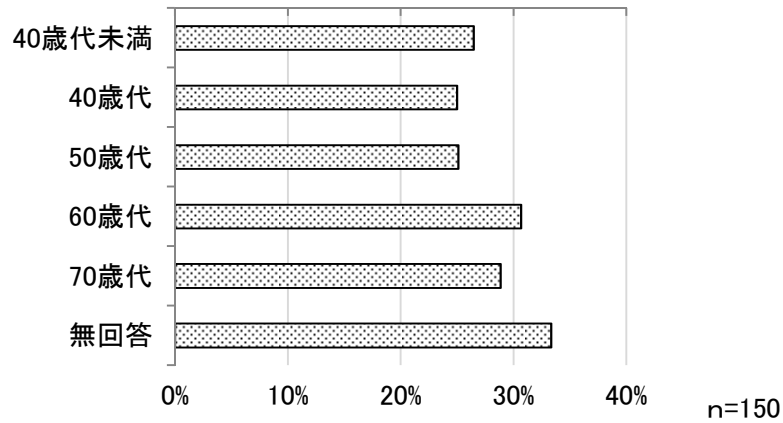
前回(平成 21 年度)の 13.8%から 27.1%へとほぼ倍増した「あなたの歯の数 現状・将来」の活用度合いを年代別に見ると、60 歳代をピークに次いで 70 歳代と、若い年齢層よりも高い年齢層での活用が多かった。

図5 8020運動の周知の方法(前回比較)



ウ 「あなたの歯の数 現状・将来」を活用割合(年代別割合)

図6 「あなたの歯の数 現状・将来」を活用割合(年代別割合)



「あなたの歯の数 (現状・将来(いま・これから))」

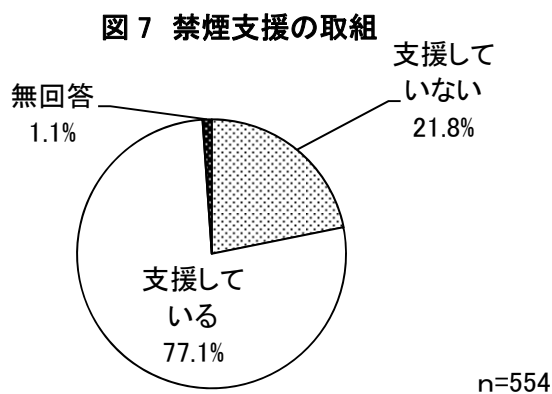
東京都歯科診療所調査結果にもとづき開発された健康教育用のツール。パーセンタイル表を用い、現在歯数から将来の歯数を予測することができる。(「豊かなシニアライフはお口から」に掲載)

http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/iryo/iryo_hoken/shikahoken/pamphlet/shika_seijin.files/sejinnpanhu.pdf

(3) 禁煙支援の取組

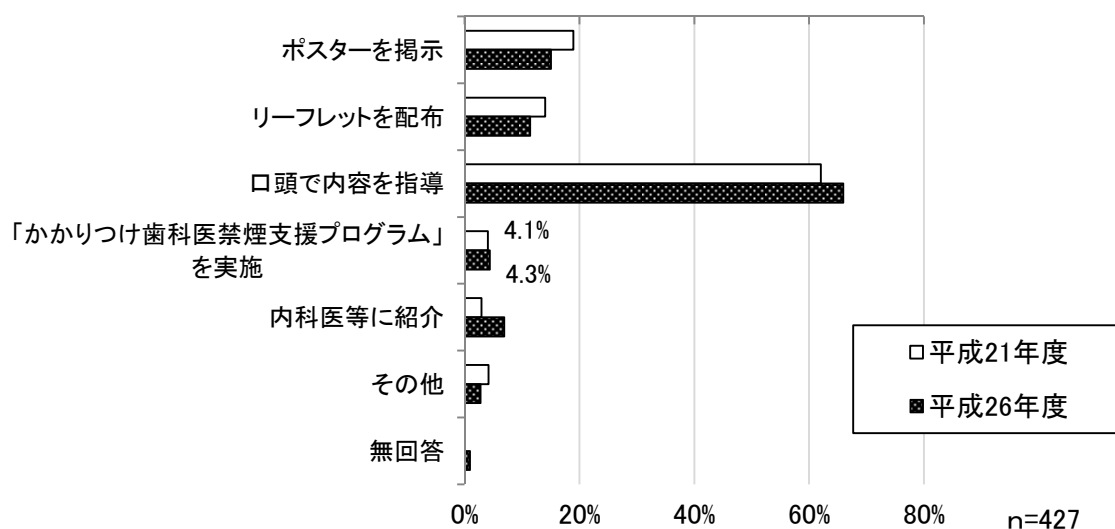
ア 禁煙支援を行っていますか。

禁煙支援を行っているとした施設も、前回(平成21年度)の72.9%から77.1%へと増加した。支援の方法は、口頭で内容を指導と内科医等に紹介の2項目のみ増加したものの、傾向に大きな変化は認められなかった。「かかりつけ歯科医禁煙支援プログラム」を実施は、4.1%から4.3%と微増したものの、実施率は低いままであった。



イ 行っている場合、その方法(複数回答)

図8 禁煙支援の方法(前回比較)



「かかりつけ歯科医禁煙支援プログラム」

平成14年度東京都8020運動推進特別事業として作成された、かかりつけ歯科医による禁煙支援のプログラム。東京都歯科医師会が診療所を対象に、毎年研修会を開催している。

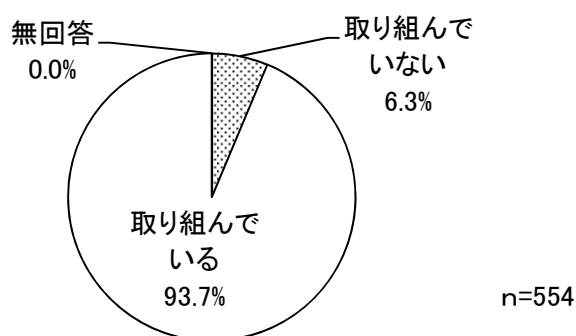
<http://www.tokyo-da.org/nosmoking.html>

(4) 歯周病と糖尿病の関係の周知

ア 歯周病と糖尿病の関係についてどのように取り組んでいますか。

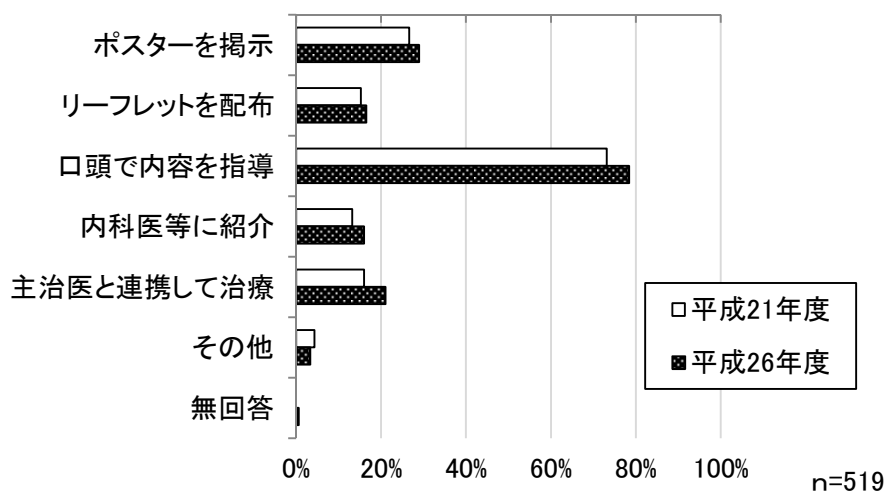
歯周病と糖尿病の関係の周知については、取り組んでいるとの回答が前回(平成21年度)の87.4%から93.7%へと増加し、周知の方法もポスターを掲示、リーフレットを配布、口頭で内容を指導、内科医等に紹介、主治医と連携して治療のすべての項目で増加が認められた。

図9 歯周病と糖尿病の関係の周知



イ 周知している場合、その方法(複数回答)

図10 歯周病と糖尿病の関係の周知(前回比較)

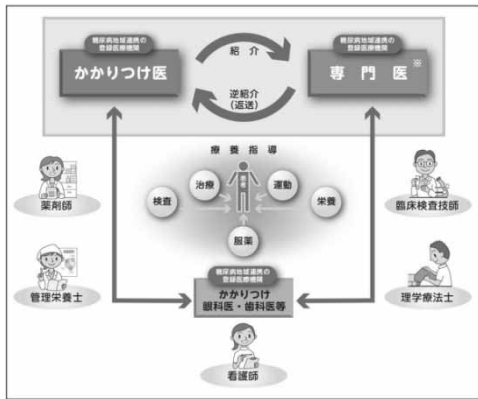




「お口のケアが全身をまもる」

平成21年度東京都8020運動推進特別事業によって作成された指導用媒体。糖尿病と歯周病の関連性がわかりやすく説明されている。

http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/iryō/iryō_hoken/shikahoken/pamphlet/okutinokeagazensinwomamoru.html



「東京都における糖尿病医療連携の取組」

糖尿病は発症後、適切な治療を受けないと重症化や腎症・網膜症などの合併症の発症を招くことがあります。また、糖尿病は、脳卒中や急性心筋梗塞などの他の疾患の危険因子となる慢性疾患でもあります。

東京都では、予防から治療までの一貫した糖尿病対策を推進し、都民の誰もが身近な地域で、症状に応じた適切な治療を継続して受けられる医療連携体制を構築している。

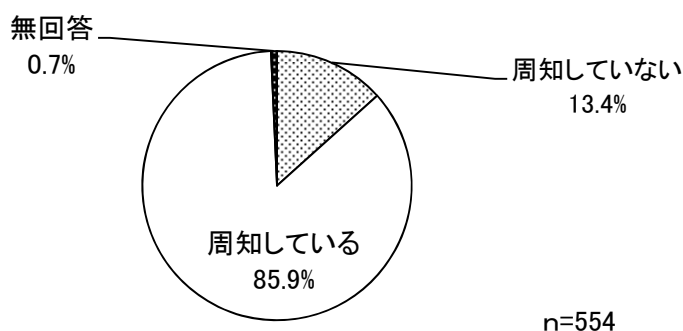
http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/iryō/iryō_hoken/tounyoutorikumi/

(5) 口腔ケアによる誤嚥性肺炎の予防

ア 口腔ケアによる誤嚥性肺炎の予防について周知等を行っていますか。

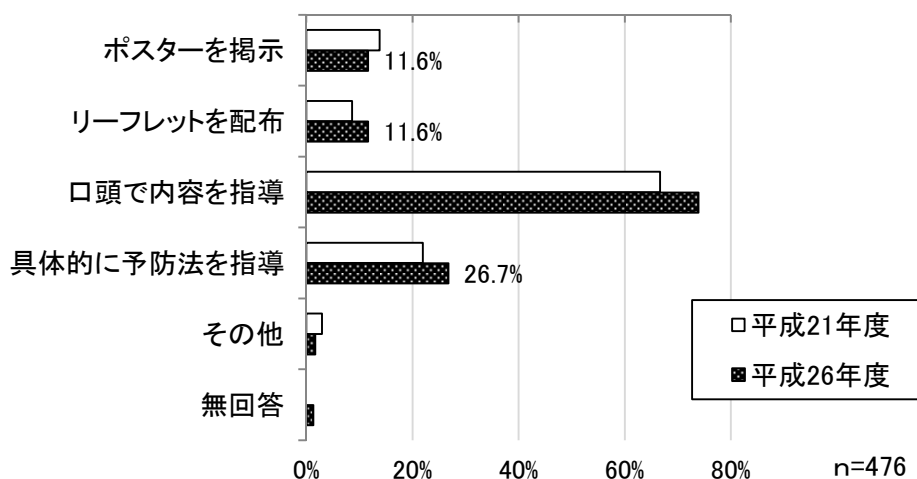
口腔ケアによる誤嚥性肺炎の予防の周知を行っている施設は、前回(平成 21 年度)の 77.0%から 85.9%へと増加した。周知の方法については、ポスターを掲示は減少したものの、他の具体的方法については増加した。特に、具体的に予防法を指導が 26.7%と 4 分の 1 を超え、ポスターを掲示、リーフレットを配布の 11.6%の倍以上となっていた。誤嚥性肺炎の予防への歯科診療所の取組が進みつつある傾向がうかがわれた。

図11 口腔ケアによる誤嚥性肺炎の予防



イ 周知している場合、その方法(複数回答)

図12 口腔ケアによる誤嚥性肺炎の予防(前回比較)

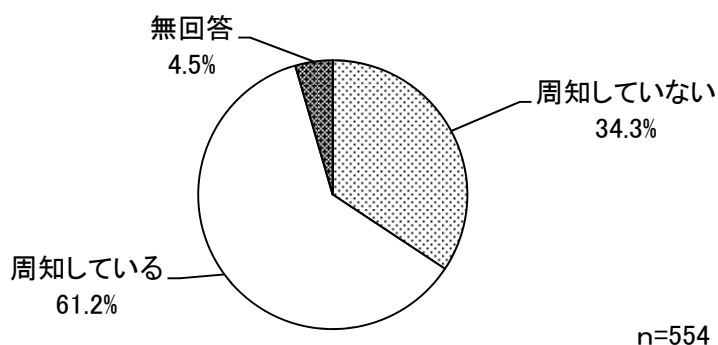


(6) 介護予防における口腔機能向上の事業やサービスの周知

ア 介護予防における口腔機能向上の事業やサービスについて周知等を行っていますか。

介護予防における口腔機能向上の事業やサービスについて周知を行っている施設の割合は、前回(平成21年度)の56.5%から61.2%へと増加した。

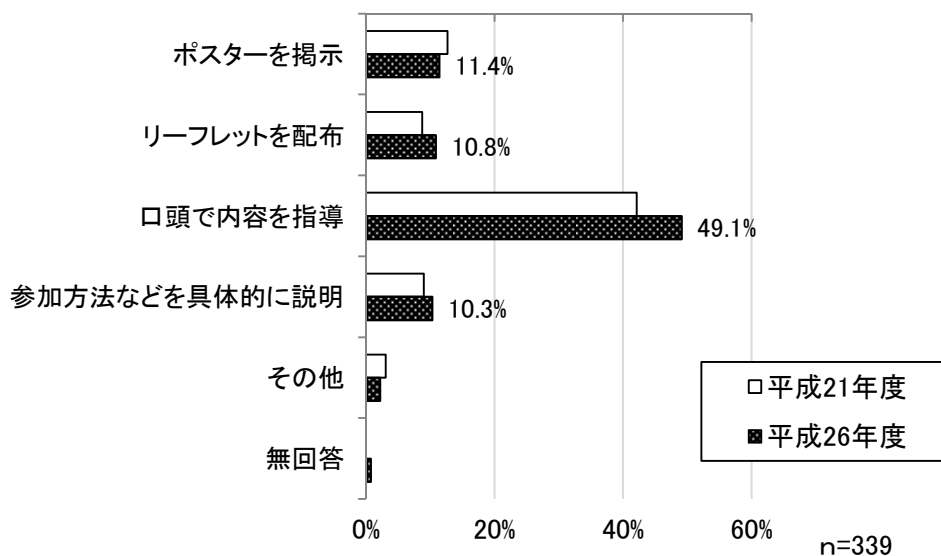
図13 介護予防における口腔機能向上の事業やサービスの周知



イ 周知している場合、その方法(複数回答)

周知の方法については、ポスターを掲示は減少したものの、他の具体的方法については増加した。しかし、参加方法などを具体的に説明すると回答した施設は10.3%にすぎず、ポスターを掲示の11.4%、リーフレットを配布の10.8%より低い水準のままであった。介護予防の対象者はまだ通院可能であると考えられ、口頭で内容を指導は49.1%と半数近くが行っていることを考えると、歯科診療所では口腔機能向上の内容自体は把握しているものの、介護予防への直接関与が未だ少ないのではないかと考えられる。

図14 介護予防における口腔機能向上の事業やサービスの周知(前回比較)



(7) 要介護高齢者等への対応

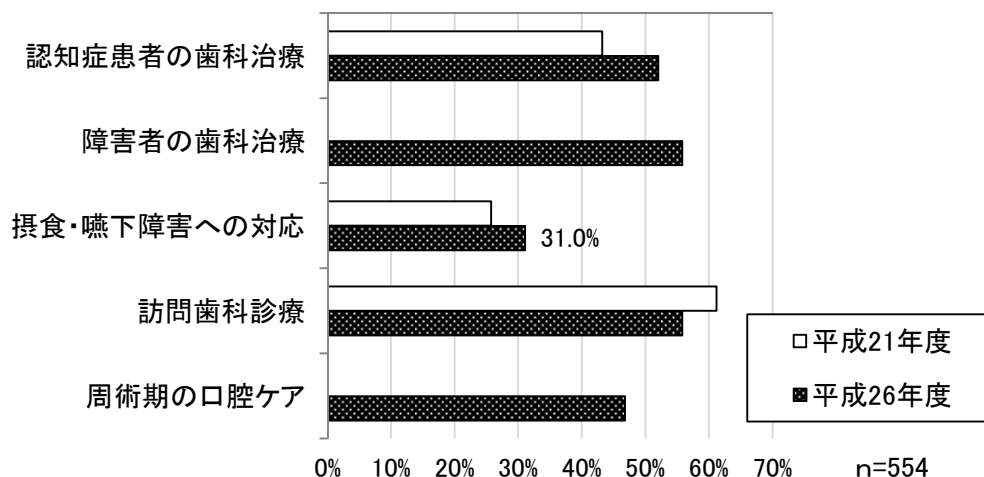
ア 対応する場合、その内容

認知症患者の歯科治療、訪問歯科診療については対応可能との回答が5割を超えた。しかし、前回(平成21年度)との比較では、認知症患者への対応は増加したものの、訪問歯科診療については減少した。摂食・嚥下障害への対応については、前回(平成21年度)より増加したものの、未だ31.0%と低い水準であった。しかし、今後対応とあわせると60.4%と他の項目と概ね同等であったことから、対応の必要性については広く認知されていることがうかがわれた。ただし、全項目中最も低い結果であり、診療内容の難しさを反映しているものと考えられる。新規の調査項目である障害者の歯科治療は半数を超えていた。周術期の口腔ケアも5割弱あり、今後対応をあわせると76.0%と高い水準であった。

表3 要介護高齢者等への対応

	(人)			
	対応可能	対応困難	今後対応	無回答
認知症患者の歯科治療	288	165	87	14
	52.0%	29.8%	15.7%	2.5%
障害者の歯科治療	309	159	75	11
	55.8%	28.7%	13.5%	2.0%
摂食・嚥下障害への対応	172	200	163	19
	31.0%	36.1%	29.4%	3.4%
訪問歯科診療	309	159	75	11
	55.8%	28.7%	13.5%	2.0%
周術期の口腔ケア	259	120	162	13
	46.8%	21.7%	29.2%	2.3%
合計	1337	803	562	68

図15 要介護高齢者等への対応(前回比較)



イ 要介護高齢者等への対応(年代別割合)

年代別に見ると、いずれの項目も最も多く対応可能と回答したのは60歳代であった。総じて40歳未満は対応可能と回答する率が低く、要介護高齢者等への対応は臨床現場での経験が大きな要素であることがうかがわれた。

集計方法が異なるため、前回(平成21年度)と直接数値での比較を示さないが、前回(平成21年度)は認知症患者の歯科治療と訪問歯科診療への対応では50歳代が、摂食・嚥下障害への対応は40歳未満がもっとも多かった。前者はこの5年で対応可能と回答した者の年代が上がったこと、後者は卒後に研修を受けるなど、新たな領域への対応が普及したことをうかがわせる結果となった。

図16 認知症患者の歯科治療(年代別割合)

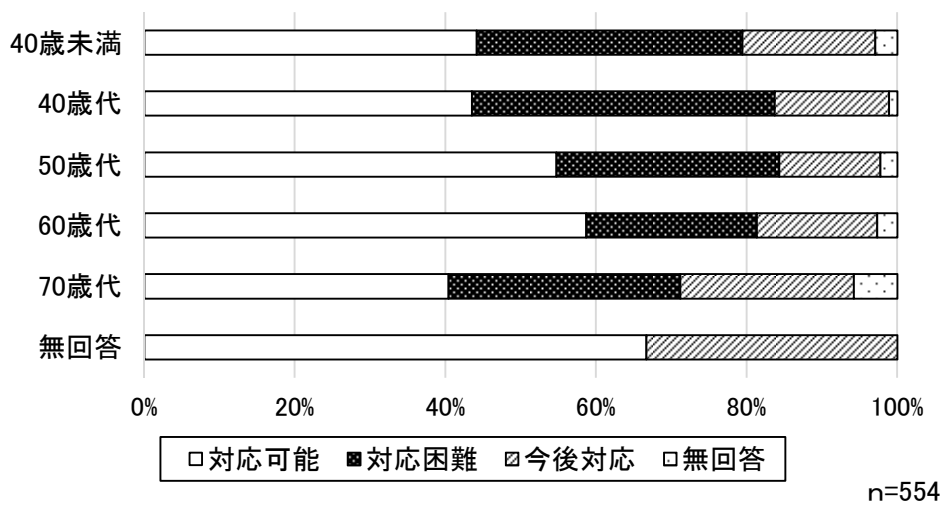


図17 障害者の歯科治療(年代別割合)

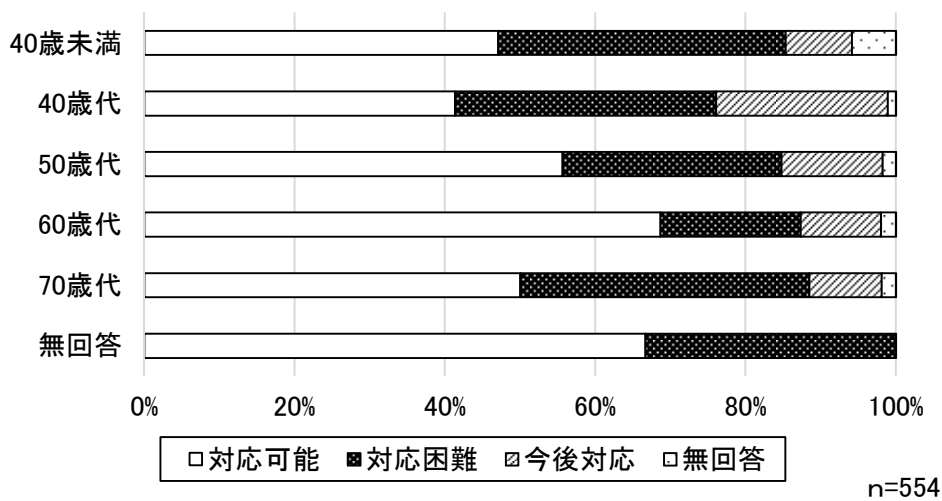


図18 摂食・嚥下障害への対応(年代別割合)

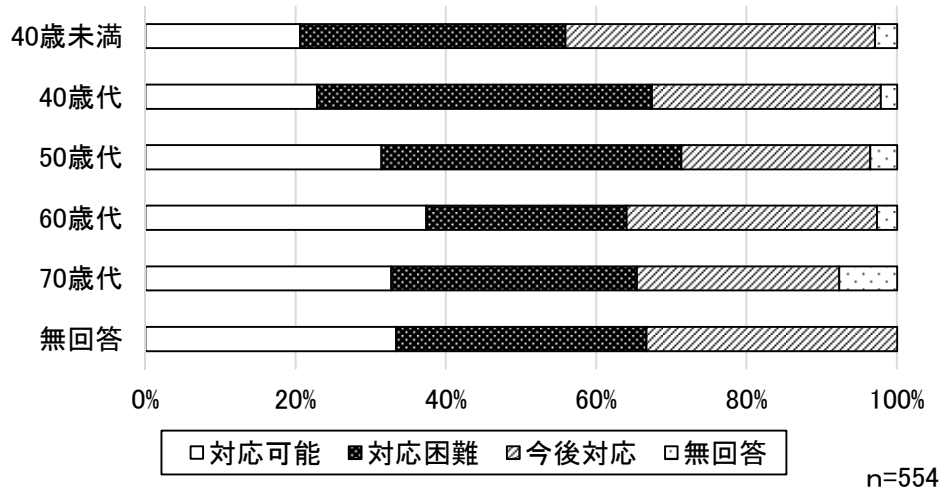


図19 訪問歯科診療(年代別割合)

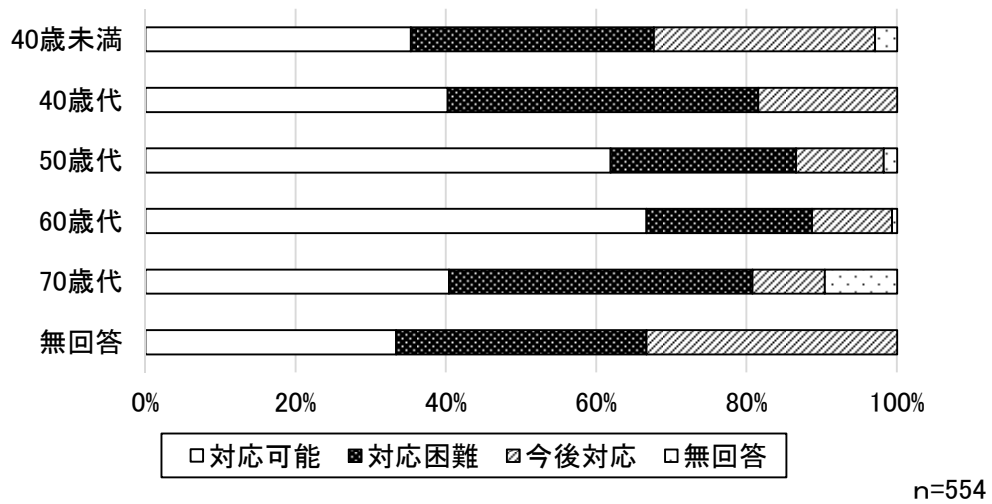
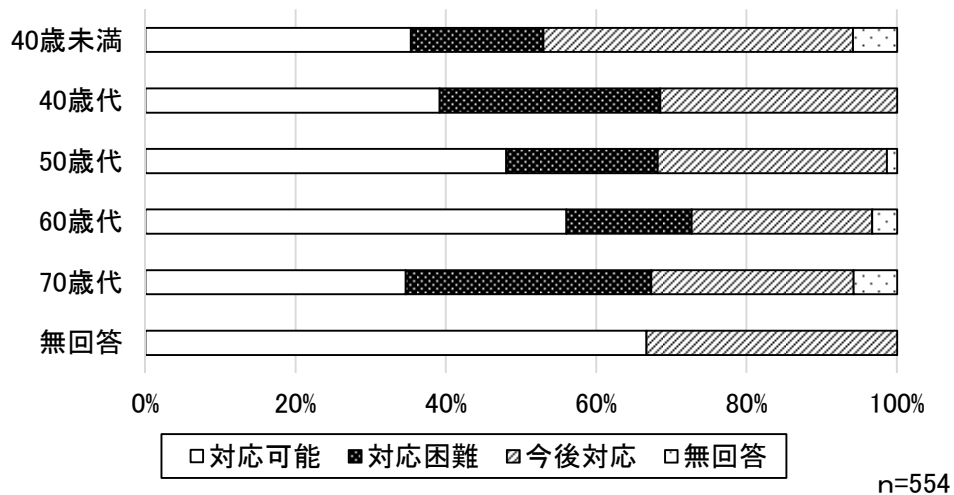


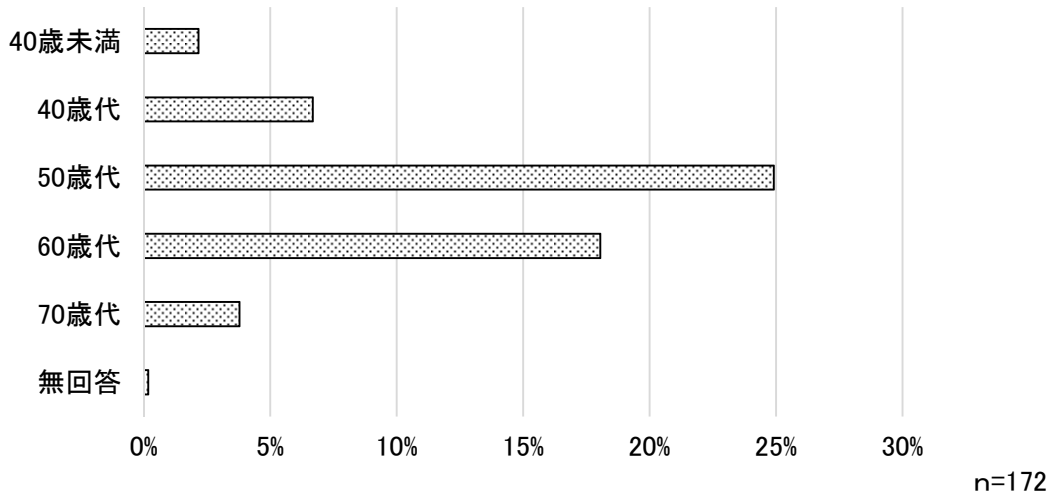
図20 周術期の口腔ケア(年代別割合)



ウ 在宅療養者の摂食・嚥下障害への対応が可能

摂食・嚥下障害への対応及び訪問歯科診療の両方に可能と回答した者を算出したところ、個別には 60 歳代が最も多かったが、在宅療養者の摂食・嚥下障害への対応となると、50 歳代が最も多い結果となった。

図 21 在宅療養者の摂食・嚥下障害への対応可能(年代別割合)



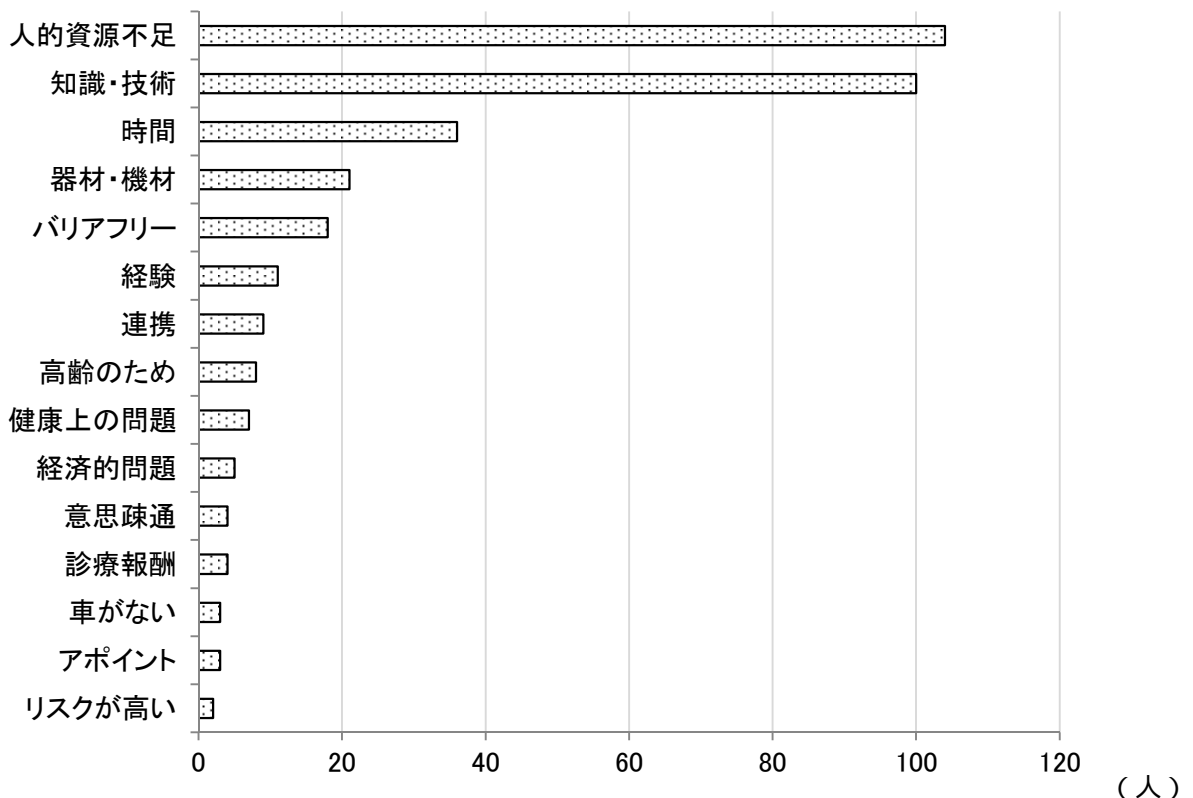
(8) 要介護高齢者等への対応が困難、今後対応したいと回答した者の課題

ア 対応が困難、今後対応したい場合の者の課題(自由記載)

人的資源不足が最も多く、次いで知識・技術の不足であった。人的資源については、対応可能な人的資源の不足を含めた。

また、知識・技術の不足については、スタッフの知識・技術の不足も含み、研修を受講したい、研修受講中という回答もあった。

図 22 対応が困難、今後対応したいの場合の者の課題・自由記載の内容





「はじめての在宅医療」

平成 24 年度東京都8020運動推進特別事業によって作成された。要介護高齢者や障害者など、自宅や介護施設で療養されている方への訪問歯科診療を検討されている歯科医師向けに訪問歯科診療実施のためのポイントをわかりやすく解説している。
http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/iryo/iryo_hoken/shikahoken/pamphlet/hajimetenozaitakusikairyu.html



「在宅歯科医療実践ガイドブック」

在宅における口腔ケアや歯科診療などが多くの歯科医療機関によって進められるよう作成された。
初めて在宅歯科医療に携わる歯科医師や歯科衛生士の方々に活用していただけるよう、基本的、実践的な事柄を中心にまとめている。
http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/iryo/iryo_hoken/shikahoken/pamphlet/zaitakushikairyougaidobukku.html



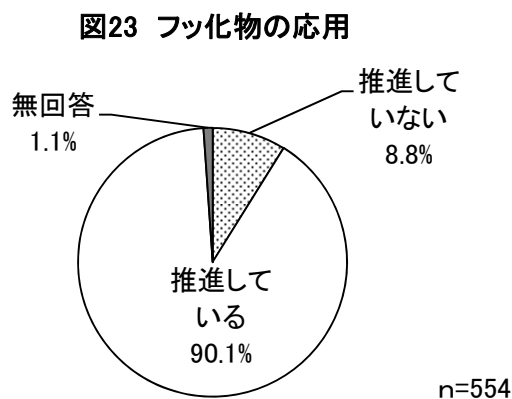
「お家でできる口腔ケア ~在宅医療者の口腔ケア」

東京都8020運動推進特別事業において、在宅療養者及び家族向けのリーフレットとして作成された。
お家でできる口腔(くう)ケアの方法を写真で解説している。
http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/iryo/iryo_hoken/shikahoken/pamphlet/ouchidedekirukoukuukea.html

(9) フッ化物の応用

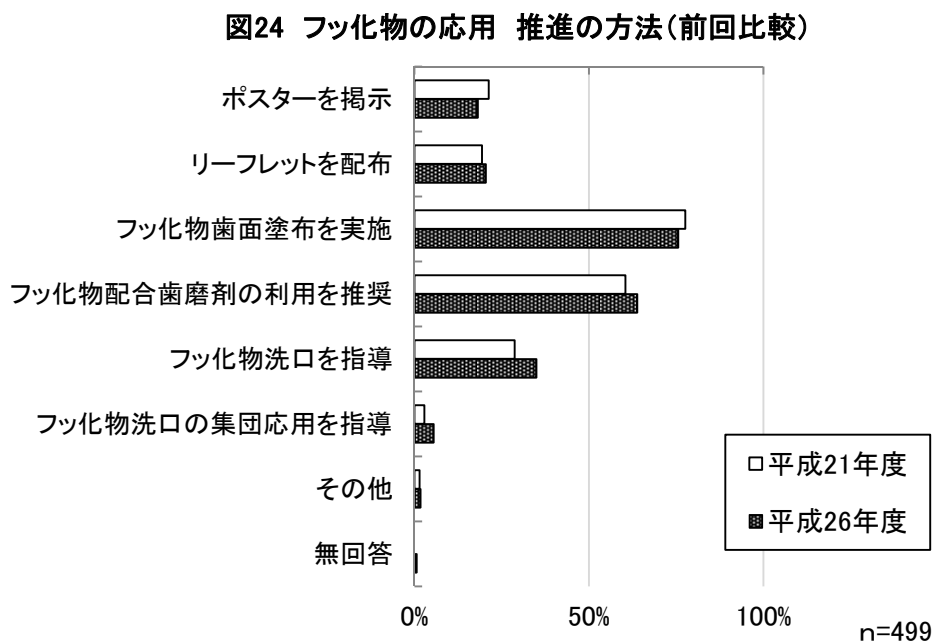
ア フッ化物の応用への取組

フッ化物の応用を推進している者の割合は、前回(平成21年度)の89.3%から90.1%へと増加した。



イ 推進している場合、その方法(複数回答)

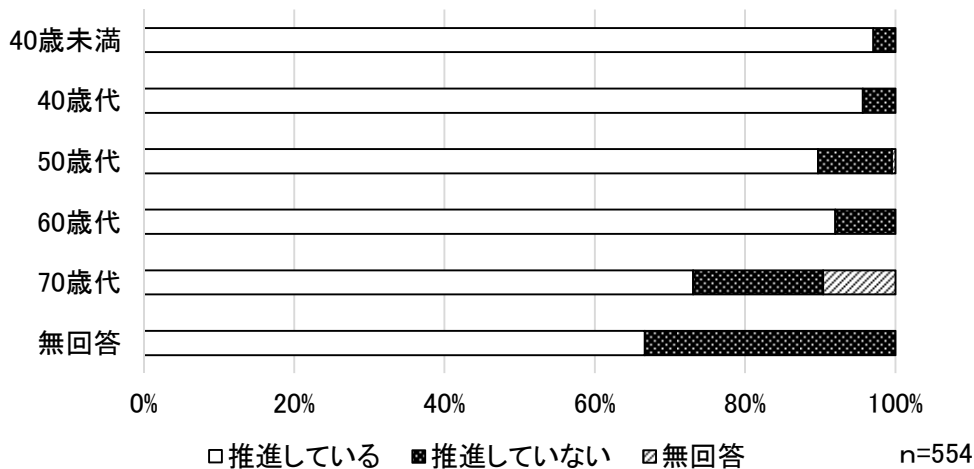
周知の方法については、ポスター、リーフレット、フッ化物歯面塗布が減少し、フッ化物配合歯磨剤の利用を推奨、フッ化物洗口の指導・集団応用の指導が増加した。全体的な傾向に大きな変化はなかった。



ウ フッ化物応用への取組(年代別割合)

若い年代の客体数が少ないため一概には言えないものの、若い年代ほどフッ化物応用を推進している傾向が見られた。前回(平成 21 年度)と比べて、40 歳未満の推進する施設の割合は少なかったものの、高齢になるにつれ推進している割合が減少する傾向は一致した。フッ化物洗口、特に集団応用については小児が対象となることがほとんどであり、歯科医師の高齢化とあわせた患者の高齢化に伴い、ニーズが少なくなると考えていると思われる。しかし、高齢者の現在歯数の増加やブラッシングなどの自己管理能力の低下への対応として、フッ化物応用は重要な手段であることから、再度、フッ化物応用についての周知が必要と考える。

図25 フッ化物応用への取組(年代別割合)



「すすめよう！フッ化物応用」

平成 21 年度東京都8020運動推進特別事業において、都民の歯科保健の向上を目的として作成された。

局所的応用である「フッ化物洗口」「フッ化物配合歯磨剤」「フッ化物歯面塗布」を中心に分かりやすくまとめている。

http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/iryo/iryo_hoken/shikahoken/pamphlet/susumeyoufukkabutsuouyou.html

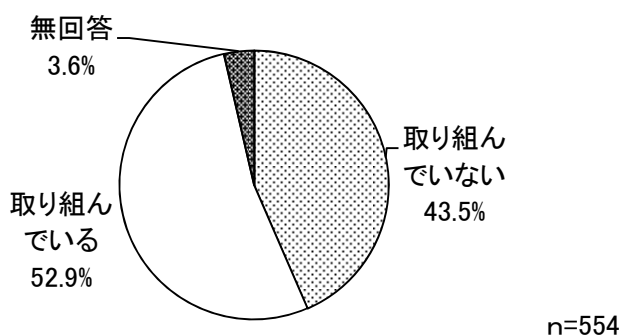
(10) 歯科からの食育

ア 歯科からの食育についてどのように取り組んでいますか。

取り組んでいるとの回答が前回(平成 21 年度)の 48.8%から 52.9%に増加し、ようやく半数を超えた。

平成 26 年度東京都歯科診療所患者調査によると、普段、よく噛む(一口 30 回程度)ようにしていると回答した者は 4 割弱であり、特に 30 歳代で 30.0%と最も低かった。ターゲットとする年代として、親である 30 歳代とその子供は重要な位置を占めると考えられることから、年代にあわせた食育支援の方略が必要と考える。

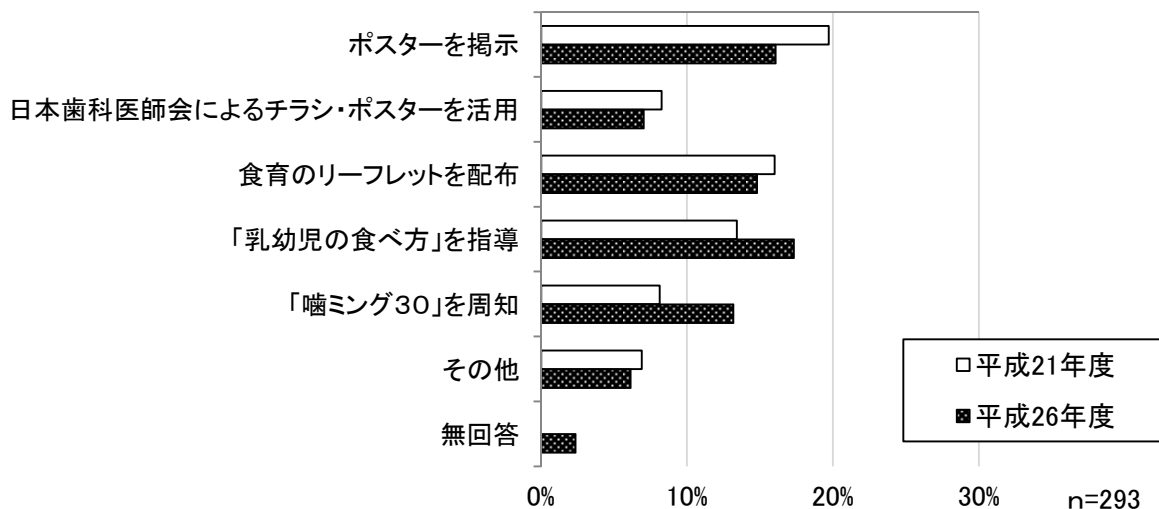
図26 歯科からの食育



イ 取り組んでいる場合、その方法(複数回答可)

取組方法としてはポスター・チラシ・リーフレットが減少したものの、「乳幼児の食べ方」を指導、「噛ミング 30」を周知は増加した。特に「乳幼児の食べ方」を指導がポスターを掲示やリーフレットを配布を上回ったことは、絶対的な割合はまだ少ないものの、重要な知見であるとする。

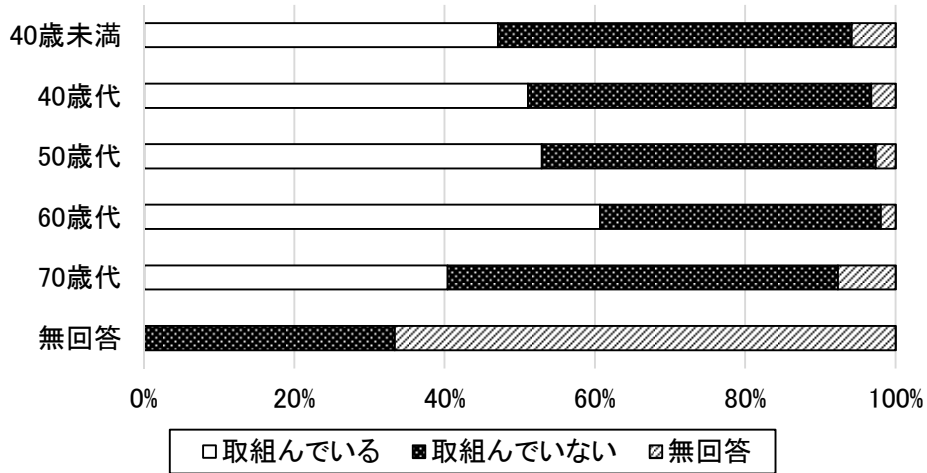
図27 歯科からの食育 取組の方法(前回比較)



ウ 歯科からの食育への取組(年代別割合)

年代別に見ると、40歳未満から60歳代までは年代が上がるに従い取り組んでいる割合が増加するものの、70歳代では減少し、最も取り組んでいる割合が最も少なかった。原因として、患者も高齢者層であることが考えられる。

図28 歯科からの食育への取組(年代別割合)



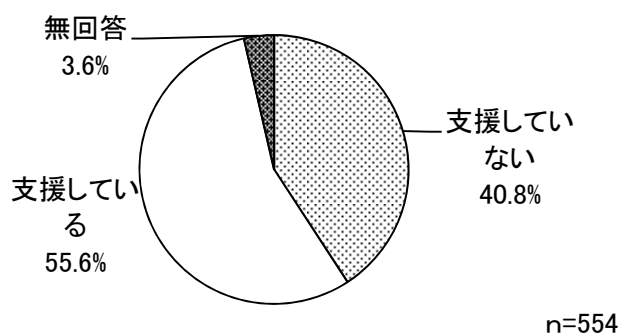
n=554

(11) 歯科からの子育て支援

ア 歯科からの子育て支援の取組

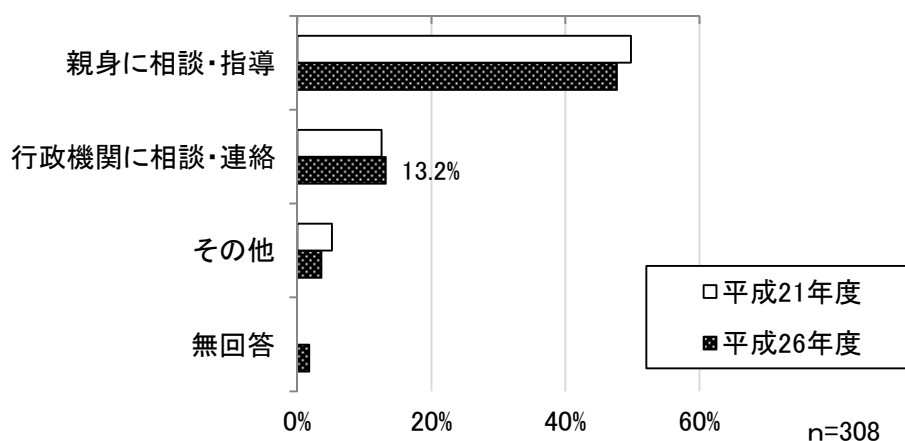
「気になる親子」等を支援しているとの回答は、前回(平成21年度)の59.1%から55.6%へと減少した。取組内容を見ると、むし歯の多い幼児や「気になる親子」に対し、親身に相談・指導を行っている者は減少、「気になる親子」に関し、子供家庭支援センターや保健所・保健センター等の行政機関に相談・連絡している者は微増したものの13.2%にとどまり、歯科医療機関として要支援家庭を発見するという適切な支援につなぐ役割への認知の普及をより推進する必要性がうかがわれた。

図29 歯科からの子育て支援
「気になる親子」等の支援



イ 支援している場合、その取組(複数回答)

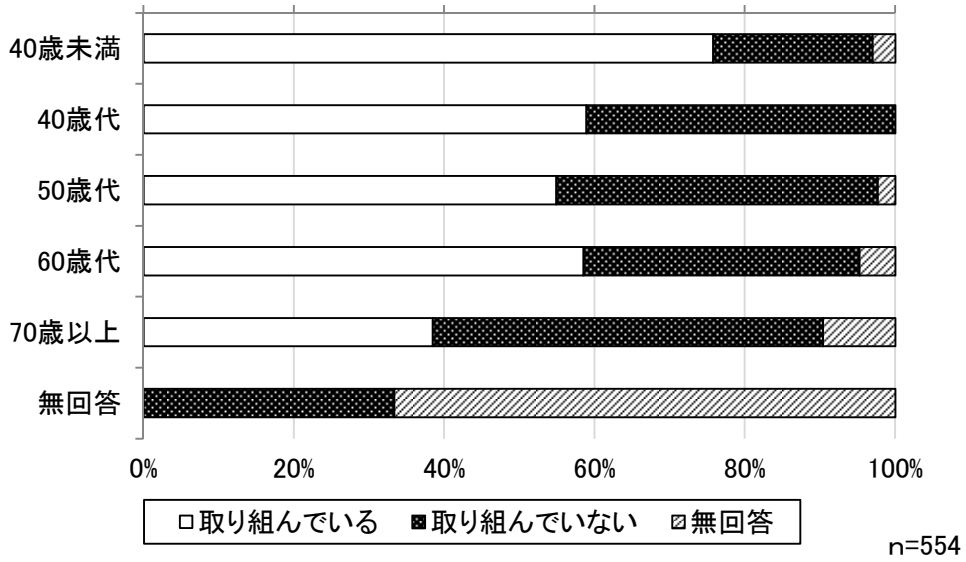
図30 歯科からの子育て支援 取組の方法(前回比較)



ウ 歯科からの子育て支援への取組(年代別割合)

若い年代の客体数が少ないが、40歳未満で顕著に取り組んでいると回答した割合が高かった。40歳未満の取組内容は親身に相談が多く、自ら子育ての年代であることも要因の一つと考えられる。

図 31 歯科からの子育て支援への取組(年代別割合)



医療機関のための子育て支援ハンドブック
「気になる親子に出会ったら」

医療機関が、子育て家庭と接したときに、支援の必要な家庭を発見し、支援に結びつけるための具体的なポイントを、東京都の実情に即して、まとめている。

http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/kodomo/koho/ko_shien_handbook.html

かかりつけ歯科医機能推進のための調査 調査票

該当するものに○もしくはご記入の上、お手数ですが **10月31日(金)**までに ご返送ください。

送付先: 東京都福祉保健局医療政策部医療政策課 宛 FAX **03-5388-1436**

1 8020運動 貴院では、8020運動を周知していますか。 (注)は裏面参照
 周知していない 周知している 下記のうち該当するものすべてに をつけてください。
 (1) ポスターを掲示 (2) リーフレットを配布 (3) 口頭で内容を指導
 (4) 「あなたの歯の数 現状・将来(注1)」を用い、患者の状態にあわせて指導

2 禁煙支援 貴院では、患者の禁煙を支援していますか。
 支援していない 支援している 下記のうち該当するものすべてに をつけてください。
 (1) ポスターを掲示 (2) リーフレットを配布 (3) 口頭で内容を指導
 (4) 「かかりつけ歯科医禁煙支援プログラム」(注2)を実施 (5) 患者の禁煙支援のために内科医等に紹介
 (6) その他 ()

3 歯周病と糖尿病の関係の周知 貴院では、このことについてどのように取り組んでいますか。
 取り組んでいない 取り組んでいる 下記のうち該当するものすべてに をつけてください。
 (1) ポスターを掲示 (2) リーフレットを配布 (3) 口頭で内容を指導
 (4) 糖尿病が疑われる患者を内科医等に紹介 (5) 糖尿病の患者の主治医と連携して治療
 (6) その他 ()

4 口腔ケアによる誤嚥性肺炎の予防 貴院では、このことについて周知等を行っていますか。
 周知していない 周知している 下記のうち該当するものすべてに をつけてください。
 (1) ポスターを掲示 (2) リーフレットを配布 (3) 口頭で内容を指導
 (4) 具体的に予防法を指導 (5) その他 ()

5 介護予防における口腔機能向上の事業やサービスの周知 貴院では、このことについて周知等を行っていますか。
 周知していない 周知している 下記のうち該当するものすべてに をつけてください。
 (1) ポスターを掲示 (2) リーフレットを配布 (3) 口頭で内容を指導
 (4) 参加方法など具体的に説明 (5) その他 ()

6 貴院では下記の要請に対応しますか 該当するものすべてに をつけてください。

認知症患者の歯科治療	対応可能 <input type="checkbox"/>	対応が困難 <input type="checkbox"/>	今後対応したい <input type="checkbox"/>
障害者の歯科治療	対応可能 <input type="checkbox"/>	対応が困難 <input type="checkbox"/>	今後対応したい <input type="checkbox"/>
摂食・嚥下障害への対応	対応可能 <input type="checkbox"/>	対応が困難 <input type="checkbox"/>	今後対応したい <input type="checkbox"/>
訪問歯科診療	対応可能 <input type="checkbox"/>	対応が困難 <input type="checkbox"/>	今後対応したい <input type="checkbox"/>
周術期の口腔ケア	対応可能 <input type="checkbox"/>	対応が困難 <input type="checkbox"/>	今後対応したい <input type="checkbox"/>

7 問6で ②対応困難、③今後対応したいと回答した貴院での課題を教えてください。
 ()

8 フッ化物の応用 貴院では、このことについてどのように取り組んでいますか。
 推進していない 推進している 下記のうち該当するものすべてに をつけてください。
 (1) ポスターを掲示 (2) リーフレットを配布
 (3) フッ化物歯面塗布を実施 (4) フッ化物配合歯磨剤の利用を推奨 (5) フッ化物洗口を指導
 (6) フッ化物洗口の集団応用を指導 (7) その他 ()

9 歯科からの食育 貴院では、このことについてどのように取り組んでいますか。
 取り組んでいない 取り組んでいる 下記のうち該当するものすべてに をつけてください。
 (1) 食育に関するポスターを掲示 (2) 日本歯科医師会による「窒息予防のチラシ・ポスター」(注3)を活用
 (3) 食育のリーフレットを配布 (4) 「乳幼児の食べ方」(注4)を指導
 (5) 「嚥ミン30(カミングサンマル)」(注5)を周知 (6) その他 ()

10 歯科からの子育て支援 貴院では、「気になる親子」(注6)等を支援していますか。
 支援していない 支援している 下記のうち該当するものすべてに をつけてください。
 (1) むし歯の多い幼児や「気になる親子」に対し、親身に相談・指導
 (2) 「気になる親子」に関し、子ども家庭支援センターや保健所・保健センター等の行政機関に相談・連絡
 (3) その他 ()

回答者(診療所の管理者等)についてご記入ください

性別 男性 女性 年代 20 30 40 50 60 70歳以上
 医療機関の所在地 _____ 区・市・町・村

平成26年度島しょ地区歯科疾患実態調査結果

目的

島しょ地区の歯科疾患の実態及び歯科保健行動等を把握し、東京都歯科保健目標「いい歯東京」の達成状況を評価するとともに、今後の歯科保健医療対策の推進に必要な課題等を把握し、新たな歯科保健目標を策定するための基礎資料を得る。

対象及び方法

1 対象者

(1) 小児の歯科保健行動等調査

島しょ地区全9町村の保育所在園児の保護者を対象に、平成26年10月に少子社会対策部の協力を得て、歯科保健行動・生活習慣等に関する質問紙調査を実施した。

島しょ地区全9町村の小学校1年生から3年生在籍者の保護者、小学校4年生から6年生在籍者、中学校在籍者を対象に、平成26年10月に教育庁の協力を得て、歯科保健行動・生活習慣等に関する質問紙調査を実施した。

(2) 成人の歯科保健実態調査(口腔状況及び歯科保健行動等調査)

ア 実施対象

八丈町、神津島村の2町村において、島しょ保健所及び八丈町、神津島村の協力を得て歯科健康診査を行うとともに、受診者に対して、歯科保健行動・生活習慣等に関する質問紙調査を実施した。

イ 実施方法

神津島村では、平成26年5月13日から16日に村が実施した歯周疾患検診時に併せて質問紙調査を実施した。口腔状況については、村民の了解を得て歯科健診結果から集計した。

八丈町では、平成26年7月20日から22日に町が実施した特定健診に併せて歯科健診及び質問紙調査を実施した。

口腔診査は、歯周疾患検診と同様とし、現在歯・喪失歯の状況(う蝕、処置、喪失、補綴)、歯肉の状況(CPIコード)、口腔清掃状況について行った。

2 調査項目

(1) 小児の歯科保健行動等調査

- ・回答者の属性:年齢(園児のみ)、学年、性別
- ・甘味食品の摂取状況
- ・甘味飲料の摂取状況
- ・就寝時の授乳習慣(園児のみ)
- ・フッ化物配合歯磨剤の使用状況
- ・歯や歯肉の観察状況

- ・ゆっくりよく噛む習慣
- ・かかりつけ歯科医院の状況
- ・ていねいな歯磨きの状況(小学校4年生から6年生、中学生のみ)
- ・デンタルフロスの使用状況(中学生のみ)
- ・8020を知っている者(中学生のみ)

(2) 成人の歯科保健実態調査

- ・回答者の属性：性別、年齢
- ・歯・ロや入れ歯についての満足度
- ・ていねいな歯磨きの状況
- ・デンタルフロスや歯間ブラシの使用状況
- ・フッ化物配合歯磨剤の使用状況
- ・歯や歯肉の観察状況
- ・歯の治療について
- ・歯の健康診査の受診状況
- ・歯石除去、クリーニングの状況
- ・現在歯の数の把握
- ・抜けたままになっている永久歯の有無
- ・喫煙と歯周病の関係の周知
- ・島での居住年数
- ・8020を知っている者
- ・8020の目標
- ・口腔診査

3 解析

調査結果の解析は、東京歯科大学社会歯科学研究室 平田創一郎教授が行った。

結果

1 小児の歯科保健行動調査

(1) 調査数

回答者の年齢分布は前回(平成21年度)と比べて概ね同じ傾向であったが、八丈町の中学生数のみ顕著に減少していた。また、神津島村、三宅村では、回答者数が増加し、青ヶ島村では減少が認められた。

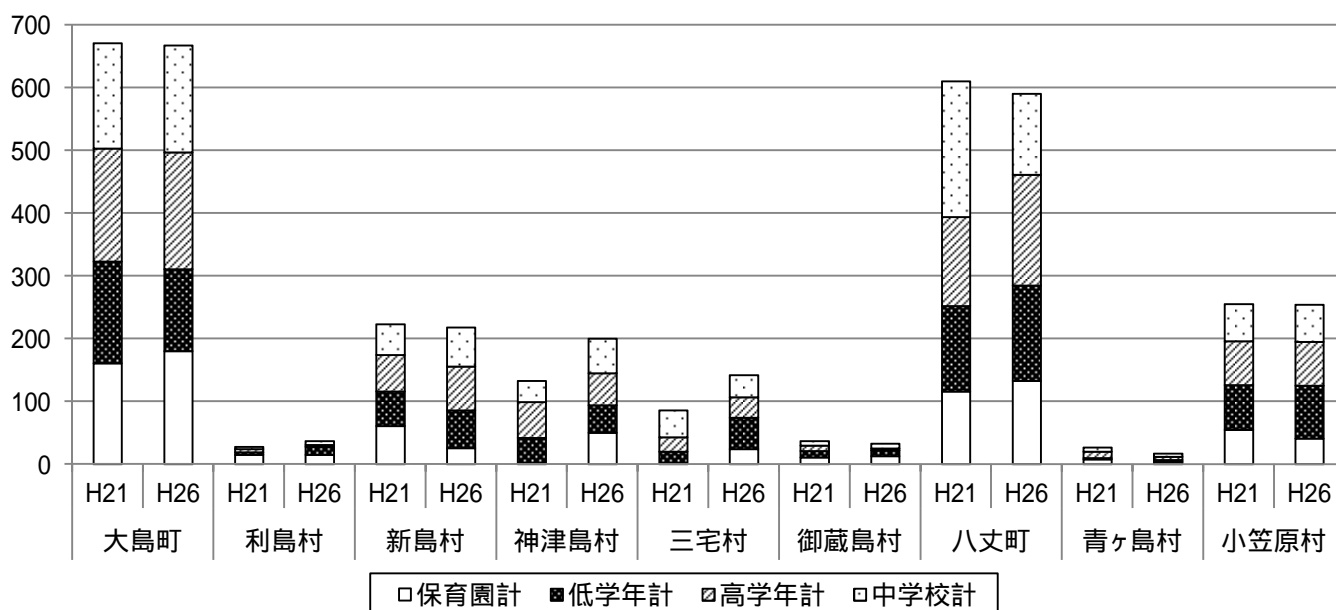
表1 回答状況

(人)

	大島町	利島村	新島村	神津島村	三宅村	御蔵島村	八丈町	青ヶ島村	小笠原村	合計
0~2歳児	51	1	1	0	1	0	18	0	1	73
3~4歳児	72	7	15	22	11	9	60	3	16	215
5~6歳児	57	7	10	28	12	4	55	1	24	198
保育園計	180	15	26	50	24	13	133	4	41	486
小学校1年生	55	1	16	18	14	3	58	0	38	203
2年生	41	9	22	11	20	5	53	0	27	188
3年生	35	3	22	15	16	1	41	3	19	155
低学年計	131	13	60	44	50	9	152	3	84	546
小学校4年生	63	3	23	15	9	2	59	0	20	194
5年生	60	0	30	17	11	1	45	2	26	192
6年生	63	0	17	19	13	0	72	3	24	211
高学年計	186	3	70	51	33	3	176	5	70	597
中学校1年生	60	2	26	18	8	1	28	2	20	165
2年生	60	2	13	16	14	6	52	0	22	185
3年生	50	2	23	21	13	1	49	3	17	179
中学校計	170	6	62	55	35	8	129	5	59	529
総計	667	37	218	200	142	33	590	17	254	2,158

図1 回答状況(前回との比較)

(人)



(2) 甘味食品の摂食状況

以下、大島管内(大島町、利島村、新島村、神津島村)、三宅管内(三宅村、御蔵島村)、八丈管内(八丈町、青ヶ島村)、小笠原管内(小笠原村)で集計を行い、島しょ地区全体で前回調査(平成 21 年度)との比較を行った。

甘味食品をほぼ毎日摂取する割合は、0～2 歳児で 2 割超、3～4 歳児で 4 割弱、5 歳以上は減少し、中学生で 25%程度であった。

前回調査(平成 21 年度)と比較すると全年代を通じて増加した。一方、ほとんどないと回答した割合は、0～6 歳児では増加したものの、小中学生では横ばい又は減少した。

図 2 甘味食品の摂取状況(0～6 歳)(管内別)

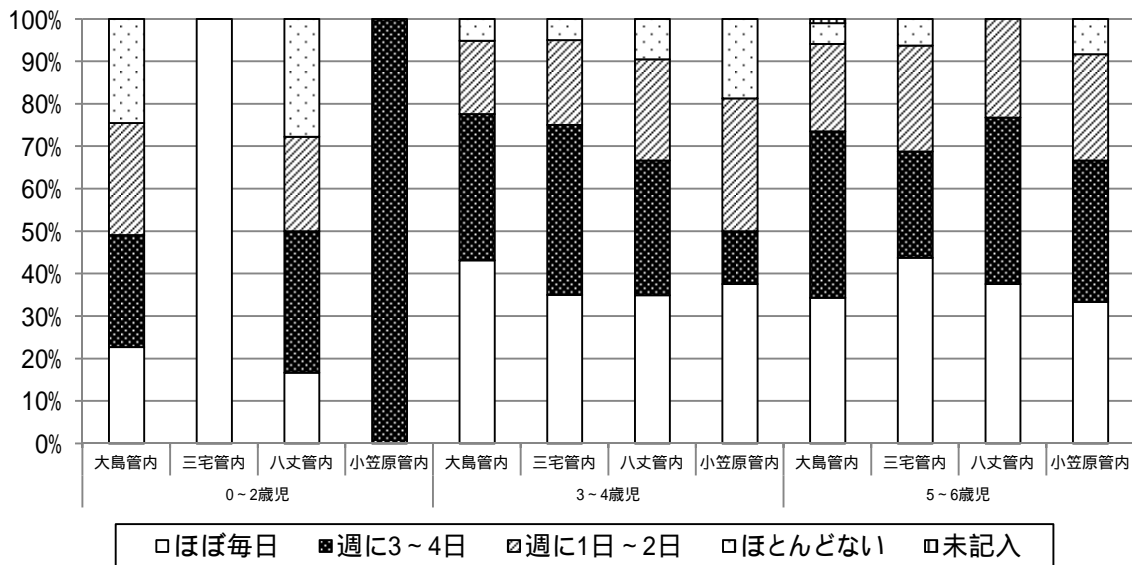


図 3 甘味食品の摂取状況(小・中学生)(管内別)

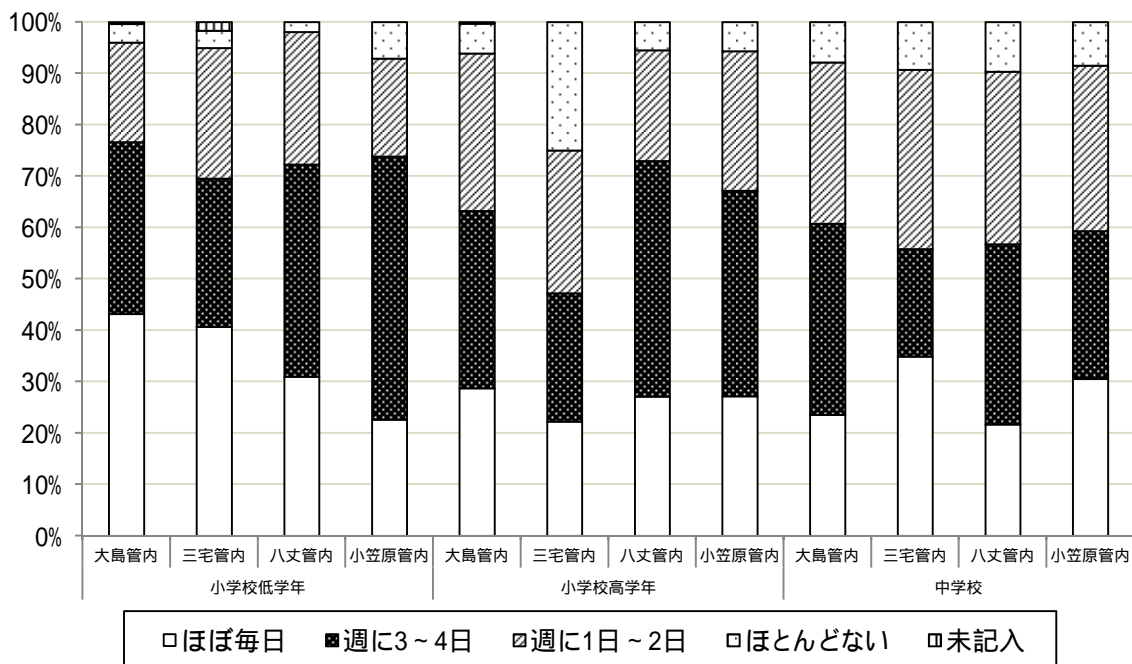


図4 甘味食品の摂取状況(0~6歳)(前回比較)

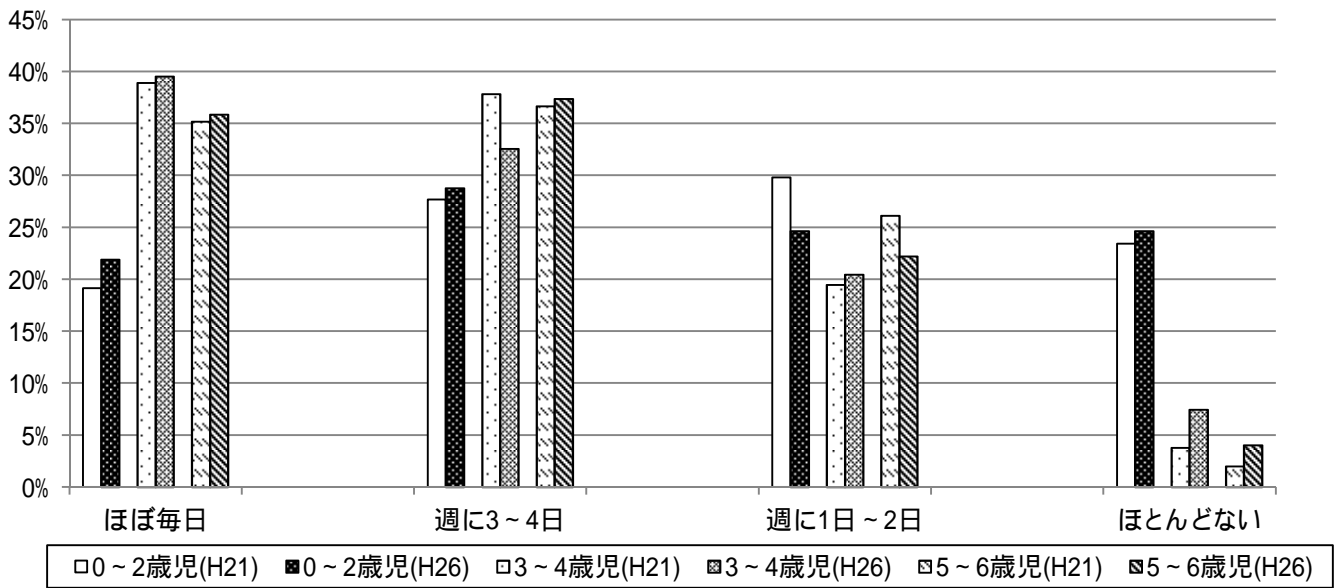
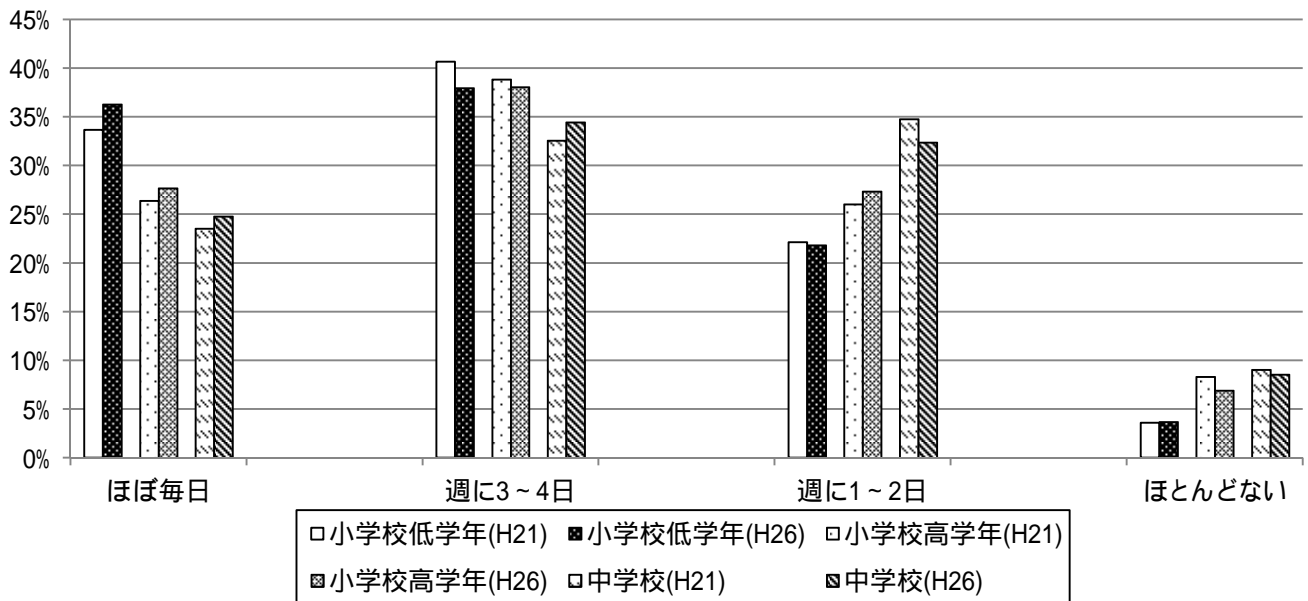


図5 甘味食品の摂取状況(小・中学生)(前回比較)



(3) 甘味飲料の摂取状況

甘味飲料をほぼ毎日摂取する割合は、5～6歳を除く年代で20～25%程度であったが、前回調査(平成21年度)と比較すると、0～2歳児でわずかに減少したものの、その他の年代ではすべて増加した。特に小・中学生での増加は顕著であった。一方、ほとんどないと回答した割合は、0～2歳児で大きく増加したものの、5歳以上では減少した。

図6 甘味飲料の摂取状況(0～6歳)(管内別)

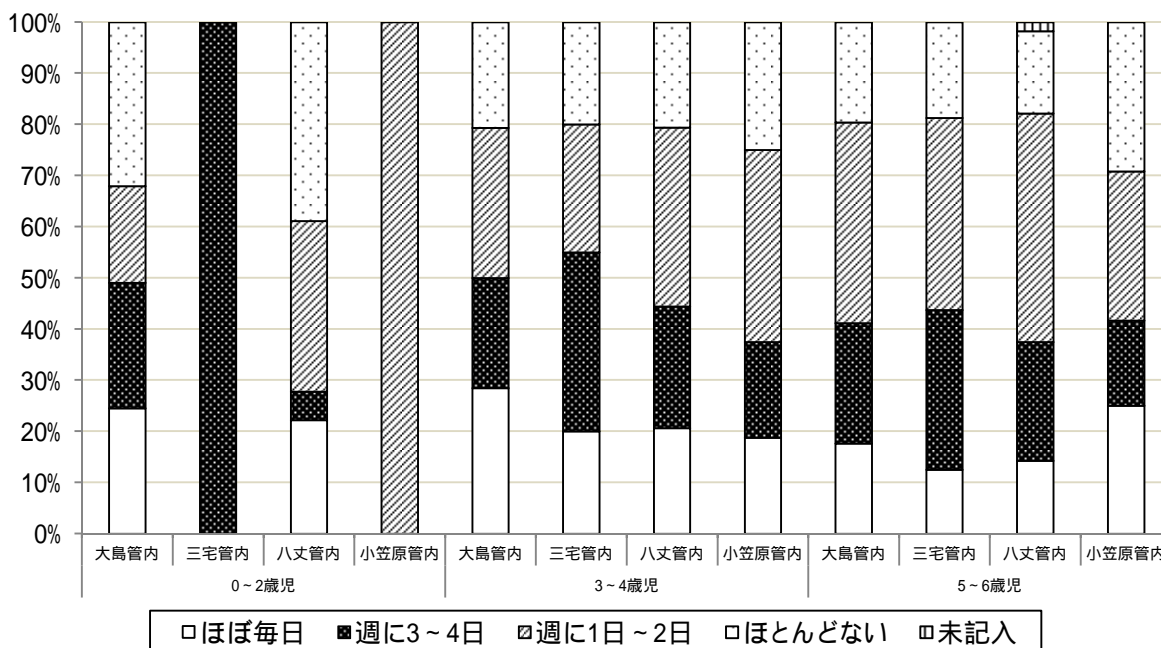


図7 甘味飲料の摂取状況(小・中学生)(管内別)

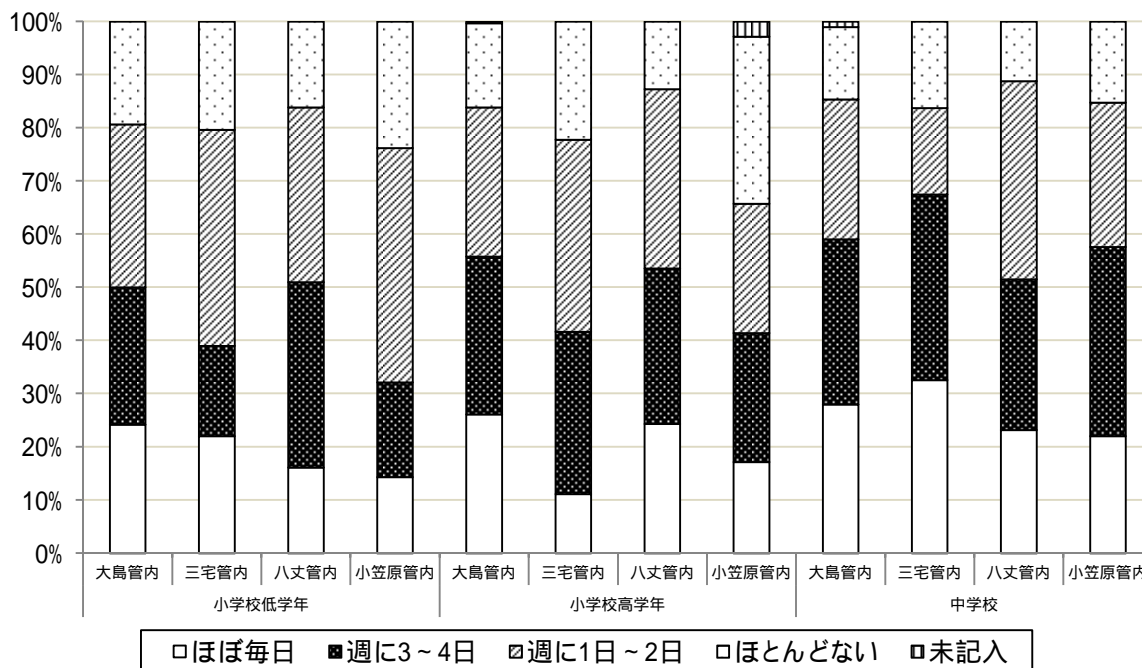


図8 甘味飲料の摂取状況(0～6歳)(前回比較)

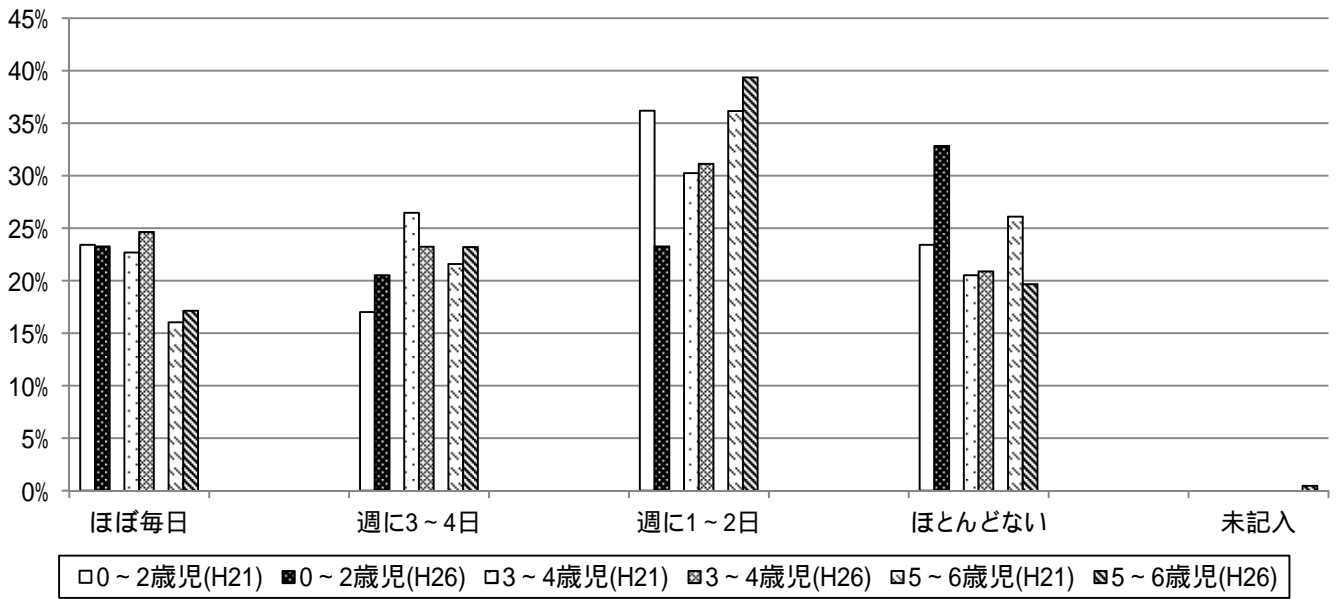
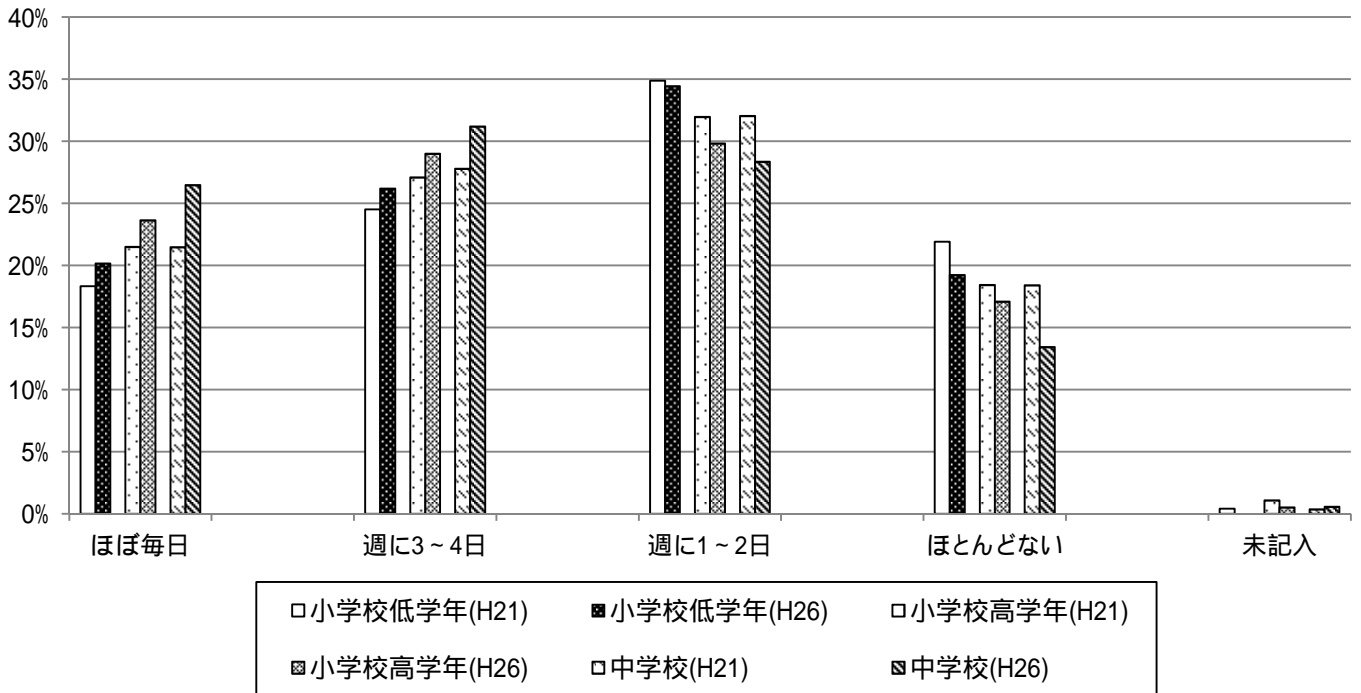


図9 甘味飲料の摂取状況(小・中学生)(前回比較)



(4) 就寝時の授乳習慣

夜、母乳を飲みながら、または、哺乳びんでミルク等を飲みながら寝る習慣は、前回調査(平成 21 度)と比較すると0~4 歳児では減少したものの、5~6 歳児において増加し、割合は1 割を超えた。前回調査時に高かった0~2 歳児の割合が残った影響と考えられる。

図 10 就寝時の授乳習慣(管内別)

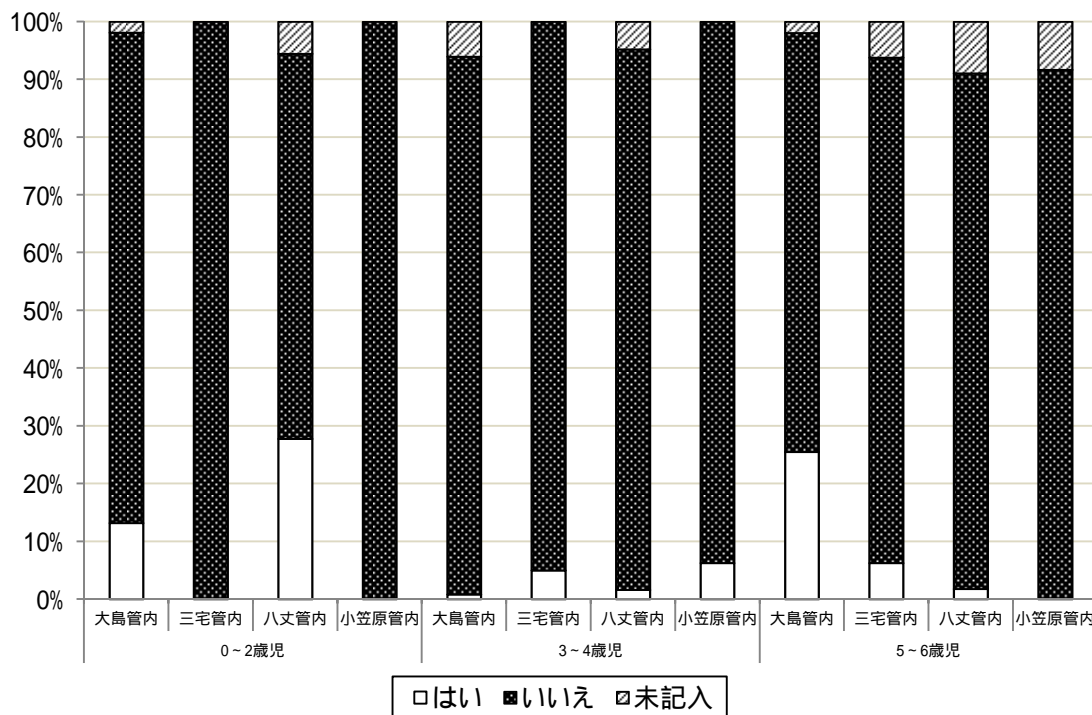
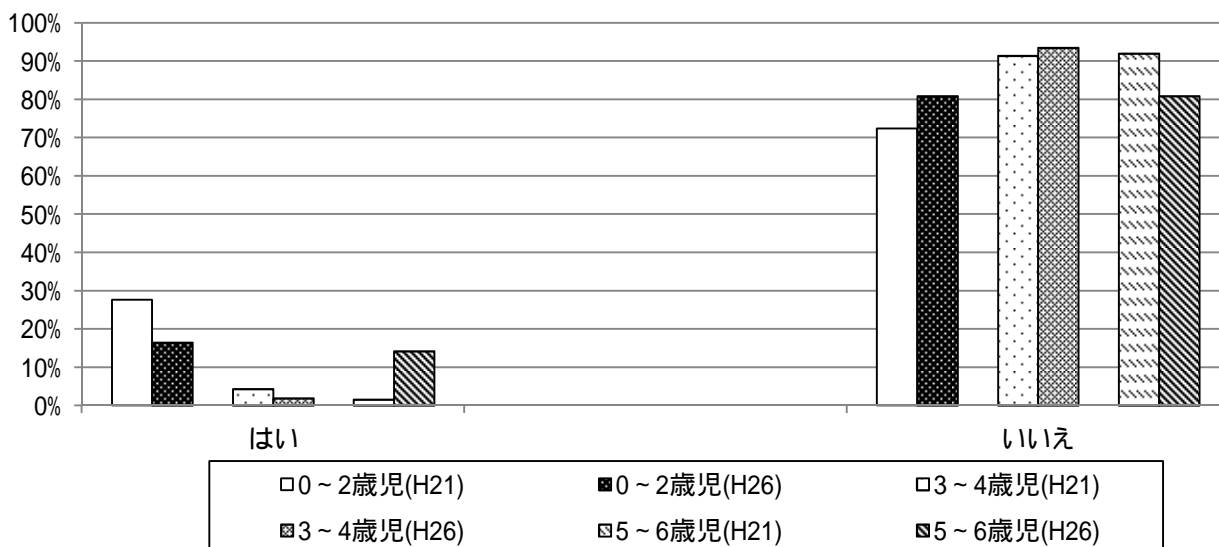


図 11 就寝時の授乳習慣(0~6 歳)(前回比較)



(5) フッ化物配合歯磨剤の使用状況

0～6歳児では、フッ化物配合歯磨剤を毎日使用している割合が高いものの、小学校入学以降、学年が進むにつれフッ化物配合かわからない割合が増加した。親はフッ化物配合歯磨剤を意識して使用しているが、小学校高学年から中学生くらいになると、本人はそれを意識することなく使用しているものと考えられる。この傾向は前回調査(平成21年度)と概ね変わらなかった。

図12 フッ化物配合歯磨剤の使用状況(0歳～6歳)(管内別)

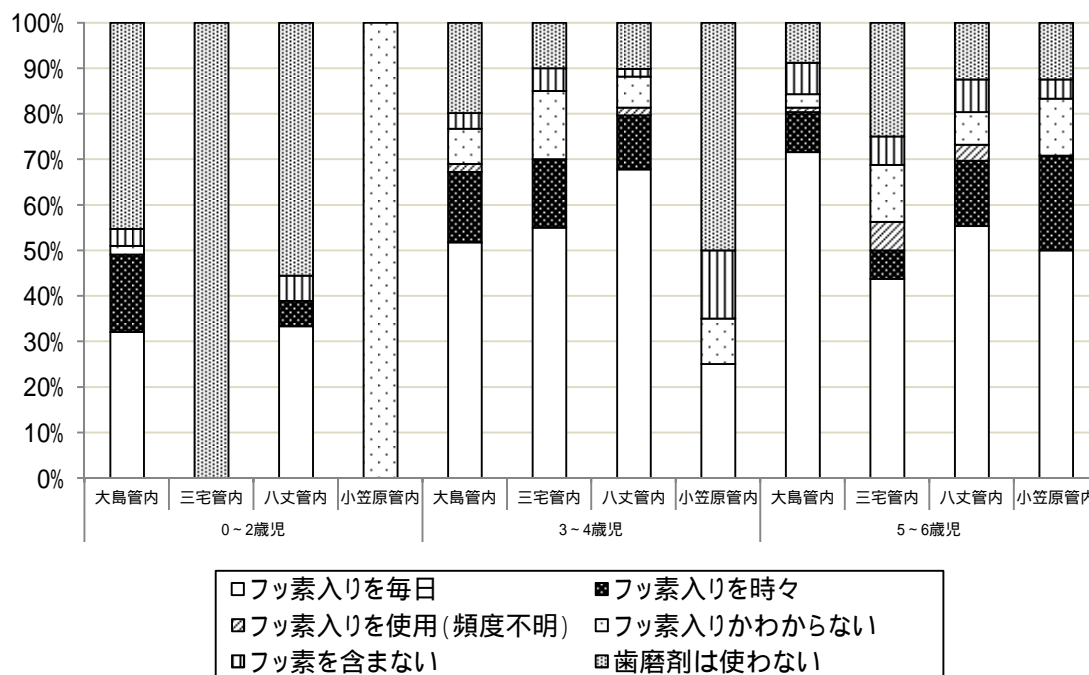


図13 フッ化物配合歯磨剤の使用状況(小・中学校)(管内別)

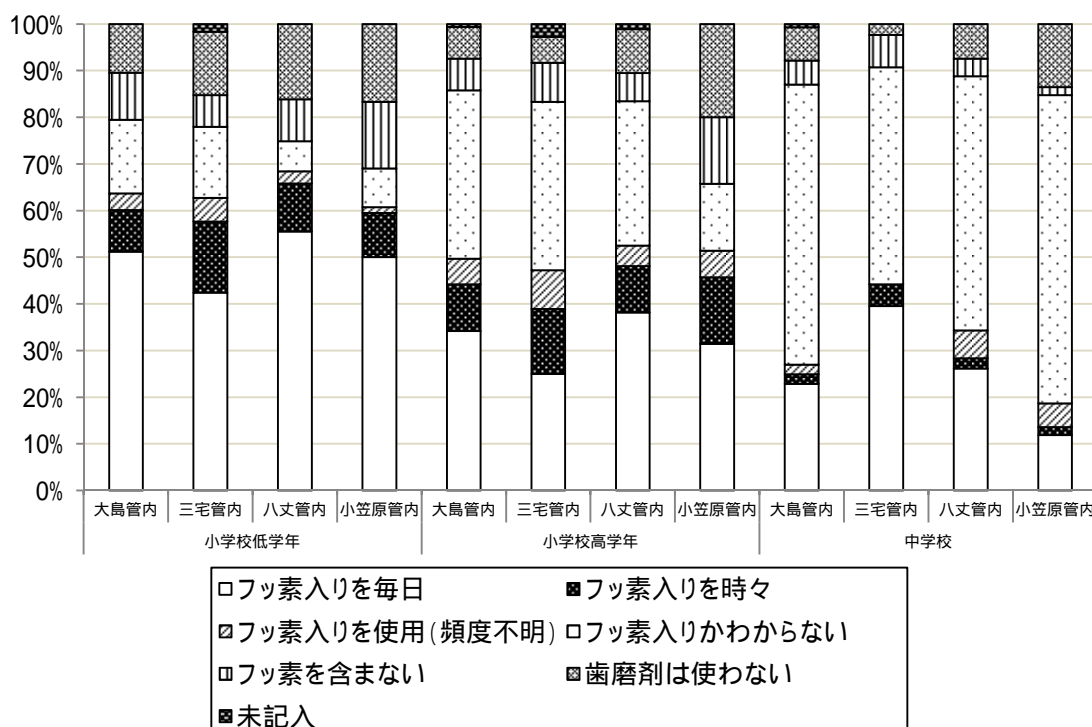


図 14 フッ化物配合歯磨剤の使用状況(0歳～6歳)(前回比較)

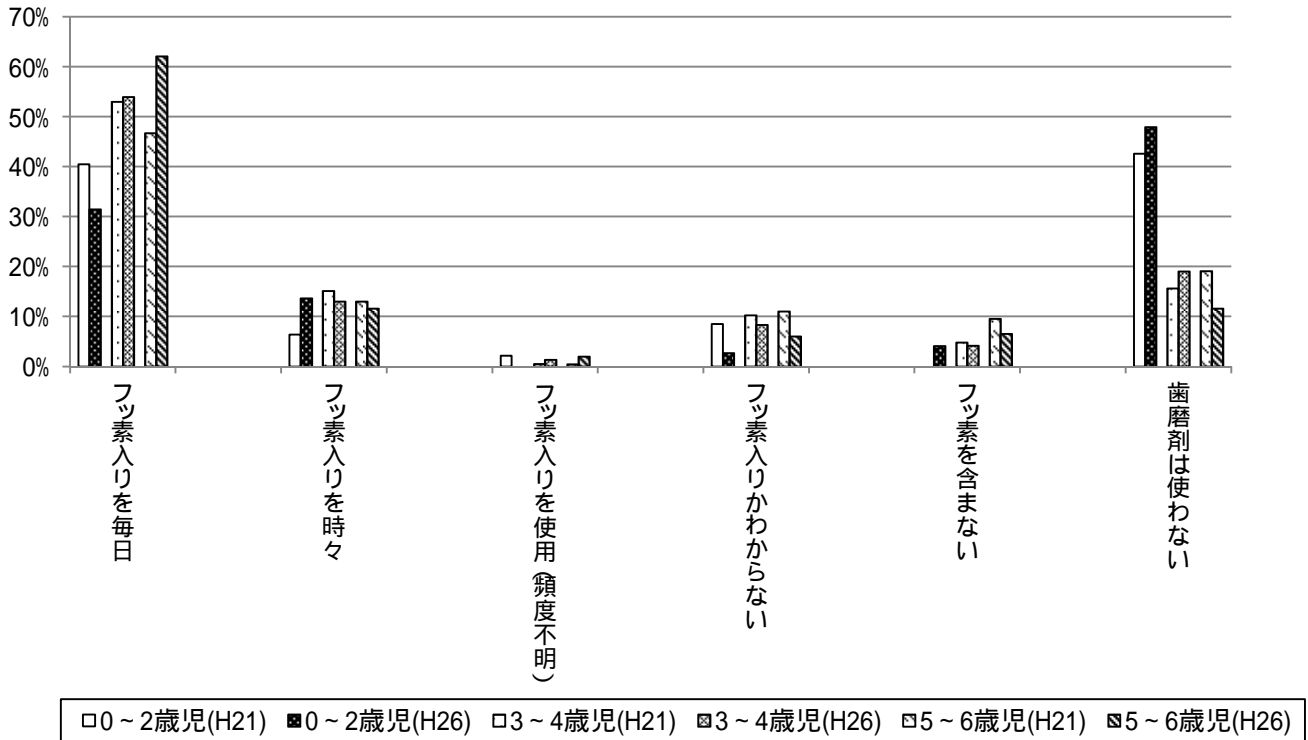
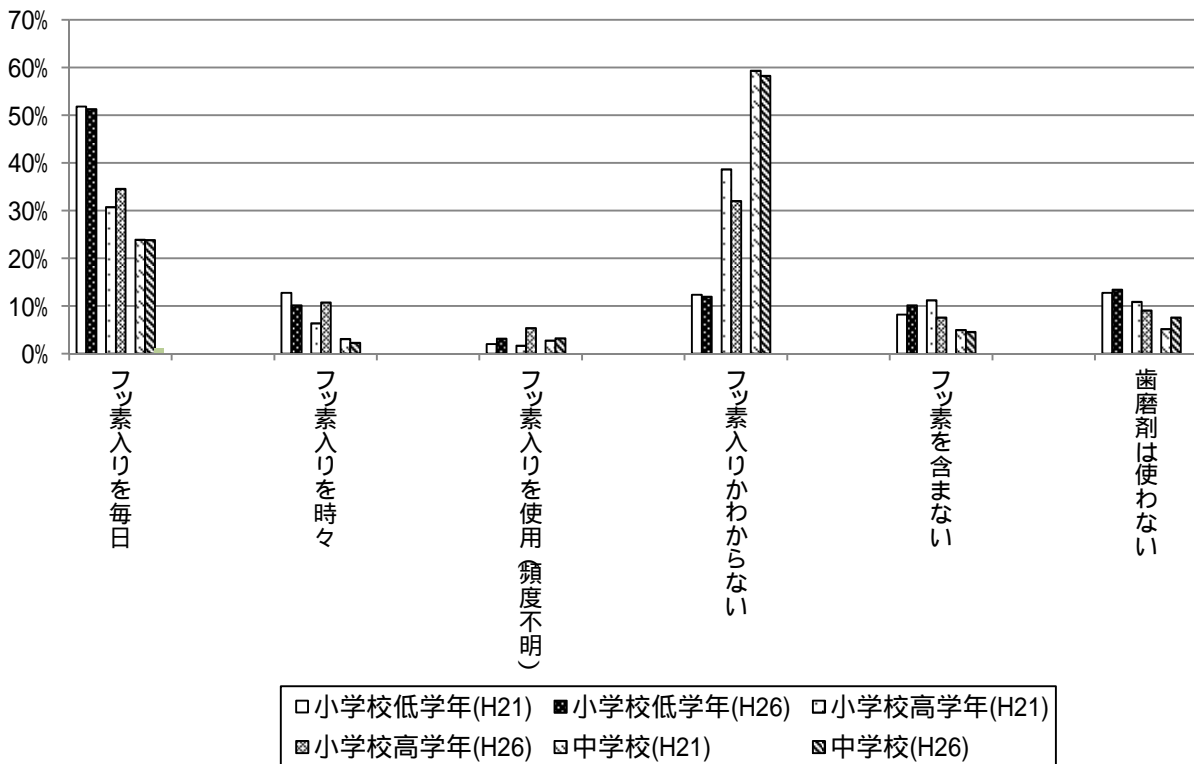


図 15 フッ化物配合歯磨剤の使用状況(小・中学校)(前回比較)



(6) 歯や口腔の観察状況

週1回以上の歯や口腔の観察状況は0～2歳児と3～4歳児においては、前回調査(平成21年度)に比べて減少したものの、3～6歳児では8割以上であった。一方、小学生から中学生にかけては、学年が上がる毎に週1回以上の比率は低下したものの、前回調査(平成21年度)より増加した。

図16 歯や口腔の観察状況(0歳～6歳) (管内別)

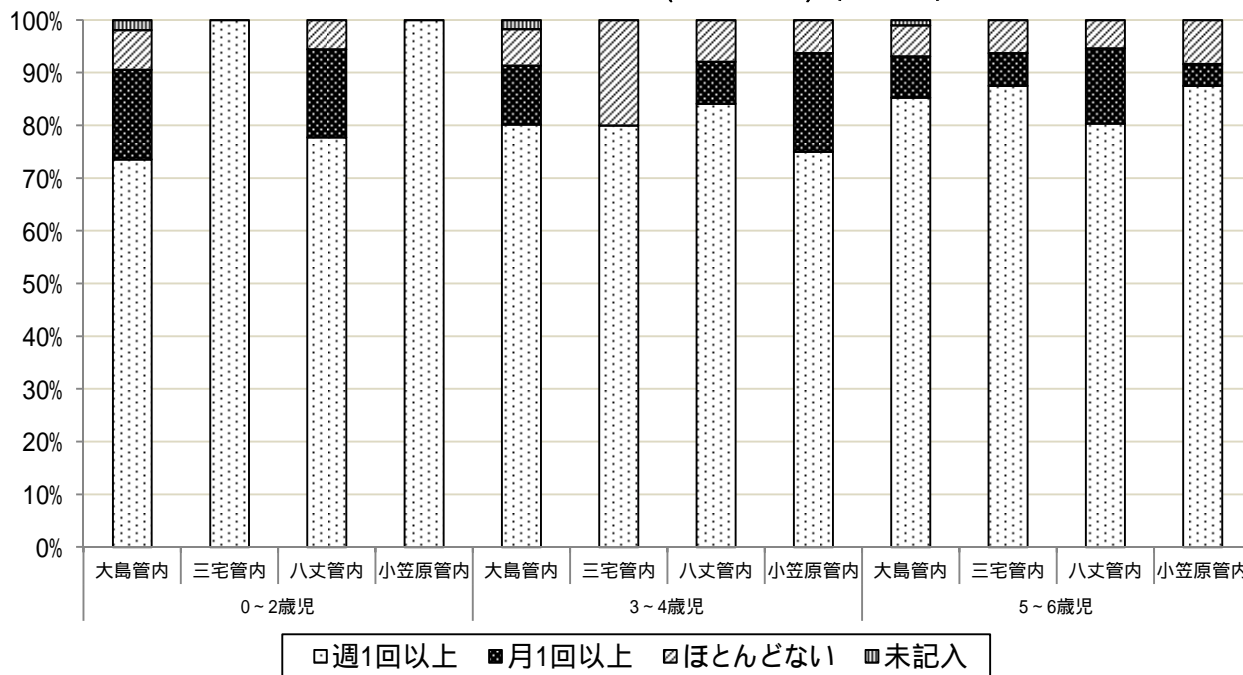


図17 歯や口腔の観察状況(小・中学校) (管内別)

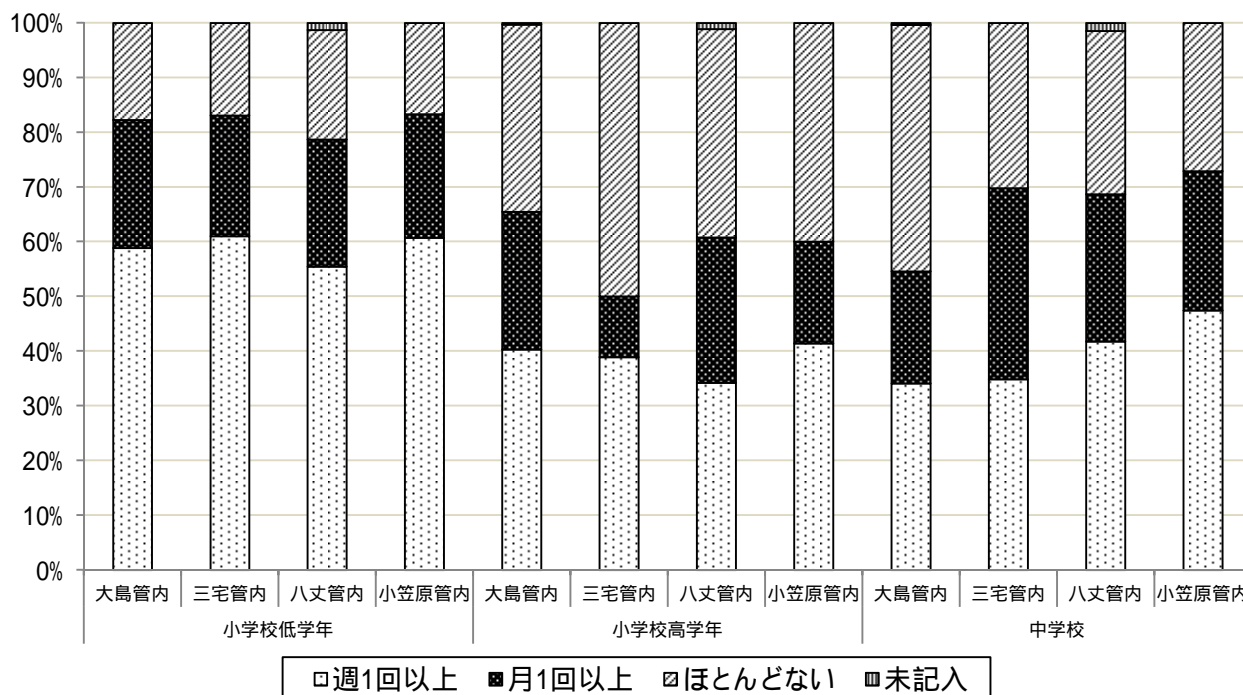


図 18 歯や口腔の観察状況(0～6歳)(前回比較)

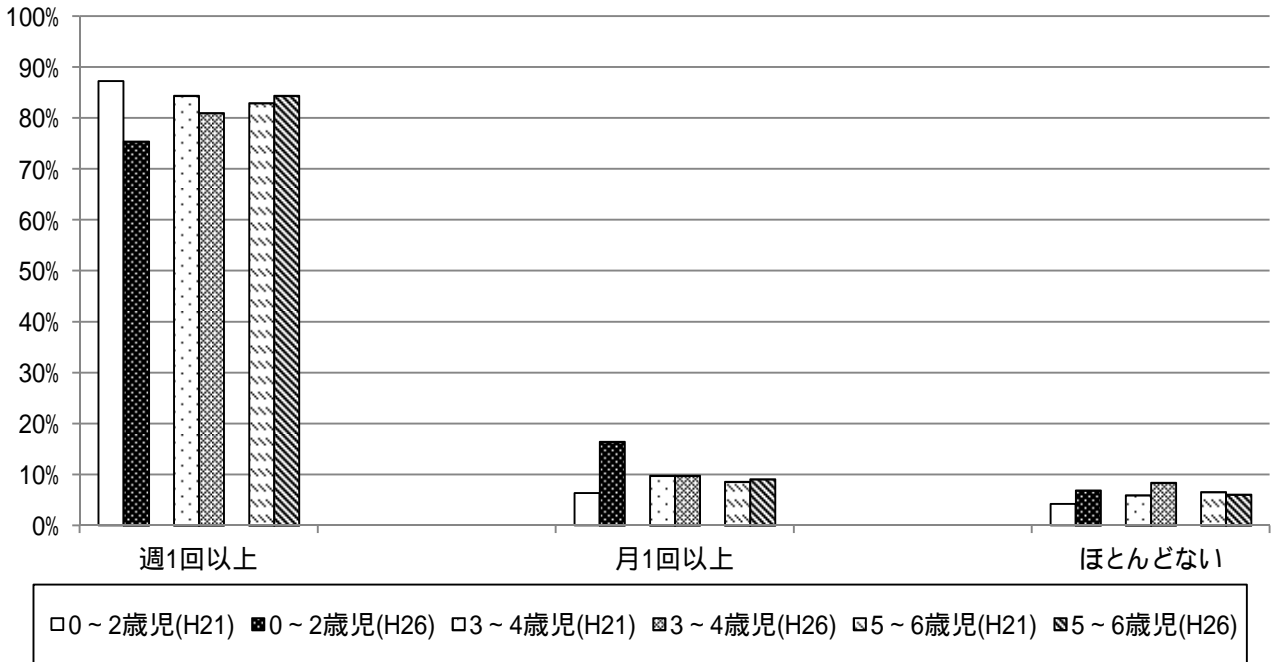
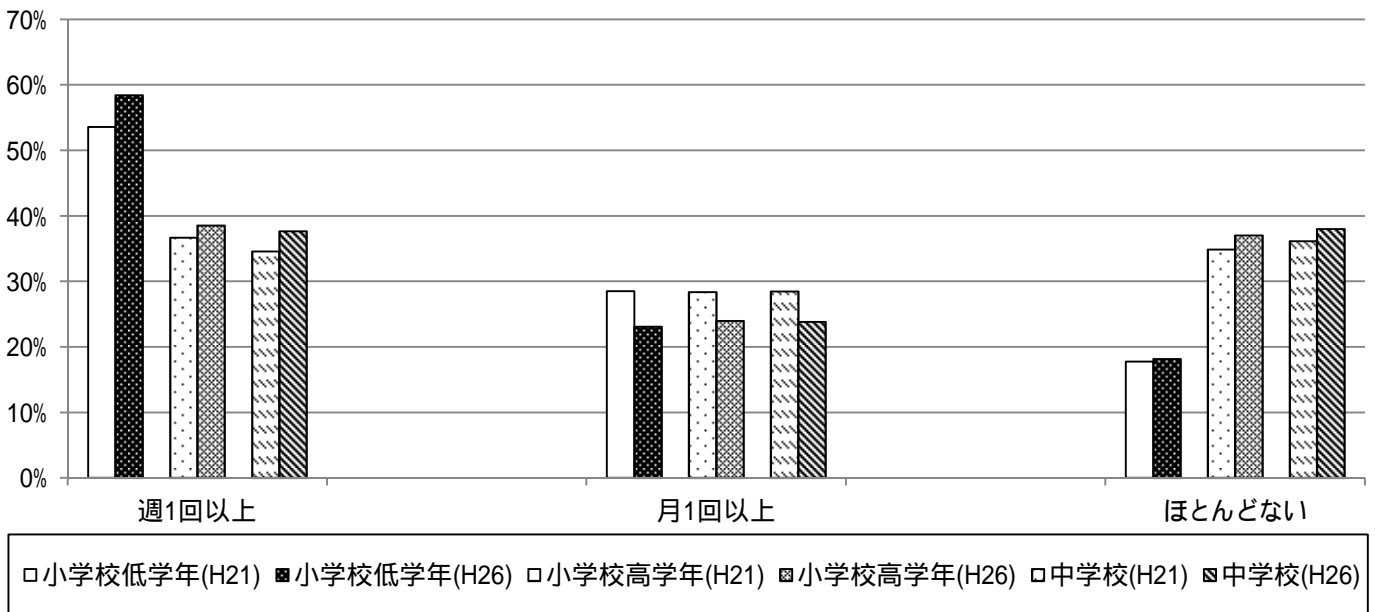


図 19 歯や口腔の観察状況(小・中学校)(前回比較)



(7) ゆっくりよく噛む習慣(0歳～小学校低学年)

0歳から小学校低学年では、保護者が子供にゆっくりよく噛んで食べる習慣をつけるようにしているとの回答が半数を超え、0～4歳児では前回調査(平成21年度)と比べてほぼ横ばい、5歳以上になると減少した。

ア ゆっくりよく噛む習慣

図20 ゆっくりよく噛んで食べる習慣づけ(0歳～6歳)(管内別)

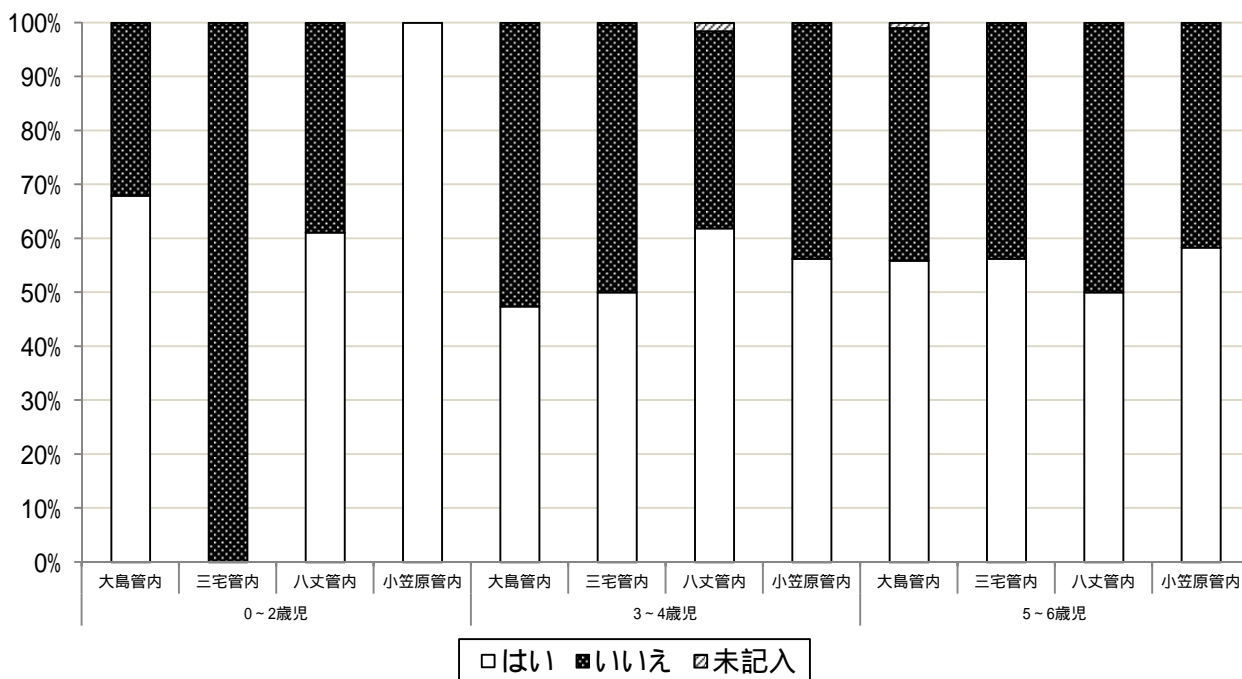


図21 ゆっくりよく噛んで食べる習慣づけ(小学校低学年)(管内別)

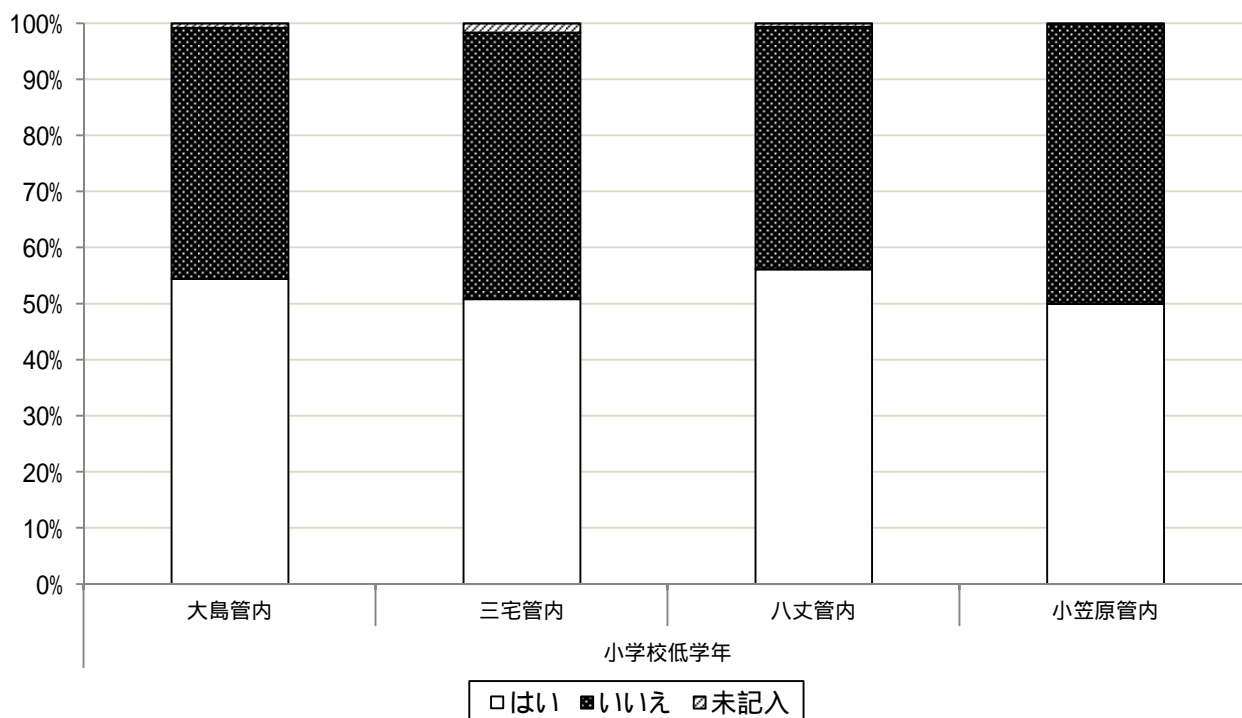


図 22 ゆっくりよく噛む習慣づけ(0歳～6歳児)(前回比較)

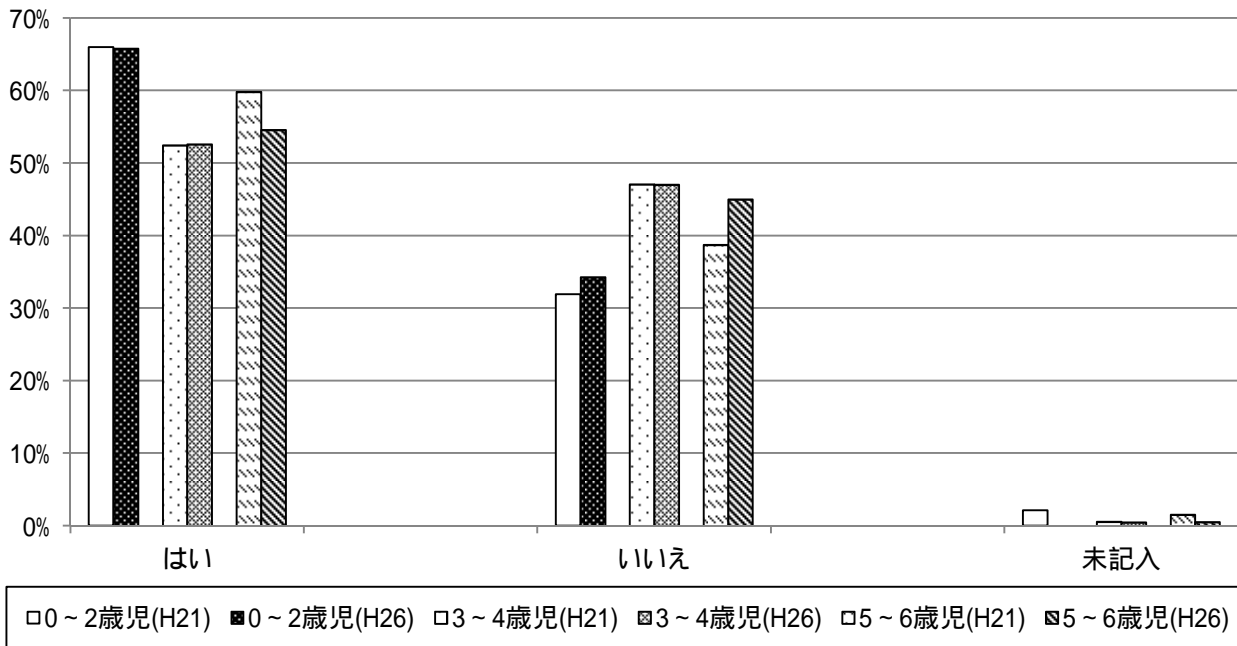
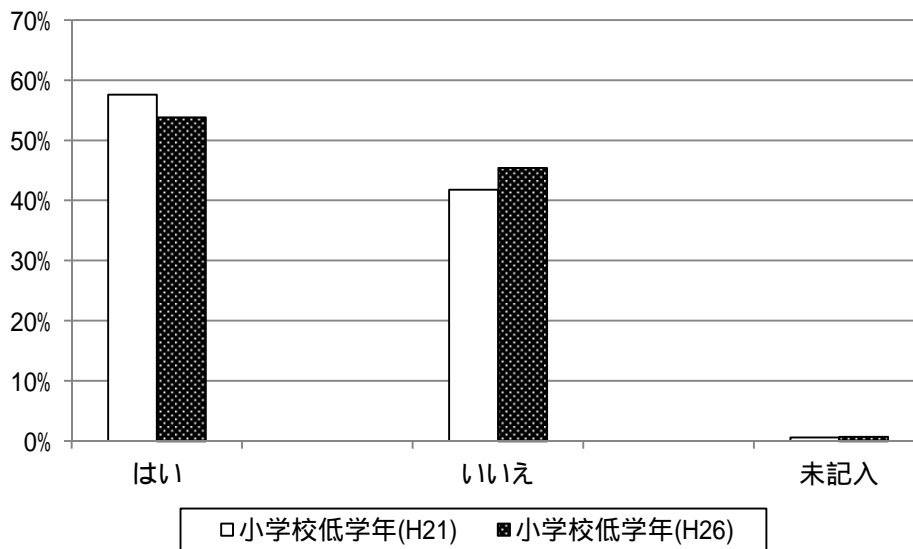
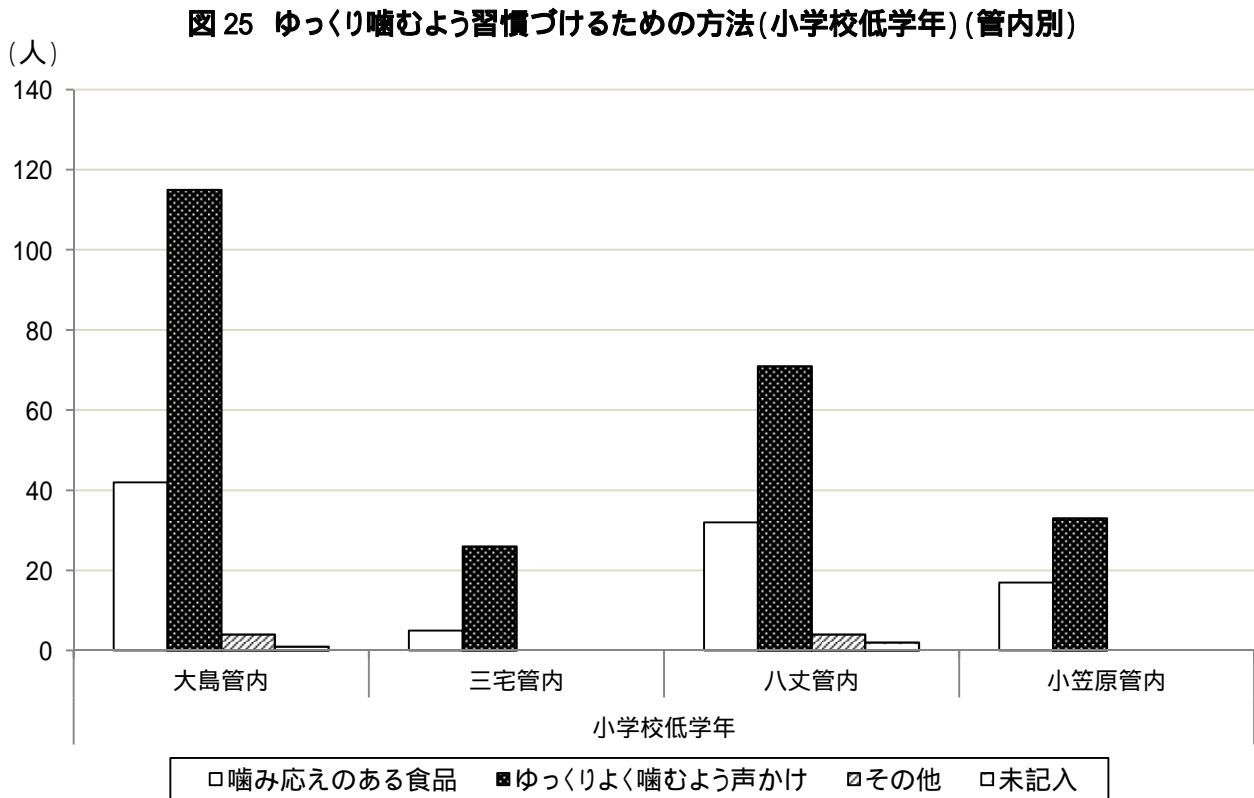
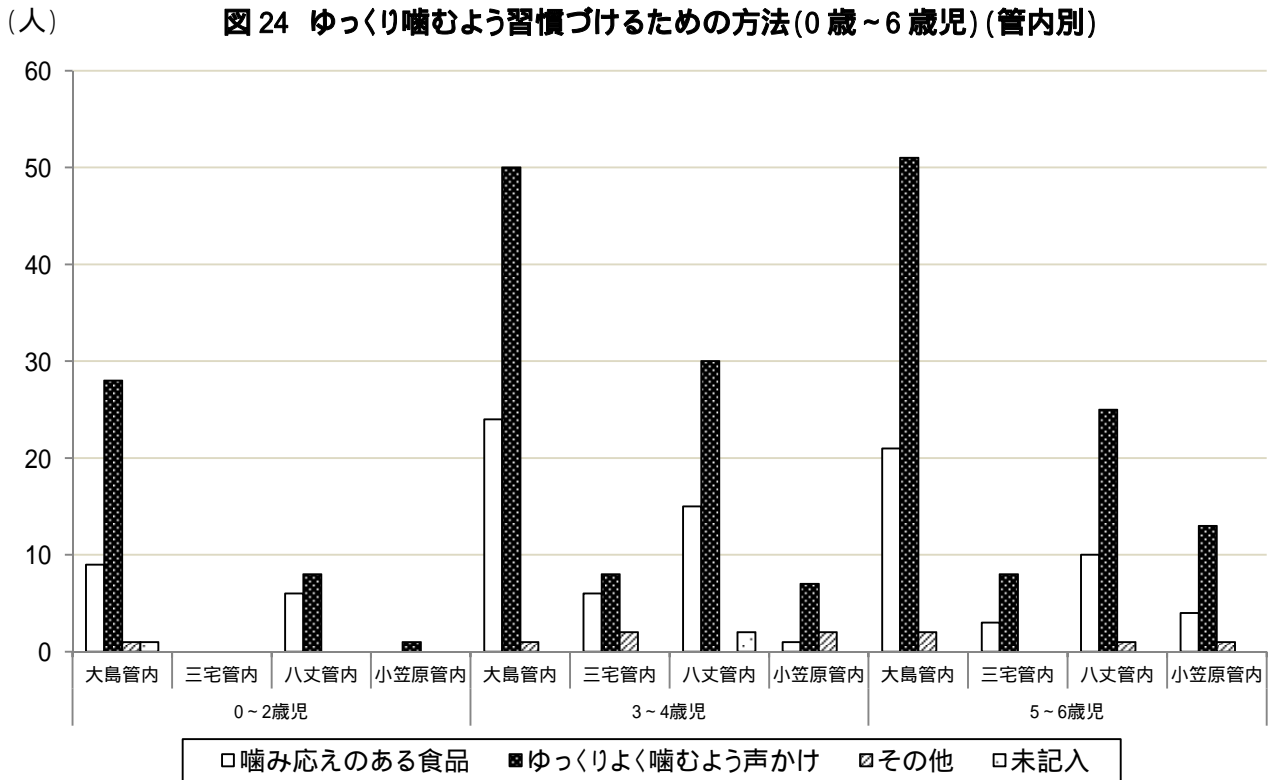


図 23 ゆっくりよく噛む習慣づけ(小学校低学年)(前回比較)



イ ゆっくりよく噛む習慣づけの方法

習慣づけの方法はゆっくりよく噛むよう声かけするが最も多く、前回調査(平成21年度)と同様であった。



(8) ゆっくりよく噛む習慣(小学校高学年、中学校)

前回調査(平成 21 年度)と比してゆっくり噛むようにしていない者の割合は、小学校高学年では増加したが、中学校では減少した。

図 26 ゆっくりよく噛む習慣(小学校高学年、中学校)

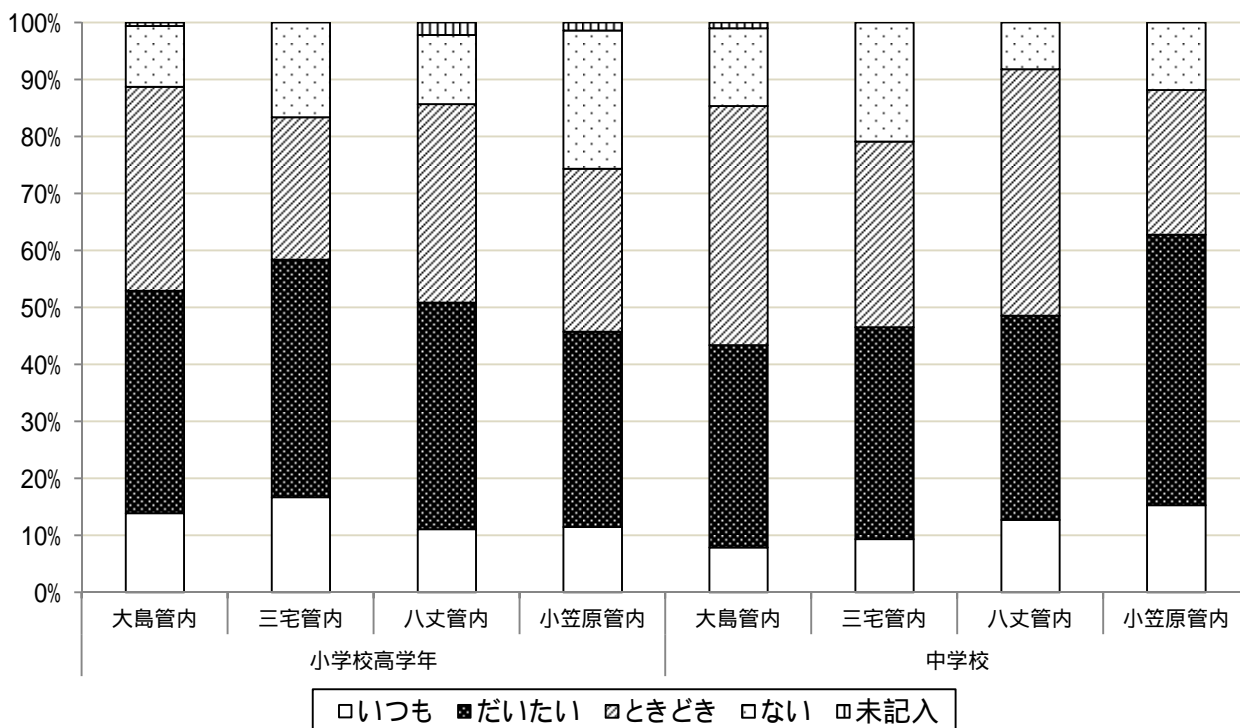
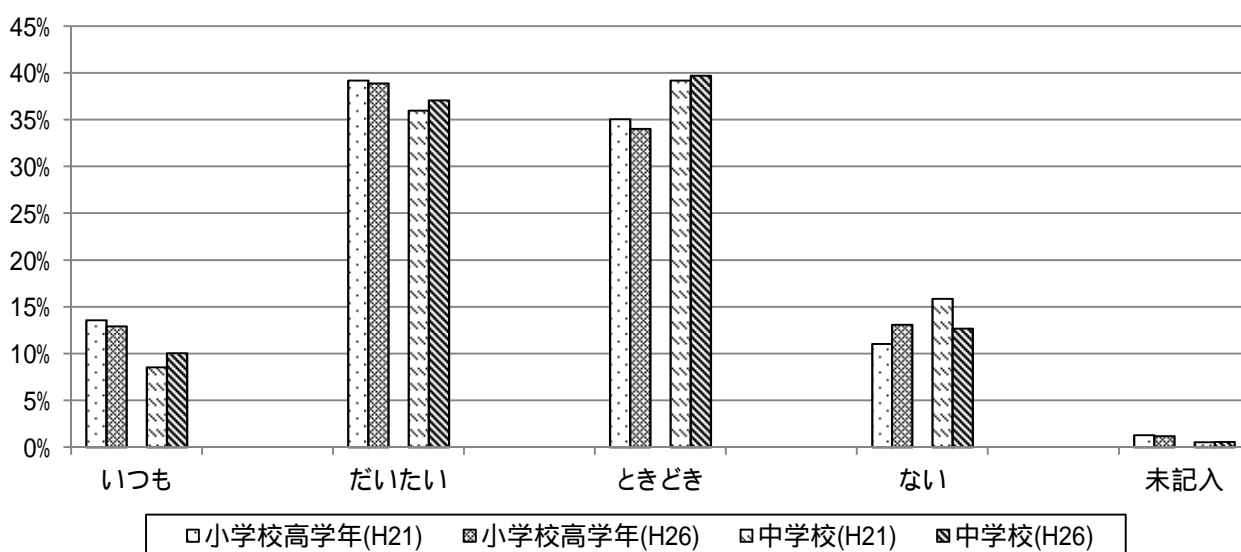


図 27 ゆっくりよく噛む習慣(小学校高学年、中学校)(前回比較)



(9) かかりつけ歯科医院の状況

ア かかりつけ歯科医院の有無

前回調査(平成21年度)と比べて、かかりつけ歯科医院があると回答した者の割合は、保育園(0～6歳児)では減少したものの、小学校低学年以上では増加した。

図 28 かかりつけ歯科医院の有無

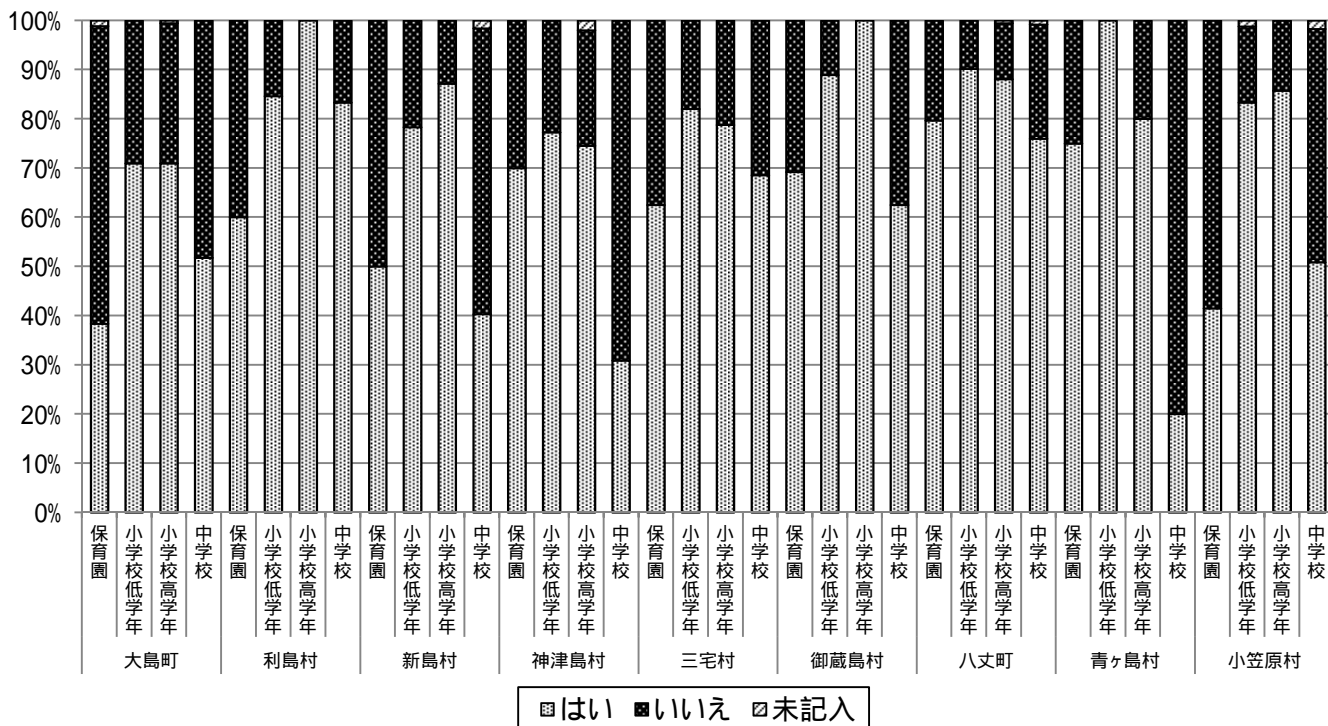
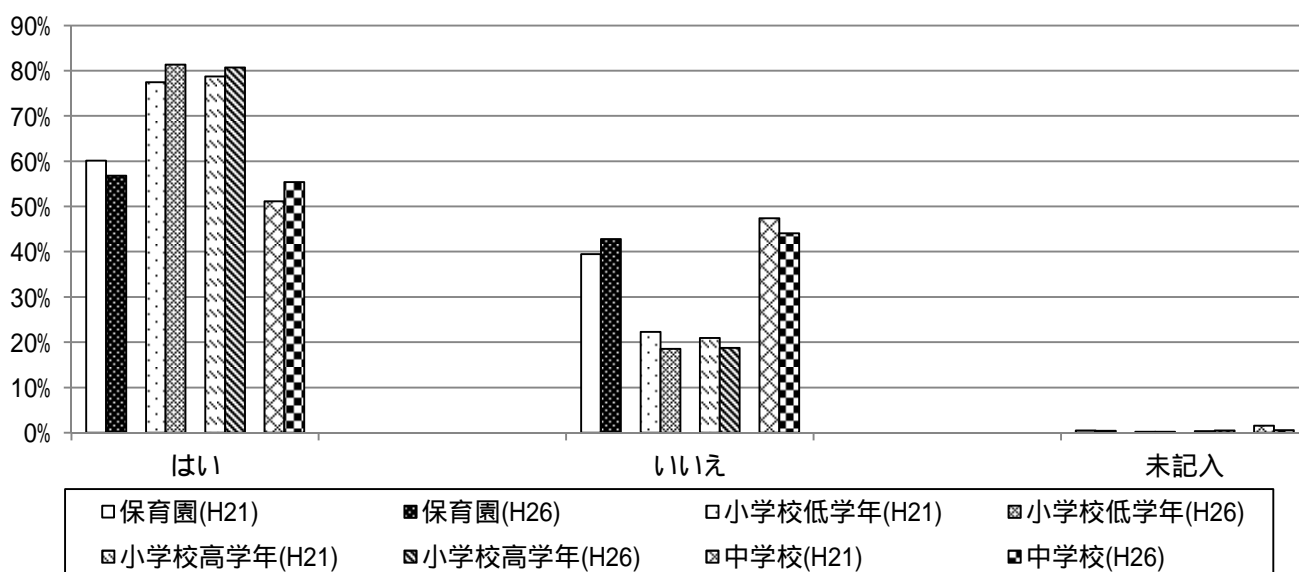


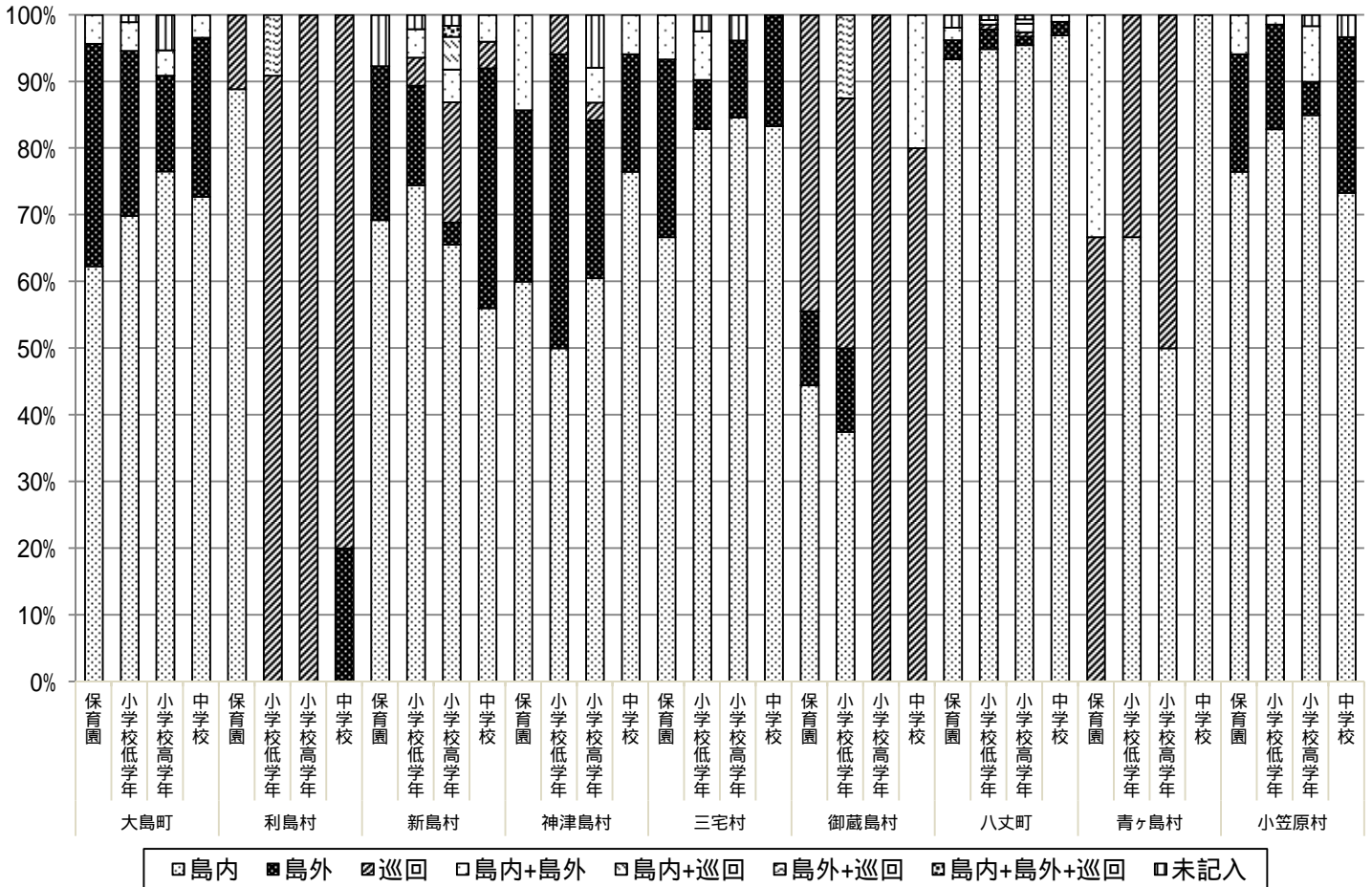
図 29 かかりつけ歯科医院の有無(前回比較)



イ かかりつけ歯科医院の場所

ほとんどの町村のすべての年代で、島内の歯科医院がかかりつけ歯科医であった。一方、巡回診療と回答した者が多かったのは、利島村の保育園を除く小中学生と、御蔵島村の小学校高学年から中学生、青ヶ島村の保育園児であった。いずれも人口の少ない島である。前回調査(平成 21 年度)においても、利島村と御蔵島村では同様の傾向が見られたが、青ヶ島村では島内が多かった。

図 30 かかりつけ歯科医院の場所



ウ かかりつけ歯科医院で受けている内容(町村別)(複数回答)

図 31 定期健診(年1回以上)

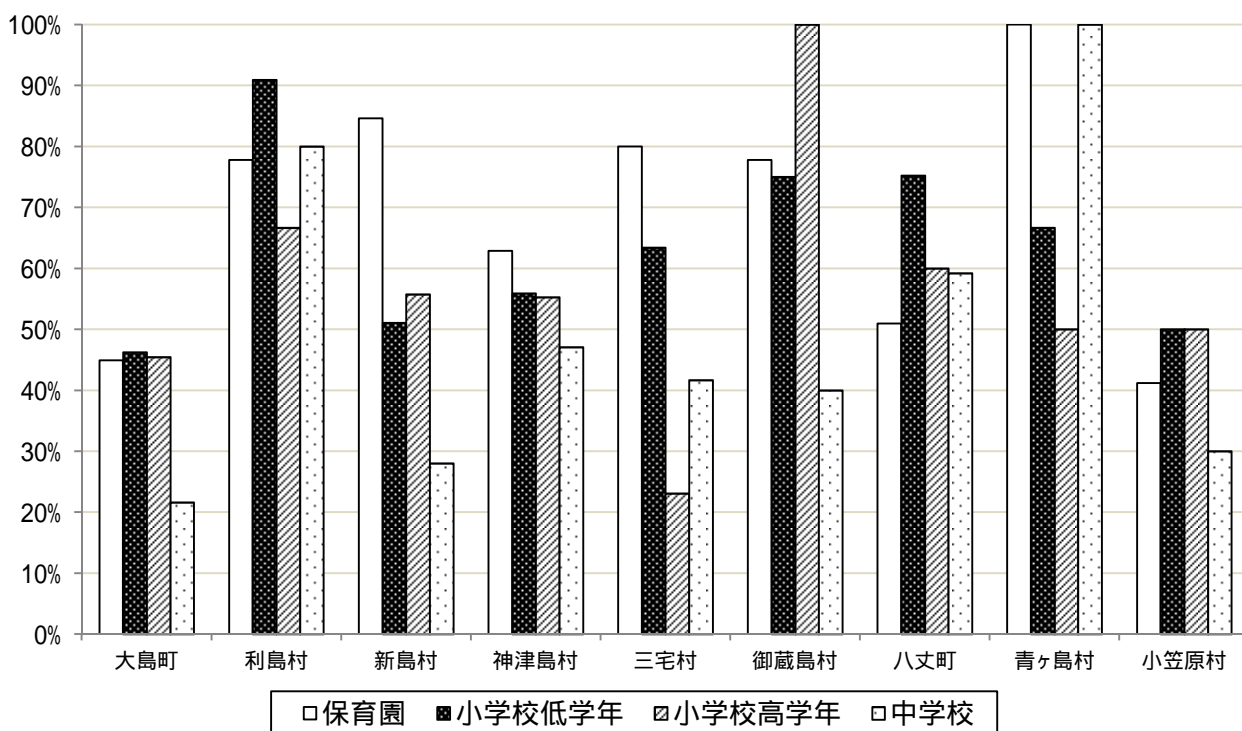


図 32 フッ化物歯面塗布

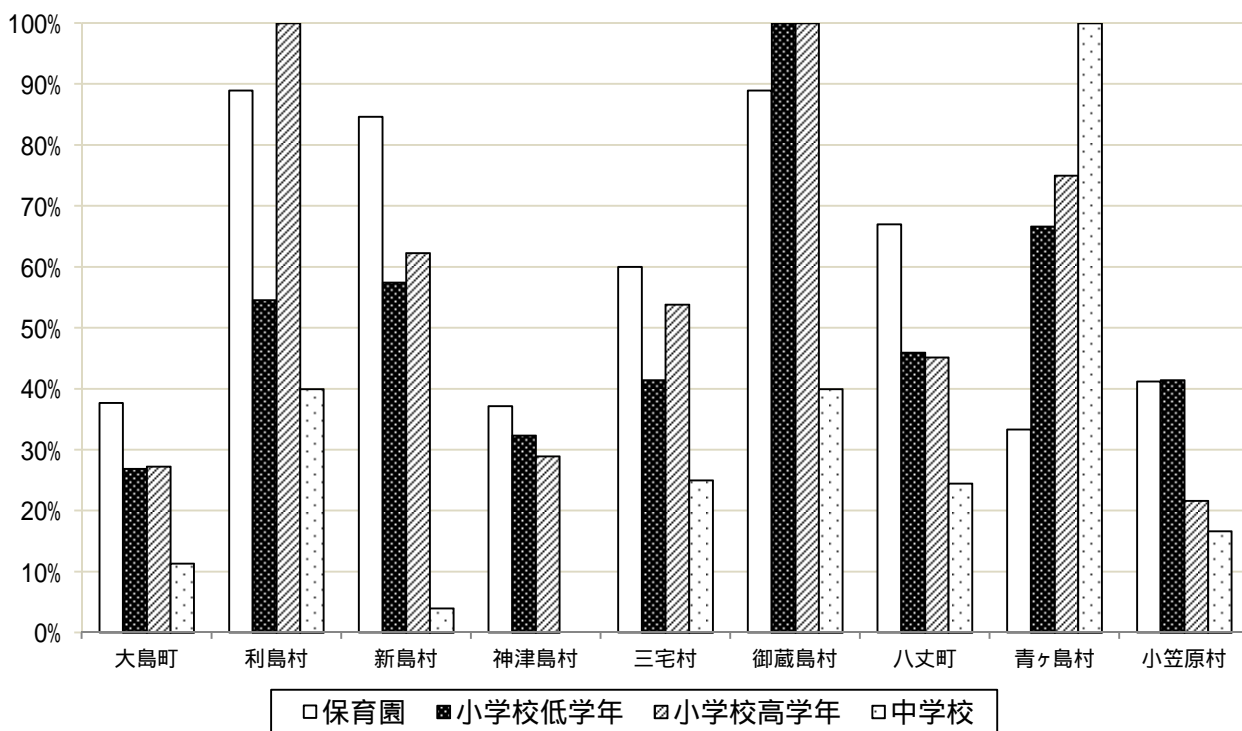


図 33 フッ化物口洗の指導

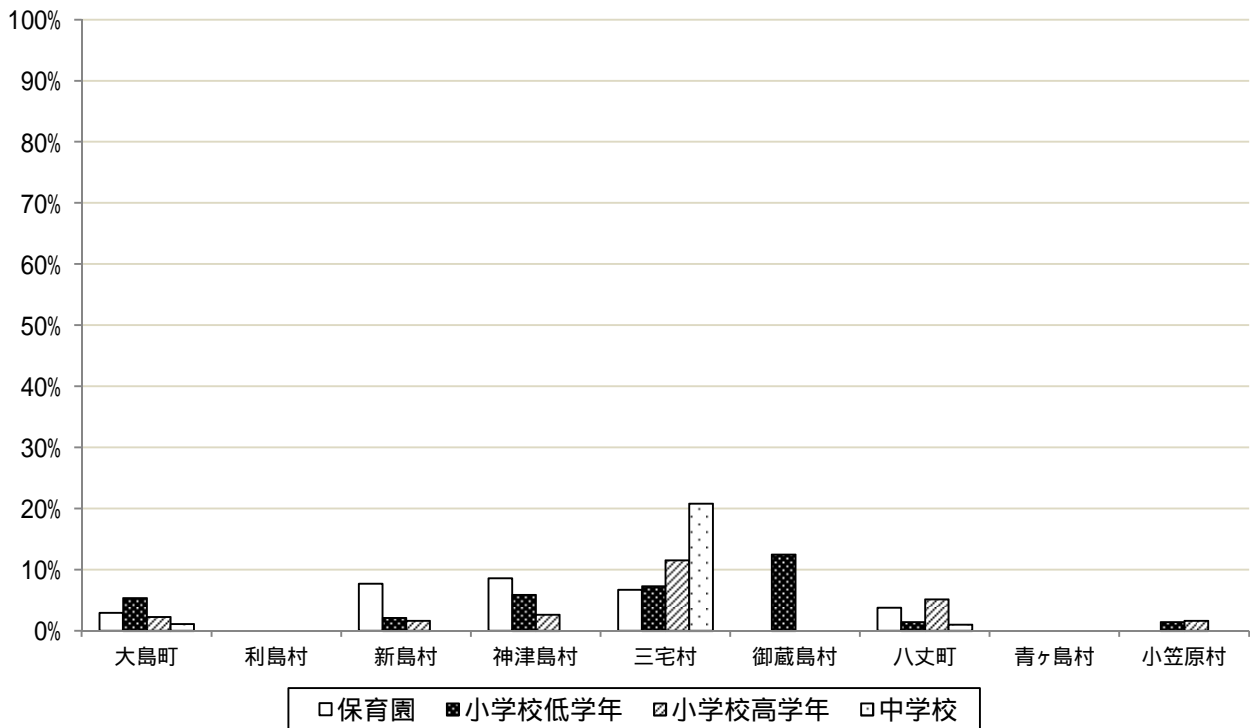


図 34 歯みがき指導

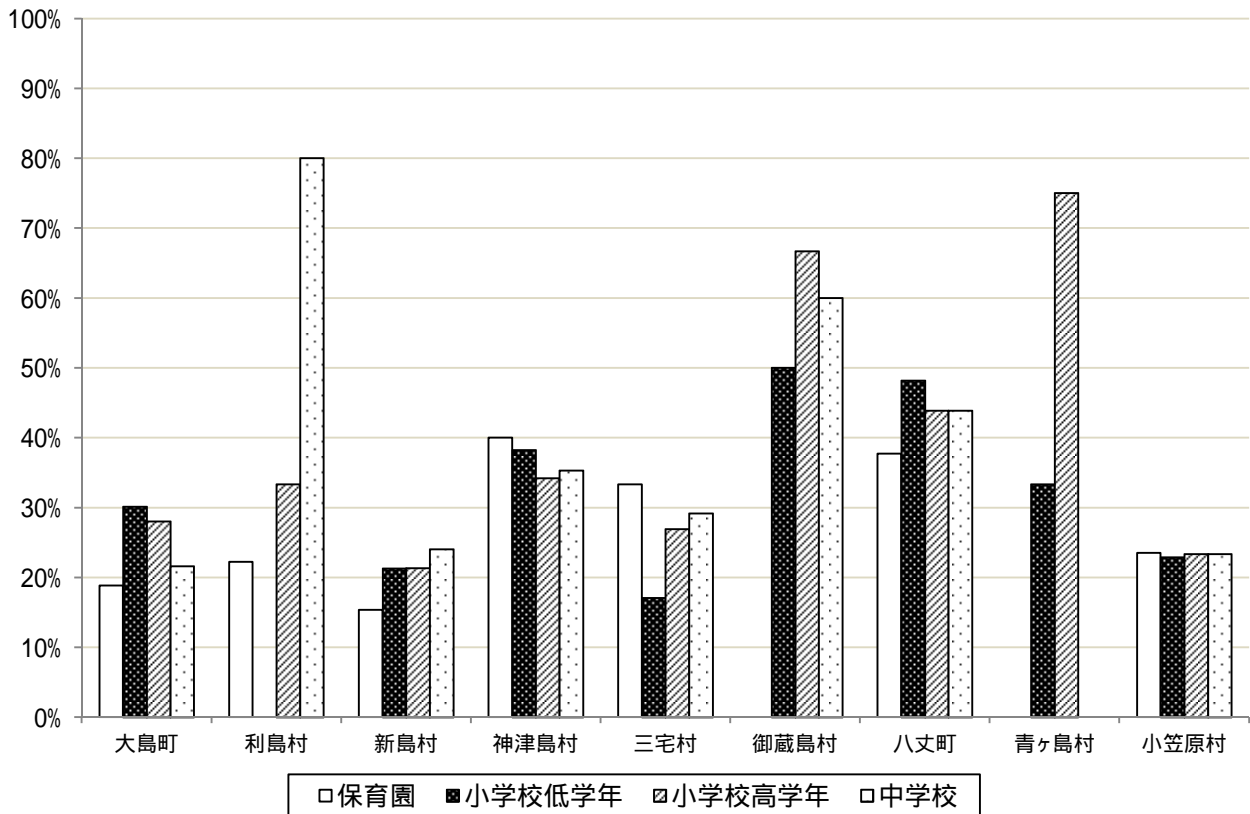


図 35 シーラント処置

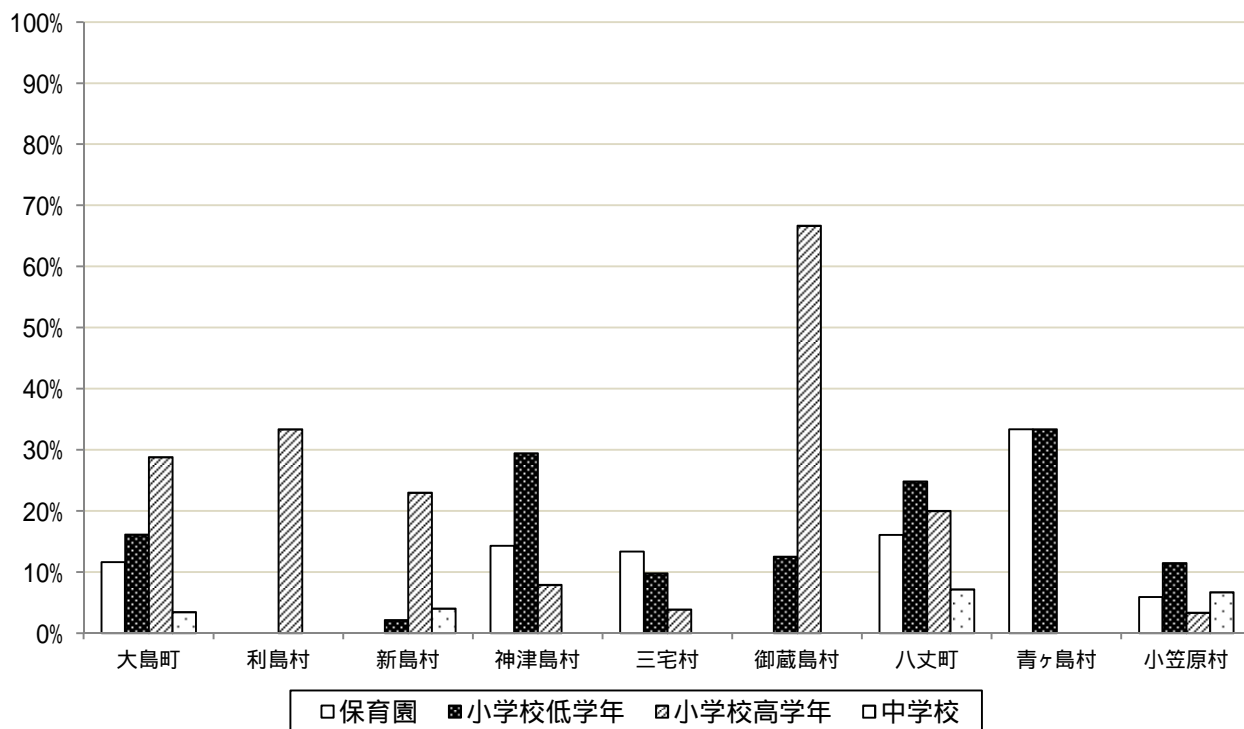


図 36 その他

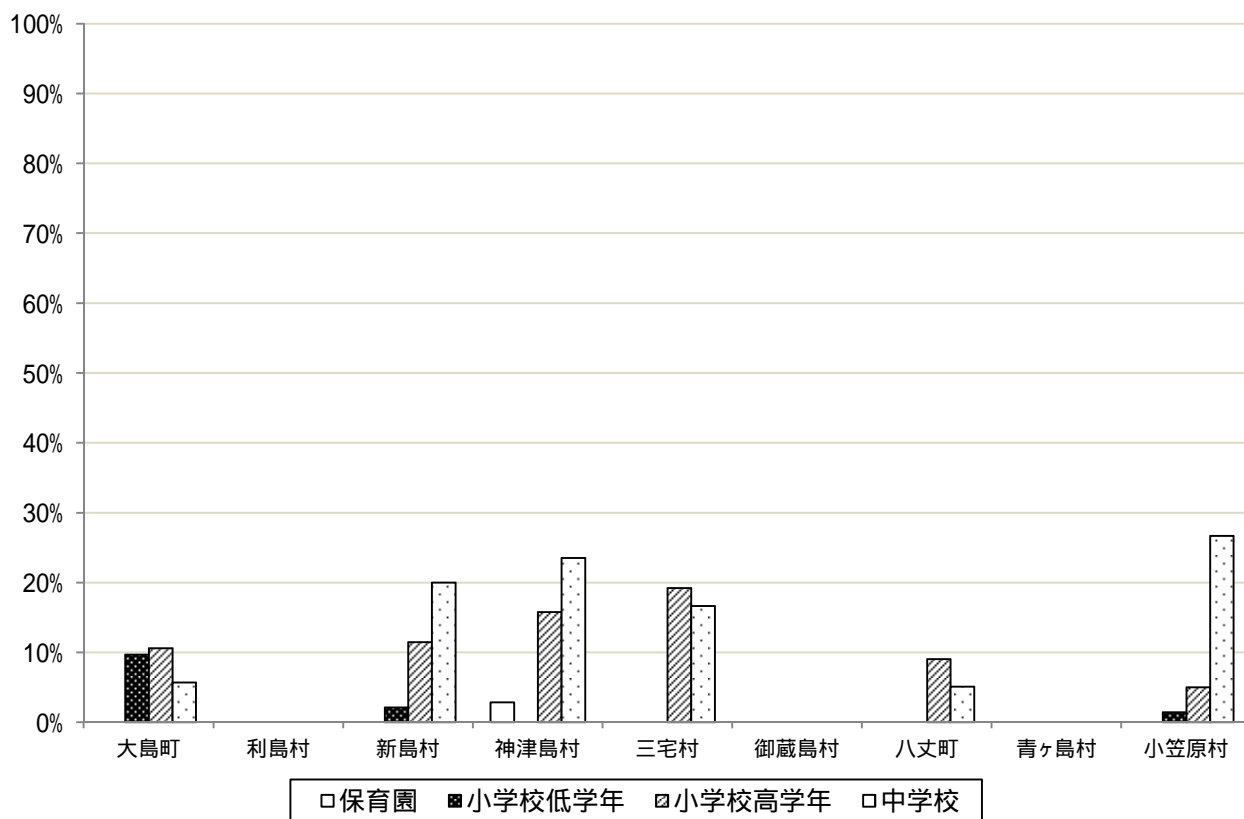
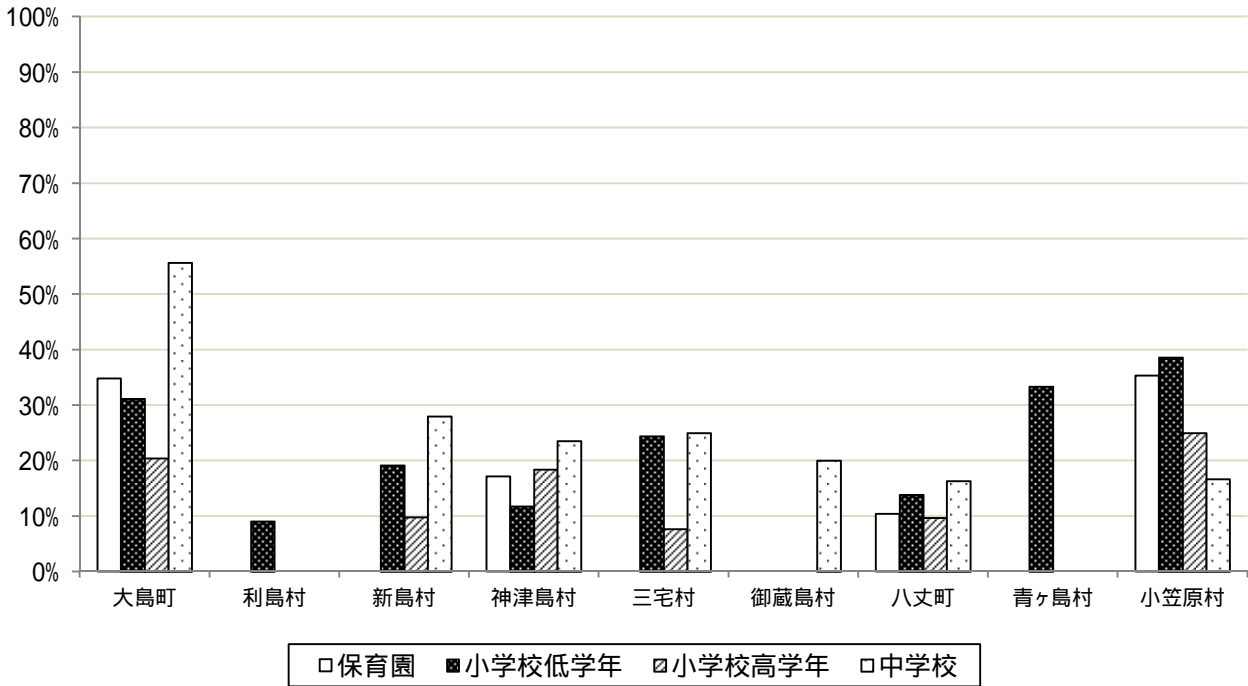


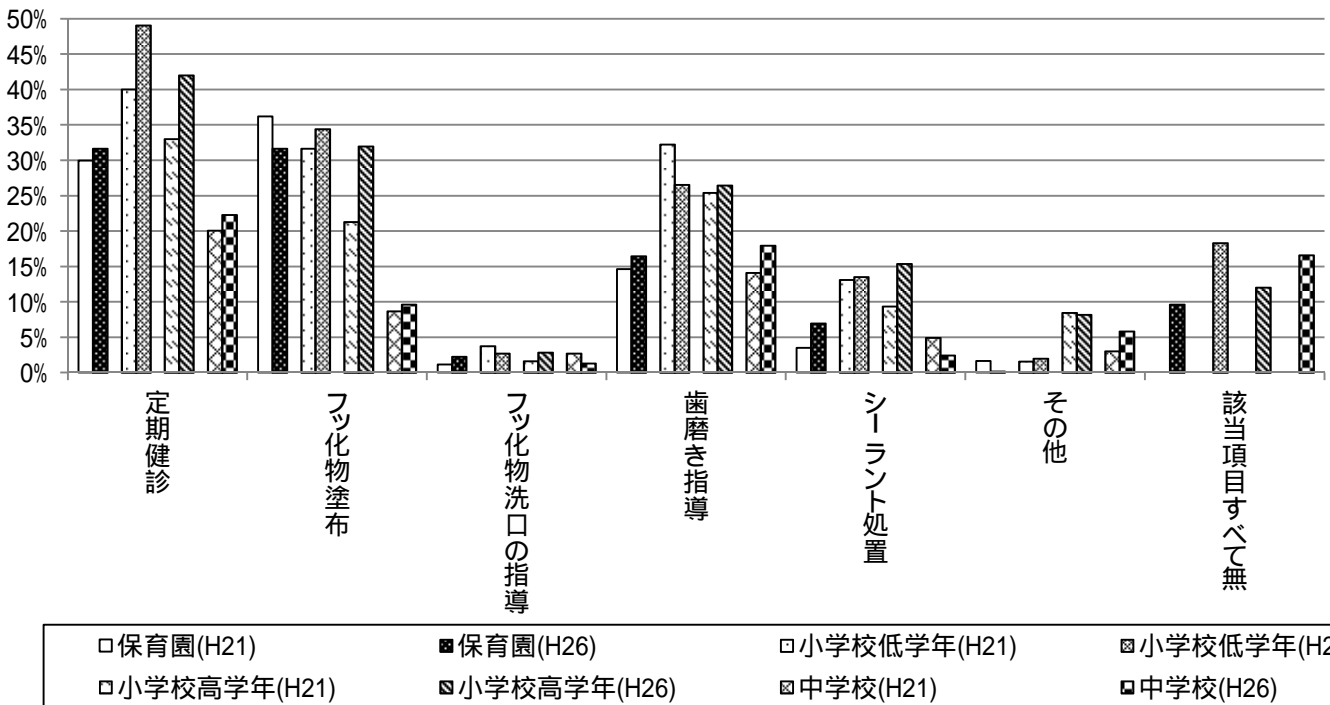
図 37 該当項目すべて無



エ かかりつけ歯科医院で受けている内容(前回との比較)

前回調査(平成 21 年度)と比較して、かかりつけ歯科医院の役割として顕著に増加したのは、小学校低学年・高学年の定期健診、小学校高学年のフッ化物塗布であった。一方、小学校低学年の歯みがき指導は減少した。フッ化物洗口の指導は、変わらず非常に少ない結果であった。

図 38 かかりつけ歯科医院で受けている内容(前回比較)



(10) 丁寧な歯磨きの状況(小学校高学年、中学校)

ほぼ毎日一本ずつ丁寧にみがく者の割合は、前回調査(平成21年度)と比して小学校高学年・中学生とも増加し、中学生の方が多かった。

また、ほとんど磨かない者はいずれも減少し、中学生の方が少なかった。

図 39 丁寧な歯磨きの状況(管内別)

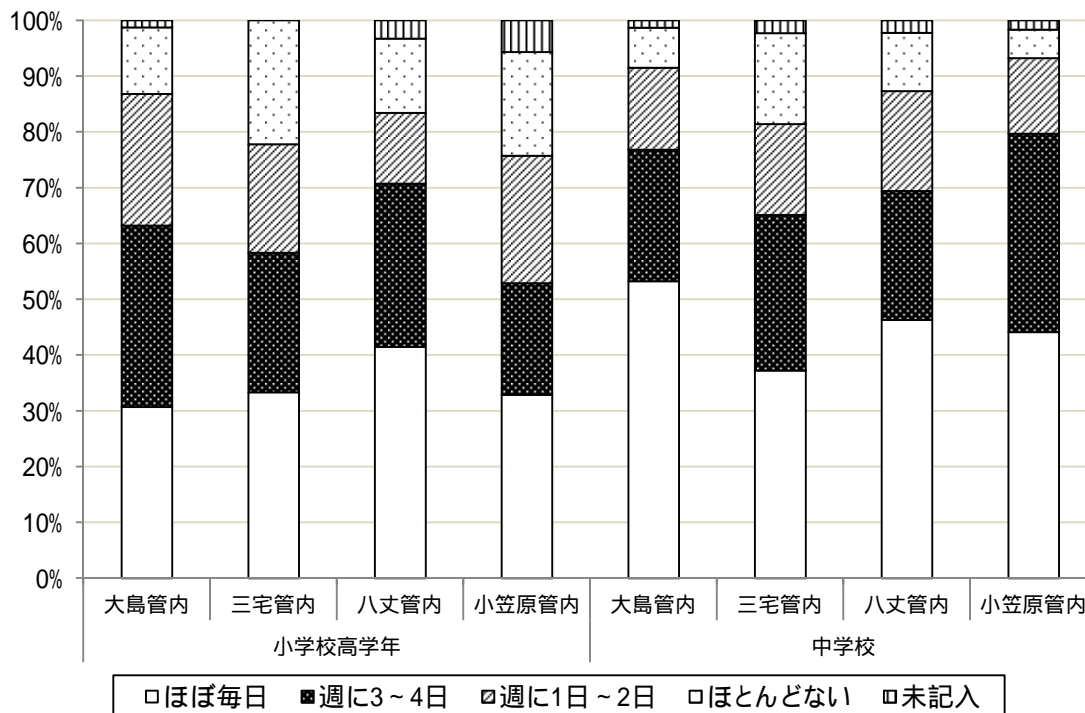
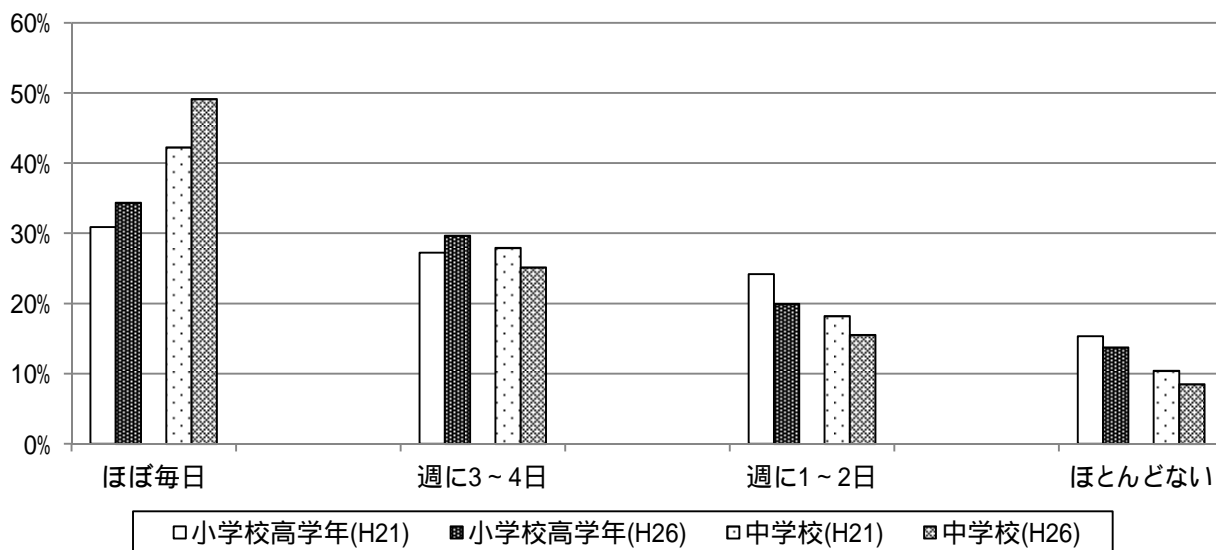


図 40 丁寧な歯磨きの状況(前回比較)



(11) 歯間部清掃用器具の使用状況(中学校)

デンタルフロス(糸ようじなど)の使用状況は、ほとんどないが減少し、週に 1~2 日が増加した形になった。ただし、ほとんどないが 7 割を超えており、まだ使用が十分に普及しているとは言いがたい結果であった。

図 41 デンタルフロスの使用状況(管内別)

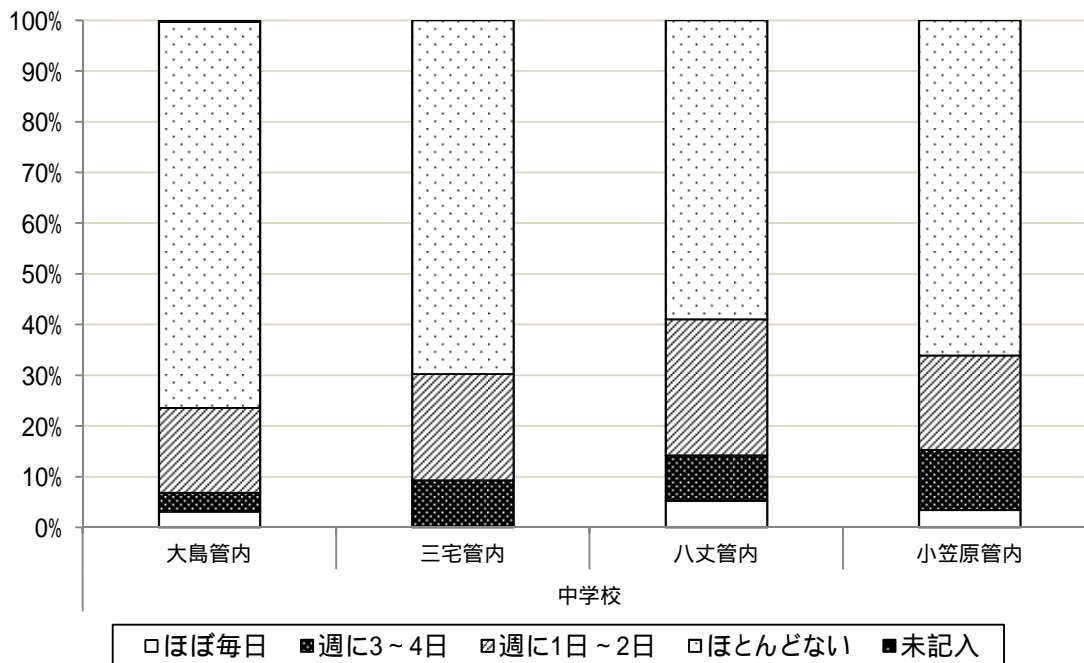
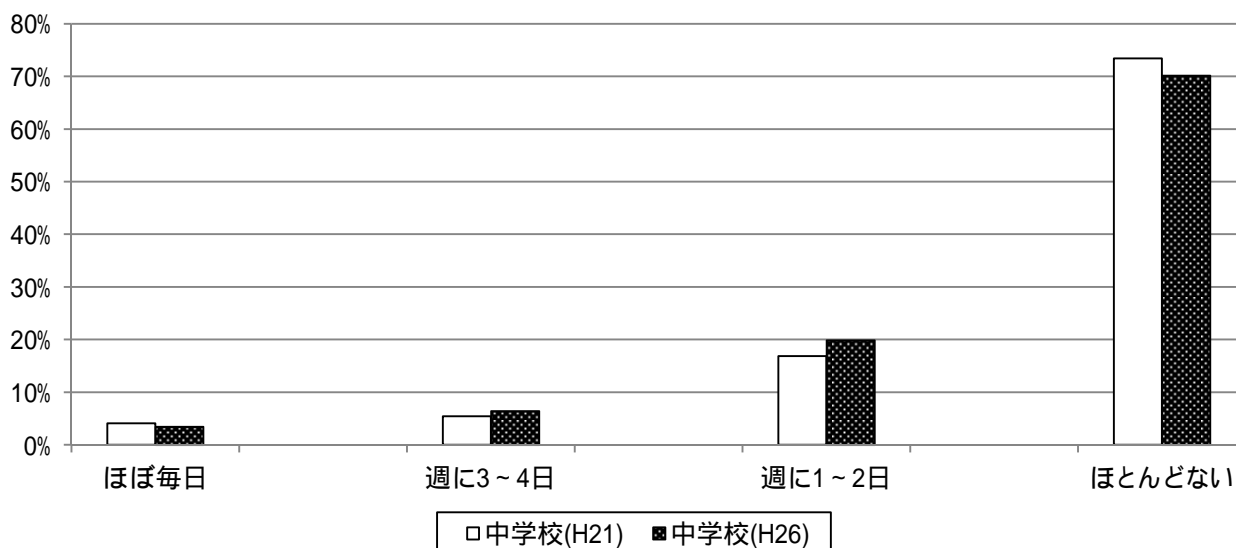


図 42 デンタルフロスの使用状況(前回比較)



(12) 8020を知っている者の割合(中学校)

8020を知っている中学生は、前回調査(平成21年度)から減少し、4分の1程度となった。かかりつけ歯科医を持ったり、丁寧な歯みがきを行ったりといった行動は増加しているものの、デンタルフロスの使用という高度なセルフケアについてはまだ十分に普及していないことから、8020運動の普及を通じてより一層の歯科保健の推進が望まれる結果であると考えます。

図43 8020を知っている者の割合(管内別)

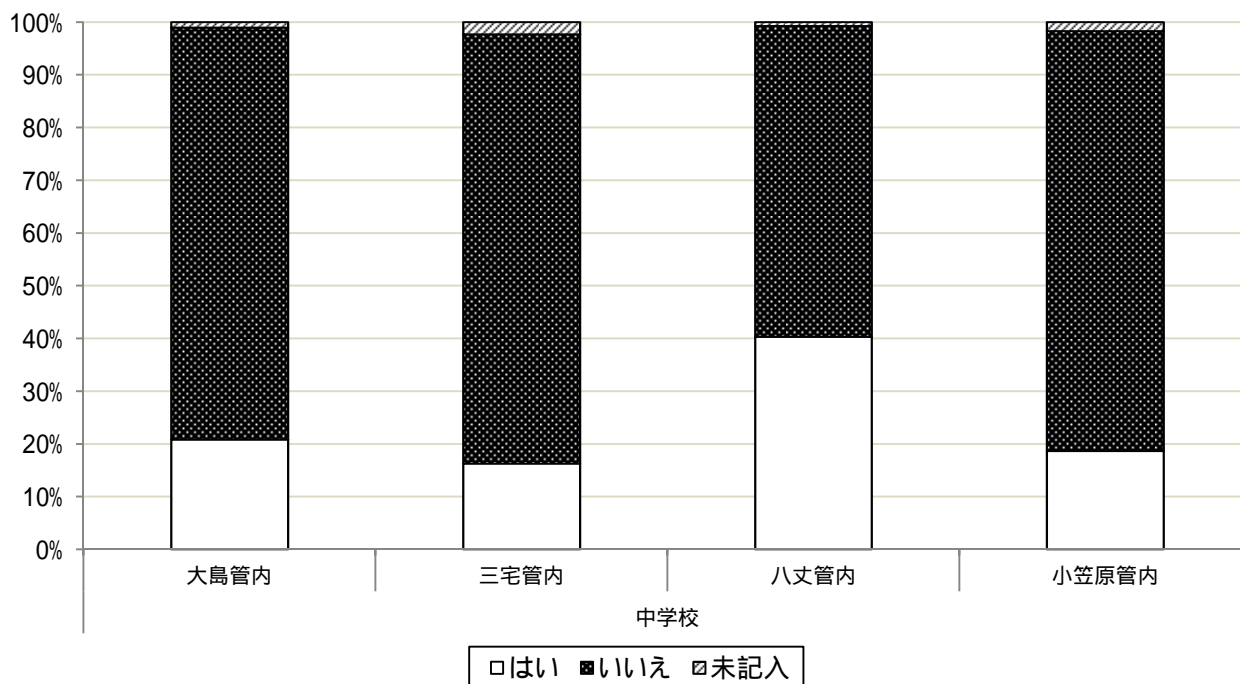
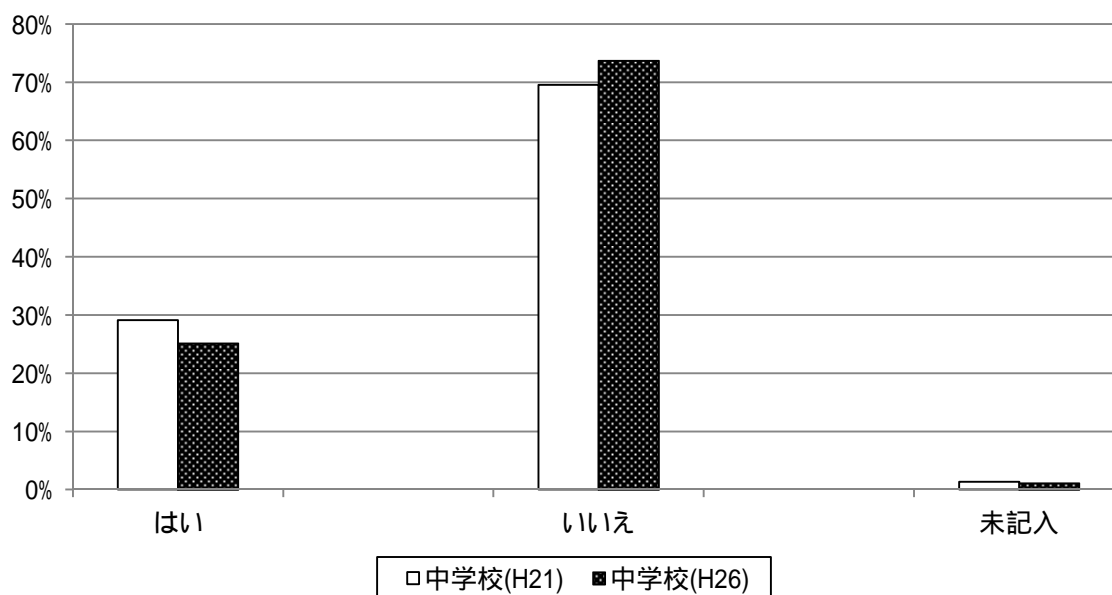


図44 8020を知っている者の割合(前回比較)



保護者の皆様へ

～歯科疾患実態調査へのご協力願い～

この調査は、鳥しょ地区のお子さんの日常の歯科保健習慣などをお聞きすることにより、今後の鳥しょ地区の子供たちの歯の健康づくり対策の参考とさせていただくことを目的として実施するものです。

調査結果は全体として集計いたしますので、個人にご迷惑をおかけすることはありません。お忙しいところ恐縮ですが、以下の質問にご回答くださいますようお願い申し上げます。

東京都福祉保健局

鳥しょ地区歯科疾患実態調査 質問票(保育所 園児保護者用)

【下記の質問の該当する番号に○、または必要な事項や数字を記入してください。】

1 お子さんは、あめ・チョコレート・ガム・アイスクリームなどの甘いお菓子を、1週間のうちにどのくらい食べますか。
(1) ほぼ毎日 (2) 週に3～4日 (3) 週に1～2日 (4) ほとんどない

2 お子さんは、ジュース・乳酸飲料・スポーツドリンクなどの甘い飲み物を、1週間のうちにどのくらい飲みますか。
(1) ほぼ毎日 (2) 週に3～4日 (3) 週に1～2日 (4) ほとんどない

3 夜、母乳を飲みながら、または、哺乳びんでミルク等を飲みながら寝る習慣がありますか。
(1) はい (2) いいえ

4 お子さんは、歯をみがくときフッ素入りの歯みがき剤を使っていますか。

- (1) フッ素入りの歯みがき剤を使っている
- (2) 歯みがき剤は使っているが、フッ素入りかどうかはわからない
- (3) 歯みがき剤は使っているが、フッ素入りではない
- (4) 歯みがき剤は使っていない

4-2 どの程度、使っていますか。
(1) 毎日使っている
(2) ときどき使う

5 保護者の方は、お子さんの口の中(歯や歯ぐきの様子)を観察することがありますか。
(1) 週に1回以上している (2) 月に1回以上している (3) ほとんどない

6 保護者の方は、お子さんにゆっくりよく噛んで食べる習慣をつけるようにしていますか。
(1) 習慣をつけるようにしている (2) 習慣をつけるようにはしていない

6-2 「習慣をつけるようにしている」と回答した方、どのようなことをしていますか。該当する項目にいくつでも○をつけてください。

- (1) 適度に噛み応えのある食品をとり入れるようにしている
- (2) ゆっくりよく噛むように声をかけている
- (3) その他()

7 お子さんの、かかりつけの歯科医院を決めていますか。

- (1) 決めている (2) 決めていない

7-2 「決めている」と回答した方、それはどちらの歯科医院ですか。

- (1) 島内の歯科医院 (2) 島外の歯科医院 (3) 巡回歯科診療班

7-3 その歯科医院ではむし歯などの治療を受けているほかに、次のような予防処置や指導を受けていますか。受けている場合は、該当する項目にいくつでも○をつけてください。

- (1) 定期健診(年1回以上)
- (2) フッ化物歯面塗布^{*1}
- (3) フッ化物洗口の指導^{*2}
- (4) 歯みがき指導
- (5) シーラント処置^{*3}
- (6) その他()

*1 フッ化物歯面塗布：歯にフッ素を塗り、むし歯になるのを予防する処置のことです。

*2 フッ化物洗口の指導：むし歯予防のために、フッ素入りのうがい薬の使い方を習うことです。

*3 シーラント処置：むし歯になりやすいお歯のみぞにプラスチックなどをつめ、むし歯になるのを予防する処置のことです。

8 お子さんの年齢、性別をご記入ください。 年齢：____歳____月 性別：男・女

9 10月に1歳6か月歯科検診又は3歳児歯科検診を受診し「幼児期・学齢期の歯科保健行動調査 質問票」に回答された方は口に✓をお願いします。 □

*ご協力ありがとうございました。この調査に関するお問い合わせは、下記にお願いいたします。

問い合わせ先：福祉保健局医療政策部医療政策課(電話 03-5320-4433)

保護者の皆様へ

～歯科疾患実態調査へのご協力願い～

この調査は、島しょ地区のお子さんの日常の歯科保健習慣などをお聞きすることにより、今後の島しょ地区の子供たちの歯の健康づくり対策の参考とさせていただきますことを目的として実施するものです。

調査結果は全体として集計いたしますので、個人にご迷惑をおかけすることはありません。お忙しいところ恐縮ですが、以下の質問にご回答くださいますようお願い申し上げます。

東京都福祉保健局

島しょ地区歯科疾患実態調査 質問票(小学校第1学年～第3学年保護者用)

【下記の質問の該当する番号に○、または必要な事項や数字を記入してください。】

1 お子さんは、あめ・チョコレート・ガム・アイスクリームなどの甘いお菓子を、1週間のうちにどのくらい食べますか。
(1) ほぼ毎日 (2) 週に3～4日 (3) 週に1～2日 (4) ほとんどない

2 お子さんは、ジュース・乳酸飲料・スポーツドリンクなどの甘い飲み物を、1週間のうちにどのくらい飲みますか。
(1) ほぼ毎日 (2) 週に3～4日 (3) 週に1～2日 (4) ほとんどない

3 お子さんは、歯をみがくときフッ素入りの歯みがき剤を使っていますか。

- (1) フッ素入りの歯みがき剤を使っている
(2) 歯みがき剤は使っているが、フッ素入りかどうかはわからない
(3) 歯みがき剤は使っているが、フッ素入りではない
(4) 歯みがき剤は使っていない

3-2 どの程度、使っていますか。

- (1) 毎日使っている
(2) ときどき使う

4 保護者の方は、お子さんの口の中(歯や歯ぐきの様子)を観察することがありますか。

- (1) 週に1回以上している (2) 月に1回以上している (3) ほとんどない

5 保護者の方は、お子さんにゆっくりよく噛んで食べる習慣をつけるようにしていますか。

- (1) 習慣をつけるようにしている (2) 習慣をつけるようにはしていない

5-2 「習慣をつけるようにしている」と回答した方、どのようなことをしていますか。該当する項目にいくつでも○をつけてください。

- (1) 適度に噛み応えのある食品をとり入れるようにしている (2) ゆっくりよく噛むように声をかけている
(3) その他()

6 お子さんの、かかりつけの歯科医院を決めていますか。

- (1) 決めている (2) 決めていない

6-2 「決めている」と回答した方、それはどちらの歯科医院ですか。

- (1) 島内の歯科医院 (2) 島外の歯科医院 (3) 巡回歯科診療班

6-3 その歯科医院ではむし歯などの治療を受けているほかに、次のような予防処置や指導を受けていますか。受けている場合は、該当する項目にいくつでも○をつけてください。

- (1) 定期健診(年1回以上) (2) フッ化物歯面塗布^{*1}
(3) フッ化物洗口の指導^{*2} (4) 歯みがき指導
(5) シーラント処置^{*3} (6) その他()

*1 フッ化物歯面塗布 : 歯にフッ素を塗り、むし歯になるのを予防する処置のことです。

*2 フッ化物洗口の指導 : むし歯予防のために、フッ素入りのうがい薬の使い方を習うことです。

*3 シーラント処置 : むし歯になりやすいお歯のみぞにプラスチックなどをつめ、むし歯になるのを予防する処置のことです。

7 お子さんの学年、性別を○で囲んでください。 学年 : 1年生 ・ 2年生 ・ 3年生 性別 : 男 ・ 女

*ご協力ありがとうございました。この調査に関するお問い合わせは、下記にお願いいたします。

問い合わせ先:福祉保健局医療政策部医療政策課(電話 03-5320-4433)

島しょ地区歯科疾患実態調査 質問票(小学校第4学年～第6学年児童用)

ちょうさ
 この調査は、あなたの日ごろの生活のようすなどをお聞きすることにより、これからの子どもたちの歯のけん
さんこう もくてき
 こうづくりの参考とさせていただくことを目的としておこなうものです。あなたにごめいわくをおかけすることは
きょうりやく
 ありません。ご協力をおねがいいたします。

東京都福祉保健局

【つぎの質問のあてはまる番号に○、また、()の中に必要なことを書いてください。】

1 あなたは、あめ・チョコレート・ガム・アイスクリームなどの甘いお菓子かしを、1週間のうちにどのくらい食べますか。
 (1) ほぼ毎日 (2) 週に3～4日 (3) 週に1～2日 (4) ほとんどない

2 あなたは、ジュース・乳酸飲料にゅうさんいんりょう・スポーツドリンクなどの甘い飲み物を、1週間のうちにどのくらい飲みますか。
 (1) ほぼ毎日 (2) 週に3～4日 (3) 週に1～2日 (4) ほとんどない

3 歯をみがくときは、1本ずついいいに時間じかんをかけていますか。
 (1) ほぼ毎日 (2) 週に3～4日 (3) 週に1～2日 (4) ほとんどない

4 歯をみがくときフッ素入りの歯みがき剤ざいを使っていますか。
 (1) フッ素入りの歯みがき剤ざいを使っている → 4-2 どの程度、使っていますか。
 (2) 歯みがき剤ざいは使っているが、フッ素入りかどうかはわからない (1) 毎日使っている
 (3) 歯みがき剤ざいは使っているが、フッ素入りではない (2) ときどき使う
 (4) 歯みがき剤ざいは使っていない

5 鏡かがみなどを使って、自分で歯や歯ぐきようすの様子を観察することがありますか。
 (1) 週に1回以上している (2) 月に1回以上している (3) ほとんどない

6 あなたは食べるときに、ゆっくりよくかむようにしていますか。
 (1) いつもゆっくりよくかむようにしている (2) だいたいゆっくりよくかむようにしている
 (3) ときどきゆっくりよくかむようにしている (4) ゆっくりよくかむことはない

7 あなたは、いつも行く歯医者はいしゃさんがありますか。
 (1) ある (2) ない

7-2 「ある」と答えたひとは、それはどちらの歯医者さんですか。
 (1) 住んでいる島の歯医者さん (2) 住んでいる島以外の歯医者さん (3) じゅん回して来る歯医者さん

7-3 その歯医者さんではむし歯をなおしてもらうほかに、次のようなことをしてもらっていますか。
 当てはまる番号に、いくつでも○をつけてください。

- | | |
|-------------------------------|--------------------------------|
| (1) 定期的に歯をけんさする(年1回以上) | (2) 歯にフッ素 <small>そ</small> をぬる |
| (3) フッ素入りうがい薬の使い方を習う | (4) 歯みがきのしかたを習う |
| (5) シーラント処置 <small>*3</small> | (6) その他() |

*シーラント:むし歯になりやすいお歯のみぞにプラスチックなどをつけて、むし歯になるのを予防する処置のことです。

8 あなたの学年を○でかこんでください。 学年 : 4年生 ・ 5年生 ・ 6年生

9 あなたの性別を教えてください。(どちらかに○印) 性別 : 男 ・ 女

*ご協力ありがとうございました。この調査に関するお問い合わせは、下記をお願いいたします。

問い合わせ先: 福祉保健局医療政策部医療政策課(電話 03-5320-4433)

島しょ地区歯科疾患実態調査 質問票(中学校第1学年～第3学年生徒用)

この調査は、あなたの日常生活習慣などをお聞きすることにより、今後の生徒の歯の健康づくり対策の参考とさせていただきますことを目的としておこなうものです。調査結果は全体として集計いたしますので、あなたにめいわくご迷惑をおかけすることはありません。ご協力をよろしくお願いいたします。

東京都福祉保健局

【次の質問の当てはまる番号に、または()の中に必要なことを記入してください。】

- 1 あなたは、あめ・チョコレート・アイスクリームなどの甘いお菓子を、1週間のうちにどのくらい食べますか。
 (1) ほぼ毎日 (2) 週に3～4日 (3) 週に1～2日 (4) ほとんどない
 - 2 あなたは、ジュース・乳酸飲料・スポーツドリンクなどの甘い飲み物を、1週間のうちにどのくらい飲みますか。
 (1) ほぼ毎日 (2) 週に3～4日 (3) 週に1～2日 (4) ほとんどない
 - 3 歯をみがくときは、1本ずついいいに時間をかけていますか。
 (1) ほぼ毎日 (2) 週に3～4日 (3) 週に1～2日 (4) ほとんどない
 - 4 歯をみがくとき、フッ素入りの歯みがき剤を使っていますか。
 (1) フッ素入りの歯みがき剤を使っている
 (2) 歯みがき剤は使っているが、フッ素入りかどうかはわからない
 (3) 歯みがき剤は使っているが、フッ素入りではない
 (4) 歯みがき剤は使っていない
- 4-2 どの程度、使っていますか。
 (1) 毎日使っている
 (2) ときどき使う
- 5 歯をみがくとき、デンタルフロス(糸ようじなど)を使うことがありますか。
 (1) ほぼ毎日 (2) 週に3～4日 (3) 週に1～2日 (4) 使っていない
 - 6 鏡などを使って、自分で歯や歯ぐきの様子を観察することがありますか。
 (1) 週に1回以上している (2) 月に1回以上している (3) ほとんどない
 - 7 あなたは食べるときに、ゆっくりよくかむようにしていますか。
 (1) いつもゆっくりよくかむようにしている (2) だいたいゆっくりよくかむようにしている
 (3) ときどきゆっくりよくかむようにしている (4) ゆっくりよくかむことはない
 - 8 20本以上の自分の歯があると、ほとんどの食物をかんで食べることができます。「8020(ハチマルニイマル)」とは、80歳になっても20本以上の自分の歯を保つ、歯の健康の目標です。あなたは、「8020」を知っていますか。
 (1) 知っていた (2) 知らなかった
 - 9 あなたは、かかりつけの歯科医院がありますか。
 (1) ある (2) ない

9-2 「ある」と答えた人は、それはどちらの歯医者さんですか。
 (1) 島内の歯科医院 (2) 島外の歯科医院 (3) 巡回歯科診療班

9-3 その歯科医院ではむし歯などの治療を受けているほかに、次のような予防処置や指導を受けていますか。受けている場合は、当てはまる番号にいくつでもをつけてください。
 (1) 定期健診(年1回以上) (2) フッ化物歯面塗布^{*1}
 (3) フッ化物洗口の指導^{*2} (4) 歯みがき指導
 (5) シーラント処置^{*3} (6) その他()

^{*1} フッ化物歯面塗布 : 歯にフッ素を塗り、むし歯になるのを予防する処置のことです。
^{*2} フッ化物洗口の指導 : むし歯予防のために、フッ素入りのうがい薬の使い方を習うことです。
^{*3} シーラント処置 : むし歯になりやすいお歯のみぞにプラスチックなどをつめ、むし歯になるのを予防する処置のことです。

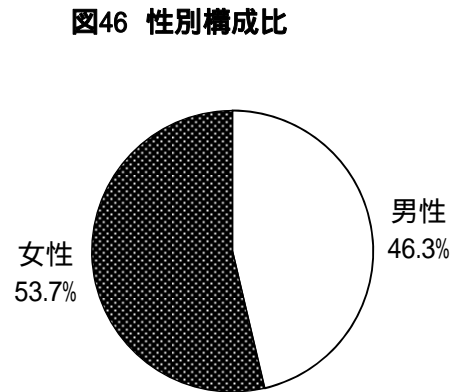
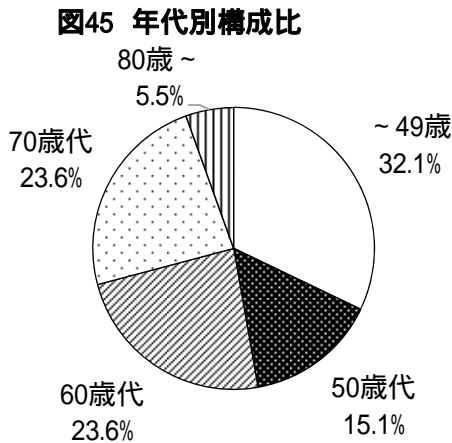
- 10 あなたの学年を で囲んでください。 学年 : 1年生 ・ 2年生 ・ 3年生
- 11 あなたの性別を教えてください。(どちらかに 印) 性別 : 男 ・ 女

2 成人の歯科保健実態調査(口腔状況及び歯科保健行動等調査)

(1) 調査数及び性・年齢階級

口腔内診査・アンケート回答者数は神津島で207人(男性93人、女性114人)、八丈島では229人(男性109人、女性120人)であった。これら全数436人について、口腔状況及び歯科保健行動等の解析を行った。

49歳以下が約3分の1、60歳代・70歳代がそれぞれ約4分の1を占め、60歳以上で半数以上を占めた。性別では、女性が男性より16%多かった。



(2) 口腔内診査結果

ア 歯の状況

未処置歯数はすべての年代を通じて1本を下回っていたが、60歳代で 0.9 ± 2.3 本と他の年代よりも多い傾向が見られた。特に八丈島では同年代が 1.2 ± 2.7 本と著しく多かった。

処置歯数は50歳代が最も多く 13.3 ± 3.9 本であった。

現在歯数は49歳以下で28本を超えていたが、以降、年代とともに減少し、80歳以上で急激に数を減じて 11.9 ± 10.3 本であった。しかし、神津島では80歳以上で 16.0 ± 0.0 本と70歳代の 15.8 ± 7.9 本から現在歯数を維持していた。

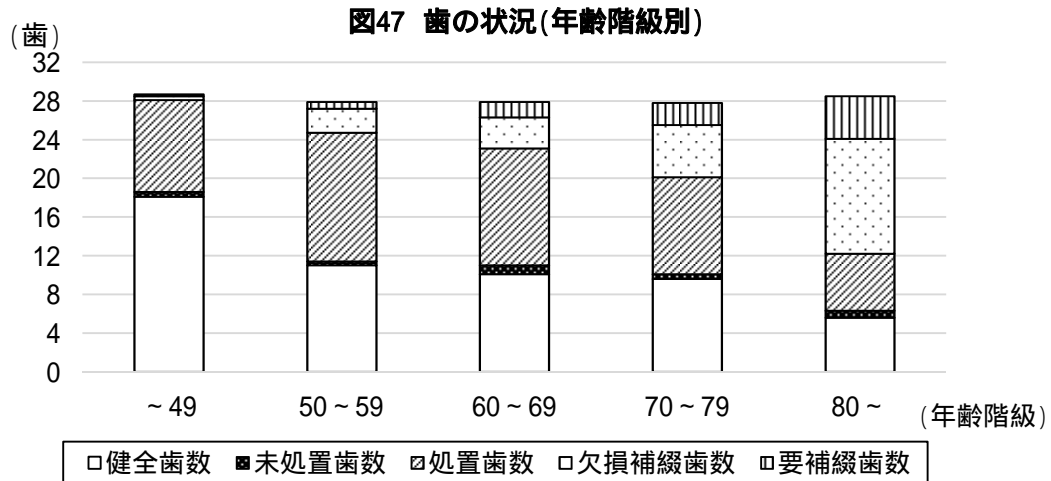
要補綴歯数(義歯を入れなければならない喪失歯数)も年代とともに増加し、80歳以降の 4.4 ± 7.7 本が最も多かった。

欠損補綴歯数(義歯を入れている喪失歯数)も同様で、80歳以降の 11.9 ± 10.0 本が最も多かった。

表2 歯の状況(年齢階級別)

年齢	健全歯数	未処置歯数	処置歯数	現在歯数	要補綴歯数	欠損補綴歯数
~49	18.1 ± 5.6	0.5 ± 1.2	9.5 ± 4.9	28.1 ± 2.0	0.2 ± .8	0.4 ± 1.1
50~59	11.0 ± 4.3	0.4 ± 1.2	13.3 ± 3.9	24.7 ± 4.2	0.7 ± 1.2	2.5 ± 3.8
60~69	10.1 ± 5.7	0.9 ± 2.3	12.1 ± 5.3	23.1 ± 5.6	1.6 ± 3.0	3.2 ± 4.8
70~79	9.6 ± 6.8	0.5 ± 1.1	10.0 ± 5.9	20.1 ± 8.2	2.3 ± 4.9	5.4 ± 7.4
80~	5.6 ± 6.4	0.7 ± 0.7	5.9 ± 5.0	11.9 ± 10.3	4.4 ± 7.7	11.9 ± 10.0
合計	12.4 ± 7.0	0.6 ± 1.5	10.6 ± 5.4	23.6 ± 7.1	1.3 ± 3.6	3.2 ± 5.9

mean ± S.D.



イ 現在歯数の分布

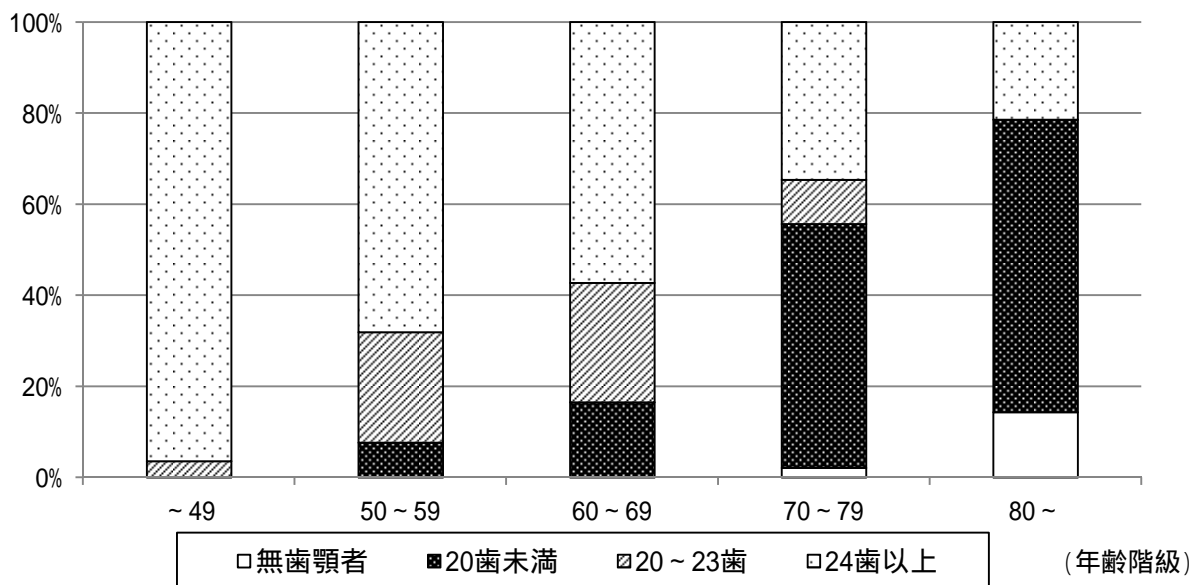
20 歯未満の者の割合は、49 歳以下では 0%であるが、50 歳代で 7.6%、60 歳代で 16.5%、70 歳代で 37.9%、80 歳以上で 75.0%であった。無歯顎者は 70 歳代で 2.9%、80 歳以上で 16.7%であった。

表 3 現在歯数の分布

年齢	歯数			20歯未満	20~23歯	24歯以上	合計
	無歯顎者	1~9歯	10~19歯				
~49	0 (0.0)	0	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (3.6)	135 (96.4)	140
50~59	0 (0.0)	2 (3.0)	3 (4.5)	5 (7.6)	16 (24.2)	45 (68.2)	66
60~69	0 (0.0)	5 (4.9)	12 (11.7)	17 (16.5)	27 (26.2)	59 (57.3)	103
70~79	3 (2.9)	13 (12.6)	23 (22.3)	39 (74.9)	14 (13.6)	50 (48.5)	103
80~	4 (16.7)	7 (29.2)	7 (29.2)	18 (75.0)	0 (0.0)	6 (25.0)	24
合計	7 (1.6)	27 (6.2)	45 (10.3)	79 (18.1)	62 (14.2)	295 (67.7)	436

人数 (%)

図 48 現在歯数の分布(年齢階級別)



ウ 歯周組織の状況

CPIコードの平均セクスタント数をみると、コード0(正常)が最も多く、次いでコード2(歯石の沈着)とコード3(浅い歯周ポケット)であった。コード4(深い歯周ポケット)は相対的に少なく、一方で80歳以上になると診査不可能が急激に増加した。

CPI個人最高コードをみると、49歳以下ではかなり進行した歯周疾患(コード3・4に相当)の割合が、診査する部位がない者を除くと13.7%であるが、60歳代から急激に増加し44.0%、80歳以上では64.7%であった。

歯の喪失の原因はここではわからないものの、60歳代になる前から歯周疾患に対する処置を奨める必要がうかがわれた。

図49 CPIコードの平均セクスタント数

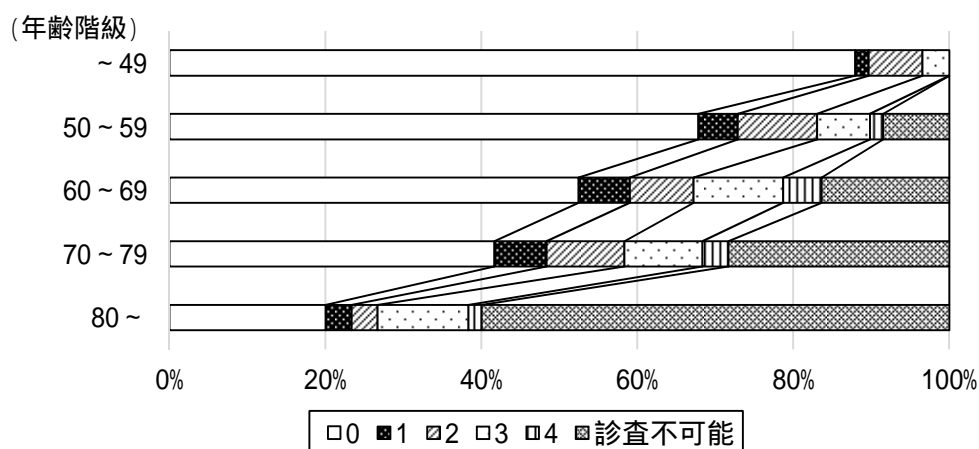
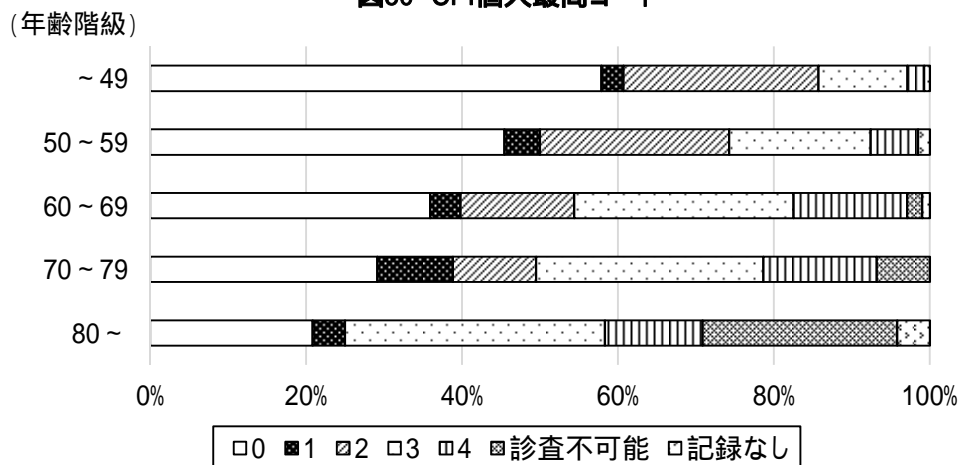


表4 CPI個人最高コード

	0	1	2	3	4	合計
~49	81 (57.9)	4 (2.9)	35 (25.0)	16 (11.4)	3 (2.1)	19 (13.7)
50~59	30 (45.5)	3 (4.5)	16 (24.2)	12 (18.2)	4 (6.1)	16 (24.6)
60~69	37 (35.9)	4 (3.9)	15 (14.6)	29 (28.2)	15 (14.6)	44 (44.0)
70~79	30 (29.1)	10 (9.7)	11 (10.7)	30 (29.1)	15 (14.6)	45 (46.9)
80~	5 (20.8)	1 (4.2)	0 (0.0)	8 (33.3)	3 (12.5)	11 (64.7)
合計	183 (42.0)	22 (5.0)	77 (17.7)	95 (21.8)	40 (9.2)	135 (32.4)

人数 (%)

図50 CPI個人最高コード

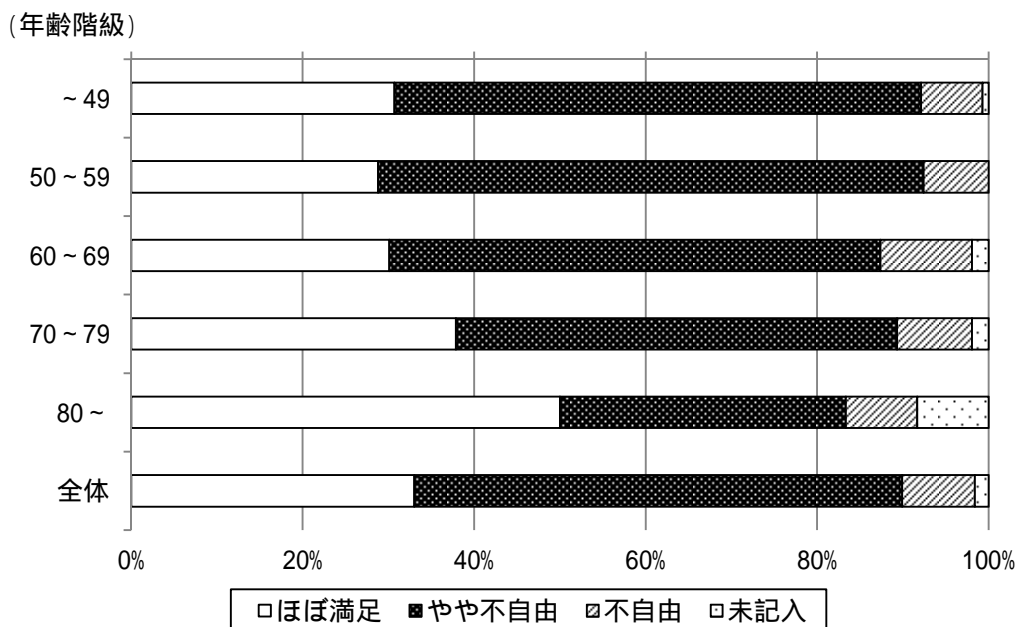


(3) 歯科保健行動調査結果

ア 歯や口腔の満足度

口腔状況にほぼ満足している者の割合は、50歳代以降年代とともに増加し、80歳以上が50.0%で最も高かった。

図 51 歯や口腔の満足度



イ 歯や口腔に不満や不自由を感じる内容

不自由に感じていることは、物がはさまるが最も多く、次いで歯が痛む、口臭がある、見た目が気になる、の順であった。年代別に見ると、物がはさまるは80歳以上を除き年代を通じて多く、見た目が気になるは49歳以下が、口臭があるは60歳代が、歯が痛むは49歳以下が最も多かった。噛む、味わう、飲み込む、話すことに不自由という機能に関わるものは、概して少数であった。

図 52 歯や口腔に不満や不自由を感じる内容(全体)

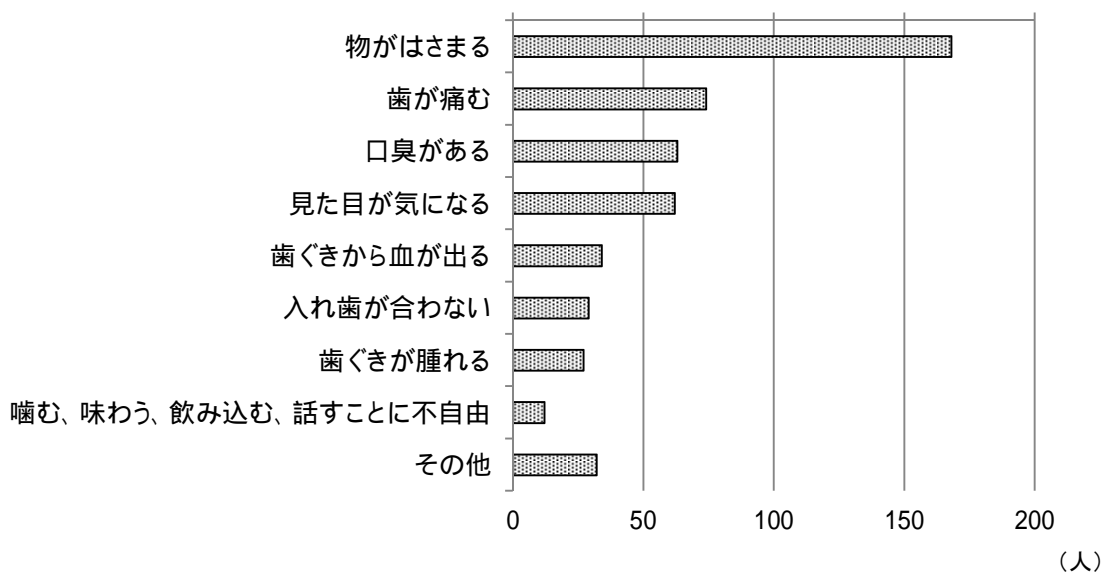
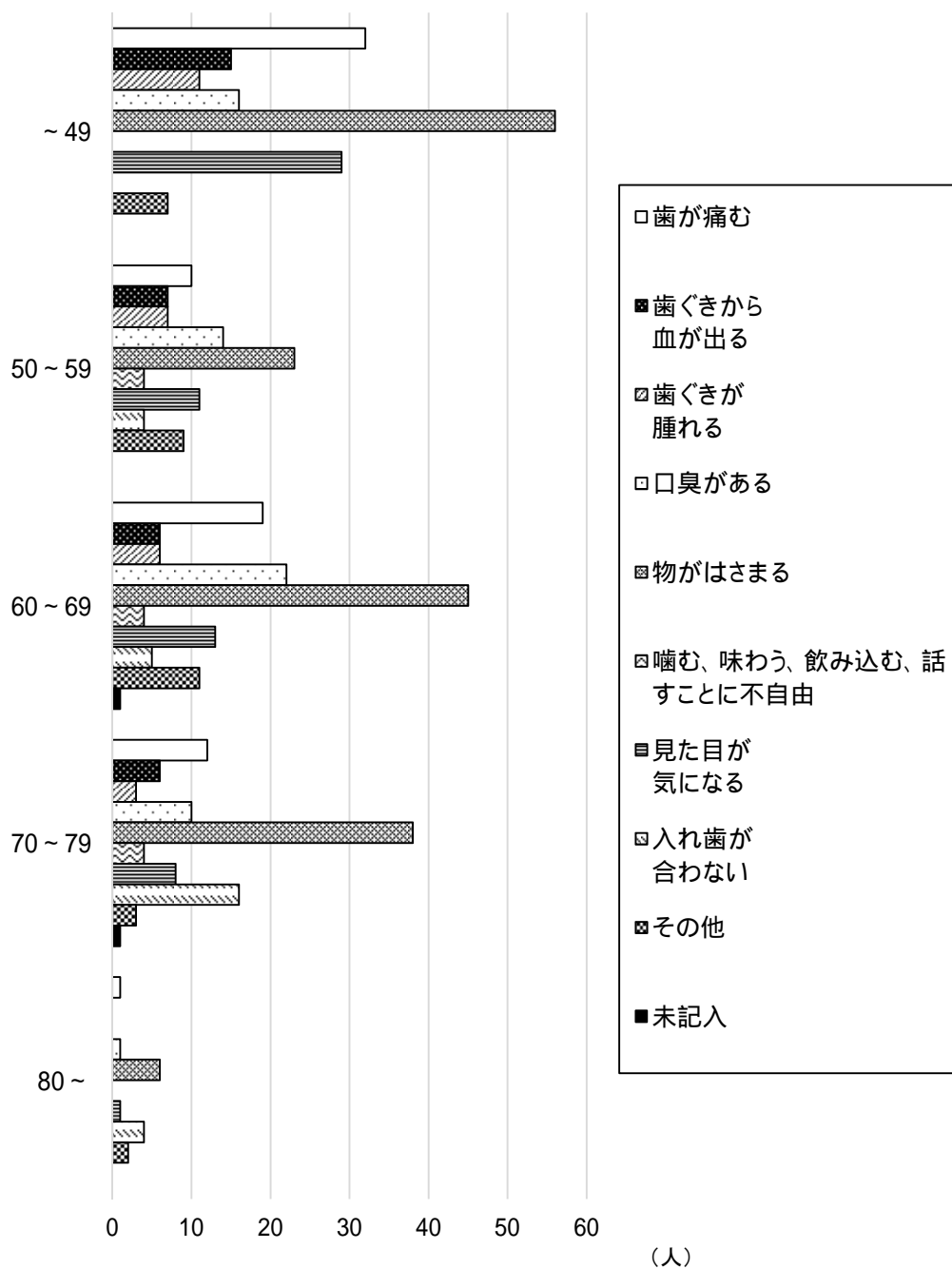


図53 やや不満や不自由を感じる者の内容(複数回答)

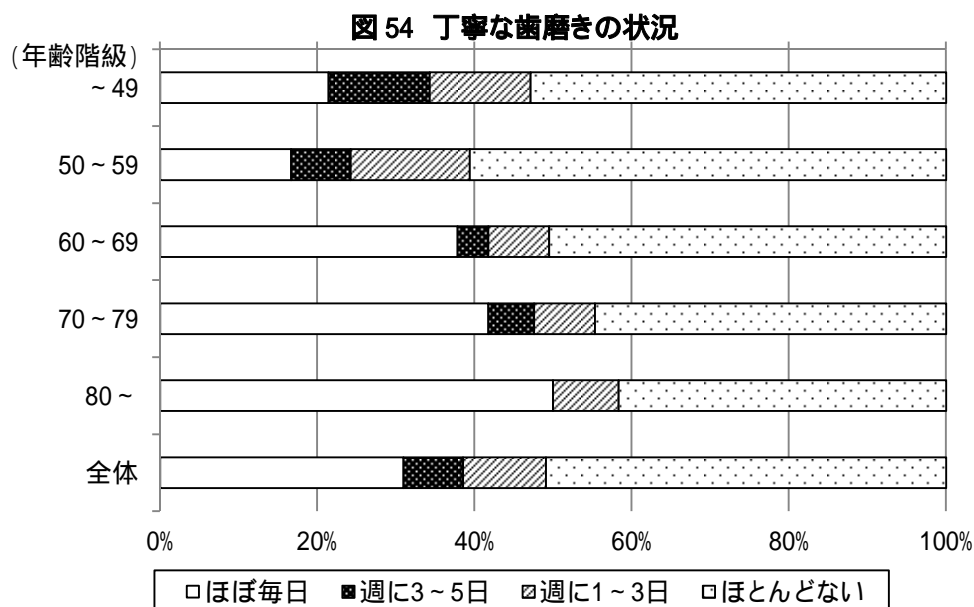
(年齢階級)



ウ 丁寧な歯磨きの状況

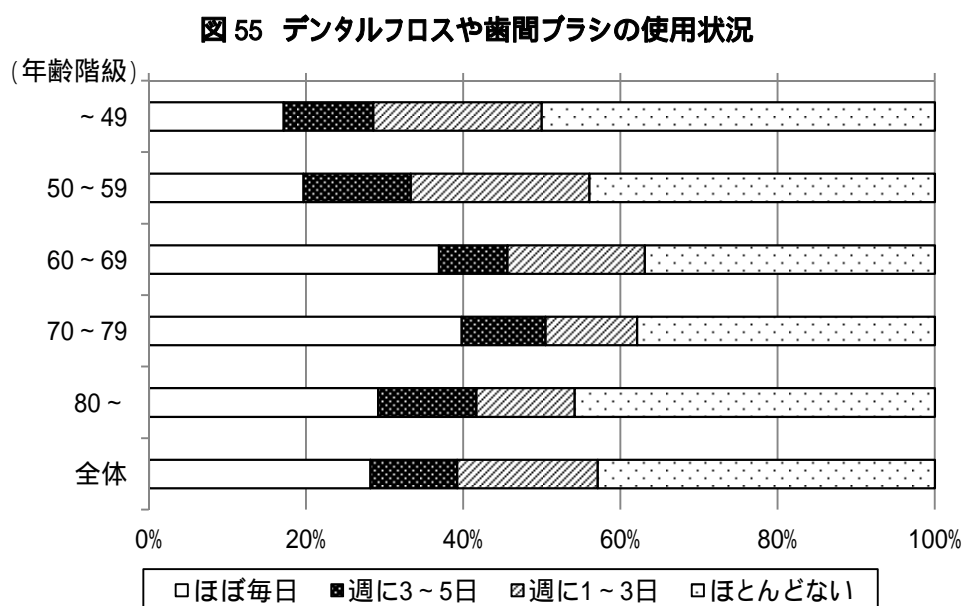
1 回に 10 分程度の時間をかけてほぼ毎日みがく割合は 3 割を超えたが、ほとんどないが半数以上であり、まだ丁寧な歯みがきの普及は不十分であることがうかがわれた。

年代別に見ると、50 歳代が最も丁寧な歯みがきをしておらず、60 歳代以降ほぼ毎日ていねいにみがく者の割合は増加していき、80 歳以上では半数がほぼ毎日 1 回に 10 分程度の時間をかけてみがくとの回答であった。



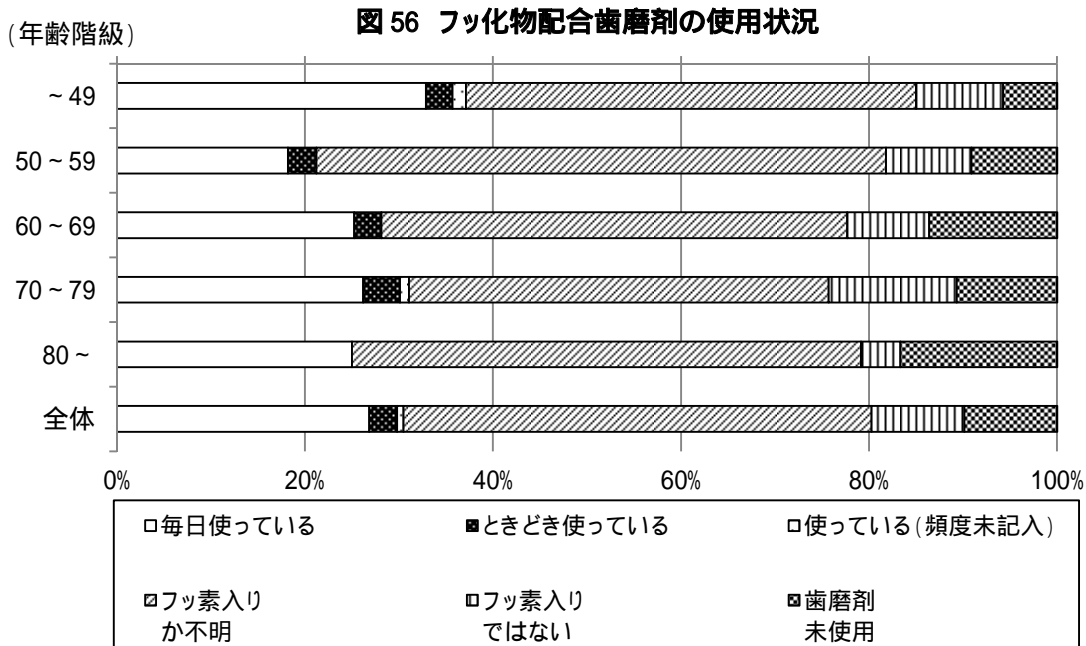
エ 歯間部清掃用器具の使用状況

デンタルフロス(糸ようじなど)や歯間ブラシをほぼ毎日使っている割合は 3 割弱と、丁寧にみがくより少なかったものの、ほとんどないも 4 割強と少なかった。特に、現在歯数が急激に減少する 80 歳以上で使用率は下がっており、歯間部清掃用器具の使用は必ずしも絶対ではないことから、必要とする者への普及は進んでいることが推察される。



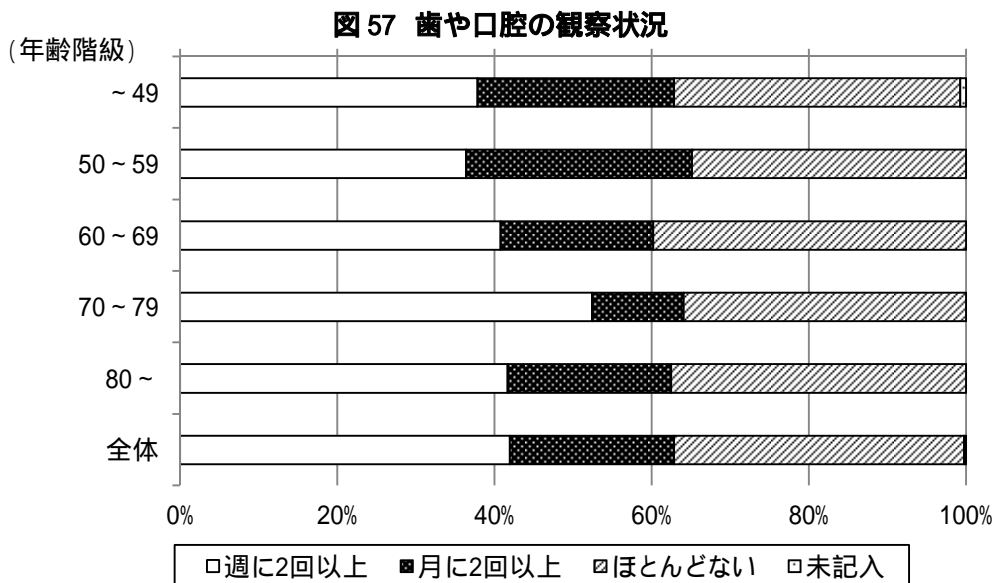
オ フッ化物配合歯磨剤の使用

フッ素入りの歯磨剤を毎日使っていると回答した者の割合は 26.8%にすぎないが、半数近くを占めたフッ素入りか不明との回答を除くと最も多かった。市販されている歯磨剤の 9 割以上がフッ化物配合である現状を鑑みるに、歯磨剤を使っていないと回答した 1 割弱を除けば、実際の使用状況は十分な割合を占めることは想像に難くないが、意図的にフッ化物応用を行っているわけではないことがうかがわれる。特に高齢者の根面う蝕が問題となってきていることから、フッ化物応用の知識普及は今後も課題であろう。



カ 歯や口腔の観察状況

鏡などを使って、歯や口腔の様子を自分で週に1回以上観察する者の割合は4割以上であったが、ほとんどない者も4割弱であった。年代別に見ると週に1回以上観察している者は70歳代で最も多く、80歳以上でも4割を超えていた。特に若い世代で、さらに口の中への関心を高めることが望まれる。



キ 歯科治療の状況

現在治療中または1年以内に歯の治療を受けた者が半数以上であった。うち、8割以上が島内の診療所を受診していた。現在治療中と回答した者は、70歳代をピークに年齢とともに増加傾向にあるが、80歳以上になると、3年以内に治療を受けた者は最も少なくなった。

一方、3年以上受診していない者も全体で2割を超えていた。40歳代まででは、4割以上が3年以上治療を受けたことがなかった。

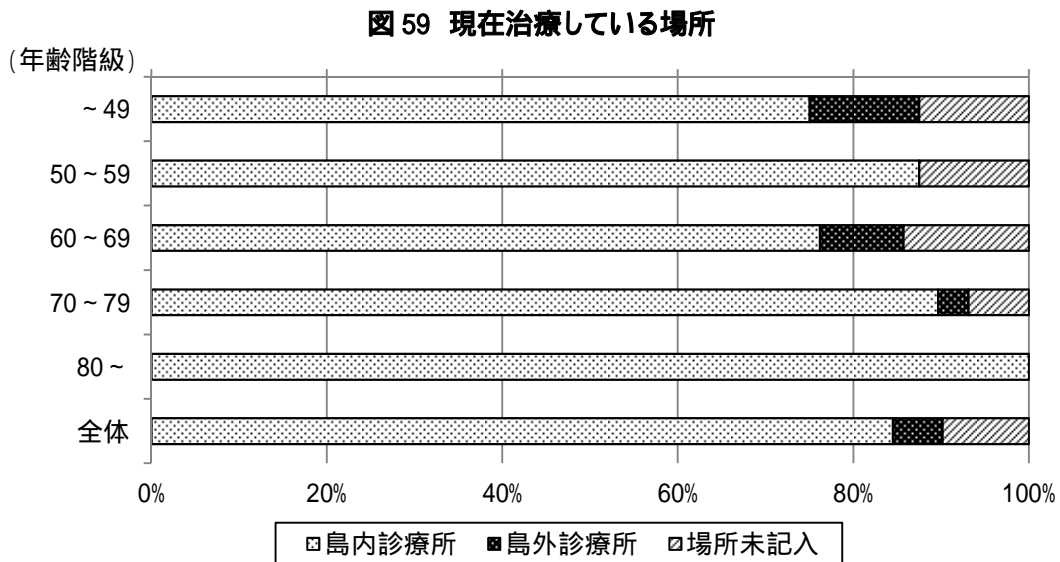
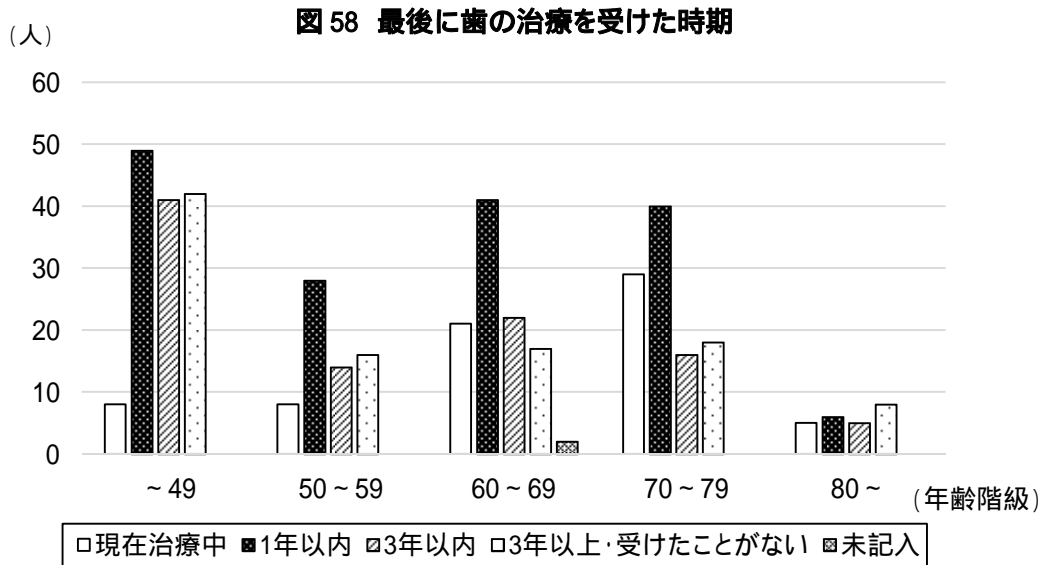


図 60 1年以内に治療した場所

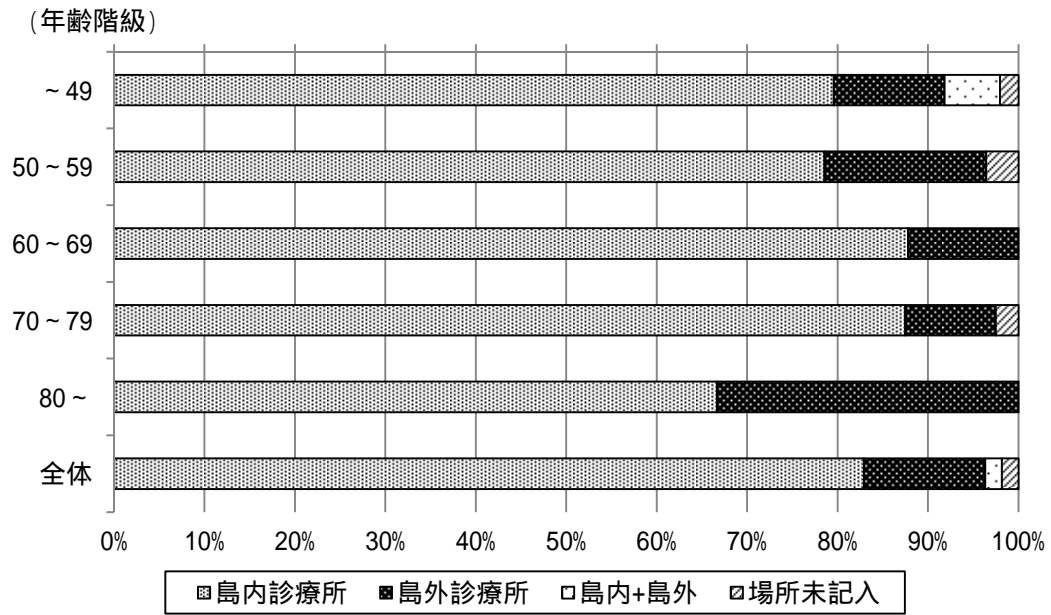
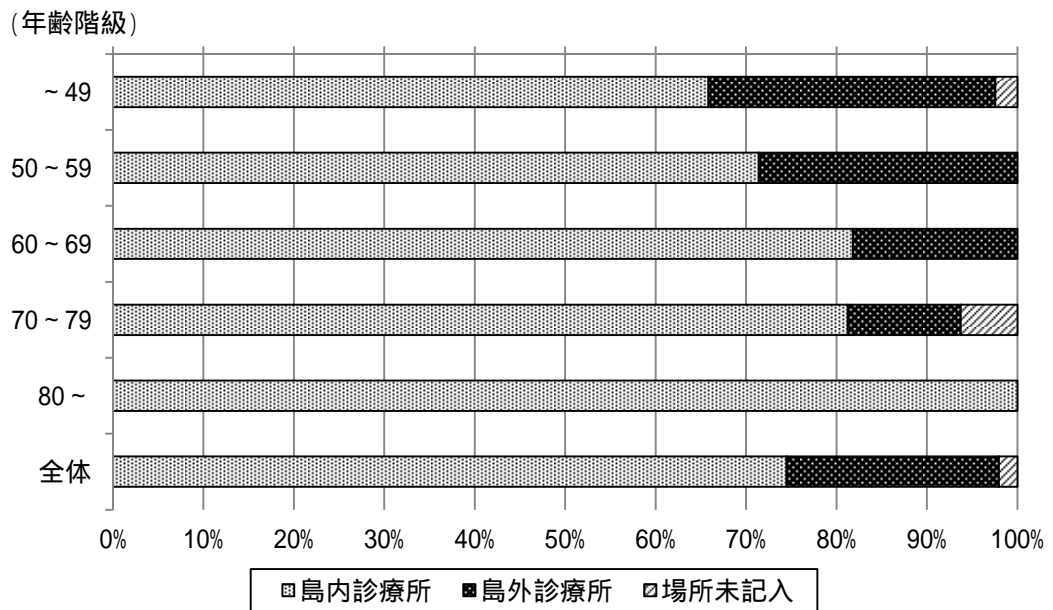


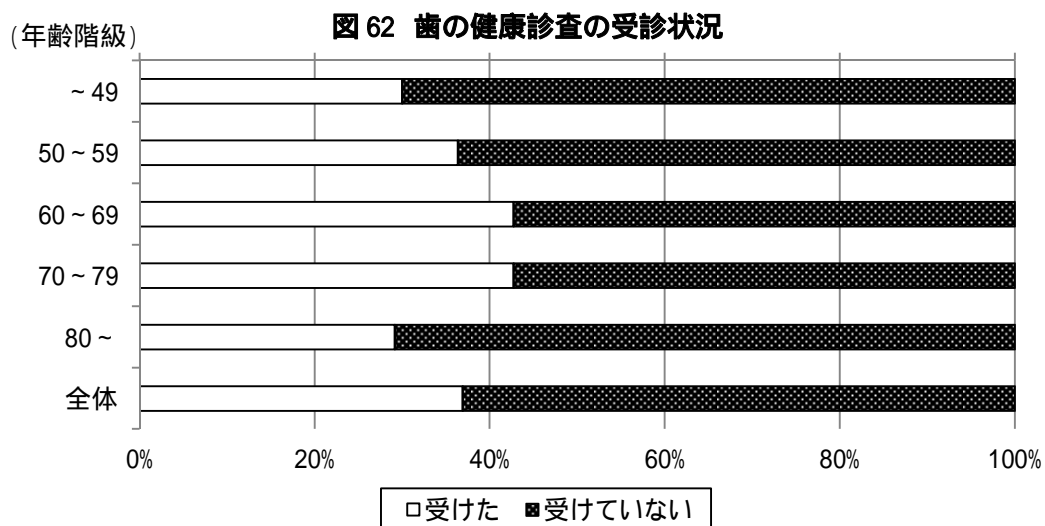
図 61 3年以内に治療した場所



ク 歯科診査の状況

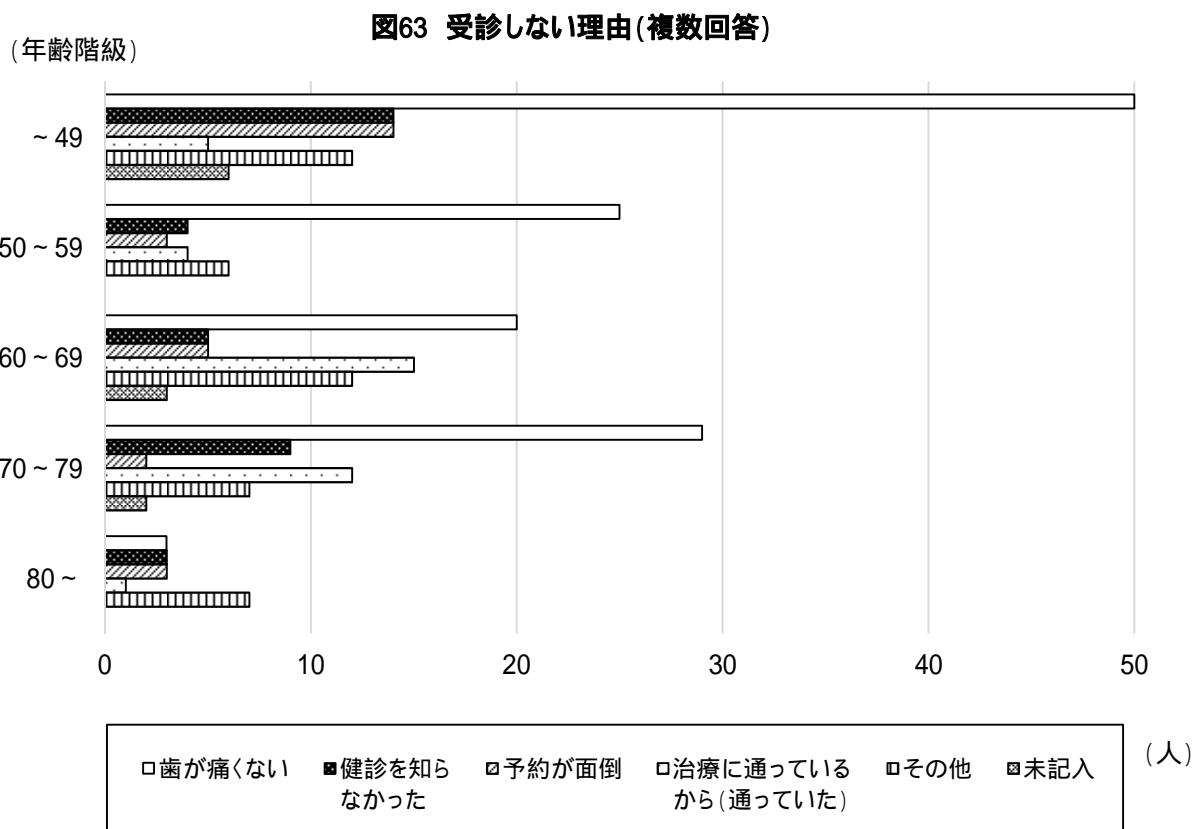
(ア) 歯科健診の有無

過去1年間に歯の健康診査を受けた者の割合は36.9%で、70歳代までは年代を追うごとに増加したが、80歳以上では3割を切って49歳以下より少なかった。無歯顎者が増加することにより健康診査を受診しないことも考えられるが、口腔機能や軟組織疾患等のニーズへの対応が必要であるとする。



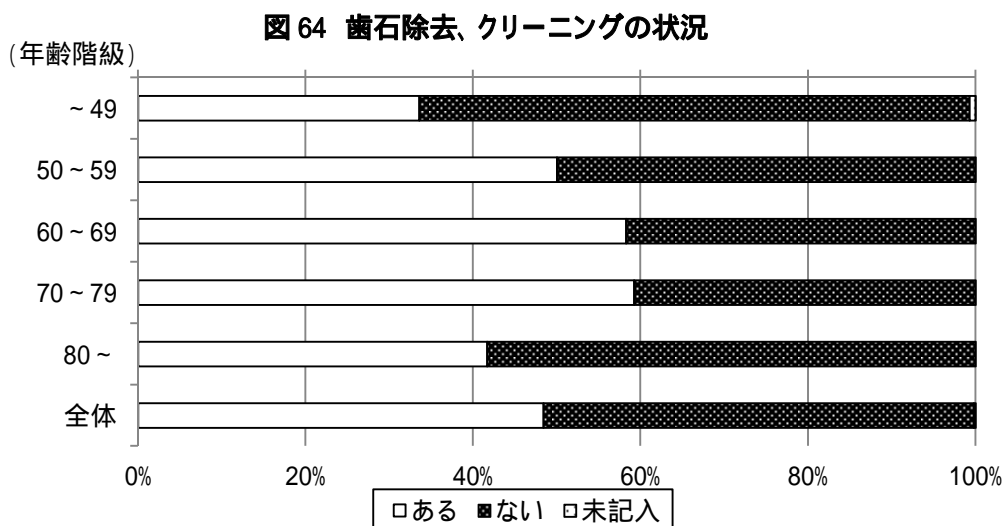
(イ) 受診しない理由

歯科健診を受診しない理由は、歯が痛くないが最も多かった。



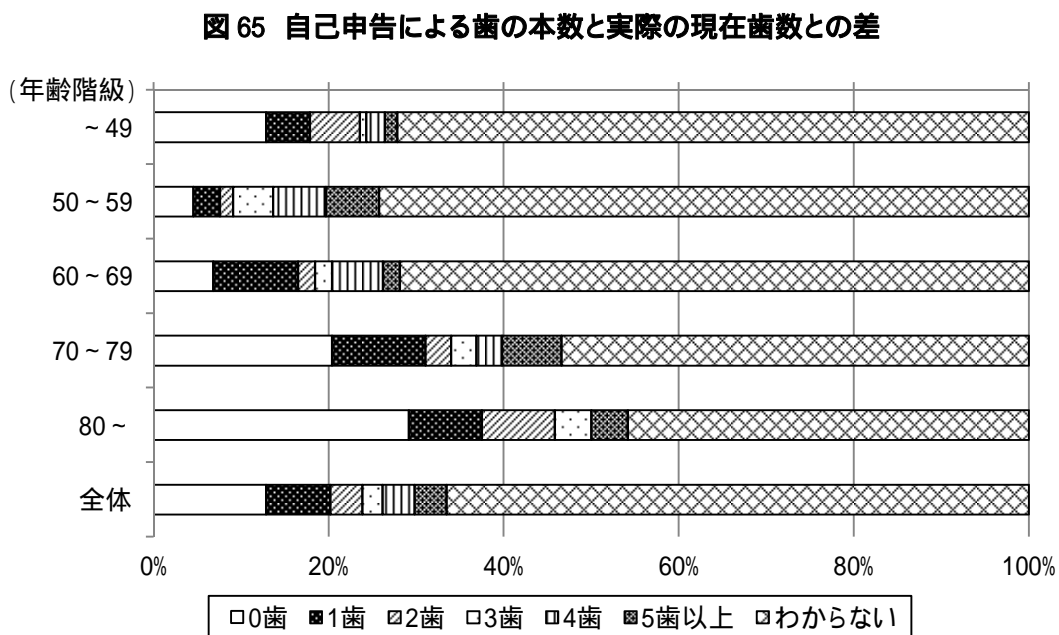
ケ 歯面清掃の状況

過去1年間に歯石をとってもらったり、歯の汚れを取り除いてもらったことがある者の割合は、半数弱であった。治療を受けた者の割合よりもわずかに少ない結果であった。



コ 現在歯数と自己評価の差

現在歯数と本人が認識している歯の本数との差は、一致が全体で12.8%、80歳以上で3割弱、70歳代で2割強であり、1歯誤差まで含めても全体で20.1%、70歳以上で4割弱、70歳代で3割強であった。50歳代、60歳代では一致率は極めて低く、喪失歯の少ない49歳以下が70歳代に次いで一致率が高かった。高齢になるほど一致率が高いのは、歯の喪失により本数が減少するためと考えられるが、わからないとの回答が全体の約3分の2を占め、専門家の介入による正確な現状認知と知識の補填が必要と考える。

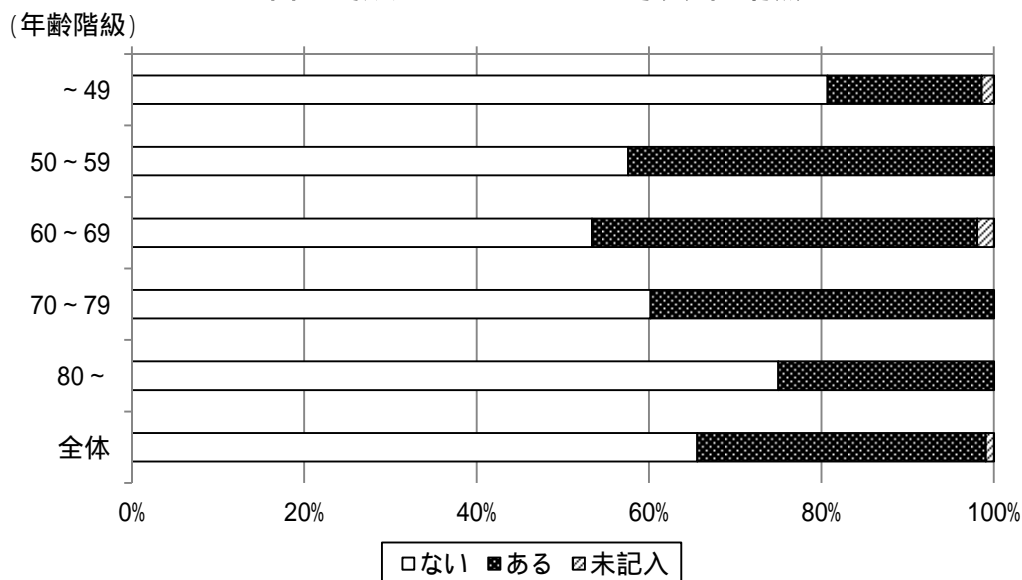


サ 抜けたままになっている永久歯の状況

(ア) 抜けたままになっている永久歯の有無

抜けたままになっている永久歯がないと回答した者の割合は、約 3 分の 2 を占めた。年代別に見ると喪失歯の少ない 49 歳以下が約 8 割と最も多く、次いで現在歯の少ない 80 歳以上が 75.0%であった。

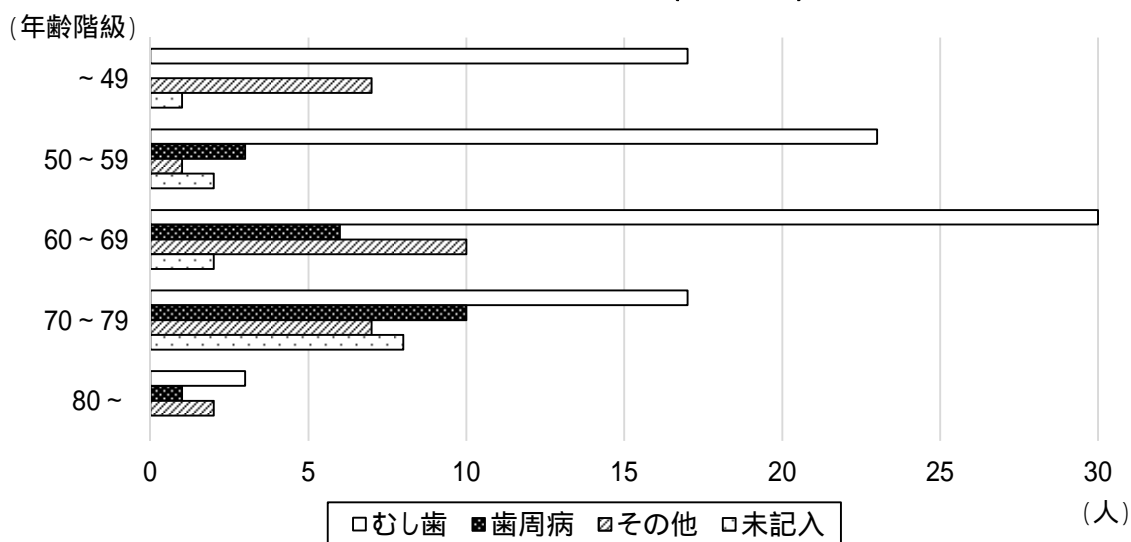
図 65 抜けたままになっている永久歯の有無



(イ) 永久歯が抜けた理由

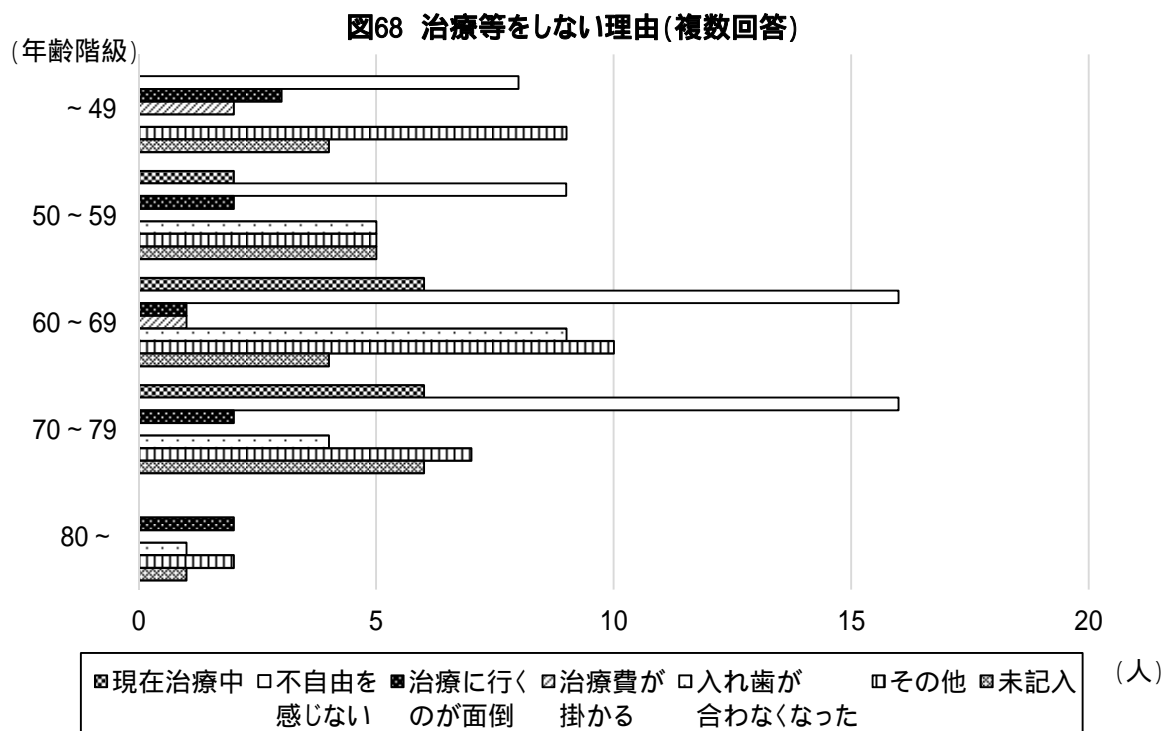
抜けた原因としては、全年代を通じてむし歯が最も多く、全体で 6 割を占めた。歯周病は 13.3%にすぎず、平成 17 年の永久歯の抜歯原因調査(財団法人 8020 推進財団)では 41.8%を占めていることから、本当の原因を反映しているかは疑わしい。少なくとも、むし歯が原因で歯を抜くという認識が強いことがうかがわれた。

図67 抜けてしまった理由(複数回答)



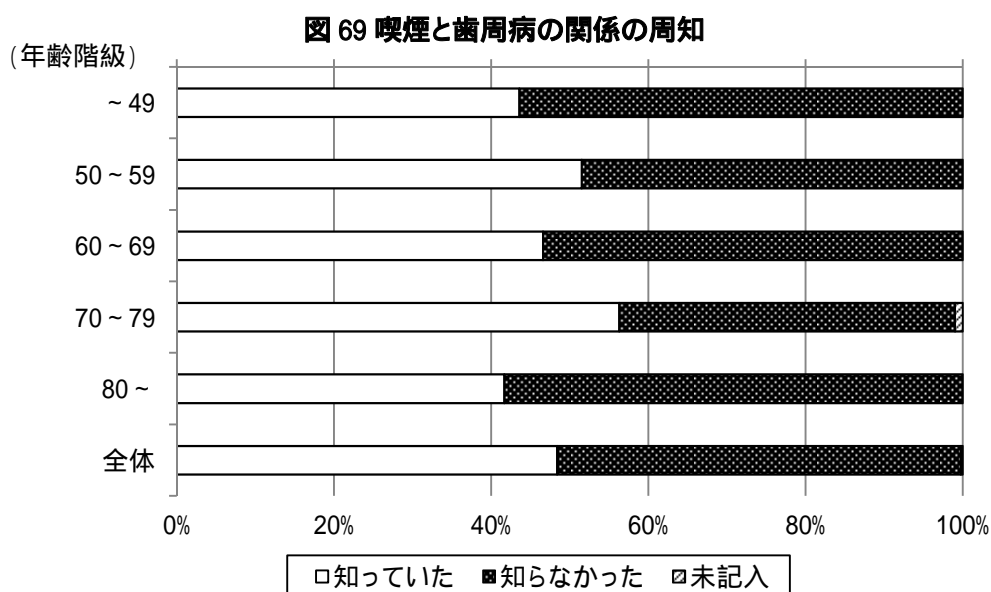
(ウ) 治療しない理由

治療をしない理由では、不自由を感じないが約 3 分の 1 と最も多かった。治療に行くのが面倒は 6.8%、治療費が掛かるは 2.0%と少なかったが、80 歳以上では不自由を感じないが 0 で、治療に行くのが面倒が 3 分の 1 あった。高齢による通院困難が原因で、十分な歯科治療が提供できない可能性を示唆するものと考えられる。



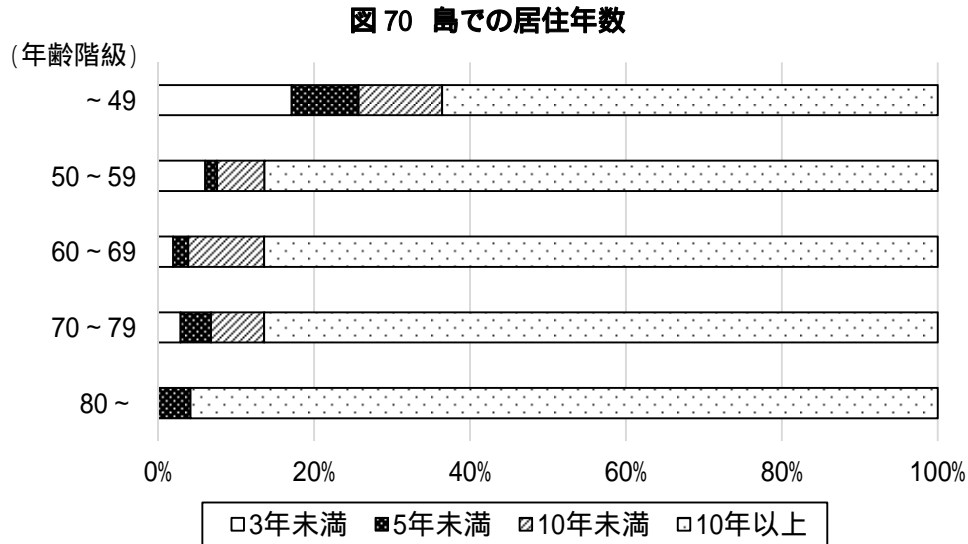
シ 喫煙と歯周病の関係を知っている者

喫煙は歯周病を進行させる要因の 1 つであることを知っていた者は半数弱で、知らなかった者が上回った。年代別にみて一貫した傾向は見受けられなかった。全国的に喫煙率が低下してきており、喫煙への関心も低下していることも一因と考えられる。



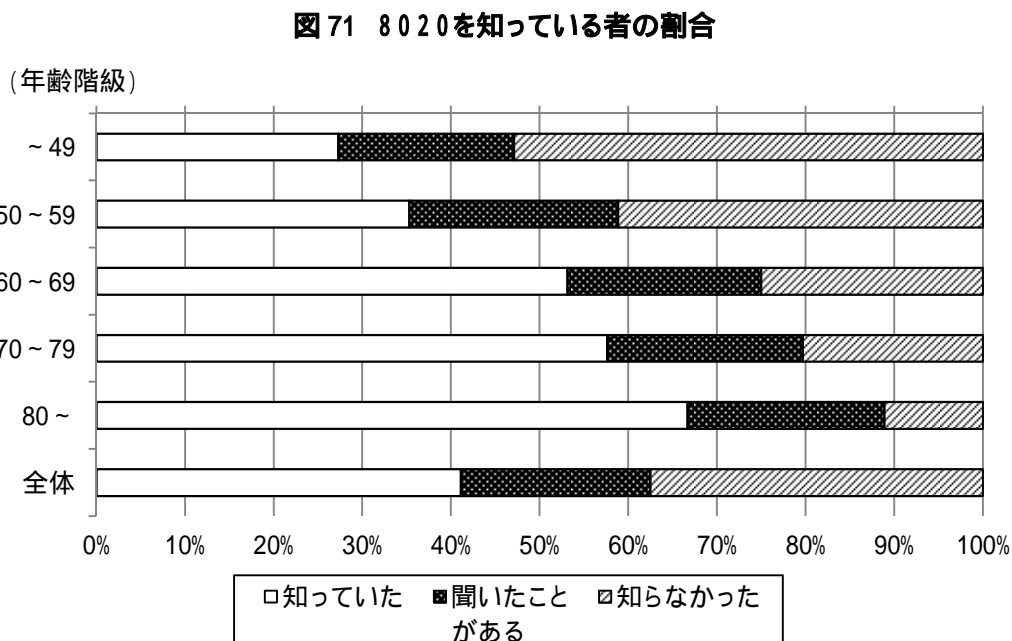
ス 居住年数

49歳以下で3年未満が17.1%、5年未満が25.7%、10年未満が36.4%であったが、50歳以上では10年以上が85%を超えていた。



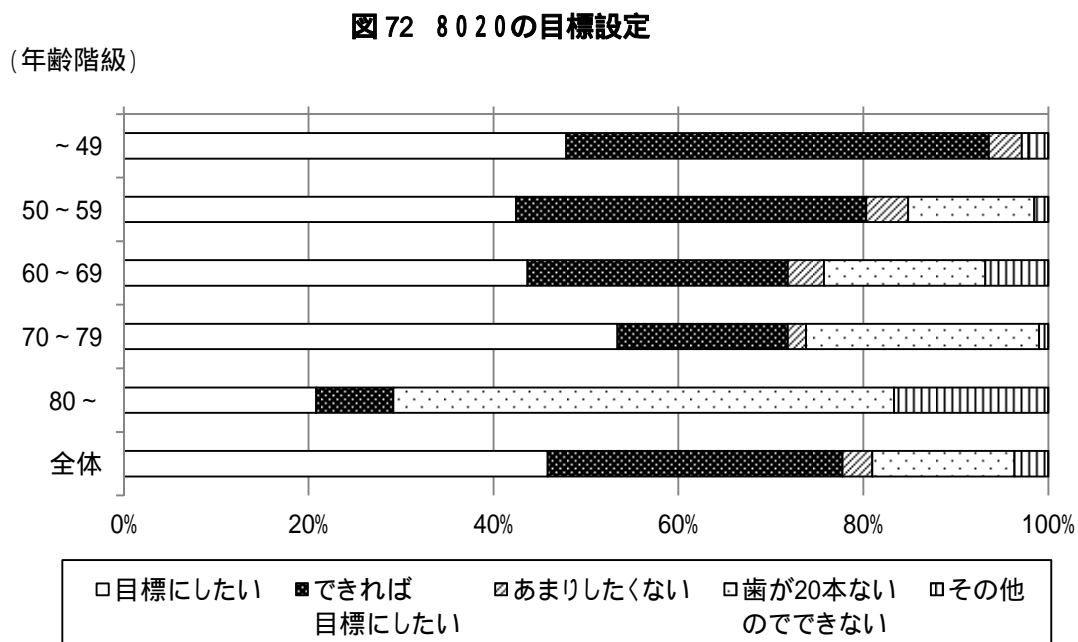
セ 8020を知っている者

8020という言葉を知っていた者は全体で4割強、聞いたことがあるを含めると6割強であった。49歳以下で知っていた者は27.3%にすぎず、高い年代ほど知っている率が高い傾向が見られた。歯の喪失への関心が高まるのは、リスクが高くなってからであることがうかがわれるが、実際には若い年代からの取組が必要であるため、若い年代へのより一層の知識の普及が必要である。



ソ 8020の目標設定

8020を目標にしたいと回答した者が、70歳代で5割を超えた。60歳代以下の年代でも4～5割程度であった。できれば目標にしたいは、年代が若いほど高く、49歳以下では45.7%で目標にしたいと合わせると9割以上であった。一方、80歳以上では目標にしたいが2割強と低い値であり、歯が20本ないので目標にできないが半数以上であった。



成人歯周疾患検診問診票（島しょ地区歯科疾患実態調査調査票）

実施日（場所）：H26.5.（神津島村）

この問診票は、神津島村で実施する歯周疾患検診と東京都で実施する歯科疾患実態調査の調査票を兼ねたものです。検診結果は検診後に皆様にお伝えします。また、歯科疾患実態調査は、皆様の日常の保健習慣などをお聞きし、口の中の状況を把握させていただくことにより、今後の都民の歯の健康づくり対策の参考とさせていただきますことを目的として実施するものです。調査結果は全体として集計いたしますので、個人にご迷惑をおかけすることはありません。ご協力の程よろしくお願いたします。

神津島村・東京都福祉保健局



氏名	生年月日 T S H 年 月 日	歳	男・女	住所	番地
----	---------------------	---	-----	----	----

1 あなたは、御自身の歯・口や入れ歯の状態について、どのように感じていますか。

- (1) ほぼ満足している (2) やや不満だが日常生活には困らない (3) 不自由や苦痛を感じている

1-2 (2)(3)に回答した方、どんなことについて感じていますか。該当する項目にいくつでも○をつけてください。

- (1) 歯が痛んだりしめたりする (4) 口臭がある (7) 歯や歯並びなどの見た目が気になる
 (2) 歯ぐきから血がでる (5) 食べ物が歯と歯の間にはさまる (8) 入れ歯があわない
 (3) 歯ぐきが腫れる (6) 噛む、味わう、飲み込む、話すことに不自由がある (9) その他()

2 歯をみがくとき、1回に10分程度の時間をかけてみがくことがありますか。

- (1) ほぼ毎日 (2) 週に3～4日 (3) 週に1～2日 (4) ほとんどない

3 デンタルフロス（糸ようじなど）や歯間ブラシを使っていますか。

- (1) ほぼ毎日 (2) 週に3～4日 (3) 週に1～2日 (4) 使っていない

4 歯をみがくとき、フッ素入りの歯磨剤を使っていますか。

- (1) フッ素入りの歯磨剤を使っている → 4-2 どの程度、使っていますか。
 (2) 歯磨剤は使っているが、フッ素入りかどうかはわからない (1) 毎日使っている
 (3) 歯磨剤は使っているが、フッ素入りではない (2) ときどき使う
 (4) 歯磨剤は使っていない

5 鏡を見て、歯や歯ぐきの様子を自分で観察することがありますか。

- (1) 週に1回以上観察している (2) 月に1回以上観察している (3) ほとんどない

6 最後に歯の治療を受けたのはいつ頃ですか。

- (1) 現在治療中 (2) 1年以内 (3) 3年以内 (4) 3年以上前・受けたことがない

6-2 (1)～(3)と回答した方、それはどちらの歯科診療所で受けましたか。

- (1) 島内の歯科診療所 (2) 島外の歯科診療所

7 この1年間に歯の健康診査を受けたことがありますか。

- (1) 受けた
 (2) 受けていない → どんな理由で受診しないのですか。
 (1) 歯が痛くないから (4) 治療に通っている(治療に通っていた)から
 (2) 歯科健診を知らなかった (5) その他()
 (3) 予約が面倒だから

8 この1年間に歯石をとってもらったり、歯の汚れを取り除いてもらったことがありますか。

- (1) ある (2) ない

9 永久歯は、「親知らず」が4本すべてはえると全部で32本です。あなたの歯の数は、現在、何本ですか。

わからない方は、空欄に「？」と記入してください。

約 本

10 抜けたままになっている永久歯はありますか。

- (1) ある → 抜けてしまった理由は何ですか。また、治療等をしていない理由は何ですか。
 (2) ない (1) むし歯 (4) 現在治療中 (4) 治療費が掛かるから
 (2) 歯周病 (5) 不自由を感じないから (5) 入れ歯が合わなくなったから
 (3) その他() (3) 治療に行くのが面倒だから (6) その他()

11 喫煙は歯周病（歯ぐきの病気）を進行させる要因の一つですが、あなたはこのことを御存知でしたか。

- (1) 知っていた (2) 知らなかった

12 この島での居住年数は何年くらいですか。

- (1) 3年未満 (2) 5年未満 (3) 10年未満 (4) 10年以上

13 あなたは「8020（ハチマルニイマル）運動」という言葉を知っていましたか。

- (1) 知っていた (2) 聞いたことがある (3) 知らなかった

14 「8020（ハチマルニイマル）運動」とは80歳になっても自分の歯を20本以上保とうという運動です。あなたは「8020」を御自身の目標にしたいと思いませんか。

- (1) 目標にしたい (2) できれば目標にしたい (3) あまり目標にしたくない
 (4) 歯が20本ないので目標にできない (5) その他()

口 腔 内 調 査 票(成人用)

現在歯・喪失歯の状況 (喪失歯のうち、補綴処置の不要な歯には×を記入)

	8	7	6	5	4	3	2	1		1	2	3	4	5	6	7	8	
右																		左
	8	7	6	5	4	3	2	1		1	2	3	4	5	6	7	8	

1 健全歯数 (/)	2 未処置歯数 (C)	3 処置歯数 (O)	4 現在歯数 (1+2+3)	5 要補綴歯数 (Δ)	6 欠損補綴歯数 (⊕)
--------------	---------------	--------------	------------------	---------------	----------------

歯肉の状況

	17または16	11		26または27	
右					左
	47または46	31	36または37		

- 0 : 健全
 - 1 : 歯肉出血
 - 2 : 歯石
 - 3 : 浅いポケット
 - 4 : 深いポケット
 - × : 診査対象外

口腔清掃状態 良好 ・ 普通 ・ 不良

その他の所見 なし ・ あり

歯 (楔状欠損等) ・ 歯列咬合 ・ 顎関節 ・ 粘膜

CPI個人コード (最大値)

判定区分

- | | | |
|---|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 1. 異常なし (CPI = 0) 2. 要指導 (CPI = 1) 3. 要指導・要精検 | → | <ul style="list-style-type: none"> a. 歯石除去・経過観察等 (CPI = 2) b. 歯周治療 (CPI = 3 または 4) c. う蝕治療 (未処置歯あり) d. 補綴処置 (要補綴歯あり) e. その他 <p style="text-align: center; font-size: small;">(その他の所見・問診1の訴え等あり)</p> |
|---|---|--|

診査歯科医師名

相談・指導内容 (口腔清掃、生活習慣・歯科保健行動など)

平成 26 年度

区市町村における歯科保健医療事業に関する調査結果

目的

調査は、都内の区市町村の歯科保健医療事業の取組状況を把握することにより、東京都歯科保健目標「いい歯東京」の達成度を評価し、新たな歯科保健目標策定に向けた基礎資料を得ることを目的とした。

対象及び方法

1 対象

都内の 62 区市町村を対象とした。

2 実施方法

平成 27 年 1 月 9 日に調査用紙を送付し、平成 27 年 1 月 30 日を期限として回収した。

3 調査項目

- ・ 普及啓発について
- ・ コミュニティーケアとしてのフッ化物応用の推進について
- ・ 先駆的もしくは、特に重点を置いている事業について

調査結果の概要と考察

1 普及・啓発について

「いい歯東京」の区市町村による健康づくりの指標であった「食育及び噛ミング30」、「糖尿病及び喫煙と歯周病の関連」、「口腔ケアによる誤嚥性肺炎予防」を普及啓発する市町村を推進する区市町村数は、それぞれ20区市町村（平成21年度）から32区市町村（平成26年度）へ、26区市町村（平成21年度）から35区市町村（平成26年度）へ、29区市町村（平成21年度）から42区市町村（平成26年度）と順調に増えている。「8020運動」、「誤嚥・窒息の予防」、「口腔機能の向上（地域支援事業によるものを除く。）」、「その他」のそれぞれのテーマで、普及啓発を行ったと回答した区市町村も平成21年度に比べて増えており、各区市町村が普及啓発に一層注力していることがうかがえる。

2 コミュニティーケアとしてのフッ化物応用の推進について

フッ化物歯面塗布については、直接実施をする区市町村数が平成21年度に比べて減っている。また、「事業を歯科医師会等に委託する」、「協力医療機関一覧を作成する」など、医療機関と役割分担や連携を行う区市町村も減り、フッ化物歯面塗布について行政が主導しない傾向がみられる。

フッ化物洗口（集団応用）を事業化している区市町村数は幼児対象が3か所、児童対象が2か所（重複あり）となっており、区市町村包括補助事業（平成21年度は、幼児対象が3か所、児童対象が3か所）として取り組んだ内容が、継続されている区市町村があった。

3 先駆的もしくは、特に重点を置いている事業について

平成26年度に実施した先駆的に実施、もしくは特に重点を置いている事業としては、「かかりつけ歯科医等との連携」、「障害者・在宅要介護者」、「食育」、「摂食・嚥下」、「口腔がん」などをテーマに行っているものが多くみられた。

今後も現状の事業を推進または再構築するとともに、住民のニーズに応える先駆的な取り組みも取り入れて、都民の健康づくりを推進していく必要がある。

表2 区市町村における歯科保健医療事業に関する調査報告

区市町村名	1 26年度に普及啓発したテーマ										2 コミュニティーケアとしてのフットボール推進				3 先駆的・重点事業				区市町村名							
	食育・噛ミンゲ30		①及び②を両方実施		① 喫煙と歯周病		② 歯周病と糖尿病		誤嚥・窒息の予防		誤嚥性肺炎の予防		口腔機能向上		その他		フットボール推進			フットボール推進		事業名				
	8020運動	35	32	35	39	43	36	42	43	23	38	14	20	2	10	9	10	9		10	9	10	9	10	9	
(〇の数合計)																										
1 千代田区	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	千代田区
2 中央区	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	中央区
3 港区	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	港区
4 新宿区	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	新宿区
5 文京区	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	文京区
6 台東区	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	台東区
7 墨田区	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	墨田区
8 江東区	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	江東区
9 品川区	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	品川区
10 目黒区	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	目黒区
11 大田区	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	大田区
12 世田谷区	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	世田谷区
13 渋谷区	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	渋谷区
14 中野区	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	中野区
15 杉並区	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	杉並区
16 豊島区	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	豊島区
17 北区	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	北区
18 荒川区	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	荒川区
19 板橋区	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	板橋区
20 練馬区	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	練馬区
21 足立区	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	足立区
22 葛飾区	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	葛飾区
23 江戸川区	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	江戸川区
24 八王子市	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	八王子市
25 立川市	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	立川市
26 武蔵野市	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	武蔵野市
27 三鷹市	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	三鷹市
28 青梅市	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	青梅市
29 府中市	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	府中市

○: 事業化あり ×: 検討したことがない ●: 検討したことがある △: 今後検討したい ※: 必要性が低い ◇: その他

区市町村名	1 26年度に普及啓発したテーマ						2 コミュニティーケアとしてのフット物応用推進				3 先駆的・重点事業		区市町村名		
	8020運動	食育・噛ミング30	①及び②を両方実施	①喫煙と歯周病	②歯周病と糖尿病	誤嚥・窒息の予防	誤嚥性肺炎の予防	口腔機能向上	その他	フット物面塗布		実施状況の把握			
										直接実施	委託事業化			役割分担	事業化・事業化の検討
昭島市	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	障害児童通所訓練支援	いきいき元気教室	昭島市
調布市	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	障害児童通所訓練支援 準備はいいい？もすくー年生	児童館夏休み健康教育	調布市
町田市	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	子育てひろば育児講座		町田市
小金井市	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	歯科健康相談		小金井市
小平市	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	幼児歯科相談	5歳児歯科健診	小平市
日野市	×	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×			日野市
東村山市	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	歯科講演会		東村山市
国分寺市	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	乳幼児歯科相談	乳幼児歯科相談	国分寺市
国立市	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×			国立市
福生市	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×			福生市
狛江市	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×			狛江市
東大和市	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×			東大和市
清瀬市	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×			清瀬市
東久留米市	×	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×			東久留米市
武蔵村山市	×	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×			武蔵村山市
多摩市	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×			多摩市
稲城市	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×			稲城市
羽村市	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×			羽村市
あきる野市	×	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×			あきる野市
西東京市	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×			西東京市
瑞穂町	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×			瑞穂町
日の出町	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×			日の出町
稲原村	×	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×			稲原村
奥多摩町	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×			奥多摩町
大島町	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×			大島町
利島村	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×			利島村
新島村	×	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×			新島村
神津島村	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×			神津島村
三宅村	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×			三宅村
御蔵島村	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×			御蔵島村
八丈町	○	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×			八丈町
青ヶ島村	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×			青ヶ島村
小笠原村	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×			小笠原村

○:事業化あり ×:検討したことがない ●:検討したことがある △:今後検討したい ※:必要性が低い ◇:その他

区市町村における歯科保健医療事業に関する調査

1. 普及啓発について

テーマ	実施状況 あり→○ なし→×	事業名	使用媒体・方法	事業開始年度
例) 8020運動	○	8020よい歯の表彰式	区報による周知	平成18年度
8020運動				
食育・噛ミング30				
喫煙と歯周病の関係				
歯周病と糖尿病の関係				
誤嚥・窒息の予防				
誤嚥性肺炎の予防				
口腔機能向上 (地域支援事業によるものを除く)				
その他				
その他				
その他				

区市町村・部署名 : _____

電話番号 : _____

記入者名 : _____

記入者職種(番号を右記から選んで記入) : _____

1. 事務 2. 歯科医師 3. 歯科衛生士 4. 保健師 5. その他 ()

2. コミュニティケアとしてのフッ化物応用の推進について

(1) フッ化物歯面塗布の行政による直接実施について

内容	実施状況 あり→○ なし→×	事業名	具体的な実施方法	事業開始年度
フッ化物歯面塗布の行政による 直接実施				

(2) フッ化物歯面塗布についての「行政」と「かかりつけ歯科医」の役割分担や連携の実施について

内容	実施状況 あり→○ なし→×	事業名等	具体的な実施方法	事業開始年度
委託事業化				
協力医療機関一覧の作成				
その他				
その他				

区市町村・部署名：

電話番号：

記入者名：

記入者職種(番号を右記から選んで記入)：

1. 事務 2. 歯科医師 3. 歯科衛生士 4. 保健師 5. その他 ()

2. コミュニティケアとしてのフッ化物応用の推進について

(3) フッ化物洗口（集団応用）の事業化について

該当箇所に○	事業化について	事業名	具体的な実施方法	事業開始（予定）年度
	事業化している			
	検討中			
	検討したことがある			
	今後検討したい			
	検討したことがない			
	必要性が低い			
	その他			

(4) 保健主管課以外でのフッ化物洗口（集団応用）実施状況について

該当箇所に○	他部署の事業の把握	把握している場合は、実施団体（部署）・開始時期等について差支えない範囲で記入してください
	把握している	
	把握していない	

区市町村・部署名：

電話番号：

記入者名：

記入者職種(番号を右記から選んで記入)：

1. 事務 2. 歯科医師 3. 歯科衛生士 4. 保健師 5. その他（

3. 平成26年度に実施した下記の取り組み等で先駆的に実施、もしくは特に重点を置いている事業について

内容	実施状況		実施方法			事業名	事業対象・内容	事業開始年度	東京都の「医療保健政策区市町村包括補助事業」の利用 あり→○なし→×
	あり→○ なし→×	該当箇所に○	委託の場合						
			直接実施	委託 その他	委託先名称				
障害者・要介護高齢者(認知症含む)等に対する歯科保健医療									
摂食・嚥下障害への支援									
食育支援									
虐待予防・むし歯の多い子や発達障害児への子育て支援									
その他									
その他									
その他									

区市町村・部署名：

電話番号： 記入者名：

記入者職種(番号を右記から選んで記入)： 1. 事務 2. 歯科医師 3. 歯科衛生士 4. 保健師 5. その他 ()

東京都歯科保健目標「いい歯東京」達成度調査報告書

平成 27 年 8 月発行

登録番号 27(163)

発行 東京都福祉保健局医療政策部医療政策課

郵便番号 163 - 8001 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号

電話番号 03(5320)4433(ダイヤルイン)

印刷 神谷印刷株式会社

郵便番号 115 - 0043 東京都北区神谷一丁目 20 番 8 号

電話番号 03(3912)2571(代表)



再生紙を使用しています。
石油系溶剤を含まないインキを使用しています。

リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。